

実演芸術の再生に向けた提言に関する アンケート調査

分析結果

2022年1月

公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 [芸団協]



目次

I 調査概要

1.調査概要	2
<参考> 調査結果の見方	5

II 結果概要（1）芸術家・スタッフ

1.活動状況	8
2.収入の変化	14
3.キャンセル料有無	29
4.活動の継続、生活の維持のため行ったこと	35
5.活動の継続、生活の維持のため行ったことの中で効果的だったこと	41
6.給付金の必要性	47
7.コロナ禍以前、仕事の取り組み方	55
8.実施判断者	61
9.契約有無	66
10.契約方法	71
11.契約の形式	76
12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの	81
13.依頼のされ方	122
14.契約書を結ばない理由	128
15.契約内容	134
16.報酬の支払方法	140
17.トラブル時の支援	146
18.必要な手当	152
19.活動領域	158
20.年齢	159
21.性別	160

II 結果概要（2）芸術団体・事業者

1.活動状況	163
2.事業収入の変化	167
3.観客数の変化	178
4.活動継続、組織維持のため行ったこと	189
5.正味財産の変化	197
6.必要な手当	212
7.回復見込み	218
8.活動領域	222
9.年間事業規模	223
10.法人格	224

III 調査票

1.芸術家・スタッフ	225
2.芸術団体・事業者	231

I 調査概要

1. 調査概要

はじめに

2020年2月末、文化イベントの開催自粛の要請が出され、4月には緊急事態宣言が発せられ、ほぼ全ての公演が中止され、さらにテレビ収録、映画撮影の中止も続いた。宣言解除後も、実演芸術には何らかの規制が20か月以上も続いている。

2020年春から経済産業省の「持続化給付金」、文化庁「文化芸術活動の継続支援」と芸術家等個人支援、続いて団体支援とした経済産業省「J-LODlive補助金」、文化庁「ARTS for the future! (AFF)」が補正予算で行われ、実演芸術活動は息をつないでいる。

しかしながら、公演を行ってもコロナ感染を警戒して観客が入らない、実演家・スタッフ等の仕事数もあまり回復したとの様子は伝わってこない。支援の規模、あり方は間に合っているのだろうか。

そんな問題意識から、芸団協は2021年10月に、2019年と2020年、2022年の2年を比較し、この間のコロナ禍の影響を把握し、政府に対して文化芸術の再生を図るための抜本的な施策、予算措置を求める提言を行うため、芸術家・スタッフ等の個人と芸術団体・事業者を対象に緊急アンケートを実施した。

補助金の効果で芸術家等や関係事業者に仕事が生まれたこともあり、収入が得られるようになり、2021年は少しずつ回復に向けて動き始めている。しかし、個人にとっては補助対象の事業に参加できるかできないか、団体にとっては補助を受けられる事業数は限られ、補助金の効果を受けられる層には芸術家等個人と芸術団体等ともに偏りが生まれている。これが2021年末の状況だった。芸術団体等の今後の見通しは、2022年中の回復が18.1%、2023年中の回復が30.1%、見込みが立たないとの回答が51%と、かなり厳しいものがある。

また、実演家等の仕事の取り組み方は、継続的な雇用ではなく、舞台、映画、テレビなどの1日から数ヶ月、1年にわたる仕事で、かつ、それぞれ事業を行う不特定多数の企画者・製作者等からの依頼を受けて、実演等を行い、その報酬を事後に受け取る形態が大半であり、特徴である。そのため、書面による証がないと活動実績や収入を証明出来ない状況がコロナ禍で明らかになった。この課題を掴むため実演家等の仕事に関わる契約実態と意識についても併せて調査を行った。

以下の報告内容は、芸術家・スタッフ編と、芸術団体・事業者編の2部に分けてまとめている。

回答者の皆様に感謝するとともに、このアンケートから得られた結果を有効に活かしていくことを報告する。

1. 調査概要

目的	2020年から20か月以上も続くコロナ禍、実演家、スタッフ等及び団体・事業者の活動は甚大な影響を受けている。この間の影響を把握し、政府に対し、文化芸術の再生を図るための抜本的な施策、予算を講じるよう求める提言を行う資料を得るためのアンケートを実施する。
対象	芸団協を構成する正会員（70団体）・賛助会員（7団体）、その傘下の実演家・スタッフ等の個人、及び芸術団体・事業者
期間	令和3（2021）年10月20日（水）～11月1日（月）
手法	インターネットアンケート（対象者個人/対象団体へのメール配信・WEB回答）
有効回答数	芸術家・スタッフ 1,355件 芸術団体・事業者 266件（手書き回収1票含む）
調査主体	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 [芸団協]
調査協力	株式会社インテージリサーチ

<参考> 調査結果の見方

- ① 報告書中の問番号および質問は、調査票の問番号および質問文をそのまま示している。また、本文やグラフ・数表上の選択肢の表記は、語句を簡略化している場合がある（詳細は、別添調査票参照）。
- ② 調査結果の数値は回答率（％）で示している。
％の母数は、その質問の回答数または属性別のTOTAL数で、「n=」で表している。
- ③ 割合は小数点第2位で四捨五入し、小数点第1位まで示している。よって、「○は1つだけ」などの質問であっても、端数が影響し、回答率の合計値が100.0%にならない場合がある。
- ④ 複数回答の設問では、回答率（％）は回答数「n=」に占める割合となっている。
したがって、回答割合を全て合計しても100.0%にならない場合がある。
- ⑤ 属性の回答者数では、傾向を分析する上で十分とは言えない30サンプル未満の結果も含まれるが、参考値として掲載している。
- ⑥ 報告書中に表示される「活動分野」には、以下のものが含まれる。
音楽 / 演劇 / 舞踊 / メディア芸術（映画、漫画、アニメーションなど）
/ 伝統的な芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊など） / 芸能（講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱など）
/ スタッフ（舞台・照明・音響技術、制作など） / その他

【補足】 SA・・・回答は1つだけ MA・・・複数回答 3LA・・・上限3つまでの複数回答

Ⅱ 結果概要

(1) 芸術家・スタッフ〈個人〉

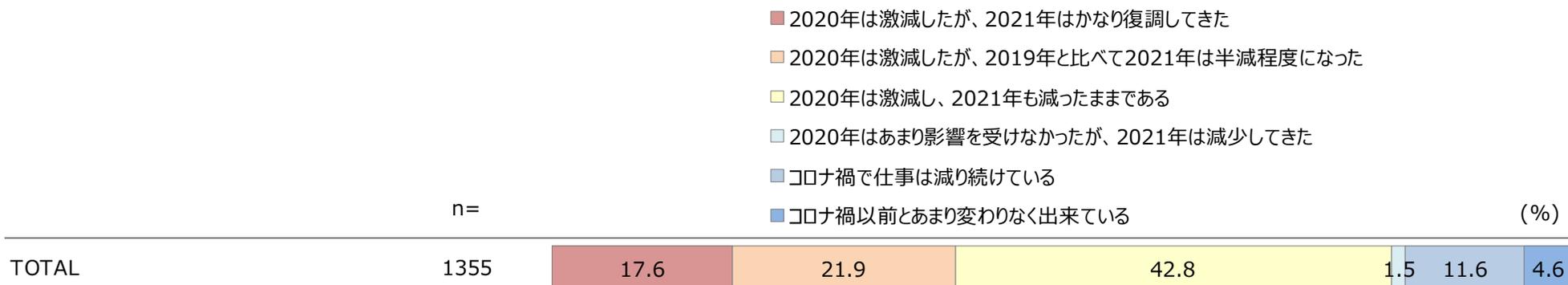
調査項目（クロス結果）一覧表

	活動領域別 Q18	年齢別 Q19	性別 Q20	実施判断者別 Q7	契約実施別 Q8	活動・生活のため 行ったこと別 Q4_1	活動・生活のため行っ たことで効果的別 Q4_2
1.活動状況 Q1	○	○	○	○	○	—	—
2.収入の変化 Q2Z1	○	○	○	○	○	—	—
3.キャンセル料有無 Q3	○	○	○	○	○	—	—
4.活動の継続、生活の維持のため行った こと Q4_1	○	○	○	○	○	—	—
5.活動の継続、生活の維持のため行った ことの中で効果的だったこと Q4_2	○	○	○	○	○	—	—
6.給付金の必要性 Q5	○	○	○	○	○	○	○
7.コロナ禍以前、仕事の取り組み方 Q6	○	○	○	○	○	—	—
8.実施判断者 Q7	○	○	○	○	○	—	—
9.契約有無 Q8	○	○	○	○	○	—	—
10.契約方法 Q9	○	○	○	○	—	—	—
11.契約の形式 Q10	○	○	○	○	—	—	—
12.出演・業務依頼の事前に明示が必 要なもの Q11	○	○	○	○	○	—	—
13.依頼のされ方 Q12	○	○	○	○	○	—	—
14.契約書を結ばない理由 Q13	○	○	○	○	○	—	—
15.契約内容 Q14	○	○	○	○	○	—	—
16.報酬の支払方法 Q15	○	○	○	○	○	—	—
17.トラブル時の支援 Q16	○	○	○	○	○	—	—
18.必要な手当て Q17	○	○	○	○	○	—	—

1.活動状況(SA)

- TOTALでは、「■ 2020年は激減し、2021年も減ったままである」が最も多く、42.8%。「■ 2020年は激減したが、2019年と比べて2021年は半減程度になった」21.9%、「■ 2020年は激減したが、2021年はかなり復調してきた」17.6%が続く。

1-1.TOTAL結果(SA)



(質問文)Q1 この20か月(2020年3月～2021年10月)の活動の状況についてお答えください。

1.活動状況(SA)

- 活動領域別にみると、『芸能』で「■ 2020年は激減し、2021年も減ったままである」が高く、6割を超える。『伝統的な芸能』で「■ 2020年は激減したが、2019年と比べて2021年は半減程度になった」が4割近く、『舞踊』で「■ 2020年は激減したが、2021年はかなり復調してきた」が3割近くと高い。『芸能』で「■ コロナ禍で仕事は減り続けている」が高く、2割を超える。『メディア芸術』、『舞踊』で「■ コロナ禍以前とあまり変わりなく出来ている」が高く、1割を超える。

1-2.活動領域別(SA)

- 2020年は激減したが、2021年はかなり復調してきた
- 2020年は激減したが、2019年と比べて2021年は半減程度になった
- 2020年は激減し、2021年も減ったままである
- 2020年はあまり影響を受けなかったが、2021年は減少してきた
- コロナ禍で仕事は減り続けている
- コロナ禍以前とあまり変わりなく出来ている

	n=	n (%)					
TOTAL	1355	17.6	21.9	42.8	1.5	11.6	4.6
音楽	415	17.8	21.7	42.9	1.4	12.3	3.9
演劇	117	17.1	22.2	41.0	1.7	12.0	6.0
舞踊	165	27.3	27.3	21.2	2.4	9.1	12.7
メディア芸術	56	17.9	7.1	35.7	7.1	16.1	16.1
伝統的な芸能	126	19.0	37.3	37.3	0.0	6.3	0.0
芸能	218	4.6	13.8	60.6	0.5	20.2	0.5
スタッフ	247	22.3	21.9	46.6	1.2	5.3	2.8
その他	11	0.0	9.1	45.5	0.0	27.3	18.2

※n=30未満は参考値

(質問文)Q1 この20か月(2020年3月～2021年10月)の活動の状況についてお答えください。

1.活動状況(SA)

- 年齢別にみると、年齢が低いほど「■ 2020年は激減したが、2021年はかなり復調してきた」が高く、30歳未満では3割を超える。年齢が高いほど「■ 2020年は激減し、2021年も減ったままである」が高く、70歳以上で5割を超える。

1-3.年齢別(SA)

- 2020年は激減したが、2021年はかなり復調してきた
- 2020年は激減したが、2019年と比べて2021年は半減程度になった
- 2020年は激減し、2021年も減ったままである
- 2020年はあまり影響を受けなかったが、2021年は減少してきた
- コロナ禍で仕事は減り続けている
- コロナ禍以前とあまり変わりなく出来ている

	n=	n (%)					
TOTAL	1355	17.6	21.9	42.8	1.5	11.6	4.6
30歳未満	108	30.6	22.2	29.6	0.0	13.9	3.7
30歳～40歳未満	222	18.9	29.3	35.6	2.7	8.1	5.4
40歳～50歳未満	309	17.8	22.3	43.7	0.6	9.7	5.8
50歳～60歳未満	375	17.1	21.6	45.1	1.6	10.7	4.0
60歳～70歳未満	237	14.3	19.4	45.6	1.7	15.6	3.4
70歳以上	104	9.6	11.5	54.8	1.9	16.3	5.8

(質問文)Q1 この20か月(2020年3月～2021年10月)の活動の状況についてお答えください。

1.活動状況(SA)

- 性別にみると、男性で「■ 2020年は激減し、2021年も減ったままである」が5割近くと高い。

1-4.性別(SA)

- 2020年は激減したが、2021年はかなり復調してきた
- 2020年は激減したが、2019年と比べて2021年は半減程度になった
- 2020年は激減し、2021年も減ったままである
- 2020年はあまり影響を受けなかったが、2021年は減少してきた
- コロナ禍で仕事は減り続けている
- コロナ禍以前とあまり変わりなく出来ている

	n=	(%)					
TOTAL	1355	17.6	21.9	42.8	1.5	11.6	4.6
男性	803	15.1	20.9	48.6	1.1	12.0	2.4
女性	546	21.1	23.6	34.2	2.0	11.0	8.1
その他	6	33.3	0.0	50.0	0.0	16.7	0.0

※n=30未満は参考値

(質問文)Q1 この20か月(2020年3月～2021年10月)の活動の状況についてお答えください。

1.活動状況(SA)

- 実施判断者別にみると、『全て自分（家族を含め）が行っている』『仕事により個人が決めるもの、団体、事務所などが決めるものがある』で「■ 2020年は激減し、2021年も減ったままである」が4割を超える。『出演マネジメントを依頼している事務所』『所属する団体、プロダクション』で「■ 2020年は激減したが、2021年はかなり復調してきた」が高く、3割を超える。

1-5.実施判断者別(SA)

- 2020年は激減したが、2021年はかなり復調してきた
- 2020年は激減したが、2019年と比べて2021年は半減程度になった
- 2020年は激減し、2021年も減ったままである
- 2020年はあまり影響を受けなかったが、2021年は減少してきた
- コロナ禍で仕事は減り続けている
- コロナ禍以前とあまり変わりなく出来ている

	n=							(%)
TOTAL	1355	17.6	21.9	42.8	1.5	11.6	4.6	
全て自分（家族を含め）が行っている	693	15.7	19.9	45.9	1.6	12.6	4.3	
出演マネジメントを依頼している事務所	48	31.3	12.5	39.6	0.0	12.5	4.2	
所属する団体、プロダクション	150	30.0	21.3	28.7	1.3	10.7	8.0	
仕事により個人が決めるもの、団体、事務所などが決めるものがある	464	14.9	26.1	43.1	1.5	10.3	4.1	

(質問文)Q1 この20か月(2020年3月～2021年10月)の活動の状況についてお答えください。

1.活動状況(SA)

- 契約実施別にみると、『契約を行っていない（いいえ）』で「■ 2020年は激減し、2021年も減ったままである」が5割近くあり、『契約を行っている（はい）』と比べて割合が高くなっている。

1-6.契約実施別(SA)

- 2020年は激減したが、2021年はかなり復調してきた
- 2020年は激減したが、2019年と比べて2021年は半減程度になった
- 2020年は激減し、2021年も減ったままである
- 2020年はあまり影響を受けなかったが、2021年は減少してきた
- コロナ禍で仕事は減り続けている
- コロナ禍以前とあまり変わりなく出来ている

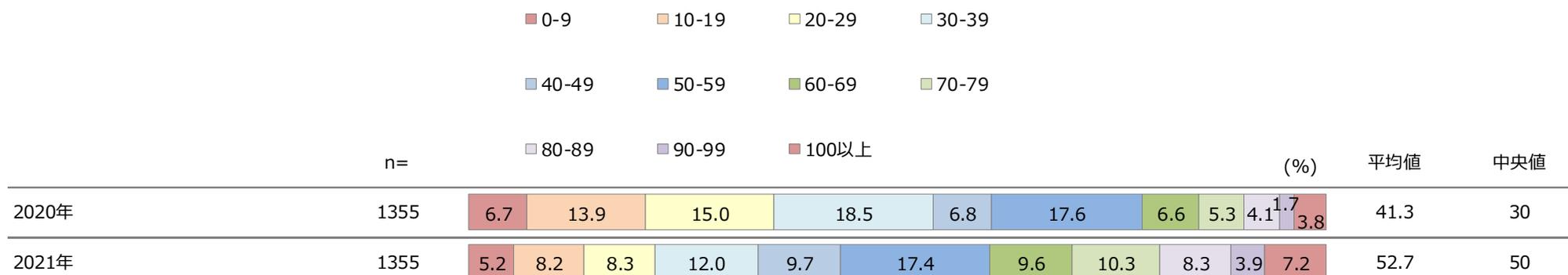
	n=							(%)
TOTAL	1355	17.6	21.9	42.8	1.5	11.6	4.6	
はい	790	17.0	25.3	39.2	2.0	12.2	4.3	
いいえ	565	18.4	17.2	47.8	0.7	10.8	5.1	

(質問文)Q1 この20か月(2020年3月～2021年10月)の活動の状況についてお答えください。

2.収入の変化(SA)

- 2019年を100とした場合の収入変化について、2020年は、「30-39」が最も多く、18.5%。「50-59」17.6%、「20-29」15.0%が続く。2021年は、「50-59」が最も多く、17.4%。「30-39」12.0%、「70-79」10.3%が続く。
- 2021年は、2020年よりも平均値が52.7で11.4ポイント高く、中央値は50で20ポイント向上している。

2-1.TOTAL結果(SA)

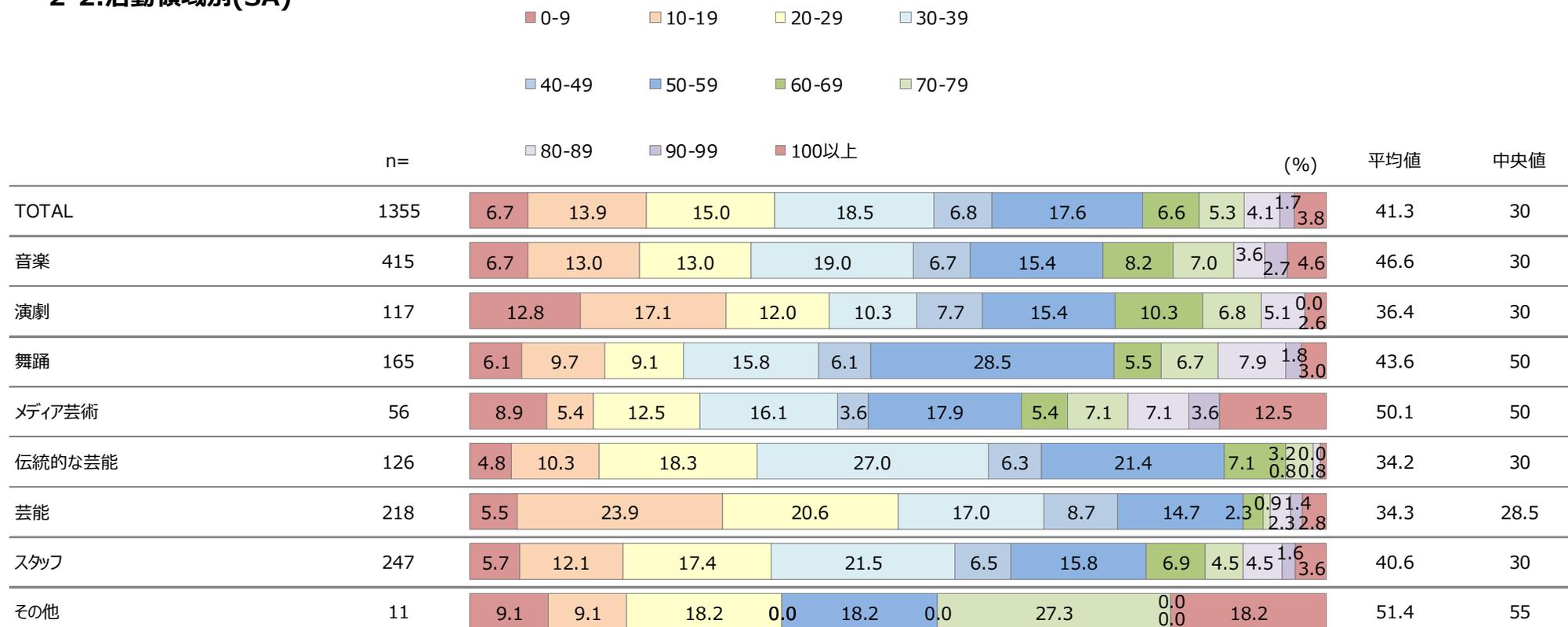


(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の収入の変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。

2.収入の変化(2020年)(SA)

- 活動領域別にみると、『メディア芸術』で平均値が50.1、中央値が50と高い。

2-2.活動領域別(SA)



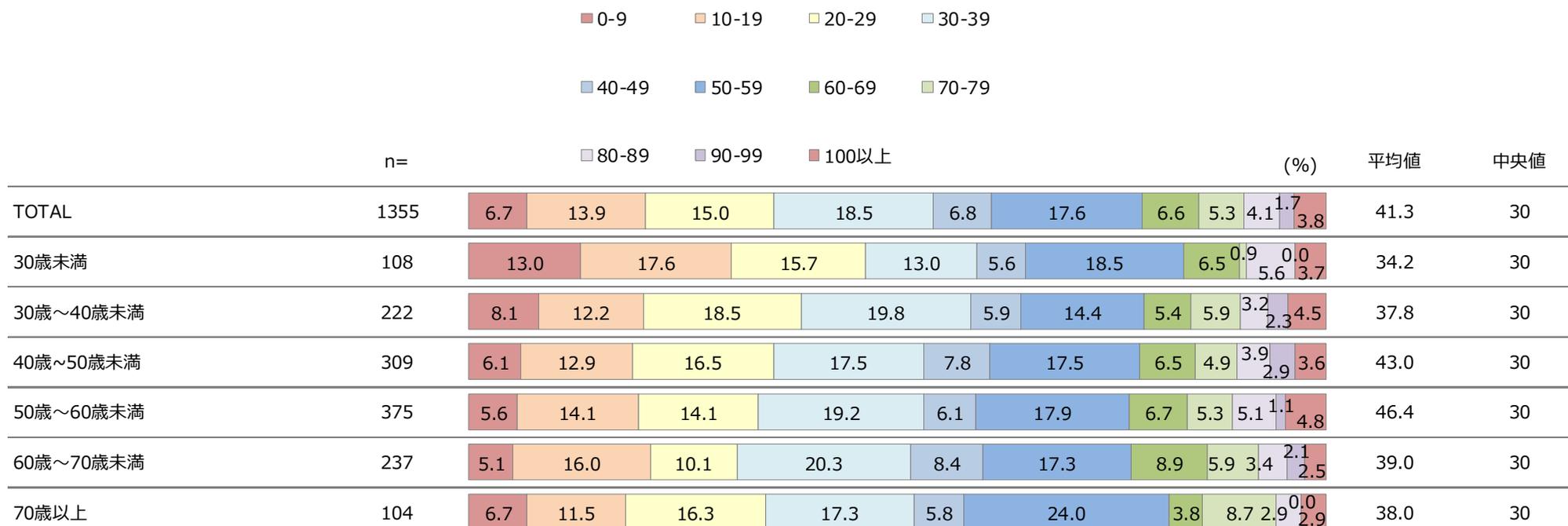
※n=30未満は参考値

(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の収入の変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。(2020年)

2.収入の変化(2020年) (SA)

- 年齢別にみると、40歳～60歳未満で平均値が40を超える。

2-3.年齢別(SA)

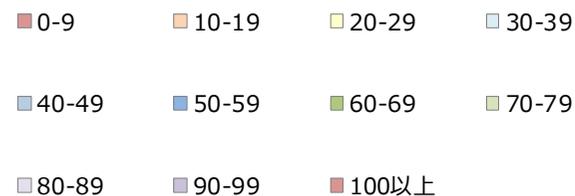


(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の収入の変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。(2020年)

2.収入の変化(2020年) (SA)

- 性別にみると、男性、女性ともに平均値が40を超え、大きな差はない。

2-4.性別(SA)



	n=	(%)										平均値	中央値	
TOTAL	1355	6.7	13.9	15.0	18.5	6.8	17.6	6.6	5.3	4.1	1.7	3.8	41.3	30
男性	803	5.7	14.6	15.3	19.3	7.8	16.4	6.8	5.1	3.5	1.6	3.7	42.2	30
女性	546	8.2	13.0	14.3	17.2	5.3	19.4	6.0	5.7	4.9	1.8	4.0	40.0	30
その他	6	0.0	16.7	33.3	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	31.7	25

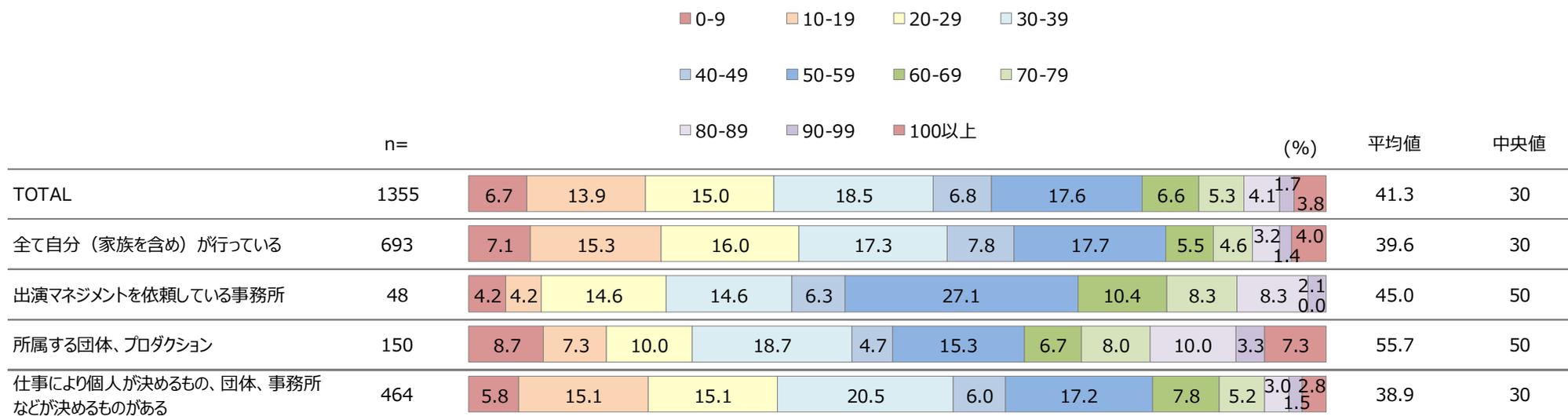
※n=30未満は参考値

(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の収入の変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。(2020年)

2.収入の変化(2020年) (SA)

- 実施判断者別にみると、『所属する団体、プロダクション』で平均値が55.7、中央値が50と高い。

2-5.実施判断者別(SA)

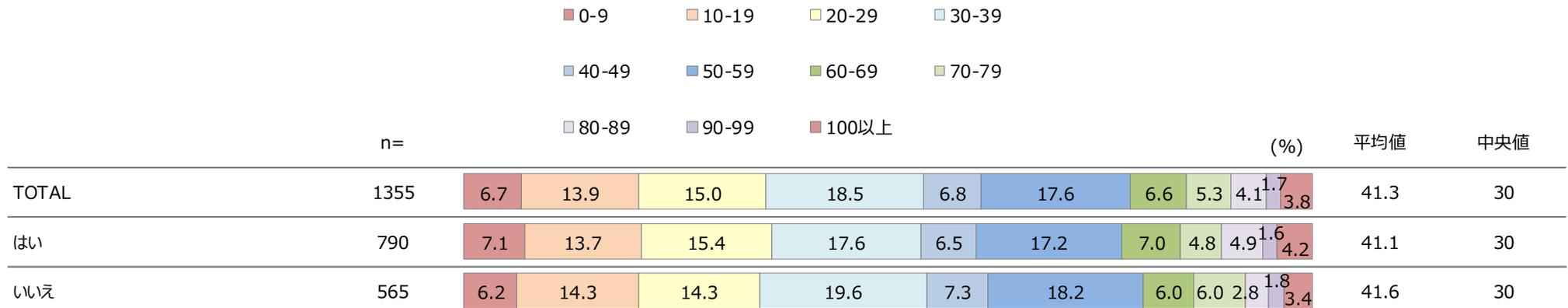


(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の収入の変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。(2020年)

2.収入の変化(2020年) (SA)

- 契約実施別にみると、契約実施の有無で大きな差はない。

2-6.契約実施別(SA)

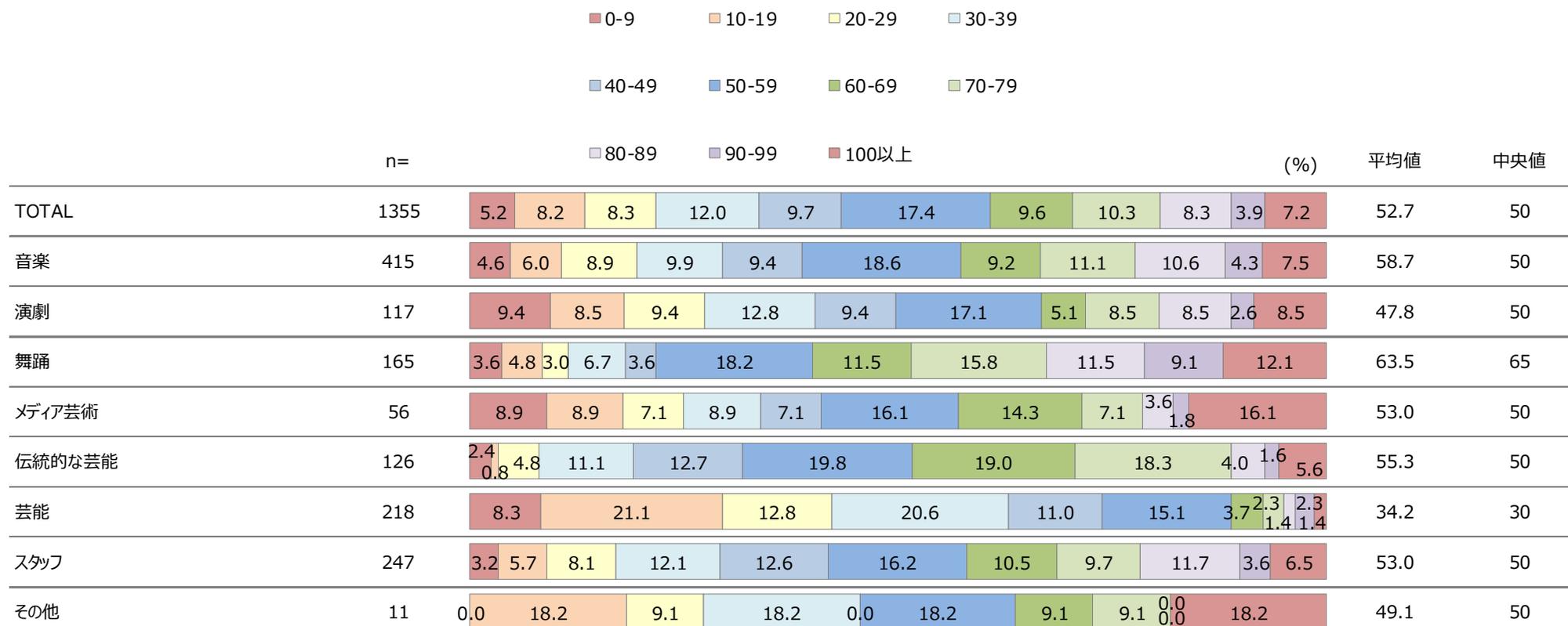


(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の収入の変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。(2020年)

2.収入の変化(2021年) (SA)

- 活動領域別にみると、『舞踊』で平均値が63.5、中央値が65と著しく高い。

2-7.活動領域別(SA)



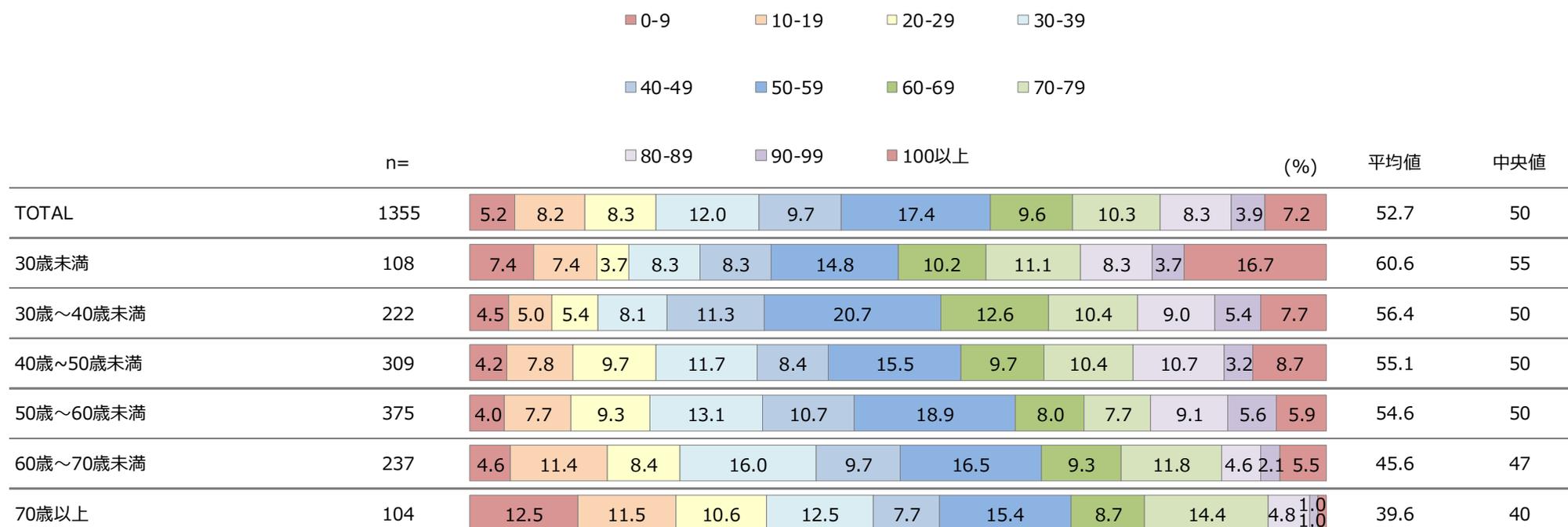
※n=30未満は参考値

(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の収入の変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。(2021年)

2.収入の変化(2021年) (SA)

- 年齢別にみると、30歳未満で平均値が60.6、中央値が55と高い。

2-8.年齢別(SA)

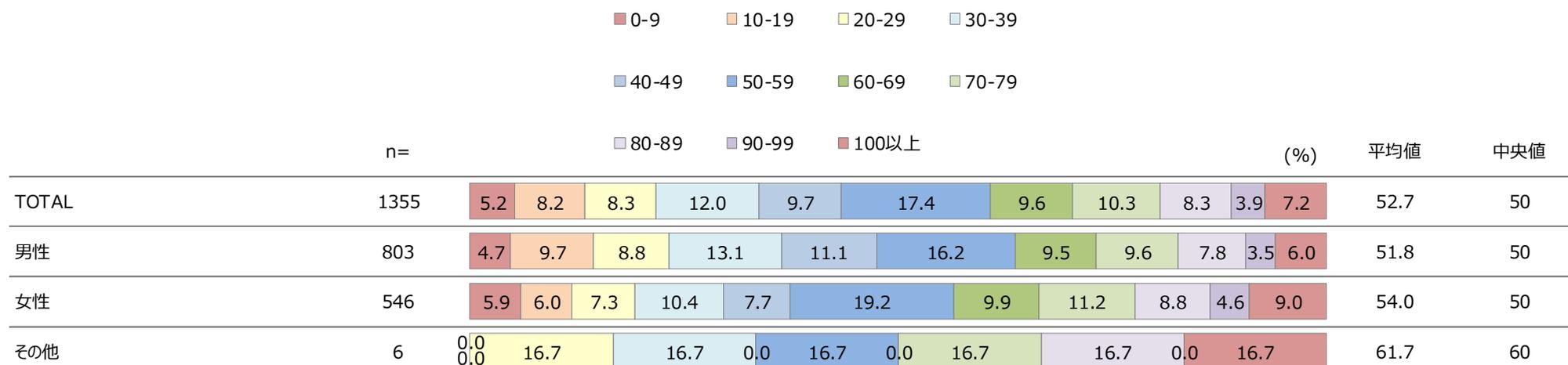


(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の収入の変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。(2021年)

2.収入の変化(2021年) (SA)

- 性別にみると、女性で平均値が54.0と男性に比べてやや高い。

2-9.性別(SA)



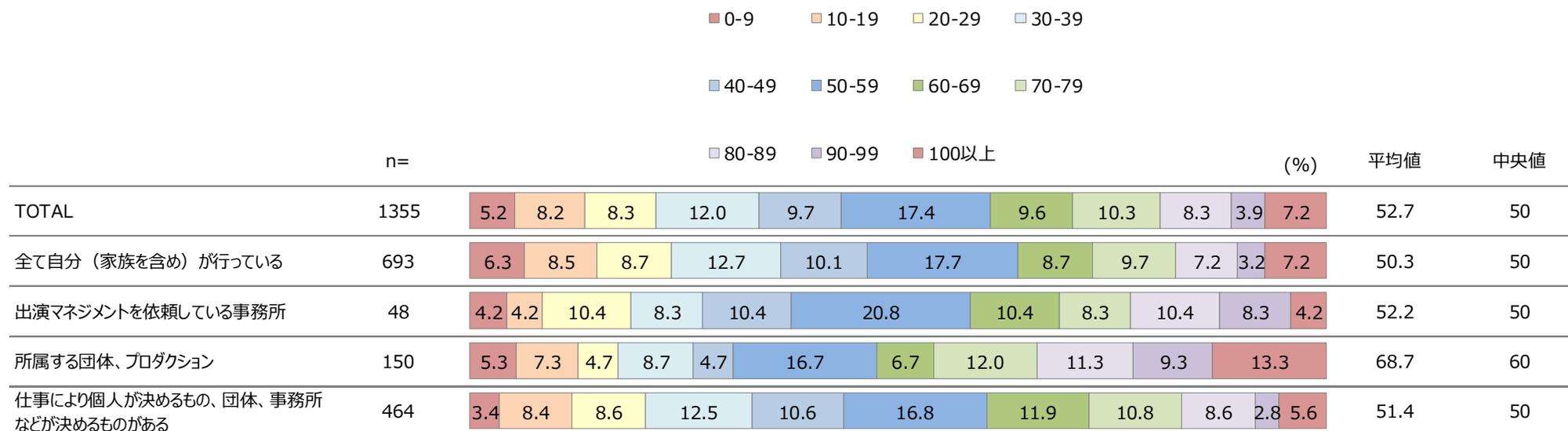
※n=30未満は参考値

(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の収入の変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。(2021年)

2.収入の変化(2021年) (SA)

- 実施判断者別にみると、『所属する団体、プロダクション』で平均値が68.7、中央値が60と著しく高い。

2-10.実施判断者別(SA)

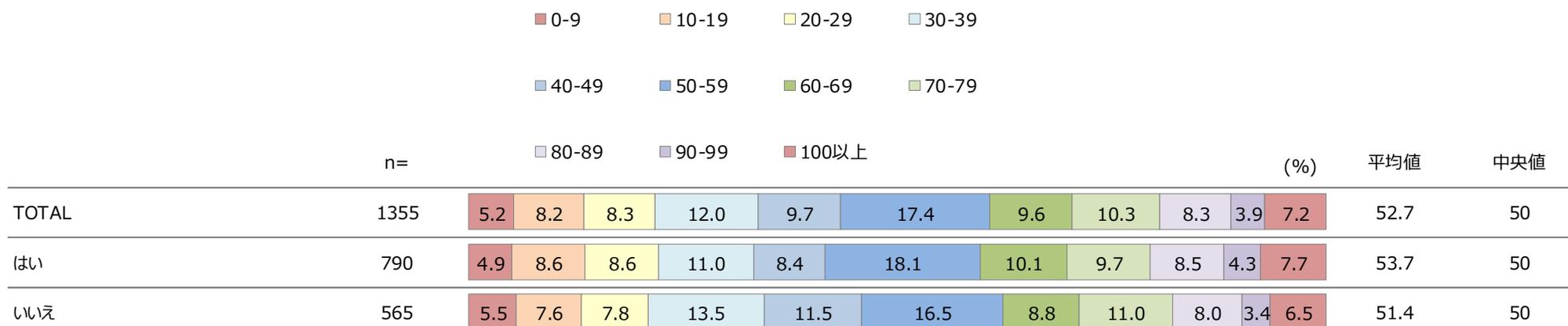


(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の収入の変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。(2021年)

2.収入の変化(2021年) (SA)

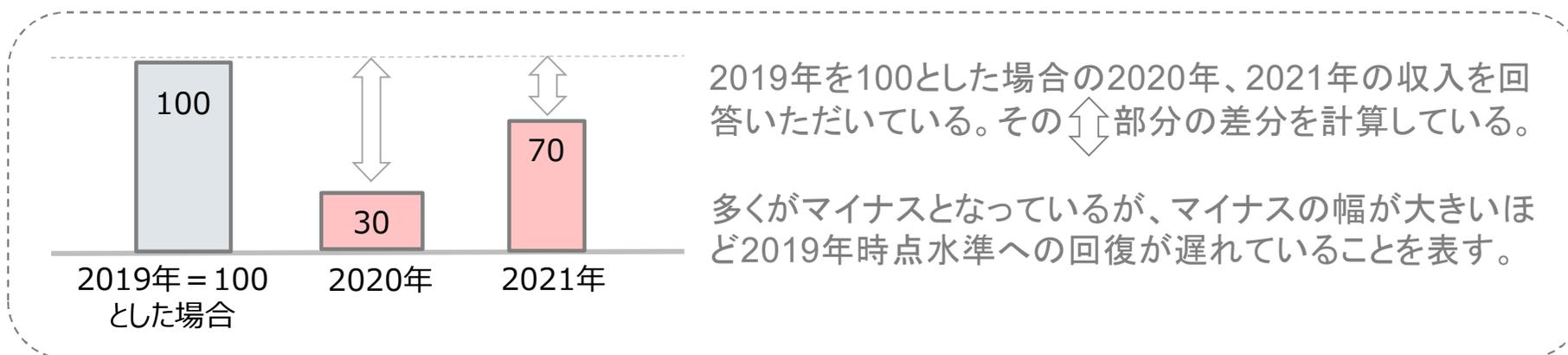
- 契約実施別にみると、『契約を行っている（はい）』で平均値が53.7となっており、わずかだが『契約を行っていない（いいえ）』に比べ高い。

2-11.契約実施別(SA)



(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の収入の変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。(2021年)

2. [指数変化]収入の変化 (SA)



- 『2019⇒2020』の平均値は-58.7ポイントで、「-80~-60ポイント未満」が最も多く、33.4%。
『2019⇒2021』の平均値は-47.3ポイントで、『2019⇒2020』よりマイナス幅は縮小。「-60~-40ポイント未満」が最も多く27.3%、「-80~-60ポイント未満」20.3%と続く。
- 『2019⇒2021』は『2019⇒2020』に比べ、平均値、中央値ともに上昇している。

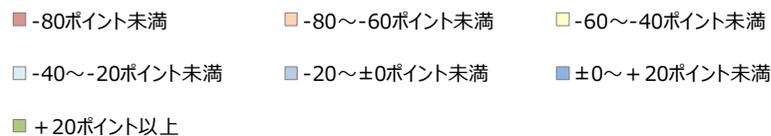
2-12.TOTAL結果(SA)

	n=	%						平均値	中央値
		-80ポイント未満	-80~-60ポイント未満	-60~-40ポイント未満	-40~-20ポイント未満	-20~±0ポイント未満	±0~+20ポイント未満		
2019⇒2020	1355	20.7	33.4	24.4	11.9	5.8	2.5 1.3	-58.7	-70
2019⇒2021	1355	13.4	20.3	27.1	19.9	12.2	4.6 2.6	-47.3	-50

(質問文)* Q2 芸術活動の収入の変化

2. [指数変化]収入の変化・活動領域別(SA)

- 活動領域別にみると、『2019⇒2021』と『2019⇒2020』の平均値の差は、『舞踊』では+19.9ポイント、芸能では-0.1ポイントと回復に差がみられる。



2-13.活動領域別(SA)

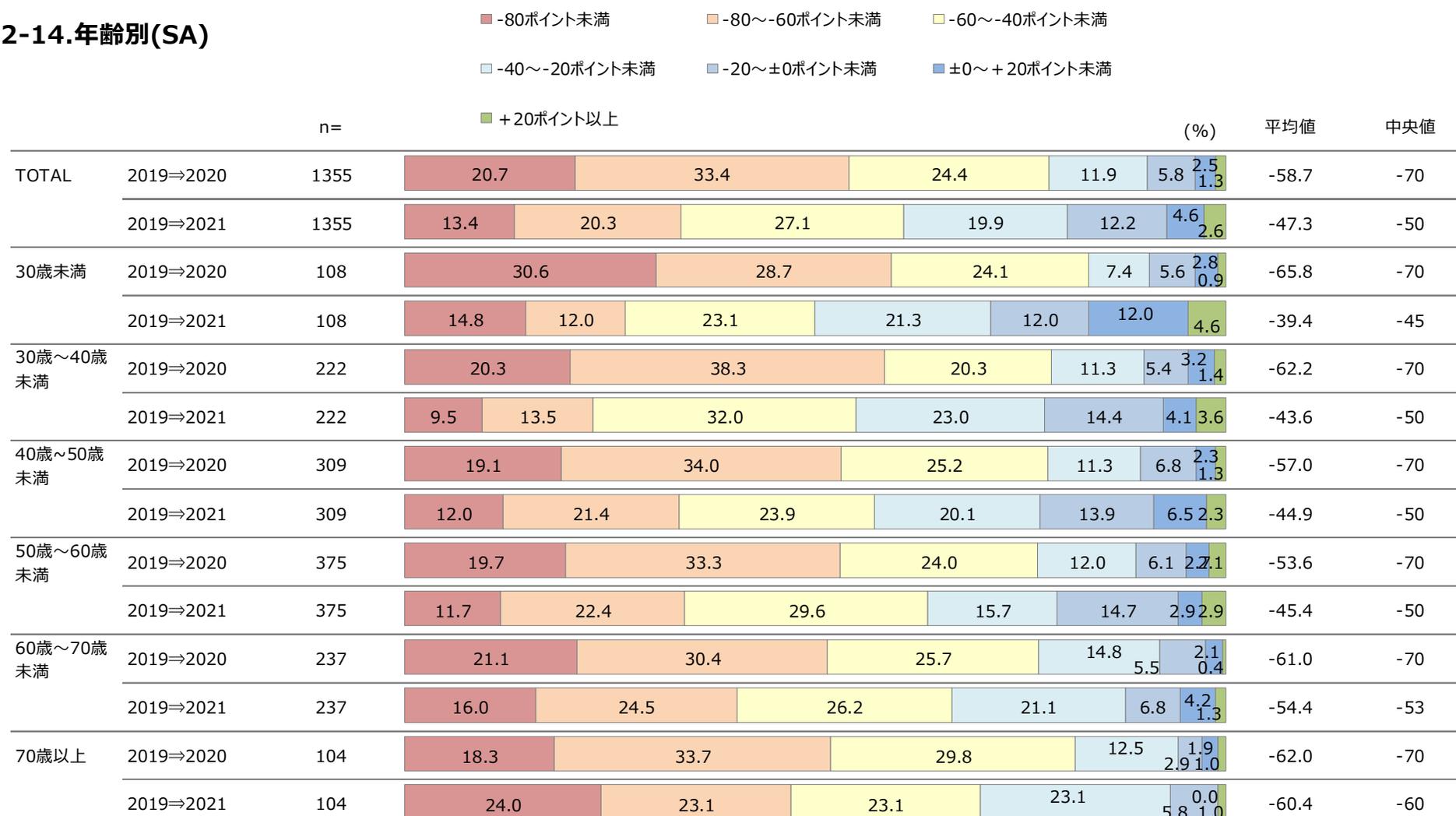
		n=	(%)						平均値	中央値
TOTAL	2019⇒2020	1355	20.7	33.4	24.4	11.9	5.8	2.5 1.3	-58.7	-70
	2019⇒2021	1355	13.4	20.3	27.1	19.9	12.2	4.6 2.6	-47.3	-50
音楽	2019⇒2020	415	19.8	32.0	22.2	15.2	6.3	3.1 1.4	-53.4	-70
	2019⇒2021	415	10.6	18.8	28.0	20.2	14.9	5.1 2.4	-41.3	-50
演劇	2019⇒2020	117	29.9	22.2	23.1	17.1	5.1	1.7 0.9	-63.6	-70
	2019⇒2021	117	17.9	22.2	26.5	13.7	11.1	6.0 2.6	-52.2	-50
舞踊	2019⇒2020	165	15.8	24.8	34.5	12.1	9.7	1.8 1.2	-56.4	-50
	2019⇒2021	165	8.5	9.7	21.8	27.3	20.6	8.5 3.6	-36.5	-35
メディア芸術	2019⇒2020	56	14.3	28.6	21.4	12.5	10.7	7.1 5.4	-49.9	-50
	2019⇒2021	56	17.9	16.1	23.2	21.4	5.4	12.5 3.6	-47.0	-50
伝統的な芸能	2019⇒2020	126	15.1	45.2	27.8	10.3	0.0	0.8 0.8	-65.8	-70
	2019⇒2021	126	3.2	15.9	32.5	37.3	5.6	2.4 3.2	-44.7	-50
芸能	2019⇒2020	218	29.4	37.6	23.4	3.2	1.4	3.7 1.4	-65.7	-71.5
	2019⇒2021	218	29.4	33.5	26.1	6.0	0.0	3.7 1.4	-65.8	-70
スタッフ	2019⇒2020	247	17.8	38.9	22.3	11.3	6.1	2.8 0.8	-59.4	-70
	2019⇒2021	247	8.9	20.2	28.7	20.2	15.4	3.6 2.8	-47.0	-50
その他	2019⇒2020	11	18.2	18.2	18.2	27.3	0.0	18.2 0.0	-48.6	-45
	2019⇒2021	11	18.2	27.3	18.2	18.2	0.0	18.2 0.0	-50.9	-50

※n=30未満は
参考値

2. [指数変化]収入の変化・年齢別(SA)

- 年齢別にみると、『2019⇒2021』と『2019⇒2020』の平均値の差は、30歳未満では+26.4ポイント、70歳以上では+1.6ポイントとなっており、若年層ほど回復傾向にある。

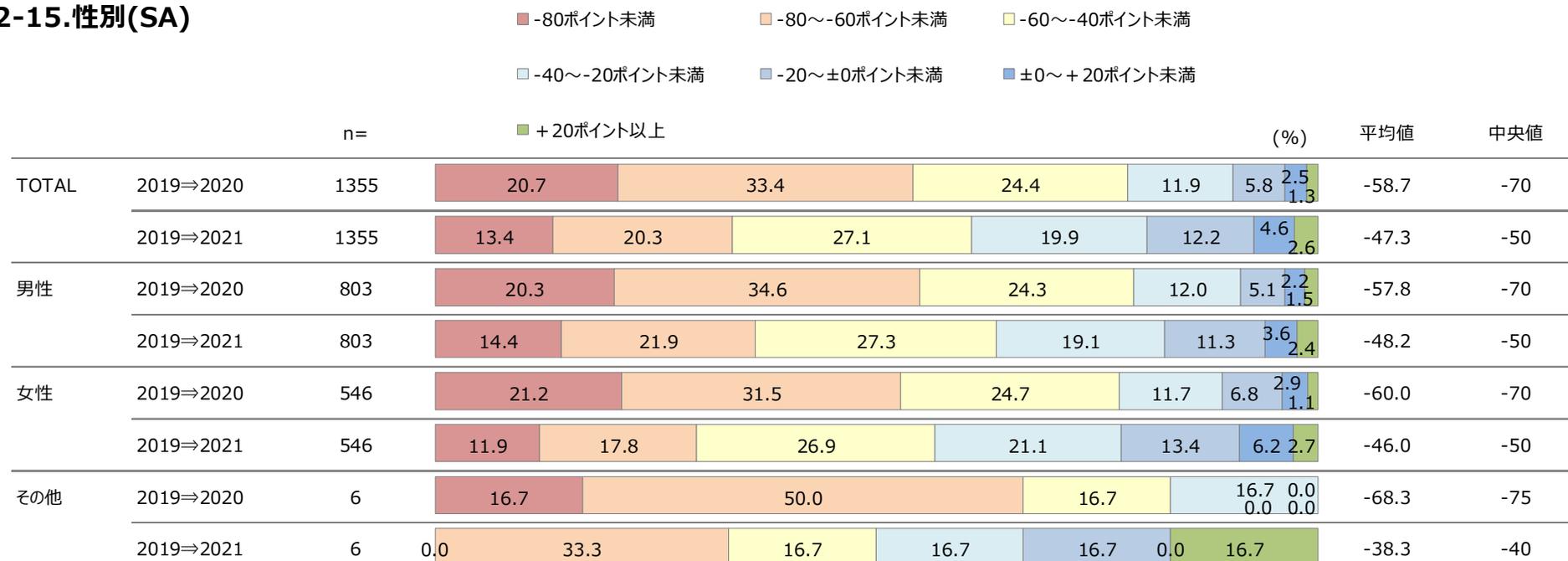
2-14.年齢別(SA)



2. [指数変化]収入の変化・性別(SA)

- 性別にみると、『2019⇒2021』と『2019⇒2020』の平均値の差は、男性で+9.6ポイント、女性で+14.0ポイントであった。

2-15.性別(SA)

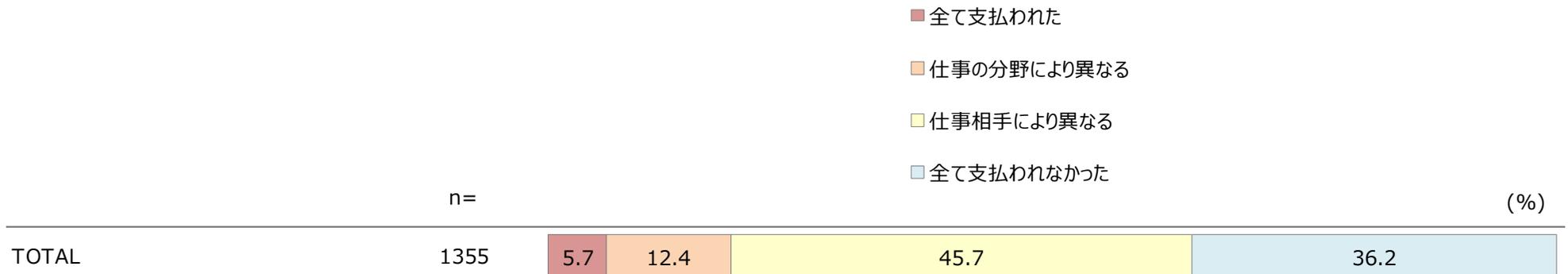


※n=30未満は
参考値

3.キャンセル料有無(SA)

- TOTALでは、「仕事相手により異なる」が最も多く、45.7%。「全て支払われなかった」36.2%、「仕事の分野により異なる」12.4%が続く。

3-1.TOTAL結果(SA)

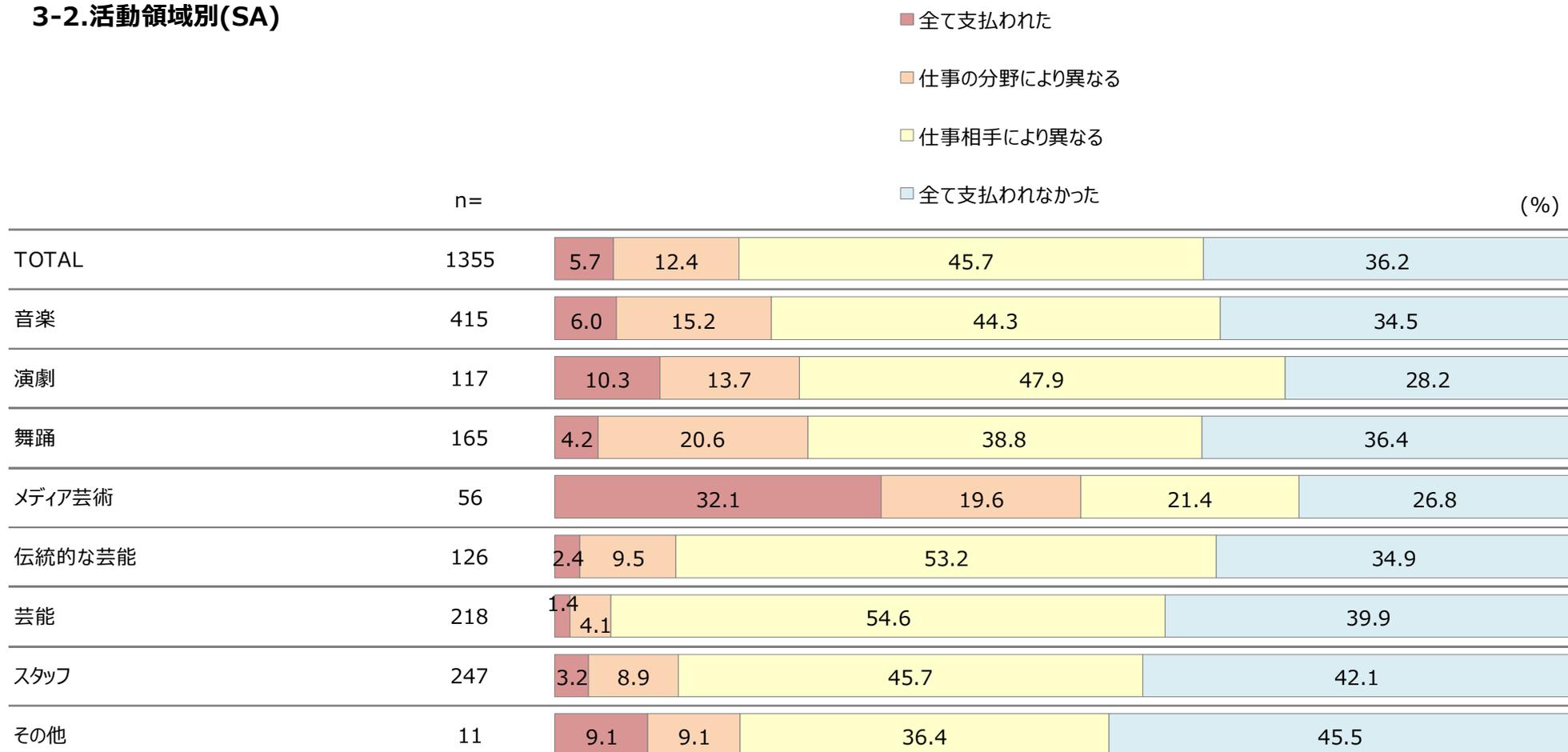


(質問文)Q3 コロナ禍で、仕事が中止になった場合、キャンセル料は支払われましたか。最も回数が多かったものをお答えください。

3.キャンセル料有無(SA)

- 活動領域別にみると、『伝統的な芸能』、『芸能』で「仕事相手により異なる」が高く、5割を超える。『スタッフ』では「全て支払われなかった」が4割を超えている。一方で、『メディア芸術』では、「全て支払われた」が3割越え、「仕事の分野により異なる」が2割近くと、他ジャンルに比べて高くなっている。『舞踊』では「仕事の分野により異なる」が2割と高くなっている。

3-2.活動領域別(SA)



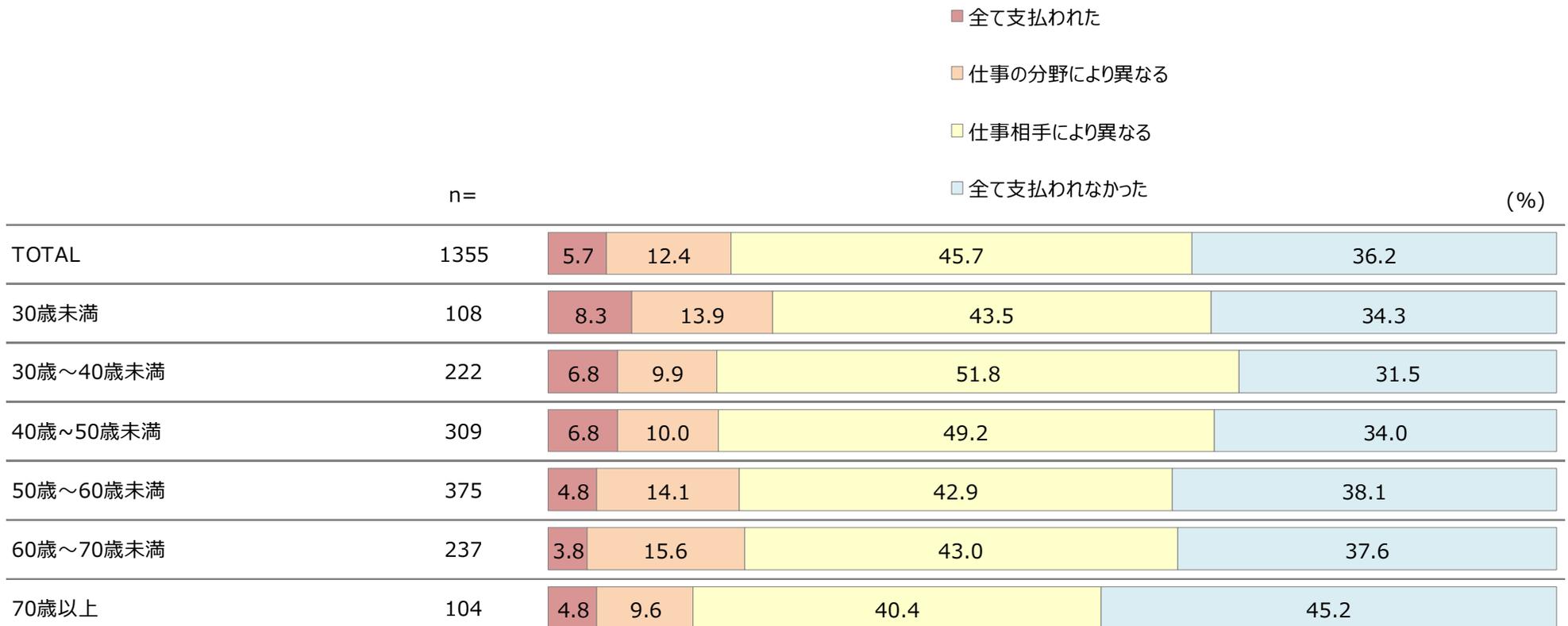
※n=30未満は参考値

(質問文)Q3 コロナ禍で、仕事が中止になった場合、キャンセル料は支払われましたか。最も回数が多かったものをお答えください。

3.キャンセル料有無(SA)

- 年齢別にみると、若年層ほど「全て支払われた」がやや高い傾向。一方で、年齢が上がるほど「全て支払われなかった」が高くなる傾向にあり、70歳以上では4割を超える。

3-3.年齢別(SA)



(質問文)Q3 コロナ禍で、仕事が中止になった場合、キャンセル料は支払われましたか。最も回数が多かったものをお答えください。

3.キャンセル料有無(SA)

- 性別にみると、男性で「仕事相手により異なる」が5割、女性で「仕事の分野により異なる」が2割近くと高い。

3-4.性別(SA)



※n=30未満は参考値

(質問文)Q3 コロナ禍で、仕事が中止になった場合、キャンセル料は支払われましたか。最も回数が多かったものをお答えください。

3.キャンセル料有無(SA)

- 実施判断者別にみると、『仕事により個人が決めるもの、団体、事務所などが決めるものがある』で「仕事相手により異なる」が高く、5割を超える。『全て自分（家族を含め）が行っている』で「全て支払われなかった」が高く、4割超。『出演マネジメントを依頼している事務所』で「仕事の分野により異なる」が高く、2割超。『出演マネジメントを依頼している事務所』『所属する団体、プロダクション』で「全て支払われた」が1割超。

3-5.実施判断者別(SA)



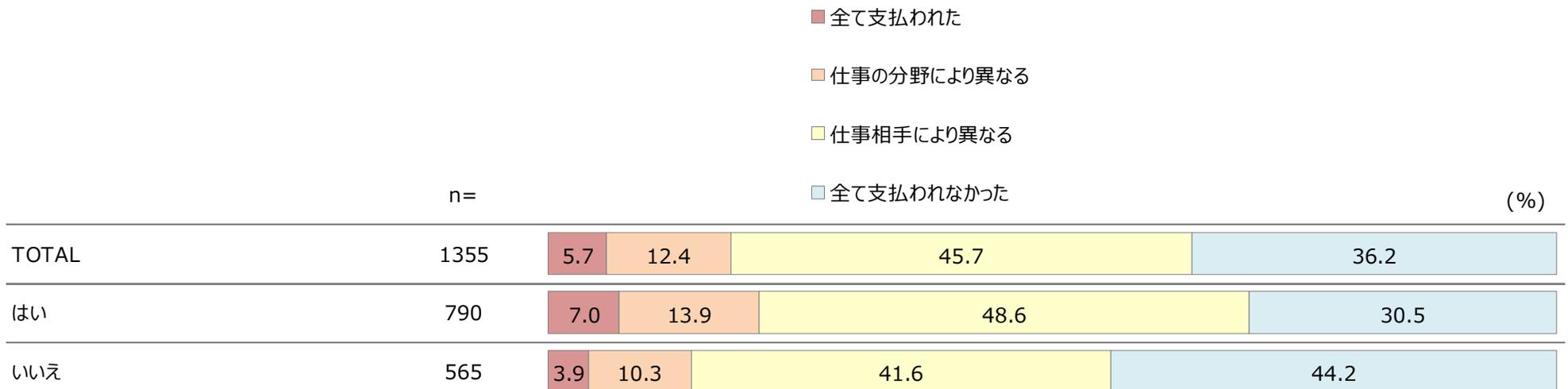
実施判断者別	n=	全て支払われた (%)	仕事の分野により異なる (%)	仕事相手により異なる (%)	全て支払われなかった (%)
TOTAL	1355	5.7	12.4	45.7	36.2
全て自分（家族を含め）が行っている	693	4.3	9.2	44.4	42.0
出演マネジメントを依頼している事務所	48	14.6	20.8	35.4	29.2
所属する団体、プロダクション	150	11.3	16.0	39.3	33.3
仕事により個人が決めるもの、団体、事務所などが決めるものがある	464	5.0	15.1	50.6	29.3

(質問文)Q3 コロナ禍で、仕事が中止になった場合、キャンセル料は支払われましたか。最も回数が多かったものをお答えください。

3.キャンセル料有無(SA)

- 契約実施別にみると、『契約を行っている（はい）』で「仕事相手により異なる」が『契約を行っていない（いいえ）』に比べ高く、5割近い。『契約を行っていない（いいえ）』で「全て支払われなかった」が高く、4割を超える。

3-6.契約実施別(SA)

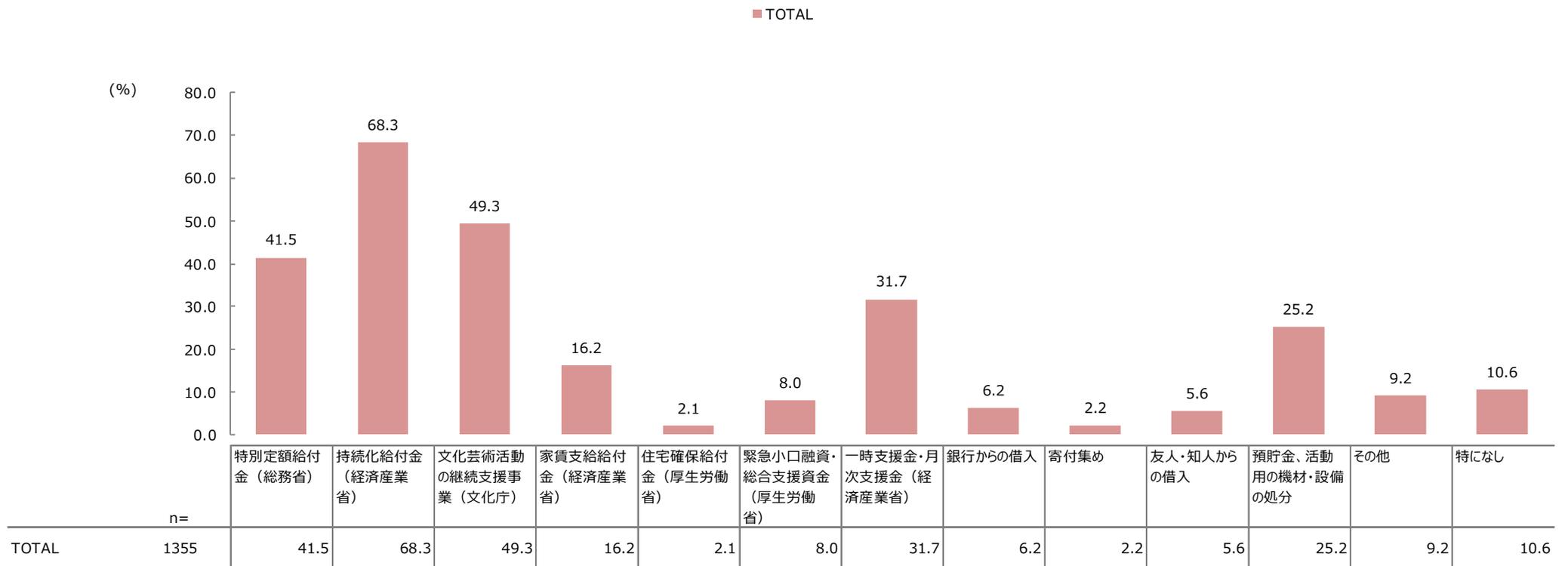


(質問文)Q3 コロナ禍で、仕事が中止になった場合、キャンセル料は支払われましたか。最も回数が多かったものをお答えください。

4.活動継続、生活維持のため行ったこと(MA)

- TOTALでは、「持続化給付金（経済産業省）」が最も多く、68.3%。「文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）」49.3%、「特別定額給付金（総務省）」41.5%が続く。

4-1.TOTAL結果(MA)

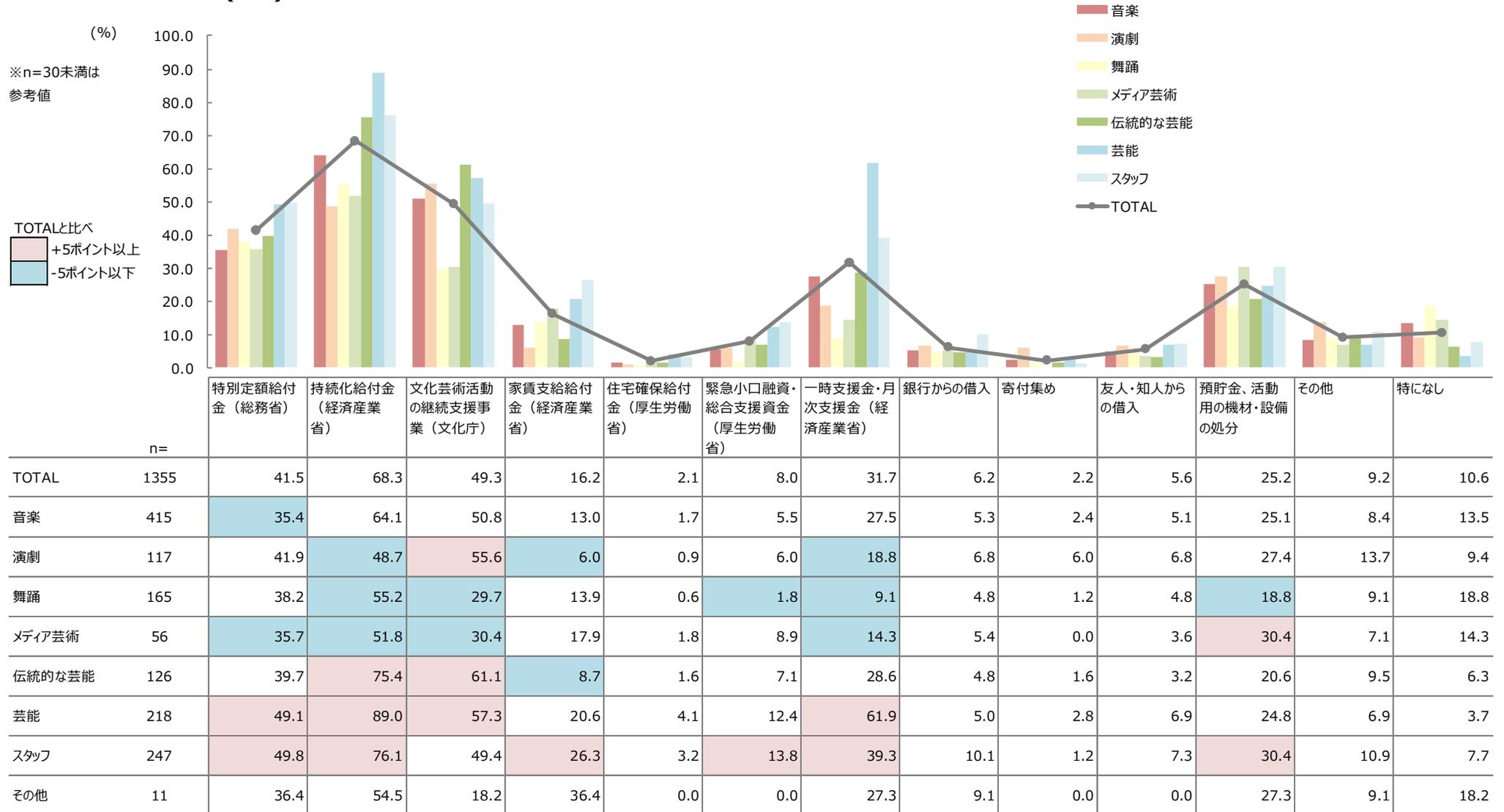


(質問文) <行ったこと (あてはまることすべて) > Q4_1 コロナ禍で、活動の継続、生活の維持のために行ったことを全て挙げてください。
 その中で効果的だったものを3つお答えください。

4.活動継続、生活維持のため行ったこと(MA)

- 活動領域別にみると、芸能、スタッフ、伝統的な芸能で「持続化給付金（経済産業省）」、伝統的な芸能、芸能、演劇で「文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）」、芸能、スタッフで「一時支援金・月次支援金（経済産業省）」、スタッフ、芸能で「特別定額給付金（総務省）」等が高い。

4-2.活動領域別(MA)

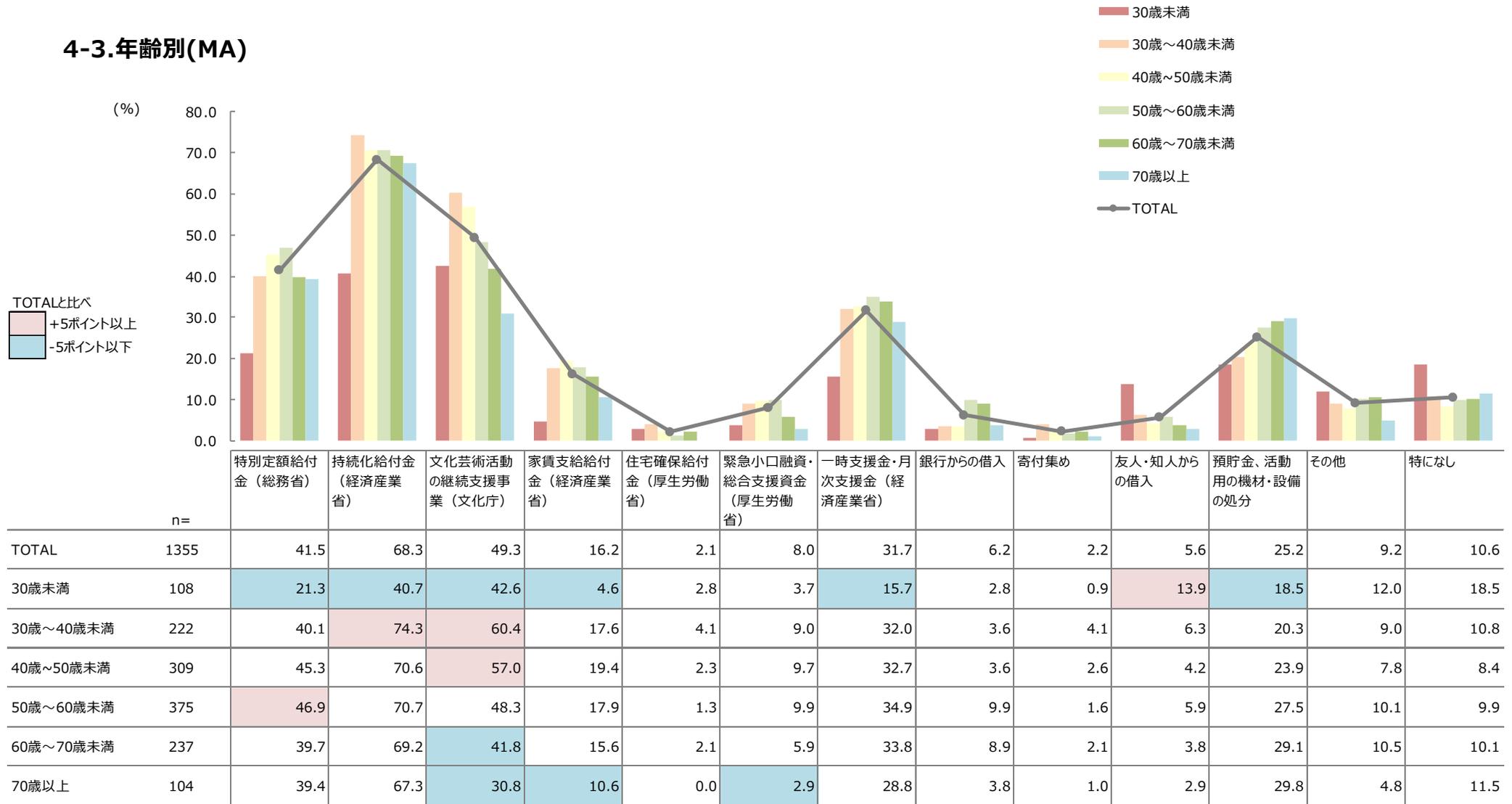


(質問文) <行ったこと（あてはまることすべて）> Q4_1 コロナ禍で、活動の継続、生活の維持のために行ったことを全て挙げてください。その中で効果的だったものを3つお答えください。

4.活動継続、生活維持のため行ったこと(MA)

- 年齢別にみると、30歳～40歳未満で「持続化給付金（経済産業省）」、30歳～50歳未満で「文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）」、50歳～60歳未満で「特別定額給付金（総務省）」、30歳未満で「友人・知人からの借入」が高い。

4-3.年齢別(MA)

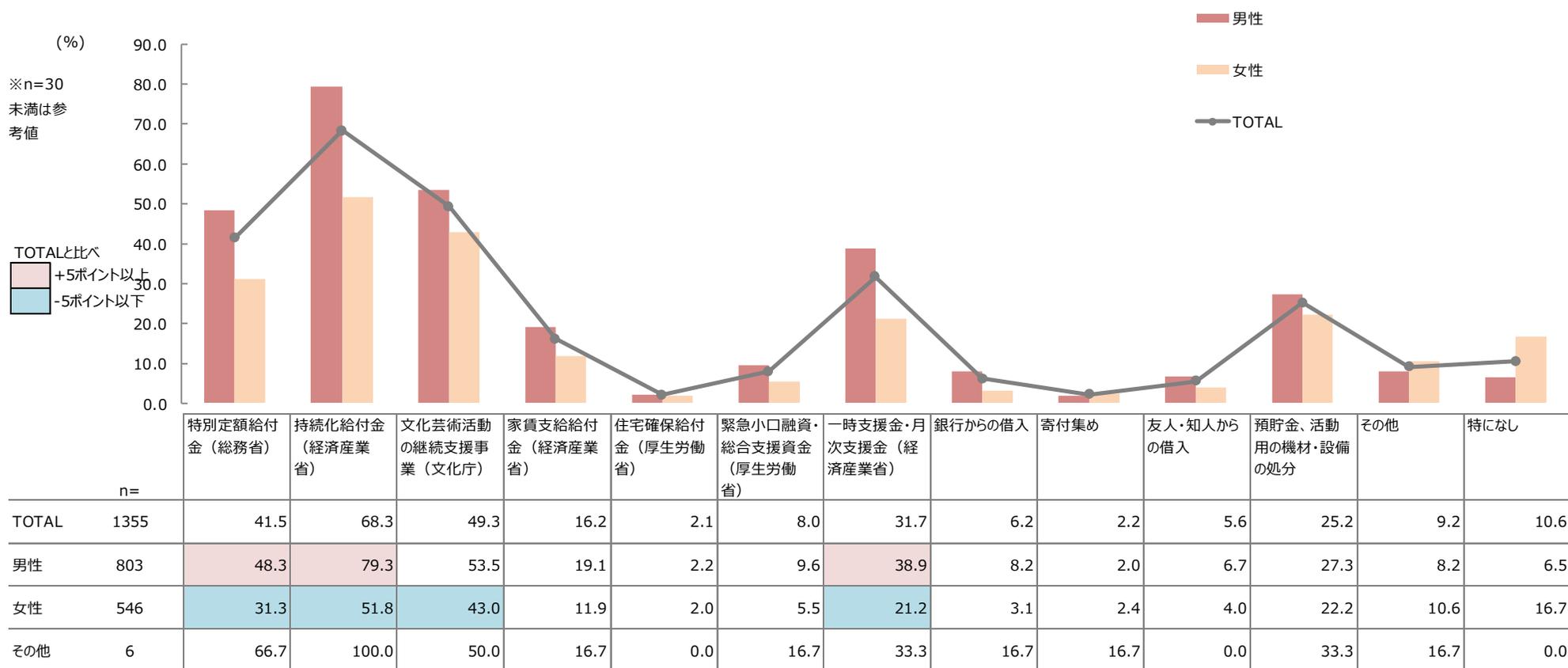


(質問文) <行ったこと (あてはまることすべて) > Q4_1 コロナ禍で、活動の継続、生活の維持のために行ったことを全て挙げてください。その中で効果的だったものを3つお答えください。

4.活動継続、生活維持のため行ったこと(MA)

- 性別にみると、男性で「持続化給付金（経済産業省）」「特別定額給付金（総務省）」「一時支援金・月次支援金（経済産業省）」が高い。男性と比べて、女性は全体的に割合が低い傾向となっている。

4-4.性別(MA)

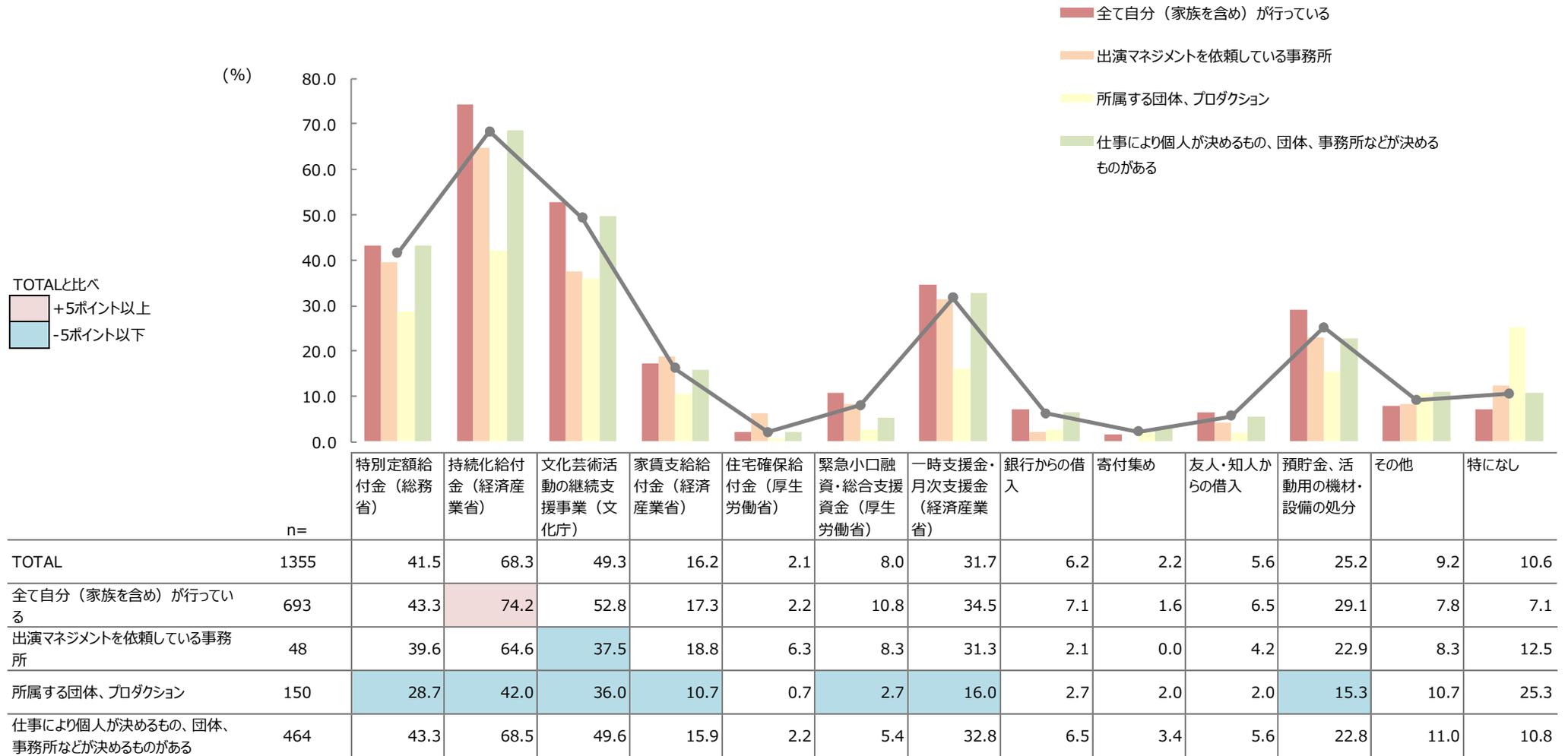


(質問文) <行ったこと (あてはまることすべて) > Q4_1 コロナ禍で、活動の継続、生活の維持のために行ったことを全て挙げてください。その中で効果的だったものを3つお答えください。

4.活動継続、生活維持のため行ったこと(MA)

- 実施判断者別にみると、『全て自分（家族を含め）が行っている』で「持続化給付金（経済産業省）」が74.2%と高い。

4-5.実施判断者別(MA)

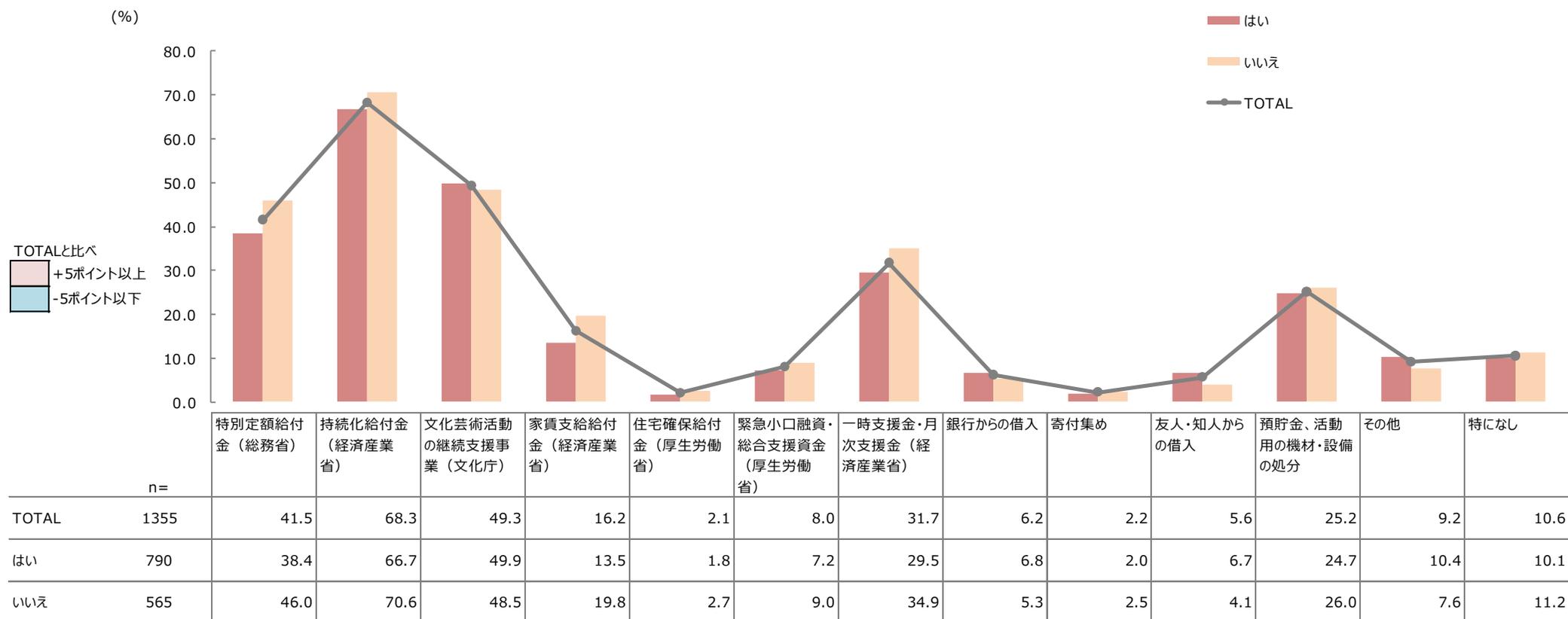


(質問文) <行ったこと（あてはまることすべて）> Q4_1 コロナ禍で、活動の継続、生活の維持のために行ったことを全て挙げてください。その中で効果的だったものを3つお答えください。

4.活動継続、生活維持のため行ったこと(MA)

- 契約実施別にみると、『契約を行っていない（いいえ）』で、「特別定額給付金（総務省）」「一時支援金・月次支援金（経済産業省）」が、『契約を行っている（はい）』に比べて高い。

4-6.契約実施別(MA)

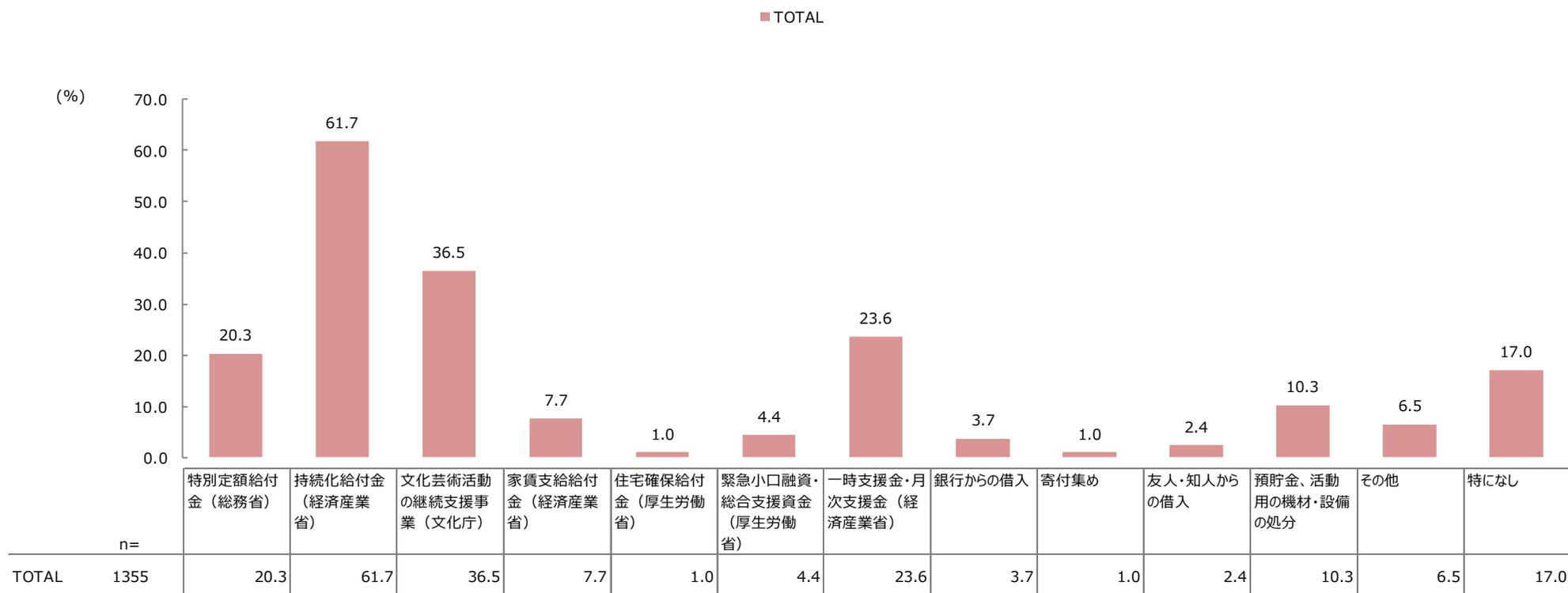


(質問文) <行ったこと（あてはまることすべて）> Q4_1 コロナ禍で、活動の継続、生活の維持のために行ったことを全て挙げてください。その中で効果的だったものを3つお答えください。

5.活動継続、生活維持のため行ったことの中で効果的だったこと(3LA)

- TOTALでは、「持続化給付金（経済産業省）」が最も多く、61.7%。「文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）」36.5%、「一時支援金・月次支援金（経済産業省）」23.6%が続く。

5-1.TOTAL結果(MA)

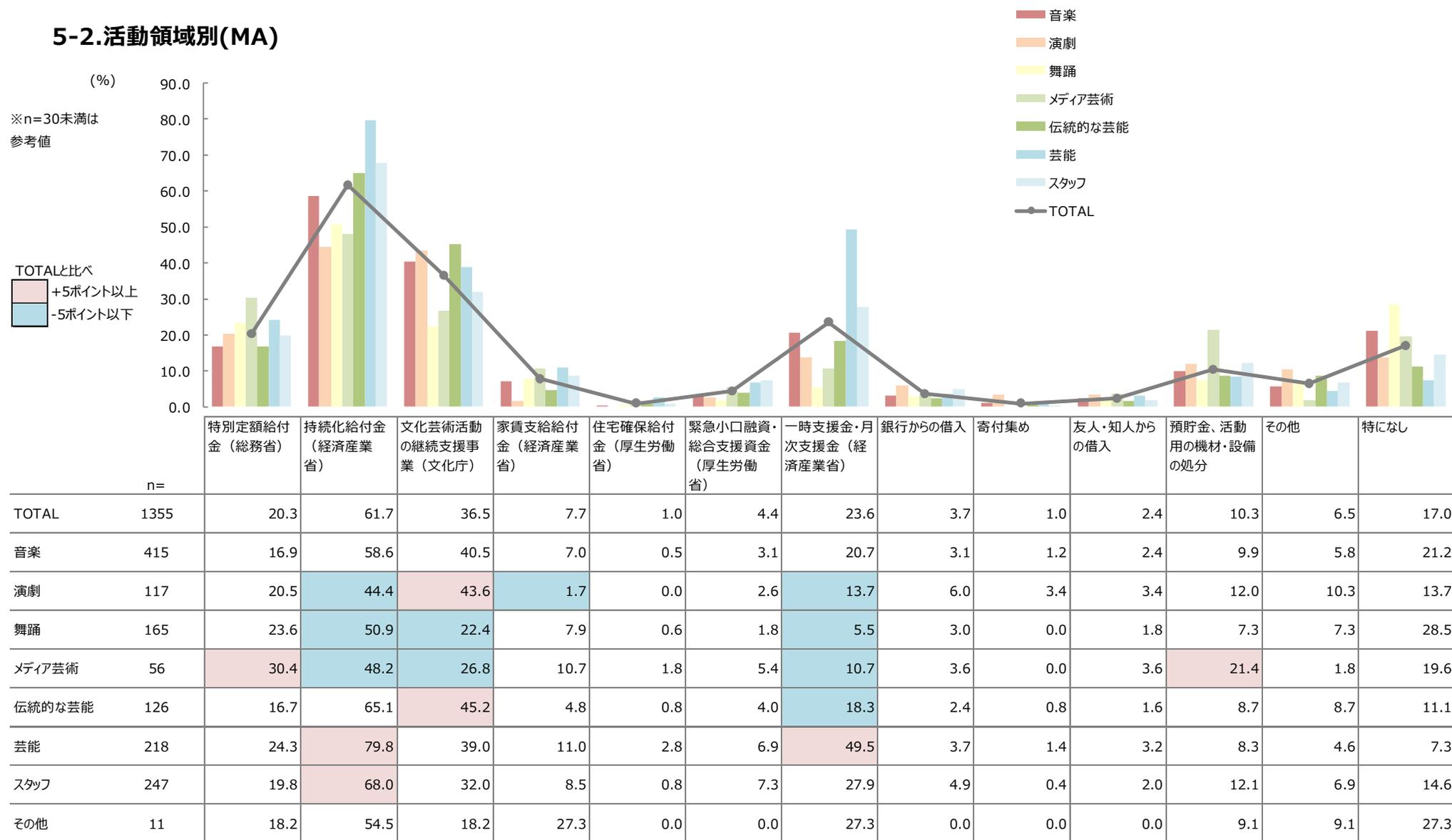


(質問文) <行った中で効果的だったこと (3つまで) > Q4_2 コロナ禍で、活動の継続、生活の維持のために行ったことを全て挙げてください。その中で効果的だったものを3つお答えください。

5.活動継続、生活維持のため行ったことの中で効果的だったこと(3LA)

- 活動領域別にみると、『芸能』、『スタッフ』で「持続化給付金（経済産業省）」、『芸能』で「一時支援金・月次支援金（経済産業省）」、『伝統的な芸能』、『演劇』で「文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）」、『メディア芸術』で「特別定額給付金（総務省）」「預貯金、活動用の機材・設備の処分」が高い傾向がある。

5-2.活動領域別(MA)

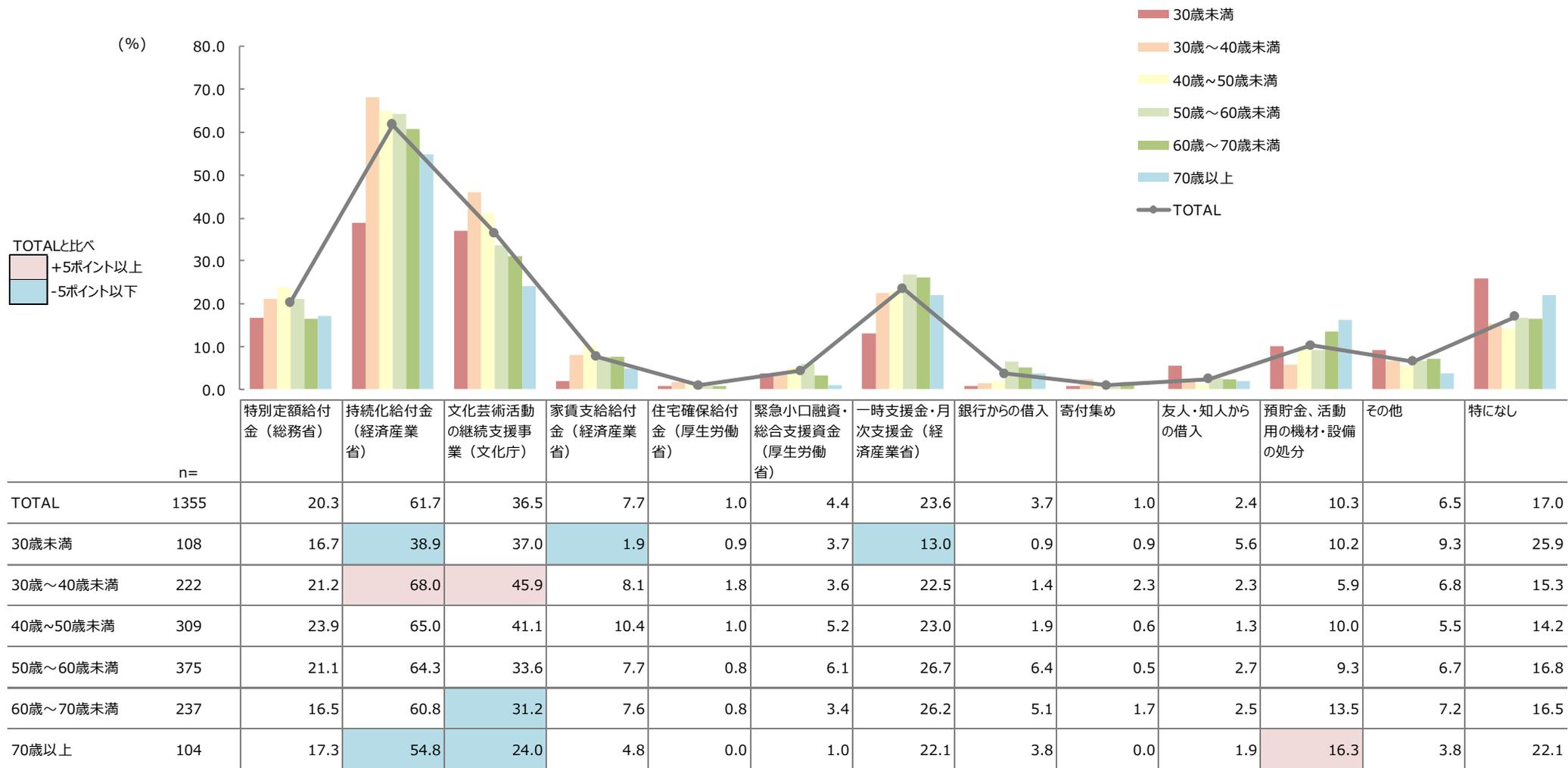


(質問文) <行った中で効果的だったこと (3つまで) > Q4_2 コロナ禍で、活動の継続、生活の維持のために行ったことを全て挙げてください。
 その中で効果的だったものを3つお答えください。

5.活動継続、生活維持のため行ったことの中で効果的だったこと(3LA)

- 年齢別にみると、30歳～40歳未満で「持続化給付金（経済産業省）」「文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）」、70歳以上で「預貯金、活動用の機材・設備の処分」が高い。

5-3.年齢別(MA)

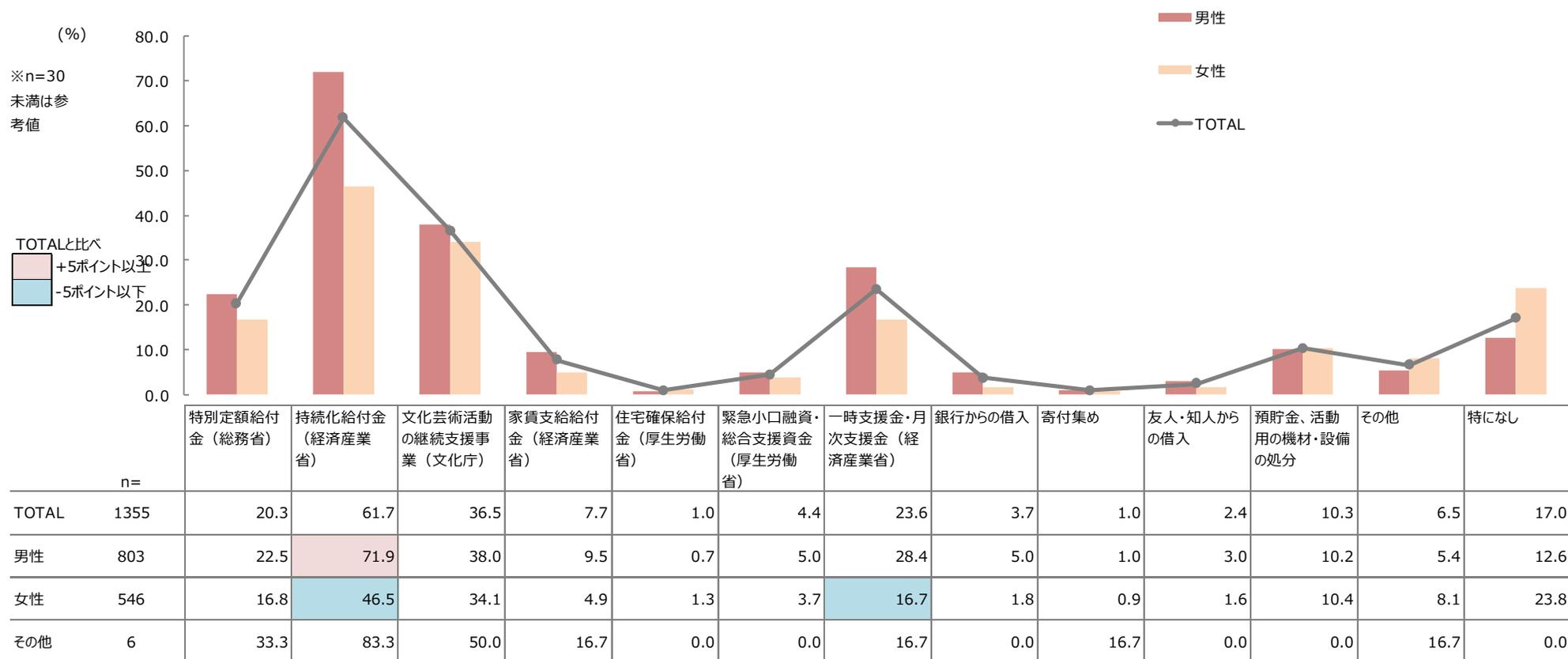


(質問文) <行った中で効果的だったこと (3つまで) > Q4_2 コロナ禍で、活動の継続、生活の維持のために行ったことを全て挙げてください。
 その中で効果的だったものを3つお答えください。

5.活動継続、生活維持のため行ったことの中で効果的だったこと(3LA)

- 性別にみると、男性で「持続化給付金（経済産業省）」が71.9%と高い。

5-4.性別(MA)

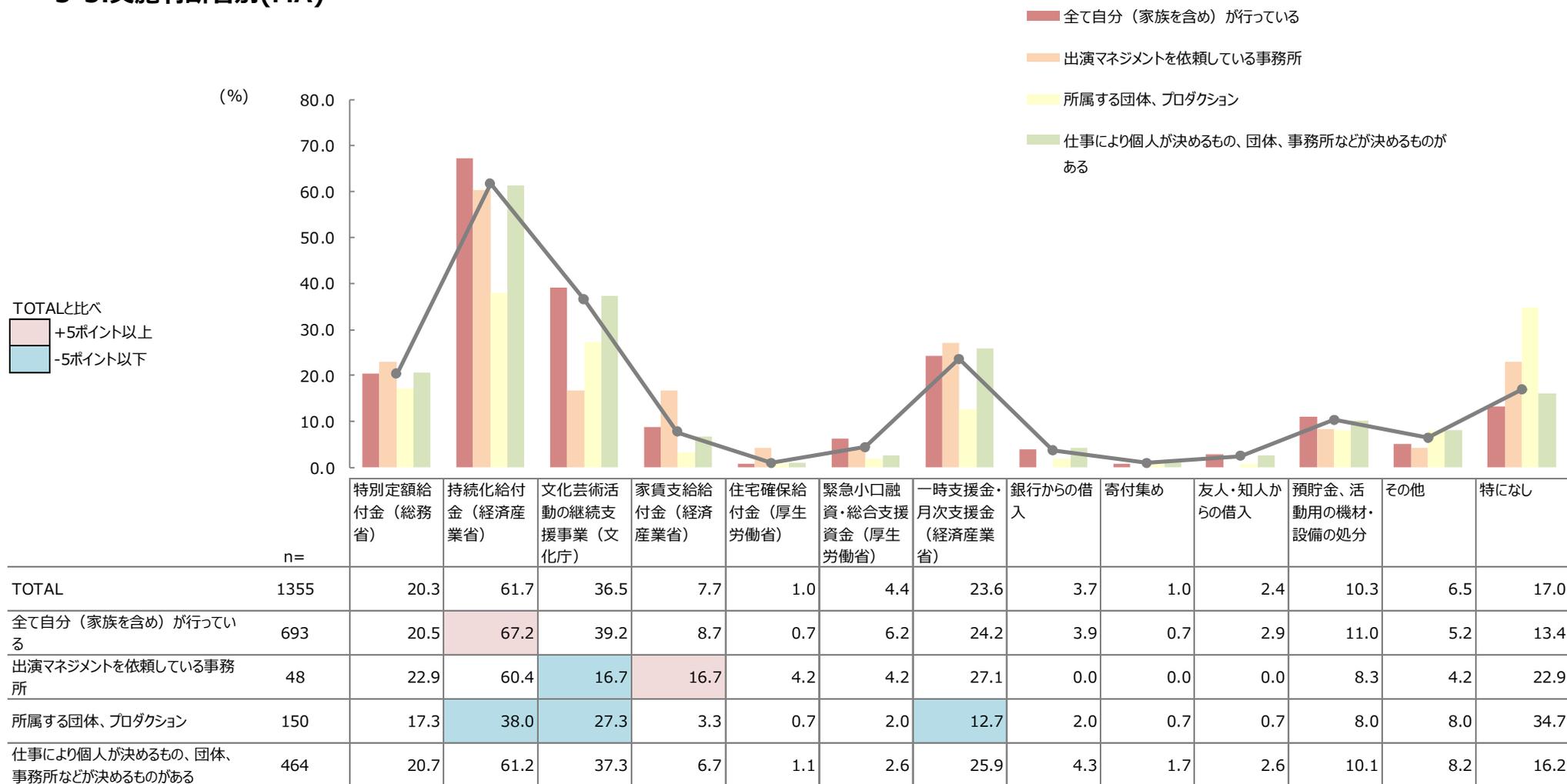


(質問文) <行った中で効果的だったこと(3つまで)> Q4_2 コロナ禍で、活動の継続、生活の維持のために行ったことを全て挙げてください。その中で効果的だったものを3つお答えください。

5.活動継続、生活維持のため行ったことの中で効果的だったこと(3LA)

- 実施判断者別にみると、『全て自分（家族を含め）が行っている』で「持続化給付金（経済産業省）」が67.2%、『出演マネジメントを依頼している事務所』で「家賃支給給付金（経済産業省）」が16.7%と高い。

5-5.実施判断者別(MA)

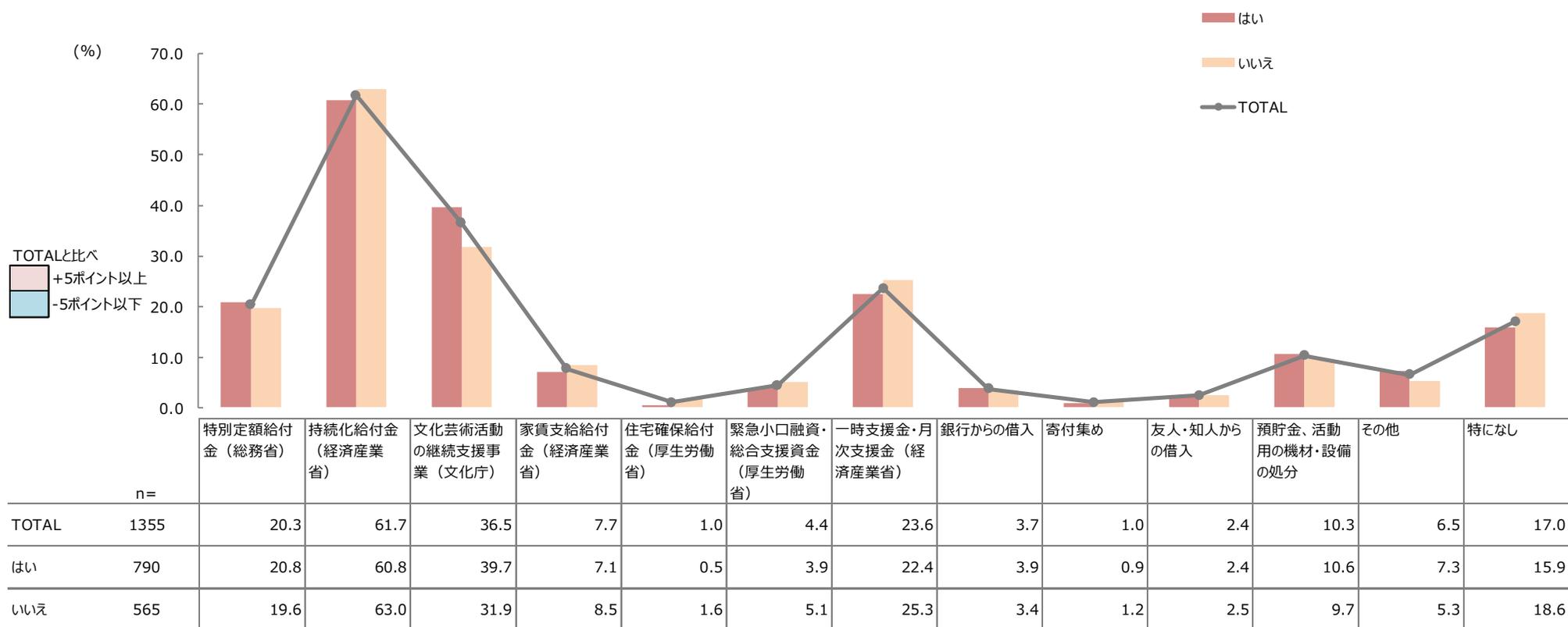


(質問文) <行った中で効果的だったこと (3つまで) > Q4_2 コロナ禍で、活動の継続、生活の維持のために行ったことを全て挙げてください。その中で効果的だったものを3つお答えください。

5.活動継続、生活維持のため行ったことの中で効果的だったこと(3LA)

- 契約実施別にみると、『契約を行っている（はい）』で「文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）」が、『契約を行っていない（いいえ）』に比べ高い。

5-6.契約実施別(MA)

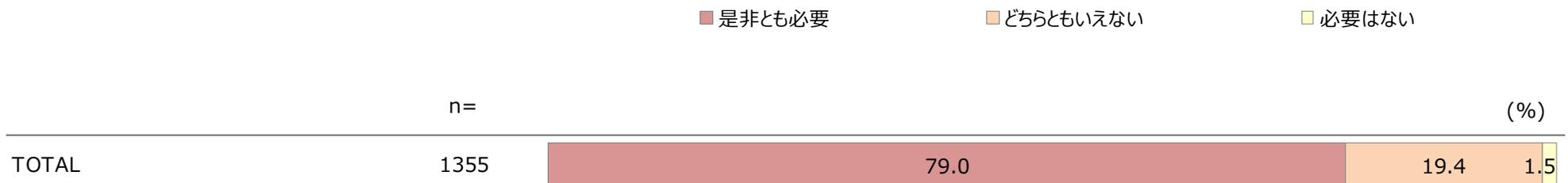


(質問文) <行った中で効果的だったこと（3つまで）> Q4_2 コロナ禍で、活動の継続、生活の維持のために行ったことを全て挙げてください。その中で効果的だったものを3つお答えください。

6.給付金の必要性(SA)

- TOTALでは、「是非とも必要」が最も多く、79.0%。「どちらともいえない」19.4%、「必要はない」1.5%が続く。

6-1.TOTAL結果(SA)

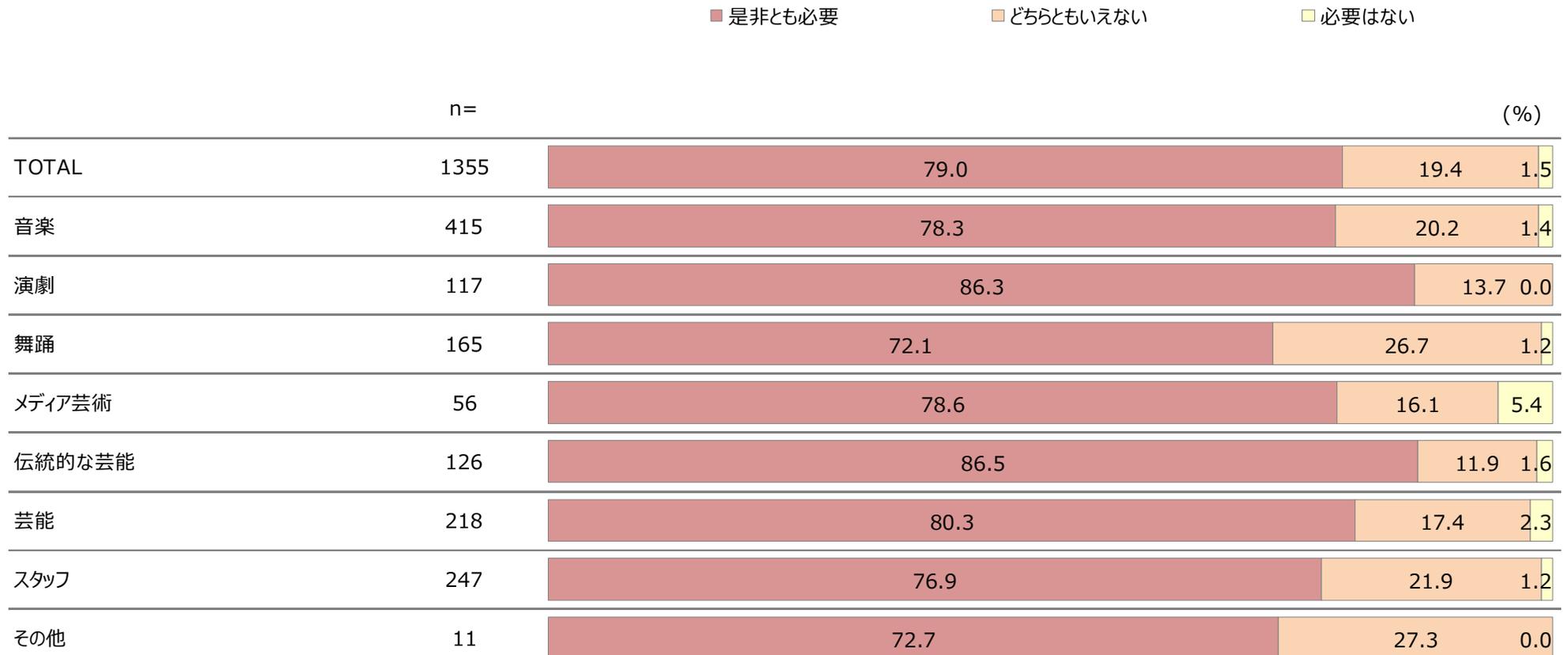


(質問文)Q5 コロナ禍の収束の兆しが見えてきましたが、これからも芸術活動続けるために引き続き給付金は必要と思いますか。
ここからは芸術活動の継続のための支援、活動環境の改善の資料を得るために伺います。

6.給付金の必要性(SA)

- 活動領域別にみると、『伝統的な芸能』、『演劇』で「是非とも必要」が9割近くと高い。

6-2.活動領域別(SA)



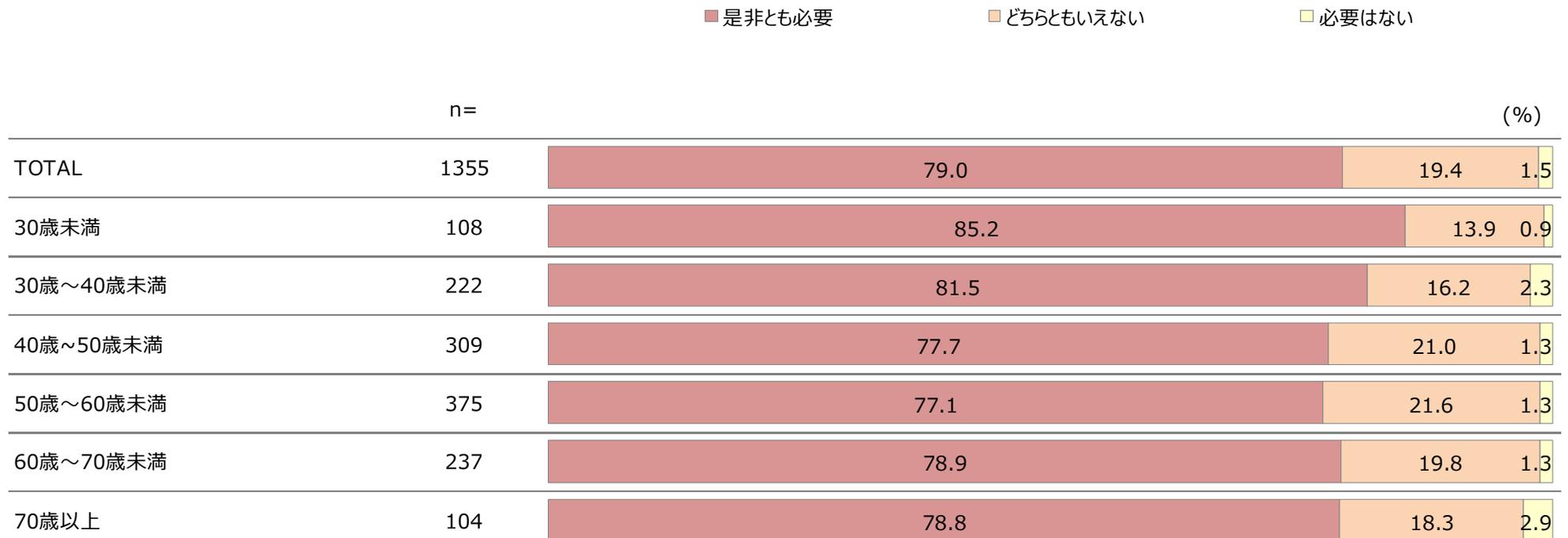
※n=30未満は参考値

(質問文)Q5 コロナ禍の収束の兆しが見えてきましたが、これからも芸術活動を持続するために引き続き給付金は必要と思いますか。
ここからは芸術活動の継続のための支援、活動環境の改善の資料を得るために伺います。

6.給付金の必要性(SA)

- 年齢別にみると、30歳未満と30歳～40歳未満で「是非とも必要」が8割越えと、TOTALより高くなっている。

6-3.年齢別(SA)

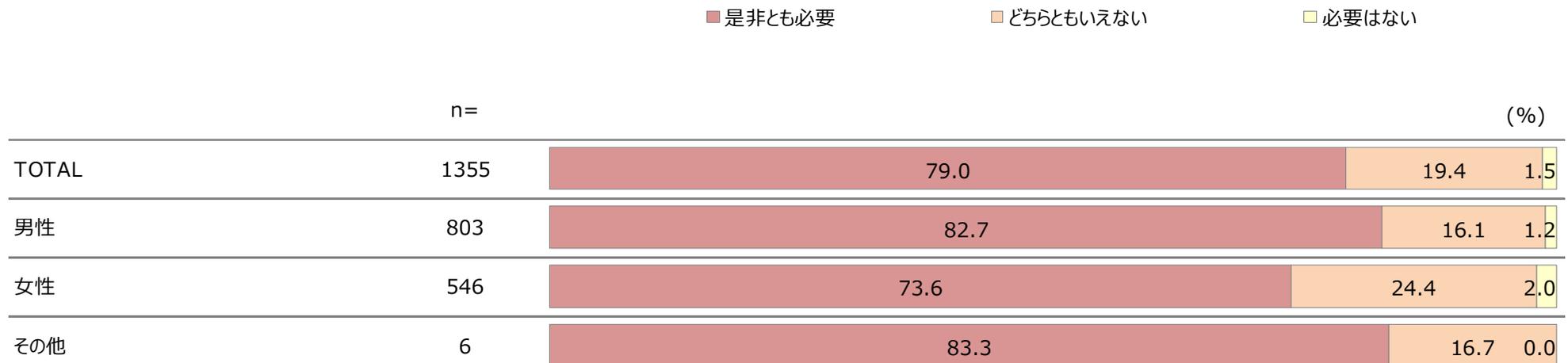


(質問文)Q5 コロナ禍の収束の兆しが見えてきましたが、これからも芸術活動を続けるために引き続き給付金は必要と思いますか。
ここからは芸術活動の継続のための支援、活動環境の改善の資料を得るために伺います。

6.給付金の必要性(SA)

- 性別にみると、男性では「是非とも必要」が82.7%と、女性に比べて高い。

6-4.性別(SA)



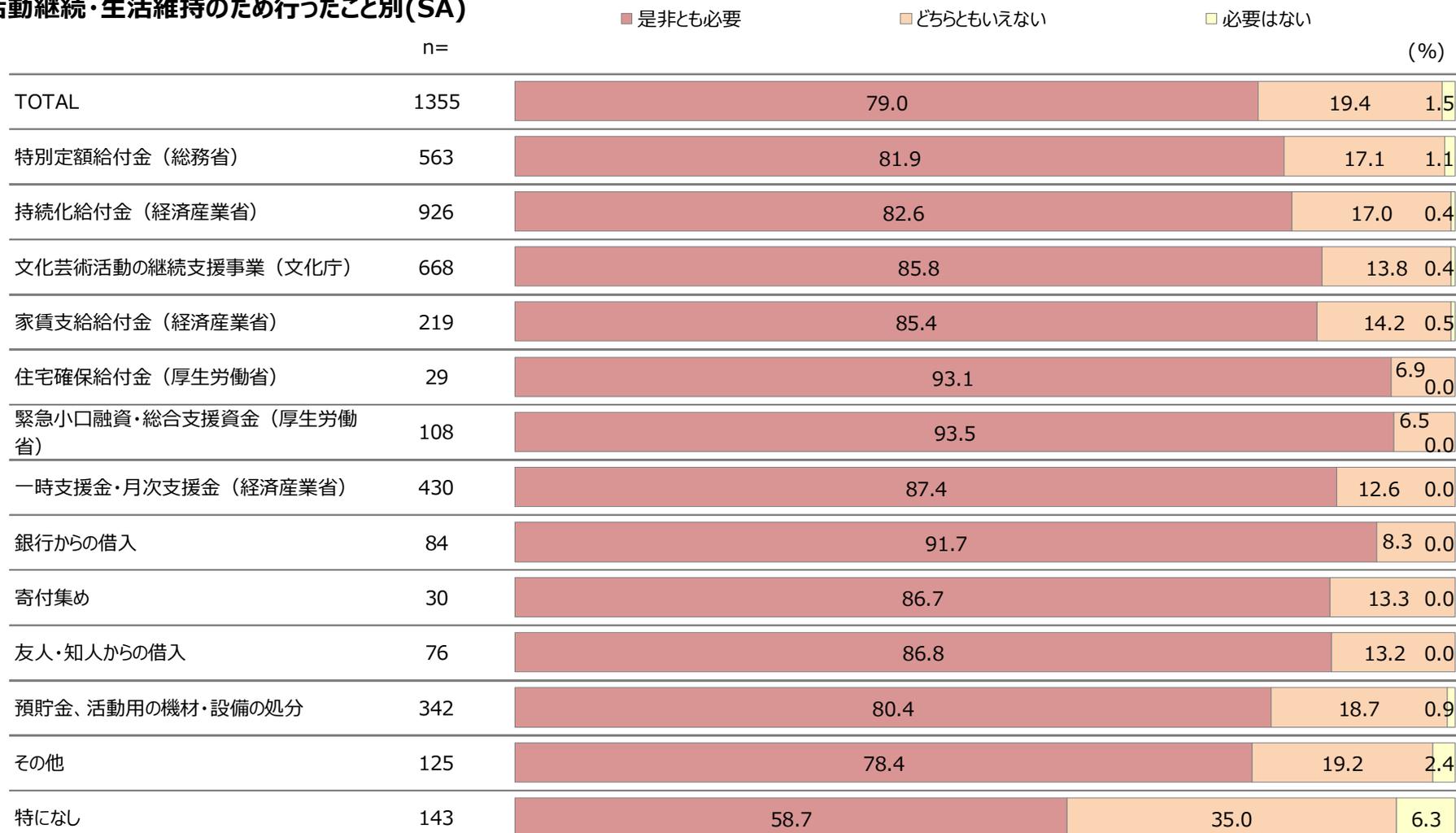
※n=30未満は参考値

(質問文)Q5 コロナ禍の収束の兆しが見えてきましたが、これからも芸術活動を続けるために引き続き給付金は必要と思いますか。
ここからは芸術活動の継続のための支援、活動環境の改善の資料を得るために伺います。

6.給付金の必要性(SA)

- 活動継続・生活維持のため行ったこと（MA）別にみると、『緊急小口融資・総合支援資金（厚生労働省）』『銀行からの借入』『一時支援金・月次支援金（経済産業省）』『友人・知人からの借入』『寄付集め』『文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）』『家賃支給給付金（経済産業省）』を利用したと回答した人たちで、「是非とも必要」が9割近くと高い。

6-5.活動継続・生活維持のため行ったこと別(SA)



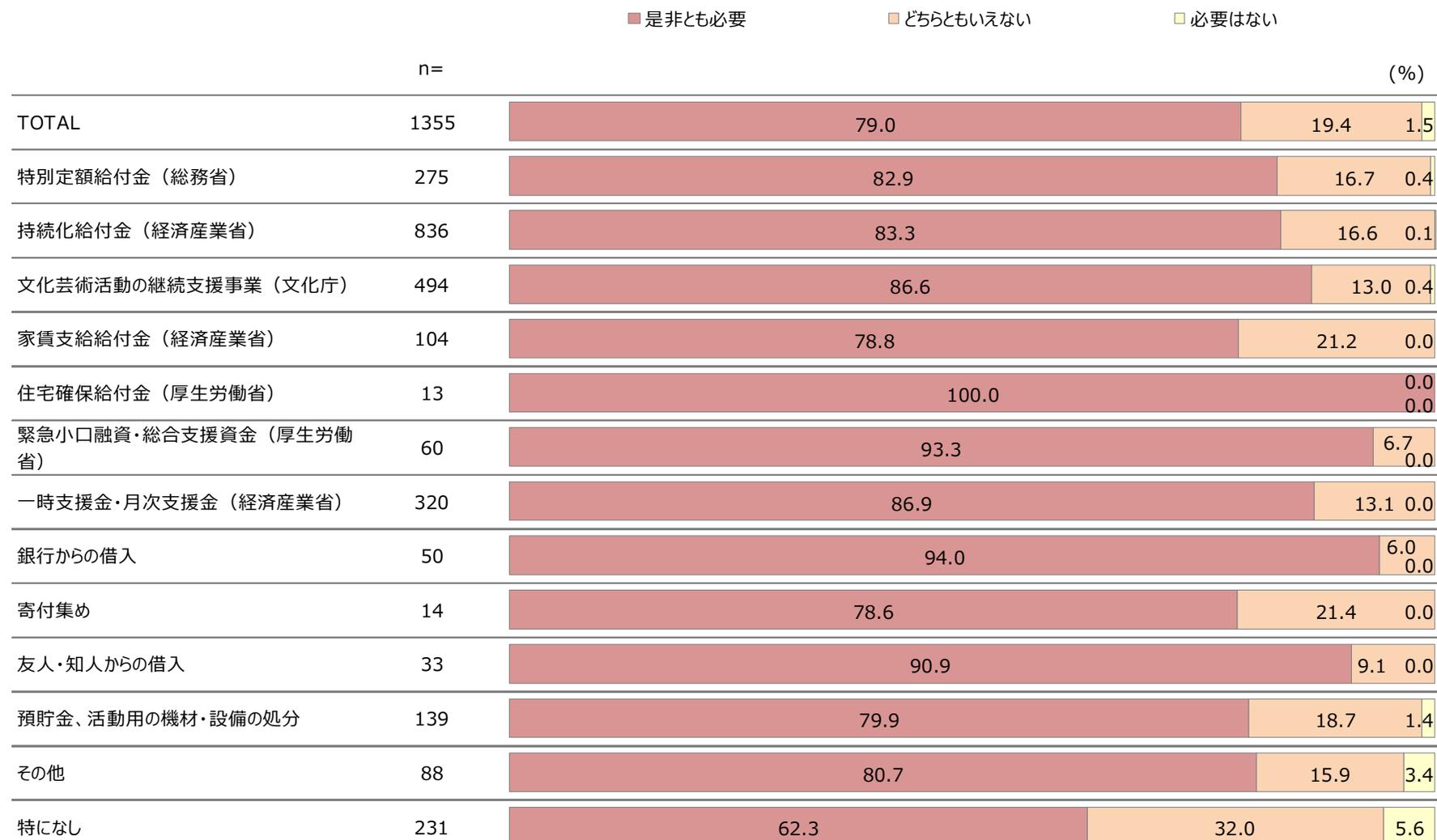
※n=30未満は参考値

(質問文)Q5 コロナ禍の収束の兆しが見えてきましたが、これからも芸術活動を持続するために引き続き給付金は必要と思いますか。ここからは芸術活動の継続のための支援、活動環境の改善の資料を得るために伺います。

6.給付金の必要性(SA)

- 活動継続・生活維持のため行ったことで効果的だったこと（3LA）別にみると、『銀行からの借入』『緊急小口融資・総合支援資金（厚生労働省）』『友人・知人からの借入』『一時支援金・月次支援金（経済産業省）』『文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）』と回答した人たちで、「是非とも必要」が9割近くと高い。

6-6.活動継続・生活維持のため行ったことで効果的だったこと別(SA)



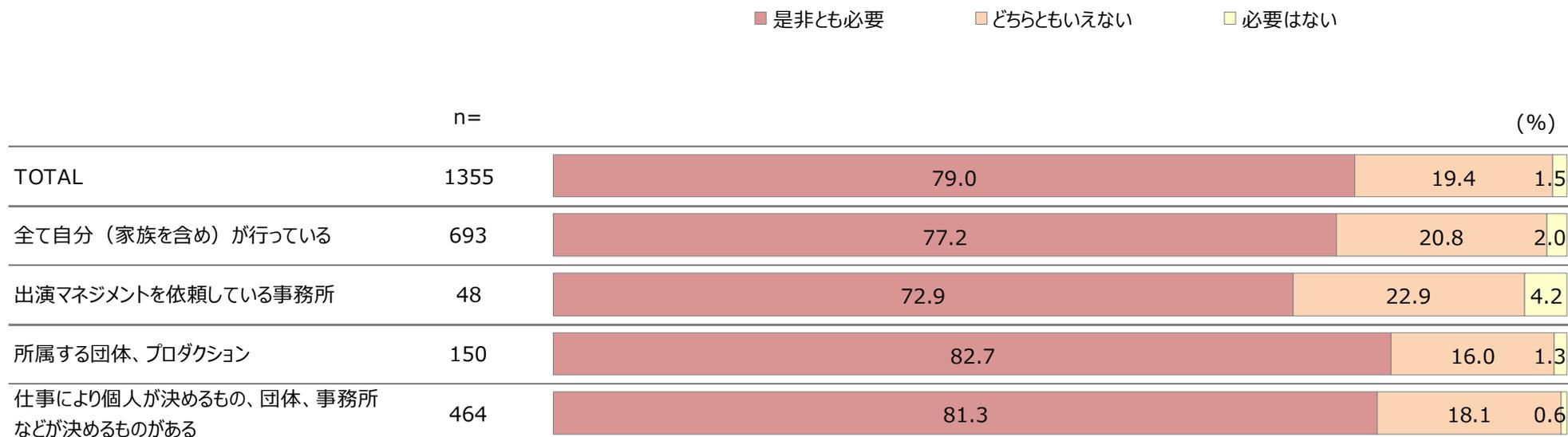
※n=30未満は参考値

(質問文)Q5 コロナ禍の収束の兆しが見えてきましたが、これからも芸術活動を続けるために引き続き給付金は必要と思いますか。ここからは芸術活動の継続のための支援、活動環境の改善の資料を得るために伺います。

6. 給付金の必要性(SA)

- 実施判断者別にみると、『所属する団体、プロダクション』『仕事により個人が決めるもの、団体、事務所などが決めるものがある』で「是非とも必要」が高く、8割を超える。

6-7. 実施判断者別(SA)

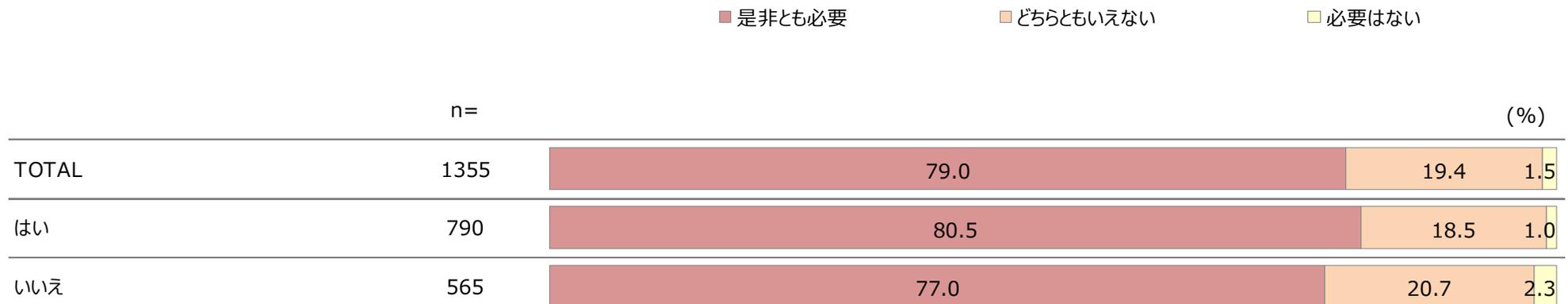


(質問文)Q5 コロナ禍の収束の兆しが見えてきましたが、これからも芸術活動続けるために引き続き給付金は必要と思いますか。
ここからは芸術活動の継続のための支援、活動環境の改善の資料を得るために伺います。

6.給付金の必要性(SA)

- 契約実施別にみると、『契約を行っている（はい）』では「是非とも必要」が80.5%と、『契約を行っていない（いいえ）』に比べて高い。

6-8.契約実施別(SA)

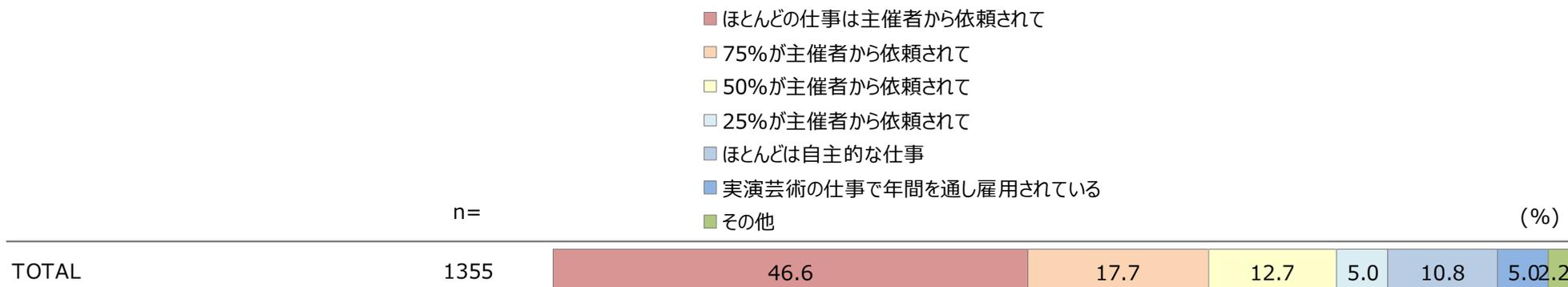


(質問文)Q5 コロナ禍の収束の兆しが見えてきましたが、これからも芸術活動を続けるために引き続き給付金は必要と思いますか。
ここからは芸術活動の継続のための支援、活動環境の改善の資料を得るために伺います。

7.コロナ禍以前、仕事の取り組み方(SA)

- TOTALでは、「■ほとんどの仕事は主催者から依頼されて」が最も多く、46.6%。「■75%が主催者から依頼されて」17.7%、「■50%が主催者から依頼されて」12.7%が続く。

7-1.TOTAL結果(SA)

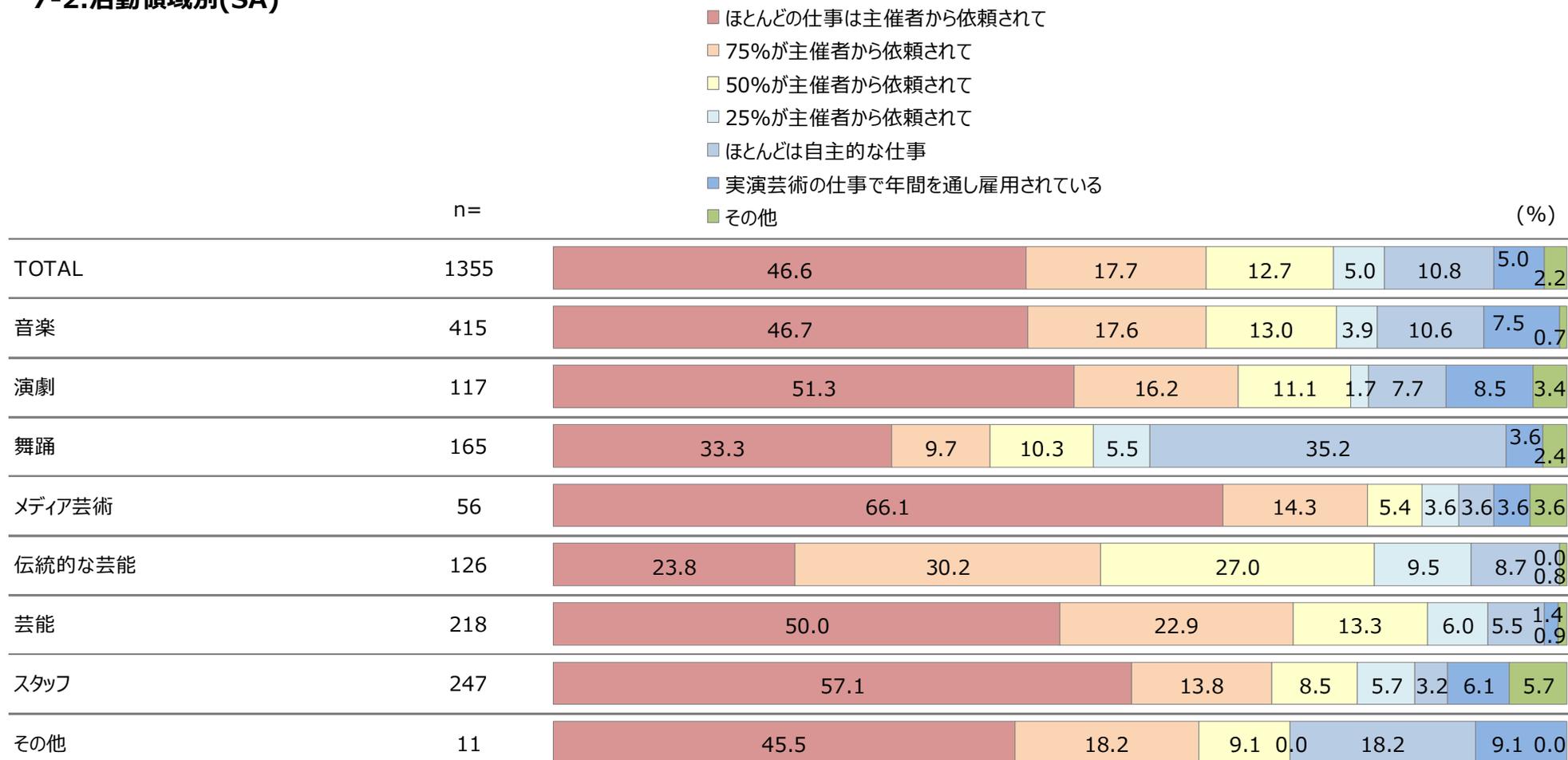


(質問文)Q6 コロナ禍以前、仕事の取り組み方はどのようなものでしたか。もっとも近いものをお答えください。

7.コロナ禍以前、仕事の取り組み方(SA)

- 活動領域別にみると、『メディア芸術』、『スタッフ』で「■ほとんどの仕事は主催者から依頼されて」が高く、とくに『メディア芸術』では7割近くとなっている。『伝統的な芸能』では「■75%が主催者から依頼されて」「■50%が主催者から依頼されて」が3割近く、他ジャンルに比べて高くなっている。一方、『舞踊』では、「ほとんどが自主的な仕事」が35.2%と、とくに高い。

7-2.活動領域別(SA)



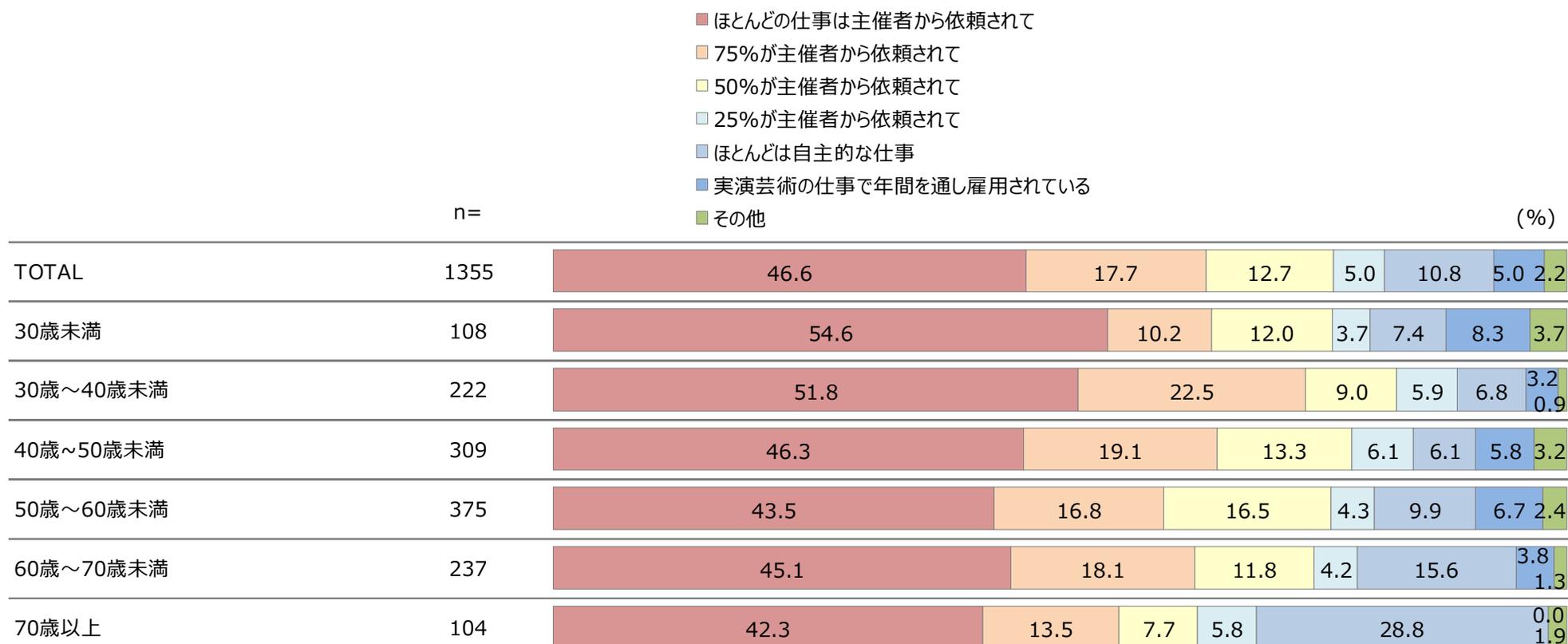
※n=30未満は参考値

(質問文)Q6 コロナ禍以前、仕事の取り組み方はどのようなものでしたか。もっとも近いものをお答えください。

7.コロナ禍以前、仕事の取り組み方(SA)

- 年齢別にみると、年齢が低いほど「■ほとんどの仕事は主催者から依頼されて」が高い傾向。一方で、70歳以上では「■ほとんどは自主的な仕事」が、3割近くと高くなっている。

7-3.年齢別(SA)

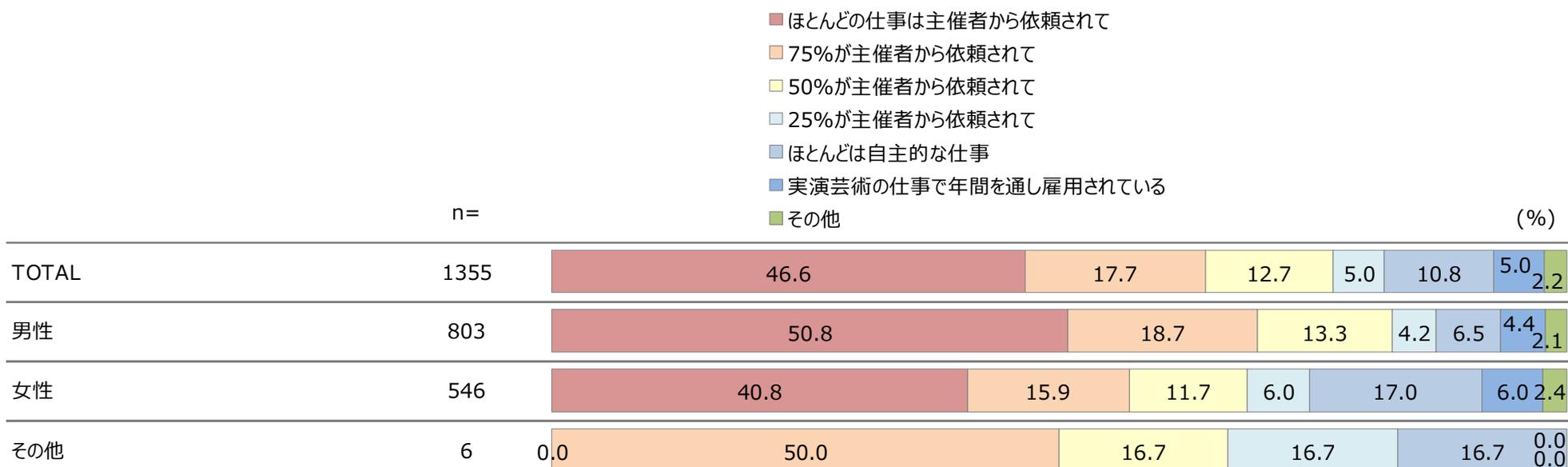


(質問文)Q6 コロナ禍以前、仕事の取り組み方はどのようなものでしたか。もっとも近いものをお答えください。

7.コロナ禍以前、仕事の取り組み方(SA)

- 性別にみると、男性では「■ほとんどの仕事は主催者から依頼されて」が5割で、女性に比べると高い。一方、女性では「■ほとんどは自主的な仕事」が17.0%と高くなっている。

7-4.性別(SA)



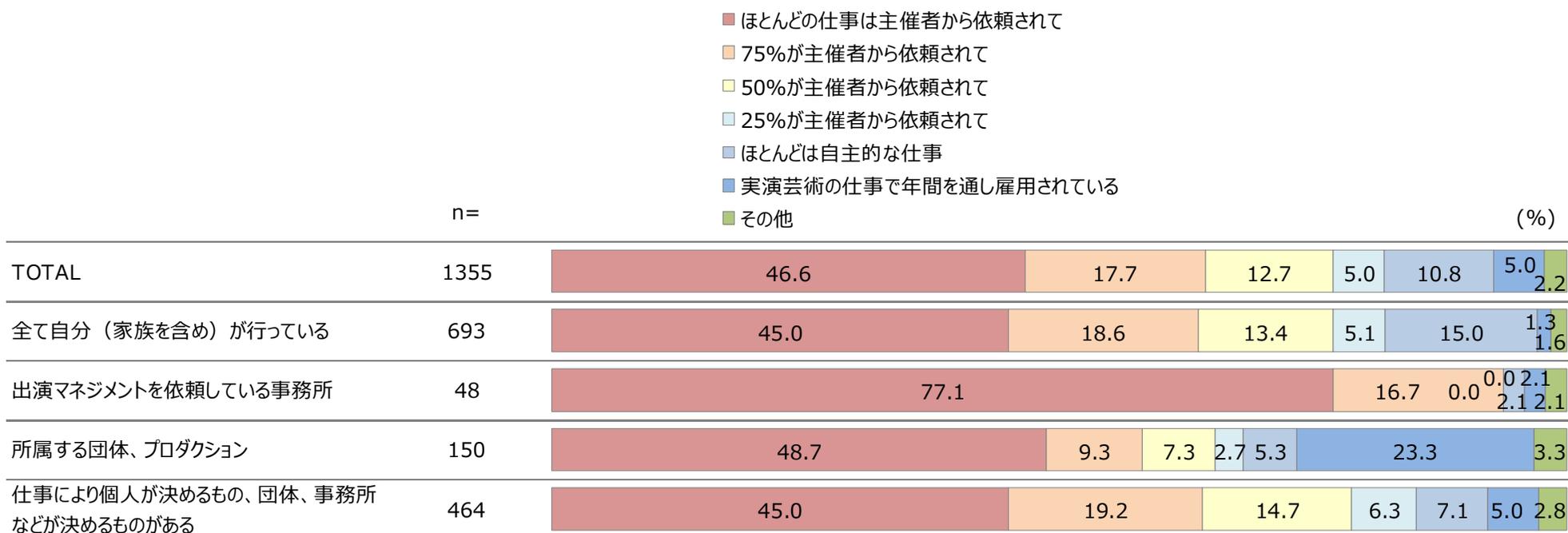
※n=30未満は参考値

(質問文)Q6 コロナ禍以前、仕事の取り組み方はどのようなものでしたか。もっとも近いものをお答えください。

7.コロナ禍以前、仕事の取り組み方(SA)

- 実施判断者別にみると、『出演マネジメントを依頼している事務所』で「■ほとんどの仕事は主催者から依頼されて」が77.1%、『所属する団体、プロダクション』で「■実演芸術の仕事で年間を通し雇用されている」が23.3%と高い。

7-5.実施判断者別(SA)

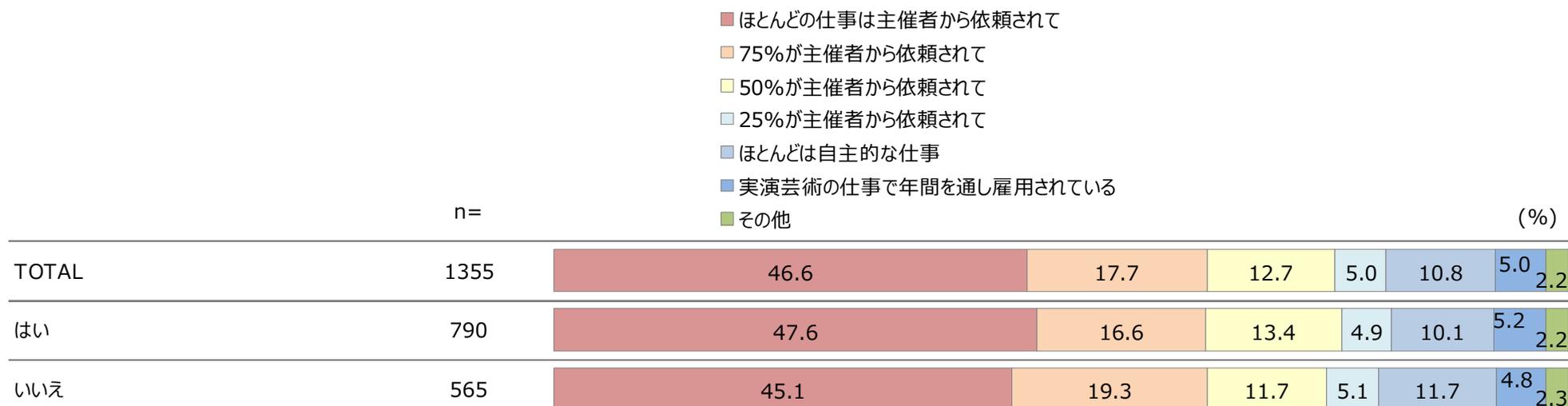


(質問文)Q6 コロナ禍以前、仕事の取り組み方はどのようなものでしたか。もっとも近いものをお答えください。

7.コロナ禍以前、仕事の取り組み方(SA)

- 契約実施別にみると、契約実施の有無で大きな差はみられない。

7-6.契約実施別(SA)

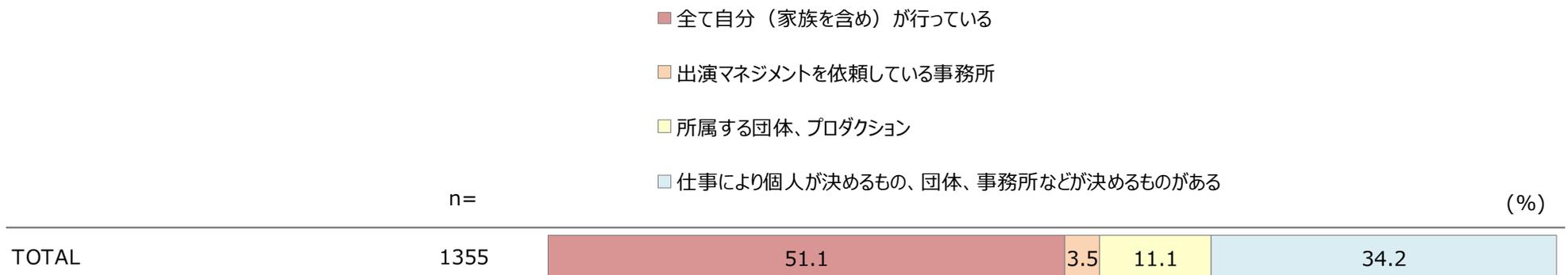


(質問文)Q6 コロナ禍以前、仕事の取り組み方はどのようなものでしたか。もっとも近いものをお答えください。

8.実施判断者(SA) ※出演・業務依頼の交渉や受諾するかどうかの判断、または自主企画などの実施判断を誰が行うか

- 出演・業務依頼の交渉や受諾するかどうかの判断、または自主企画などの実施判断を誰が行うかを問うこの設問に対し、TOTALでは、「全て自分（家族を含め）が行っている」が最も多く、51.1%だった。「仕事により個人が決めるもの、団体、事務所などが決めるものがある」34.2%、「所属する団体、プロダクション」11.1%が続く。

8-1.TOTAL結果(SA)

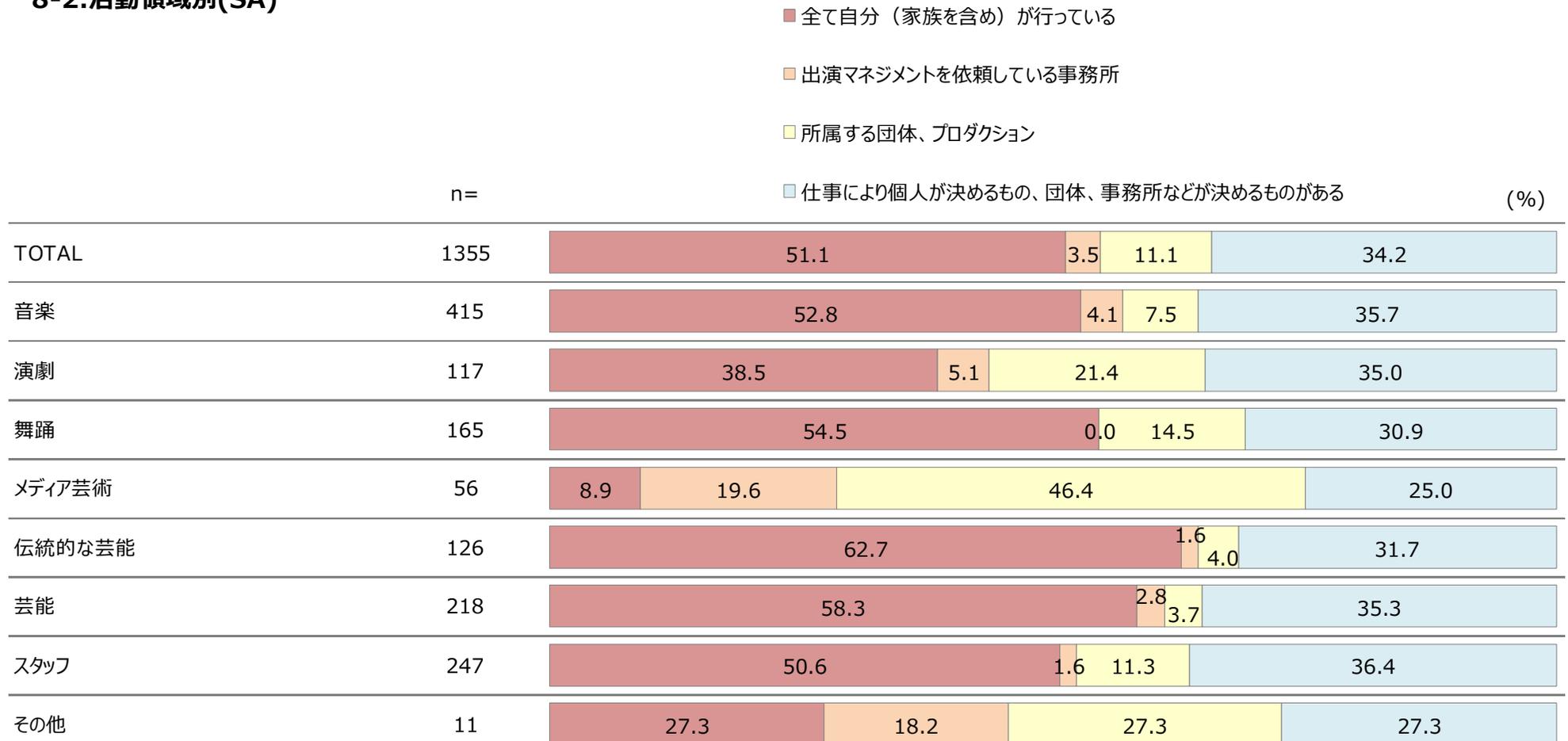


(質問文)Q7 舞台、放送、映画、指導に関する出演・業務依頼の交渉と受諾、自主企画などの実施判断を行うのはどなたですか。

8.実施判断者(SA) ※出演・業務依頼の交渉や受諾するかどうかの判断、または自主企画などの実施判断を誰が行うか

- 活動領域別にみると、『伝統的な芸能』、『芸能』で「全て自分（家族を含め）が行っている」が、6割近くと高い。『メディア芸術』、『演劇』で「所属する団体、プロダクション」が高く、とくに『メディア芸術』では5割近い。

8-2.活動領域別(SA)



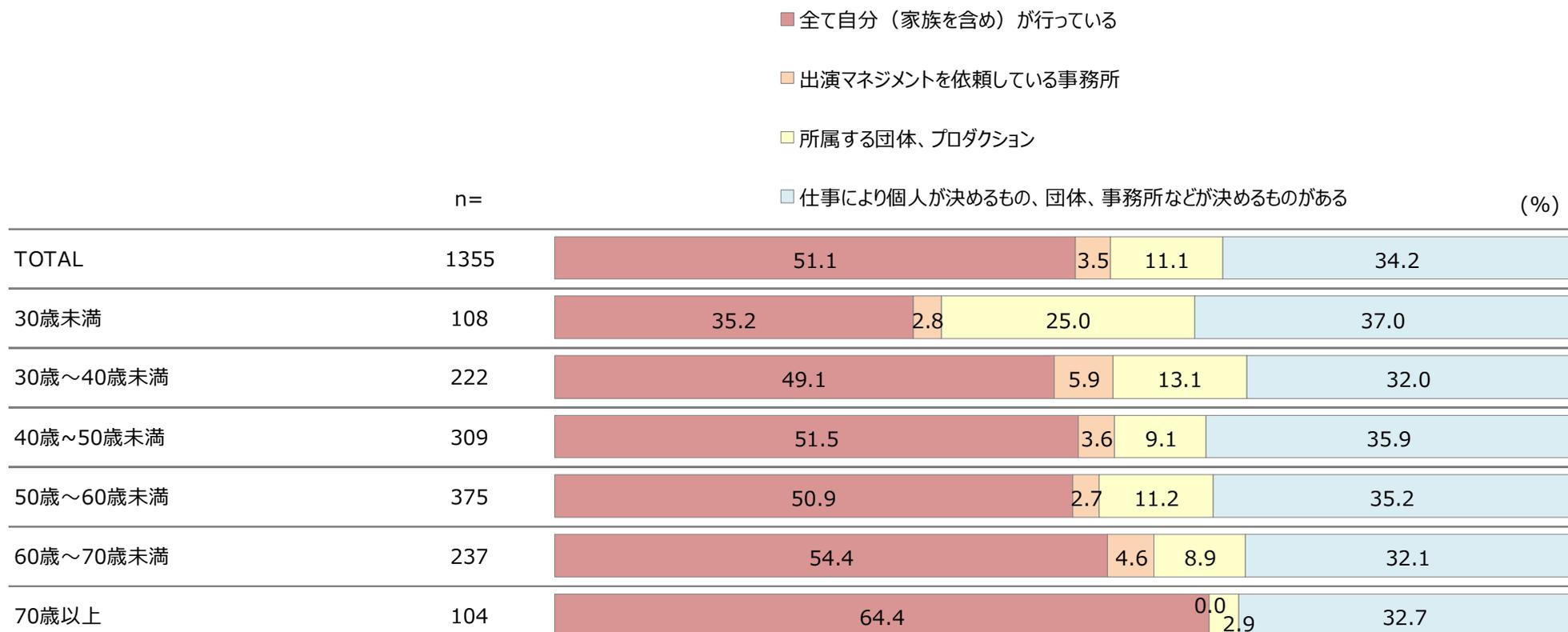
※n=30未満は参考値

(質問文)Q7 舞台、放送、映画、指導に関する出演・業務依頼の交渉と受諾、自主企画などの実施判断を行うのはどなたですか。

8.実施判断者(SA) ※出演・業務依頼の交渉や受諾するかどうかの判断、または自主企画などの実施判断を誰が行うか

- 年齢別にみると、年齢が高いほど「全て自分（家族を含め）が行っている」が高い傾向があり、70歳以上では6割を超える。30歳未満では「所属する団体、プロダクション」が高く、2割を超える。

8-3.年齢別(SA)

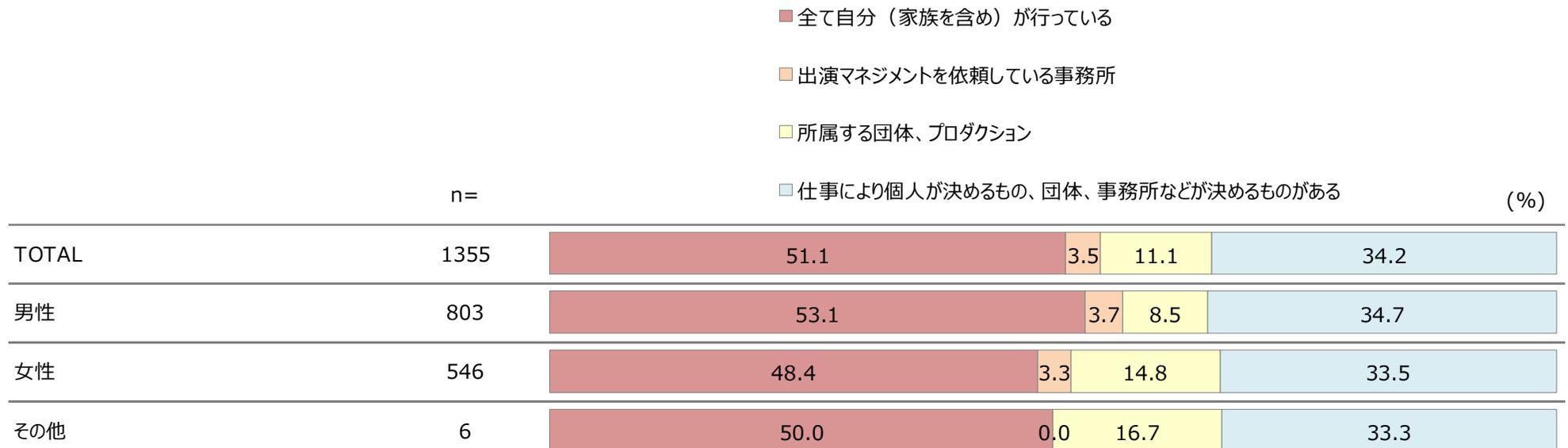


(質問文)Q7 舞台、放送、映画、指導に関する出演・業務依頼の交渉と受諾、自主企画などの実施判断を行うのはどなたですか。

8.実施判断者(SA) ※出演・業務依頼の交渉や受諾するかどうかの判断、または自主企画などの実施判断を誰が行うか

- 性別にみると、男性では「全て自分（家族を含め）が行っている」が53.1%と、女性の48.4%に比べてやや高い。

8-4.性別(SA)



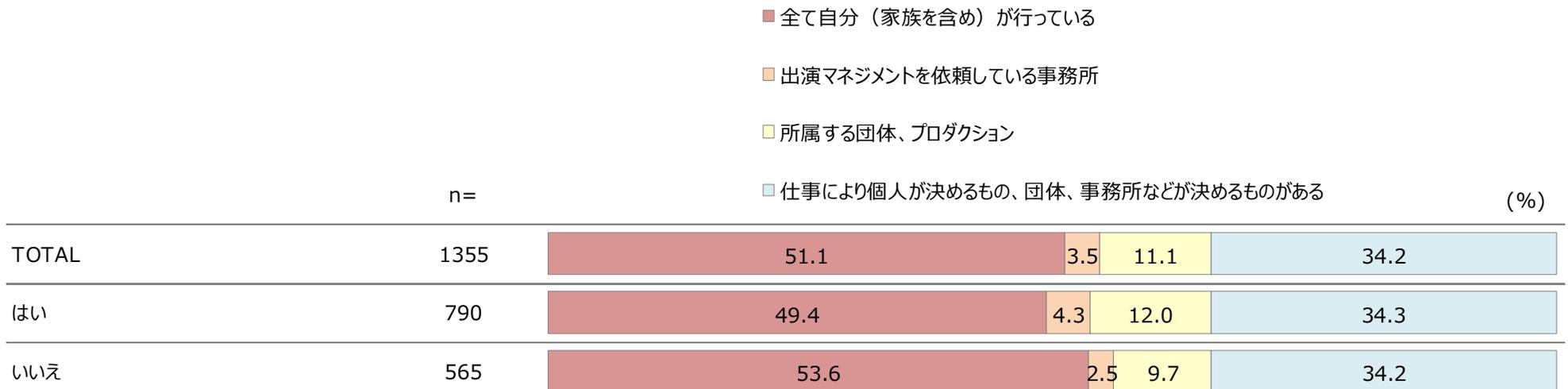
※n=30未満は参考値

(質問文)Q7 舞台、放送、映画、指導に関する出演・業務依頼の交渉と受諾、自主企画などの実施判断を行うのはどなたですか。

8.実施判断者(SA) ※出演・業務依頼の交渉や受諾するかどうかの判断、または自主企画などの実施判断を誰が行うか

- 契約実施別にみると、『契約を行っていない（いいえ）』で「全て自分（家族を含め）が行っている」が、『契約を行っている（はい）』に比べて高く、5割を超える。

8-5.契約実施別(SA)

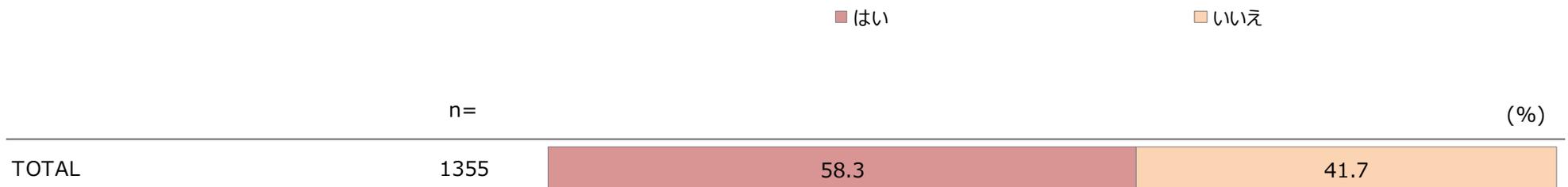


(質問文)Q7 舞台、放送、映画、指導に関する出演・業務依頼の交渉と受諾、自主企画などの実施判断を行うのはどなたですか。

9.契約有無(SA)

- TOTALでは、「契約を行っている（はい）」が多く、58.3%。「契約を行っていない（いいえ）」は41.7%となっている。

9-1.TOTAL結果(SA)



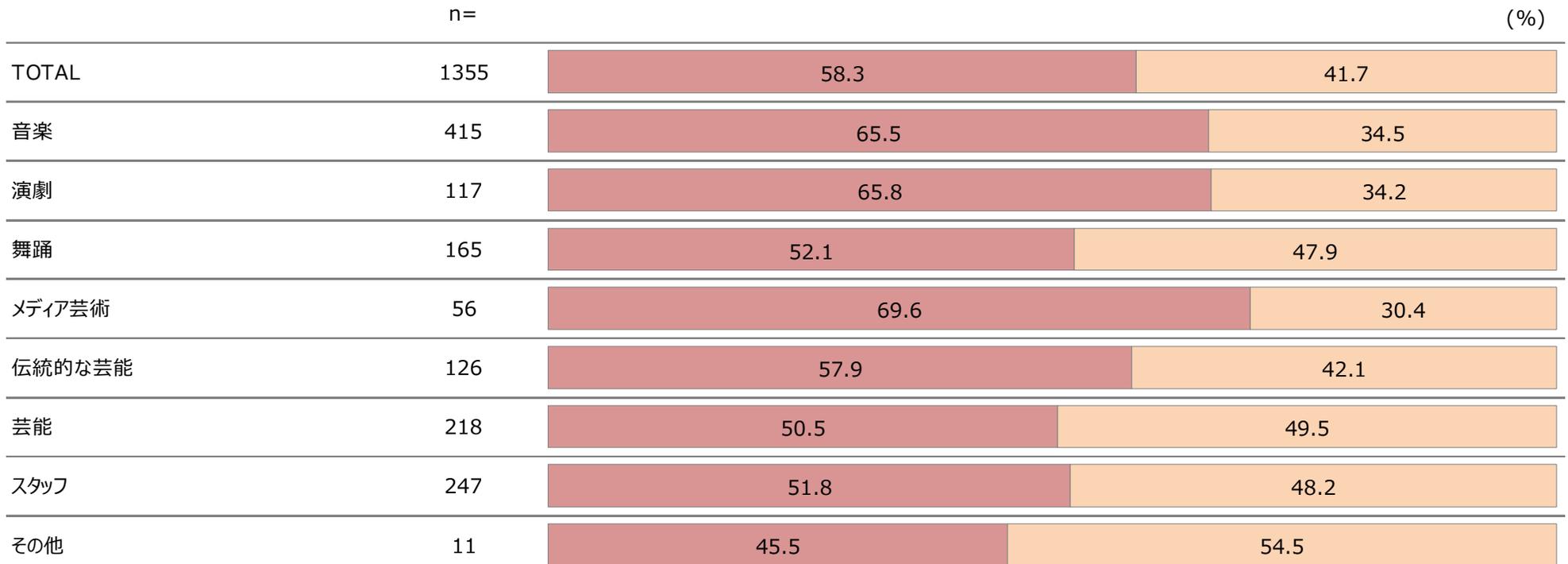
(質問文)Q8 あなたは、舞台、放送、映画、指導に関する仕事内容について書面、メール、口頭を含め契約を行いますか。

9.契約有無(SA)

- 活動領域別にみると、『メディア芸術』、『演劇』、『音楽』で「契約を行っている（はい）」が7割近くと高い。

9-2.活動領域別(SA)

■ はい □ いいえ



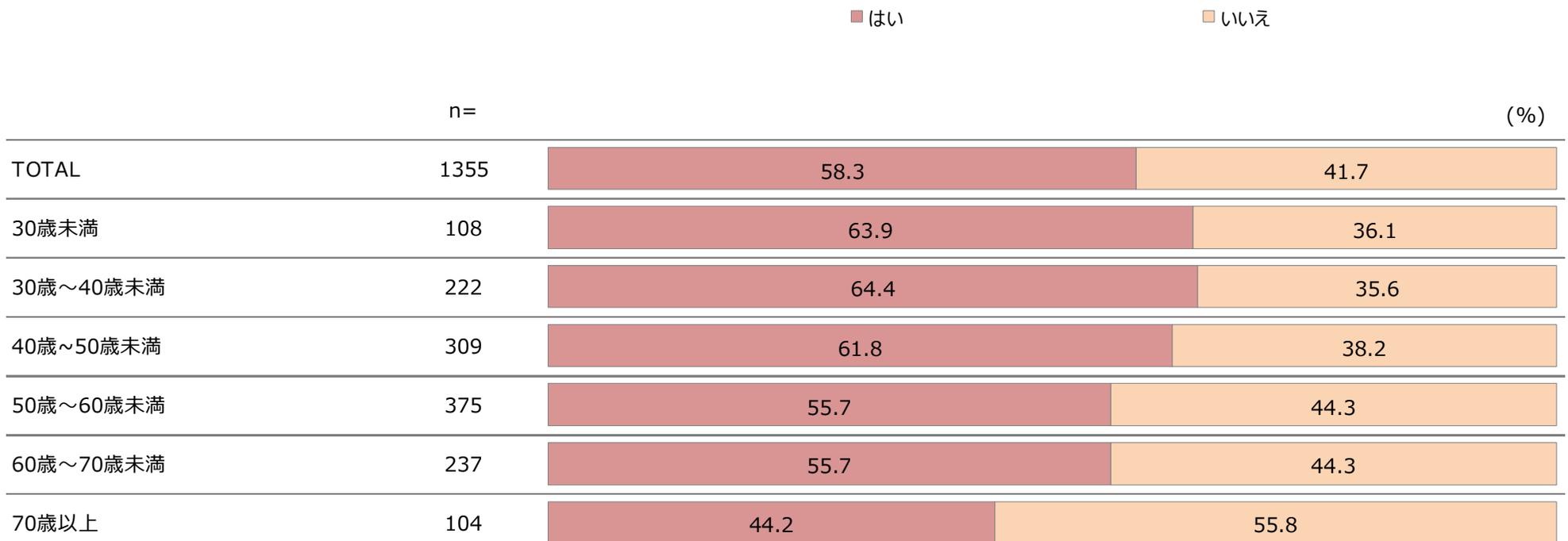
※n=30未満は参考値

(質問文)Q8 あなたは、舞台、放送、映画、指導に関する仕事内容について書面、メール、口頭を含め契約を行いますか。

9.契約有無(SA)

- 年齢別にみると、年齢が低いほど「契約を行っている（はい）」が高い傾向にあり、50歳未満では6割を超えている。

9-3.年齢別(SA)

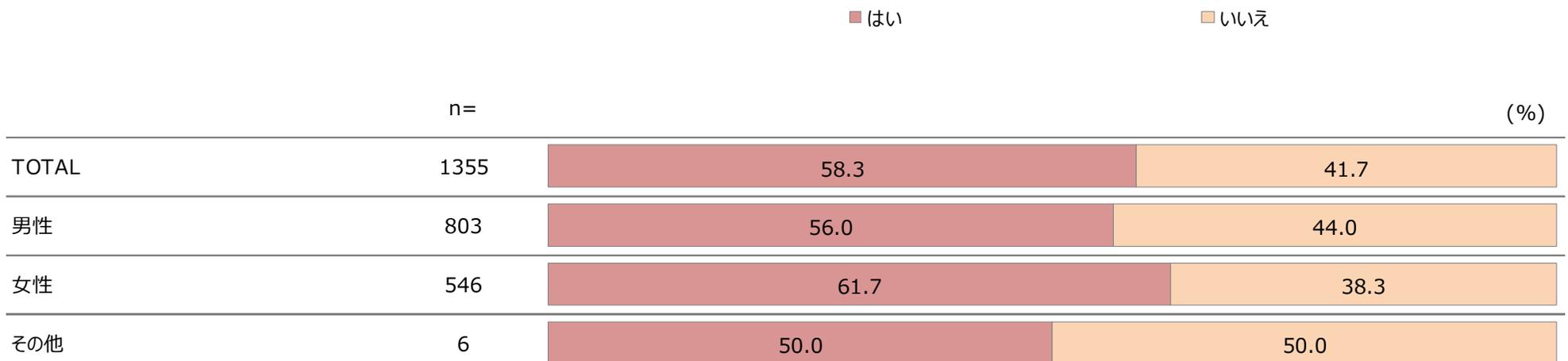


(質問文)Q8 あなたは、舞台、放送、映画、指導に関する仕事内容について書面、メール、口頭を含め契約を行いますか。

9.契約有無(SA)

- 性別にみると、女性では「契約を行っている（はい）」が、男性に比べて高く6割を超える。

9-4.性別(SA)



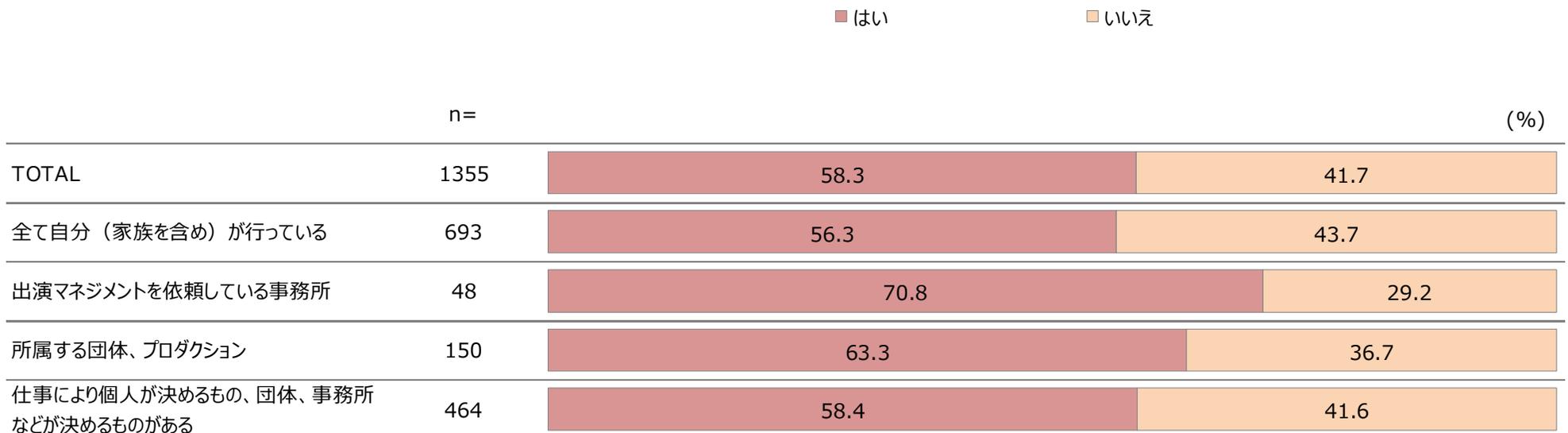
※n=30未満は参考値

(質問文)Q8 あなたは、舞台、放送、映画、指導に関する仕事内容について書面、メール、口頭を含め契約を行いますか。

9.契約有無(SA)

- 実施判断者別にみると、『出演マネジメントを依頼している事務所』『所属する団体、プロダクション』で「契約を行っている（はい）」が高く、6割を超える。

9-5.実施判断者別(SA)

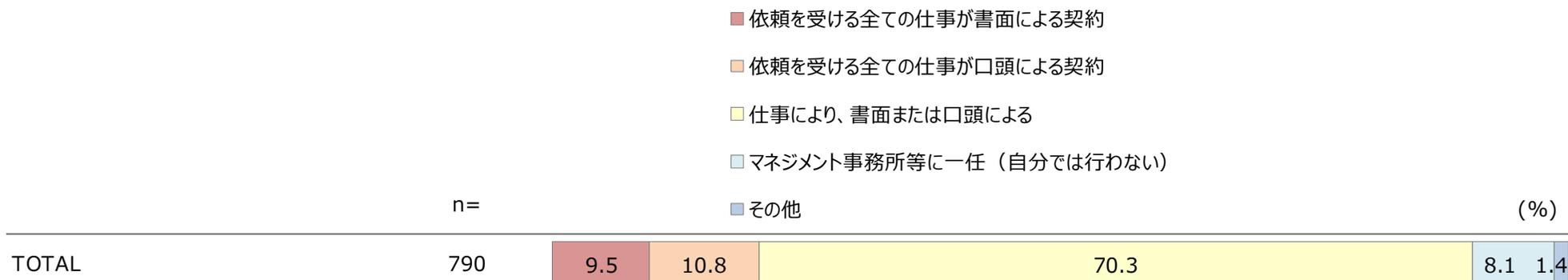


(質問文)Q8 あなたは、舞台、放送、映画、指導に関する仕事内容について書面、メール、口頭を含め契約を行いますか。

10.契約方法(SA)

- TOTALでは、「仕事により、書面または口頭による」が最も多く、70.3%。「依頼を受ける全ての仕事が口頭による契約」10.8%、「依頼を受ける全ての仕事が書面による契約」9.5%が続く。

10-1.TOTAL結果(SA)

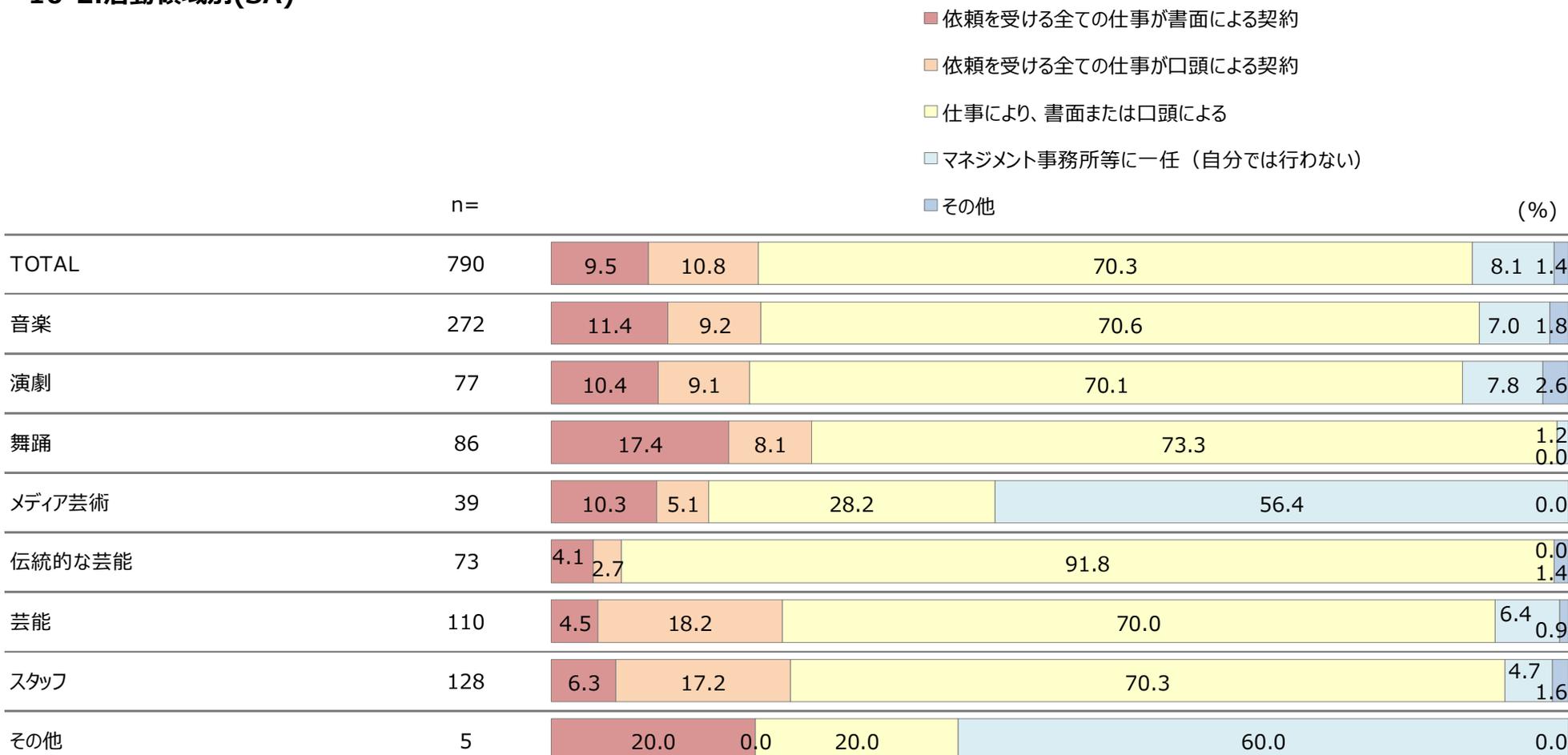


(質問文)Q9 前問で、契約を行っているとお答えの方に伺います。舞台、放送、映画の出演、指導に関する仕事の依頼はどのように契約をしていますか。

10.契約方法(SA)

- 活動領域別にみると、『伝統的な芸能』で「■ 仕事により、書面または口頭による」が高く、9割を超える。『メディア芸術』で「■ マネジメント事務所等に一任（自分では行わない）」が6割近くと高い。『舞踊』で「■ 依頼を受ける全ての仕事が書面による契約」、『芸能』、『スタッフ』で「■ 依頼を受ける全ての仕事が口頭による契約」が、2割近くと高い。

10-2.活動領域別(SA)



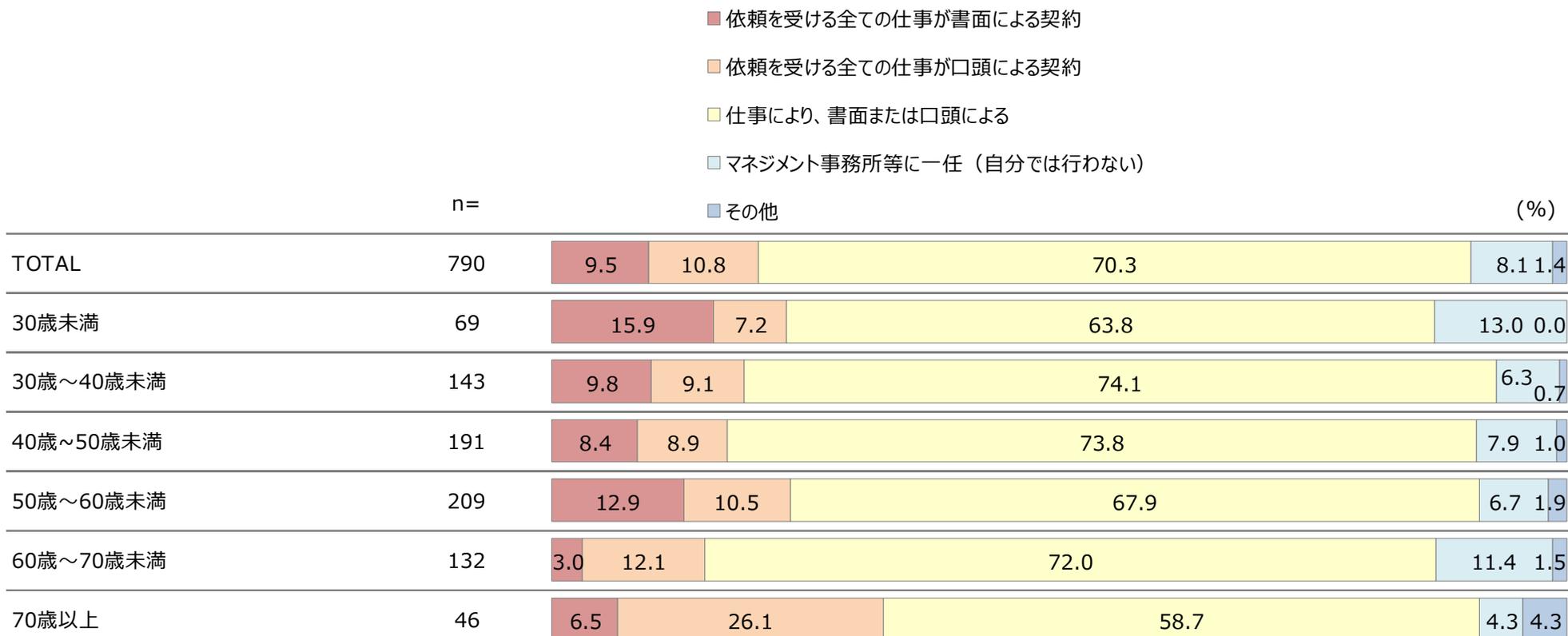
※n=30未満は参考値

(質問文)Q9 前問で、契約を行っているとお答えの方に伺います。舞台、放送、映画の出演、指導に関する仕事の依頼はどのように契約をしていますか。

10.契約方法(SA)

- 年齢別にみると、70歳以上で「■ 依頼を受ける全ての仕事が口頭による契約」が高く、2割を超える。30歳未満で「■ 依頼を受ける全ての仕事が書面による契約」「■ マネジメント事務所等に一任（自分では行わない）」が高く、1割を超える。

10-3.年齢別(SA)



(質問文)Q9 前問で、契約を行っているとお答えの方に伺います。舞台、放送、映画の出演、指導に関する仕事の依頼はどのように契約をしていますか。

10.契約方法(SA)

- 性別にみると、女性では「■ 依頼を受ける全ての仕事が書面による契約」が男性に比べて高く、1割を超える。

10-4.性別(SA)

- 依頼を受ける全ての仕事が書面による契約
- 依頼を受ける全ての仕事が口頭による契約
- 仕事により、書面または口頭による
- マネジメント事務所等に一任（自分では行わない）
- その他

	n=						(%)
TOTAL	790	9.5	10.8	70.3	8.1	1.4	
男性	450	6.7	12.2	70.7	9.1	1.3	
女性	337	13.4	8.9	69.4	6.8	1.5	
その他	3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	

※n=30未満は参考値

(質問文)Q9 前問で、契約を行っているとお答えの方に伺います。舞台、放送、映画の出演、指導に関する仕事の依頼はどのように契約をしていますか。

10.契約方法(SA)

- 実施判断者別にみると、『全て自分（家族を含め）が行っている』で「■ 仕事により、書面または口頭による」が高く、7割を超える。『出演マネジメントを依頼している事務所』『所属する団体、プロダクション』で「■ マネジメント事務所等に一任（自分では行わない）」が高く、3割を超える。『所属する団体、プロダクション』で「■ 依頼を受ける全ての仕事が書面による契約」が、2割近くと高い。

10-5.実施判断者別(SA)

- 依頼を受ける全ての仕事が書面による契約
- 依頼を受ける全ての仕事が口頭による契約
- 仕事により、書面または口頭による
- マネジメント事務所等に一任（自分では行わない）
- その他

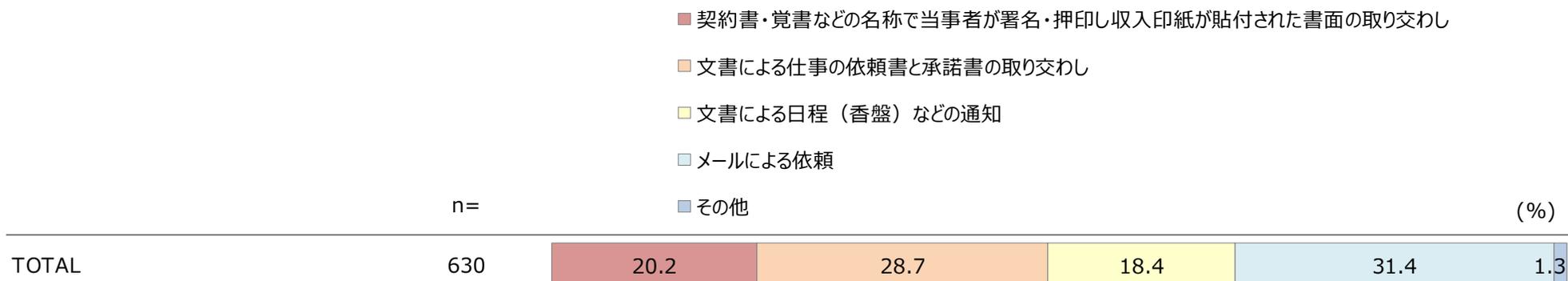
	n=						(%)
TOTAL	790	9.5	10.8	70.3		8.1	1.4
全て自分（家族を含め）が行っている	390	7.2	14.1	76.7		0.5	1.5
出演マネジメントを依頼している事務所	34	5.9	5.9	41.2	47.1		0.0
所属する団体、プロダクション	95	16.8	0.0	50.5	30.5		2.1
仕事により個人が決めるもの、団体、事務所などが決めるものがある	271	10.7	10.3	71.6		6.3	1.1

(質問文)Q9 前問で、契約を行っているとお答えの方に伺います。舞台、放送、映画の出演、指導に関する仕事の依頼はどのように契約をしていますか。

11.契約の形式(SA)

- TOTALでは、「メールによる依頼」が最も多く、31.4%。「文書による仕事の依頼書と承諾書の取り交わし」28.7%、「契約書・覚書などの名称で当事者が署名・押印し収入印紙が貼付された書面の取り交わし」20.2%が続く。

11-1.TOTAL結果(SA)



(質問文)Q10 前問で「依頼を受ける全ての仕事が書面による契約」「仕事により書面によるもの、口頭によるものと両方」とお答えの方に伺います。
書面による契約は、主にどのような形式ですか。

11.契約の形式(SA)

- 活動領域別にみると、『スタッフ』、『メディア芸術』では「メールによる依頼」が5割近くと高い。『芸能』、『伝統的な芸能』では「文書による日程（香盤）などの通知」が高く3割を超えており、『伝統的な芸能』では「文書による仕事の依頼書と承諾書の取り交わし」も3割超えてTOTALより高い。『演劇』、『舞踊』で「契約書・覚書などの名称で当事者が署名・押印し収入印紙が貼付された書面の取り交わし」が高く、3割近い。

11-2.活動領域別(SA)

- 契約書・覚書などの名称で当事者が署名・押印し収入印紙が貼付された書面の取り交わし
- 文書による仕事の依頼書と承諾書の取り交わし
- 文書による日程（香盤）などの通知
- メールによる依頼
- その他

	n=						(%)
TOTAL	630	20.2	28.7	18.4	31.4	1.3	
音楽	223	20.6	32.7	13.9	30.9	1.8	
演劇	62	27.4	25.8	11.3	32.3	3.2	
舞踊	78	25.6	32.1	16.7	25.6	0.0	
メディア芸術	15	20.0	26.7	6.7	46.7	0.0	
伝統的な芸能	70	12.9	35.7	30.0	20.0	1.4	
芸能	82	9.8	22.0	41.5	25.6	1.2	
スタッフ	98	24.5	19.4	8.2	48.0	0.0	
その他	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	

※n=30未満は参考値

(質問文)Q10 前問で「依頼を受ける全ての仕事が書面による契約」「仕事により書面によるもの、口頭によるものと両方」とお答えの方に伺います。
書面による契約は、主にどのような形式ですか。

11.契約の形式(SA)

- 年齢別にみると、年齢が低いほど「メールによる依頼」が高い傾向で、30歳未満では4割を超える。一方で、70歳以上で「文書による仕事の依頼書と承諾書の取り交わし」が、5割近くと高い。

11-3.年齢別(SA)

- 契約書・覚書などの名称で当事者が署名・押印し収入印紙が貼付された書面の取り交わし
- 文書による仕事の依頼書と承諾書の取り交わし
- 文書による日程（香盤）などの通知
- メールによる依頼
- その他

	n=	%				
TOTAL	630	20.2	28.7	18.4	31.4	1.3
30歳未満	55	18.2	18.2	21.8	41.8	0.0
30歳～40歳未満	120	17.5	30.0	17.5	34.2	0.8
40歳～50歳未満	157	24.8	26.1	17.8	29.9	1.3
50歳～60歳未満	169	18.3	31.4	17.2	31.4	1.8
60歳～70歳未満	99	21.2	27.3	24.2	26.3	1.0
70歳以上	30	16.7	46.7	6.7	26.7	3.3

(質問文)Q10 前問で「依頼を受ける全ての仕事が書面による契約」「仕事により書面によるもの、口頭によるものと両方」とお答えの方に伺います。
書面による契約は、主にどのような形式ですか。

11.契約の形式(SA)

- 性別にみると、男性、女性で大きな差はみられない。

11-4.性別(SA)

- 契約書・覚書などの名称で当事者が署名・押印し収入印紙が貼付された書面の取り交わし
- 文書による仕事の依頼書と承諾書の取り交わし
- 文書による日程（香盤）などの通知
- メールによる依頼
- その他

	n=					(%)
TOTAL	630	20.2	28.7	18.4	31.4	1.3
男性	348	19.3	27.9	19.8	32.2	0.9
女性	279	21.5	30.1	16.5	30.1	1.8
その他	3	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0

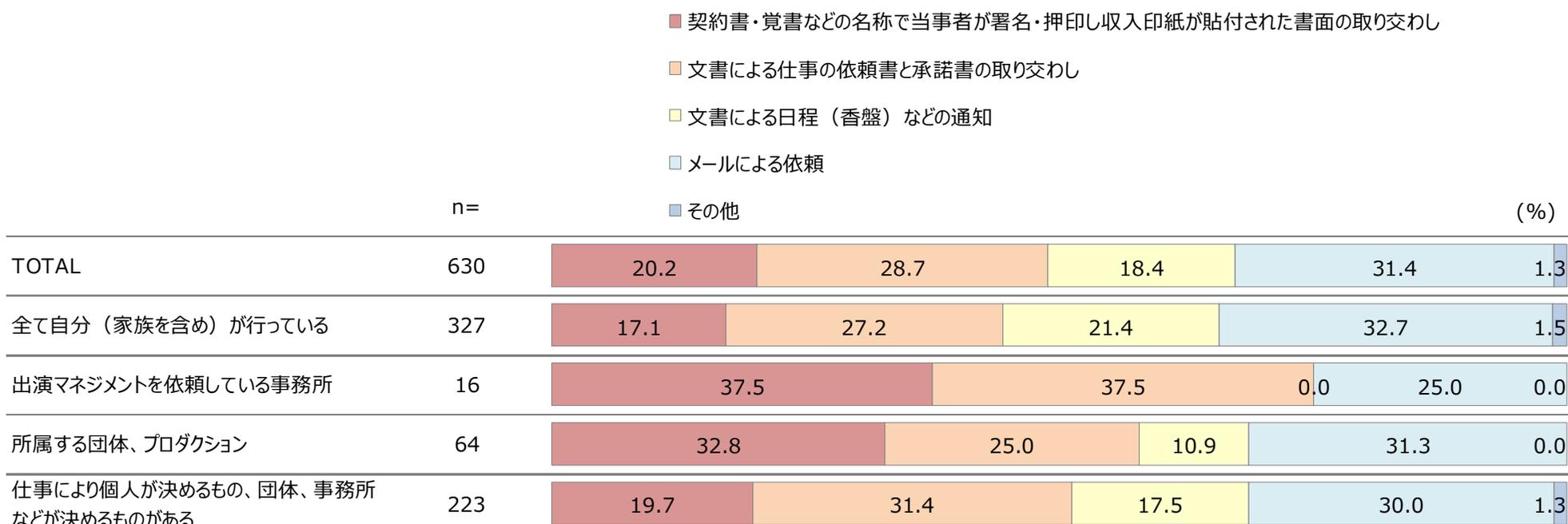
※n=30未満は参考値

(質問文)Q10 前問で「依頼を受ける全ての仕事が書面による契約」「仕事により書面によるもの、口頭によるものと両方」とお答えの方に伺います。
書面による契約は、主にどのような形式ですか。

11.契約の形式(SA)

- 実施判断者別にみると、『出演マネジメントを依頼している事務所』『所属する団体、プロダクション』で「■ 契約書・覚書などの名称で当事者が署名・押印し収入印紙が貼付された書面の取り交わし」が高く、3割を超える。『出演マネジメントを依頼している事務所』で「■ 文書による仕事の依頼書と承諾書の取り交わし」が、4割近くと高い。

11-5.実施判断者別(SA)



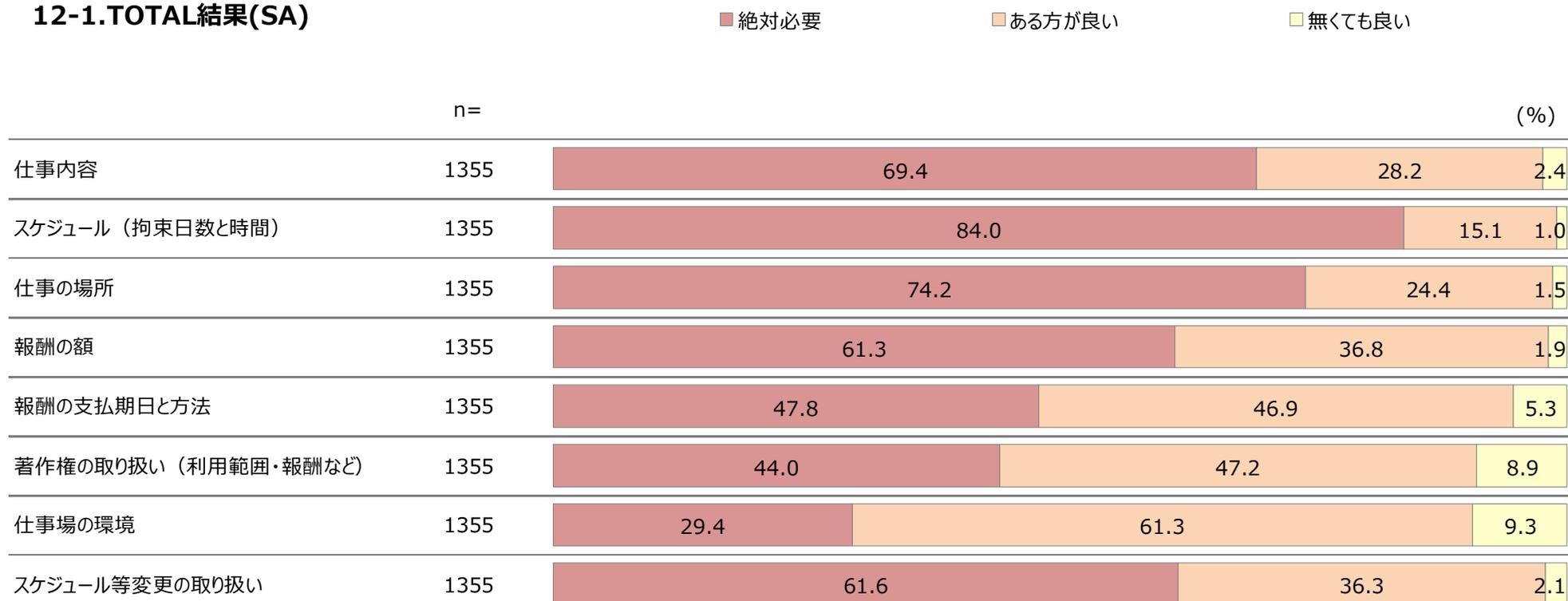
※n=30未満は参考値

(質問文)Q10 前問で「依頼を受ける全ての仕事書面による契約」「仕事により書面によるもの、口頭によるものと両方」とお答えの方に伺います。書面による契約は、主にどのような形式ですか。

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(SA^{※各項目につき})

- 「絶対必要」が5割を超えるのは、『スケジュール』84.0%、『仕事の場所』74.2%、『仕事内容』69.4%、『スケジュール等変更の取り扱い』61.6%、『報酬の額』61.3%。「ある方が良い」を合わせると、ほとんどの項目が9割となっている。
- 一方で、「無くても良い」は、『仕事場の環境』9.3%や『著作権の取り扱い』8.9%等で1割近い。

12-1.TOTAL結果(SA)

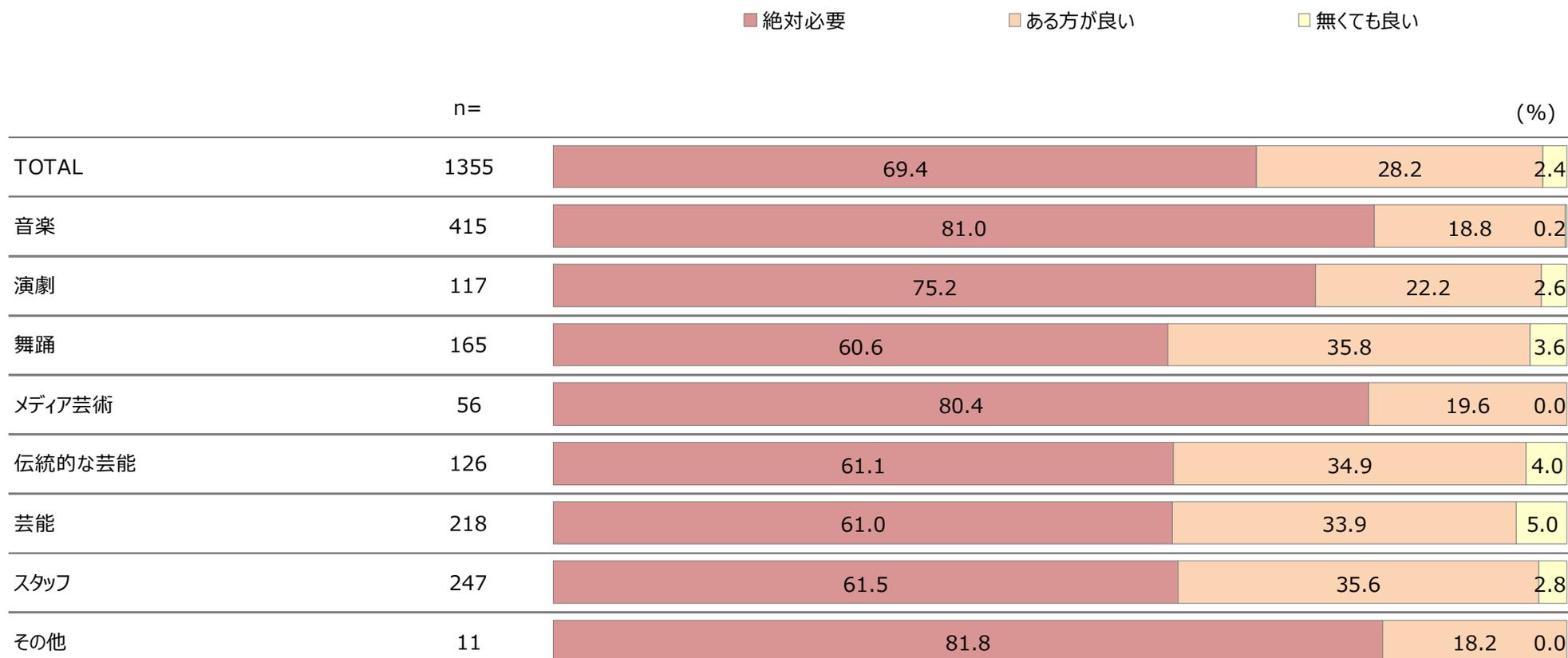


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(仕事内容)(SA)

- 活動領域別にみると、仕事内容の明示が「絶対必要」という回答は、『音楽』、『メディア芸術』、『演劇』で8割近くと高い。『舞踊』、『伝統的な芸能』、『芸能』、『スタッフ』では「ある方が良い」が3割を超える。

12-2.活動領域別(SA)



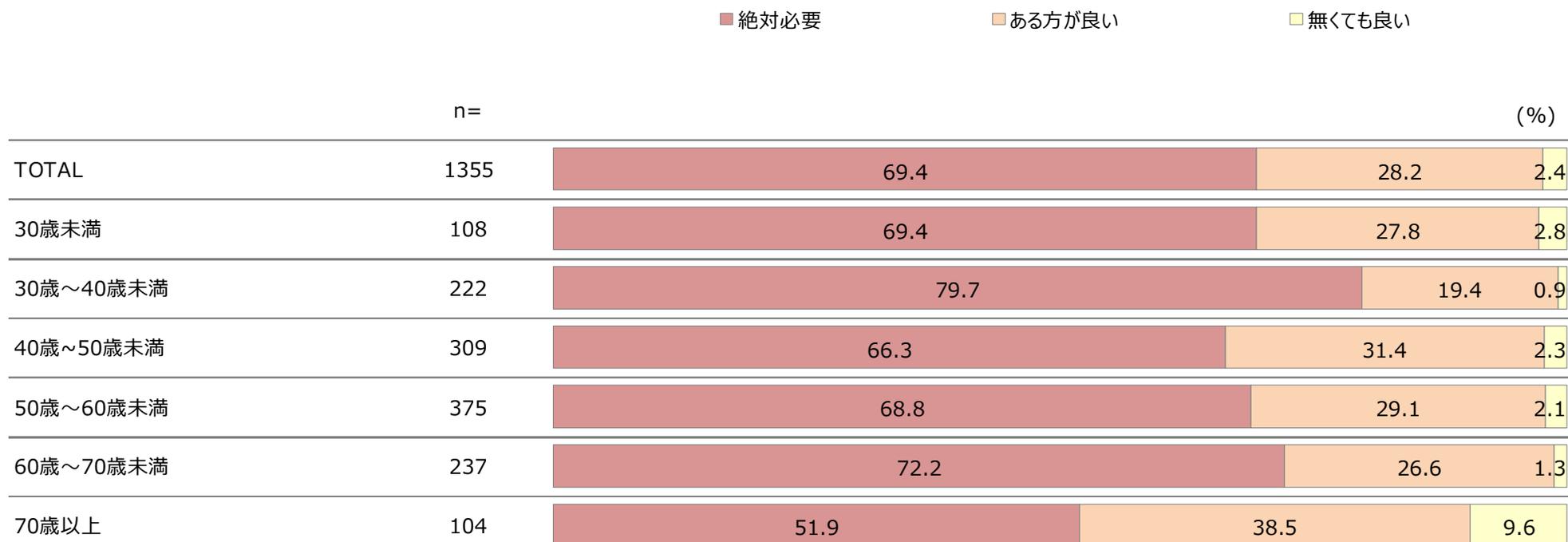
※n=30未満は参考値

(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:仕事内容

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(仕事内容)(SA)

- 年齢別にみると、仕事内容の明示が「絶対必要」という回答は、30歳～40歳未満で8割近くと高い。70歳以上では「ある方が良い」が、4割近くとなっている。

12-3.年齢別(SA)

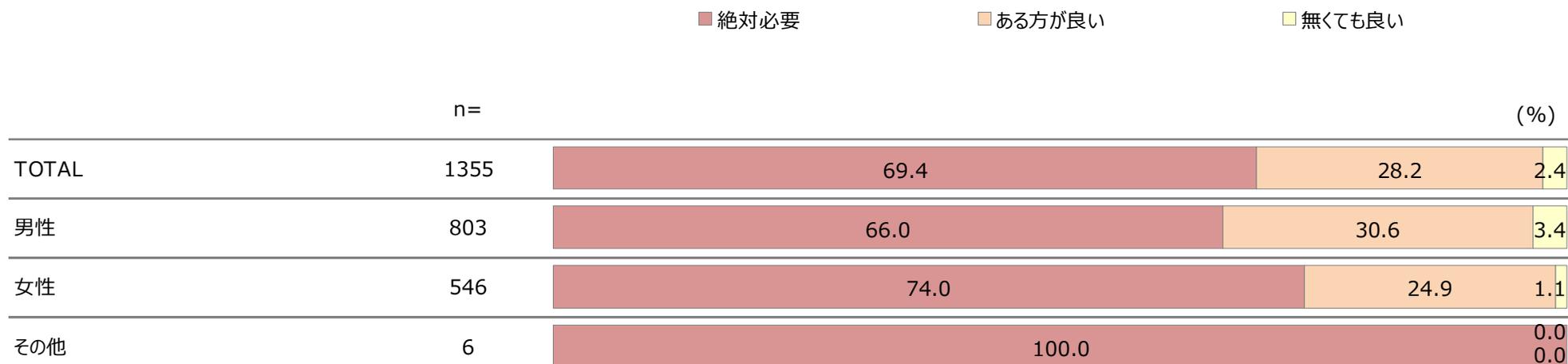


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:仕事内容

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(仕事内容)(SA)

- 性別にみると、仕事内容の明示が「絶対必要」という回答は、女性では7割を超える。

12-4.性別(SA)



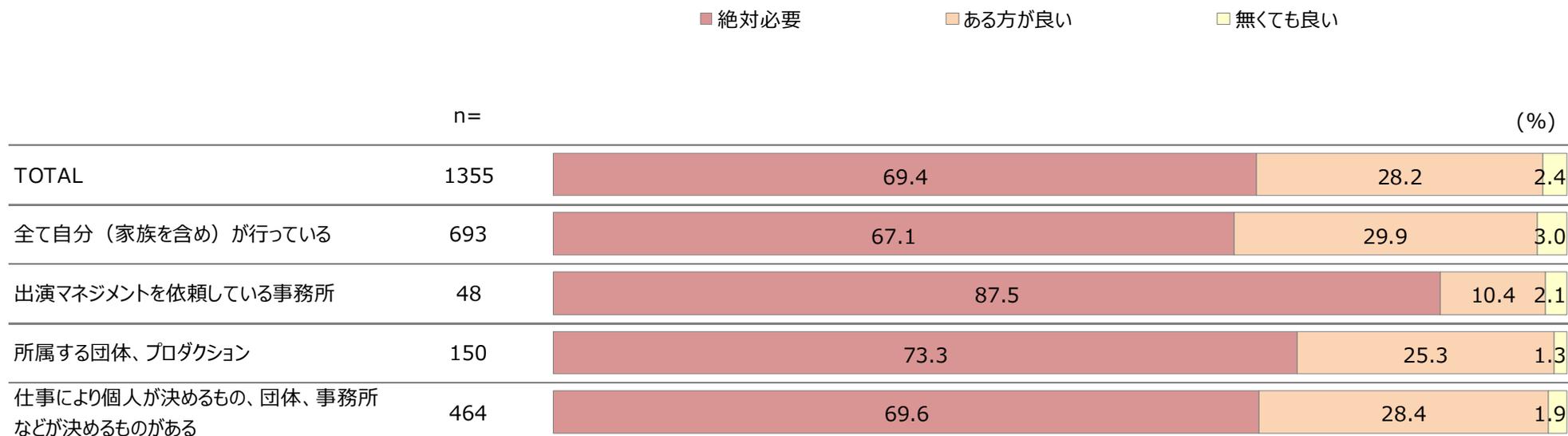
※n=30未満は参考値

(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:仕事内容

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(仕事内容)(SA)

- 実施判断者別にみると、仕事内容の明示が「絶対必要」という回答は、『出演マネジメントを依頼している事務所』では9割近くと著しく高い。

12-5.実施判断者別(SA)

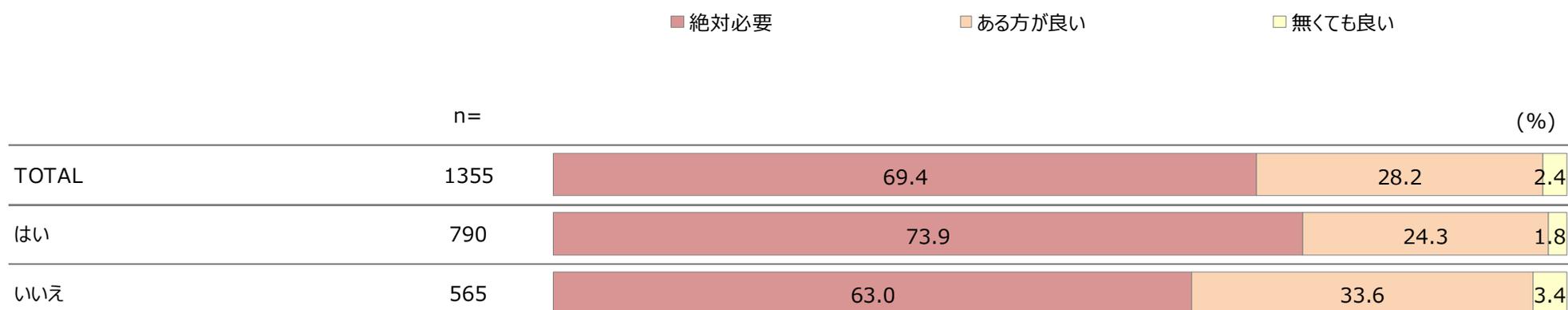


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:仕事内容

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(仕事内容)(SA)

- 契約実施別にみると、仕事内容の明示が「絶対必要」という回答は、『契約を行っている（はい）』が『契約を行っていない（いいえ）』に比べて10%以上高くなっている。

12-6.契約実施別(SA)

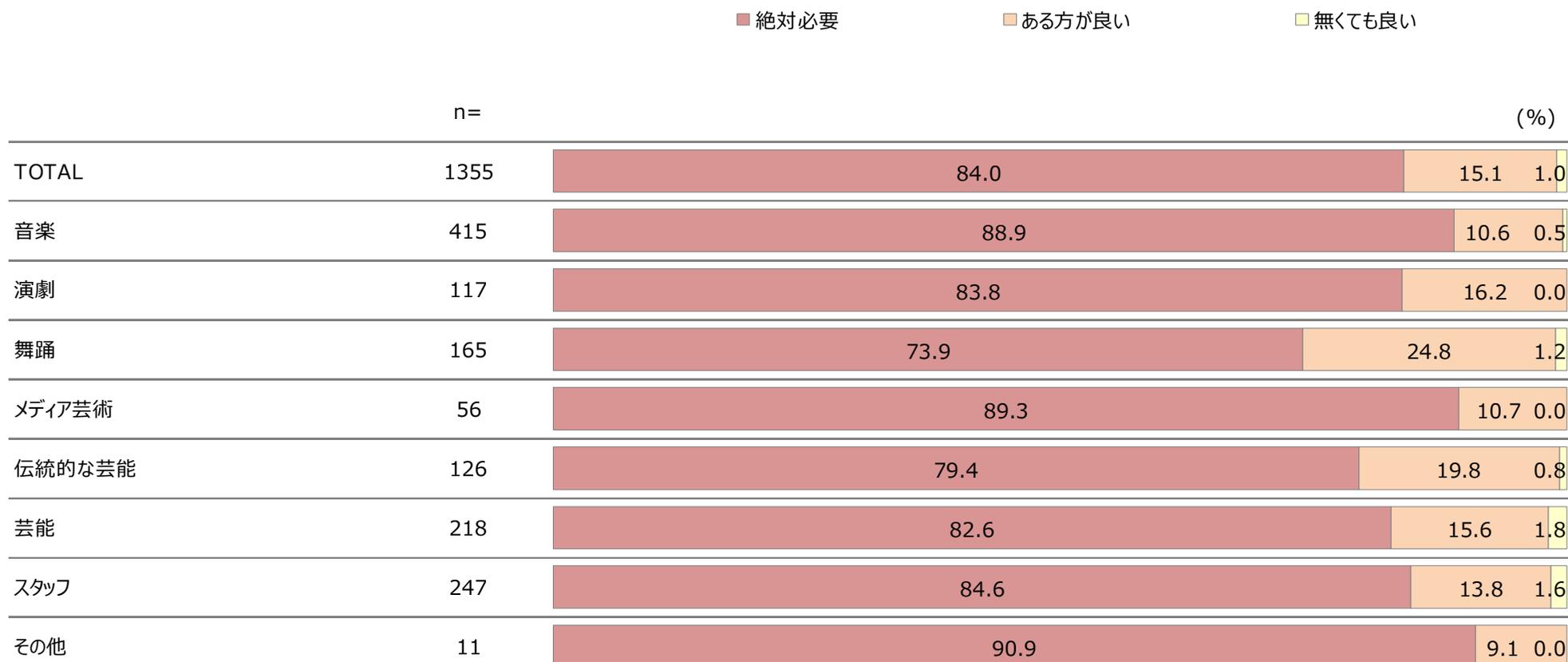


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:仕事内容

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(スケジュール)(SA)

- 活動領域別にみると、スケジュールの明示が「絶対必要」という回答は、『音楽』、『メディア芸術』で、9割近くと高い。また、『舞踊』では「ある方が良い」が2割を超える。

12-7.活動領域別(SA)



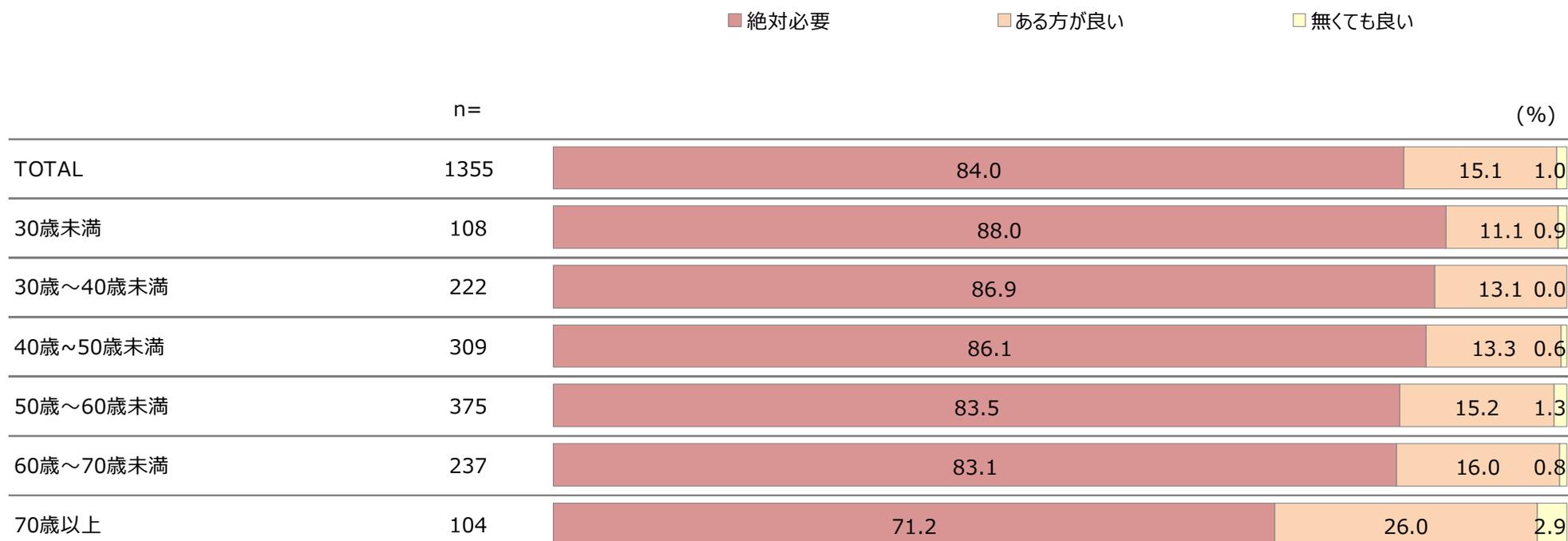
※n=30未満は参考値

(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:スケジュール (拘束日数と時間)

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(スケジュール)(SA)

- 年齢別にみると、スケジュールの明示が「絶対必要」という回答は、年齢が低いほど高い。70歳以上では「ある方が良い」が3割近くとなっている。

12-8.年齢別(SA)

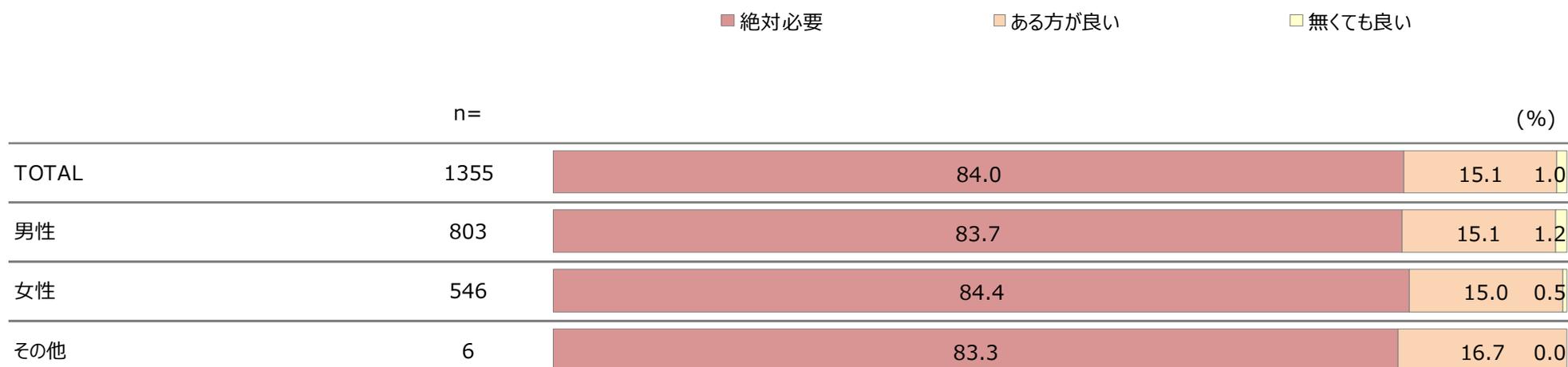


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:スケジュール (拘束日数と時間)

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(スケジュール)(SA)

- 性別にみると、男性、女性で大きな差はみられない。

12-9.性別(SA)



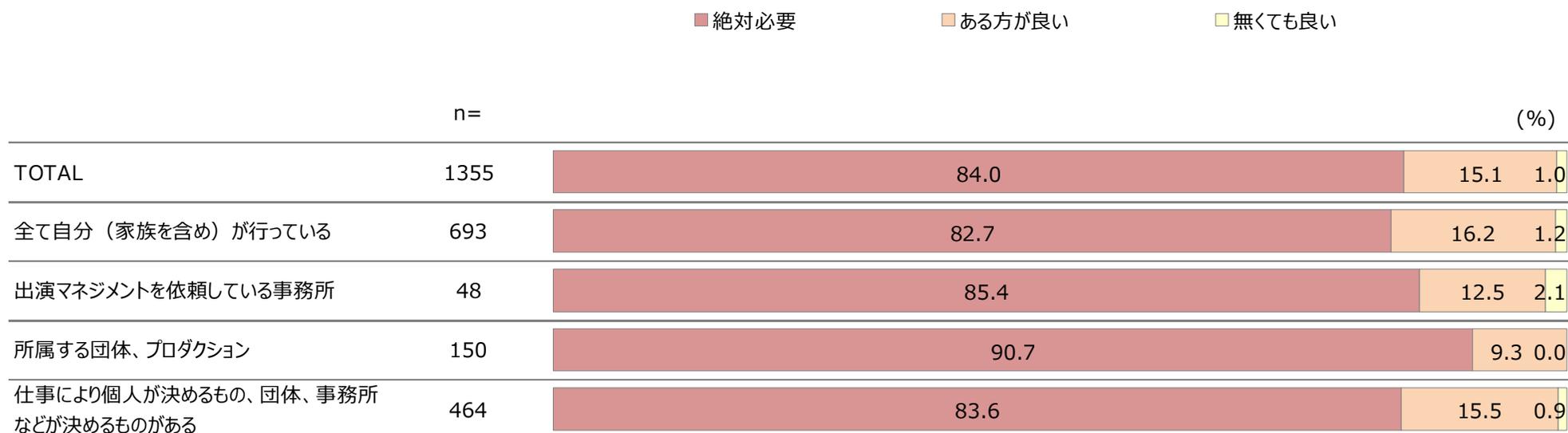
※n=30未満は参考値

(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:スケジュール (拘束日数と時間)

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(スケジュール)(SA)

- 実施判断者別にみると、スケジュールの明示が「絶対必要」という回答は、『所属する団体、プロダクション』で高く、9割を超える。

12-10.実施判断者別(SA)

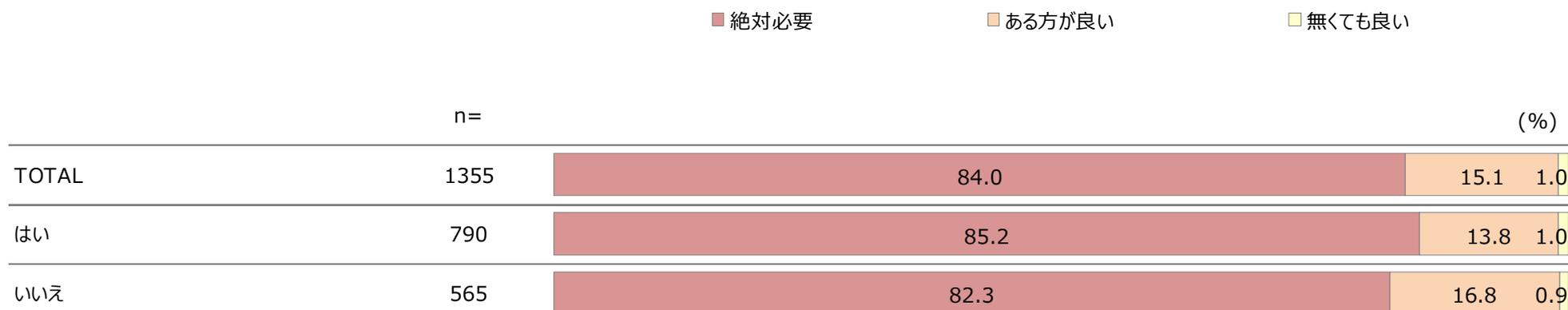


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:スケジュール（拘束日数と時間）

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(スケジュール)(SA)

- 契約実施別にみると、スケジュールの明示が「絶対必要」という回答は、『契約を行っている（はい）』が『契約を行っていない（いいえ）』に比べてやや高い。

12-11.契約実施別(SA)

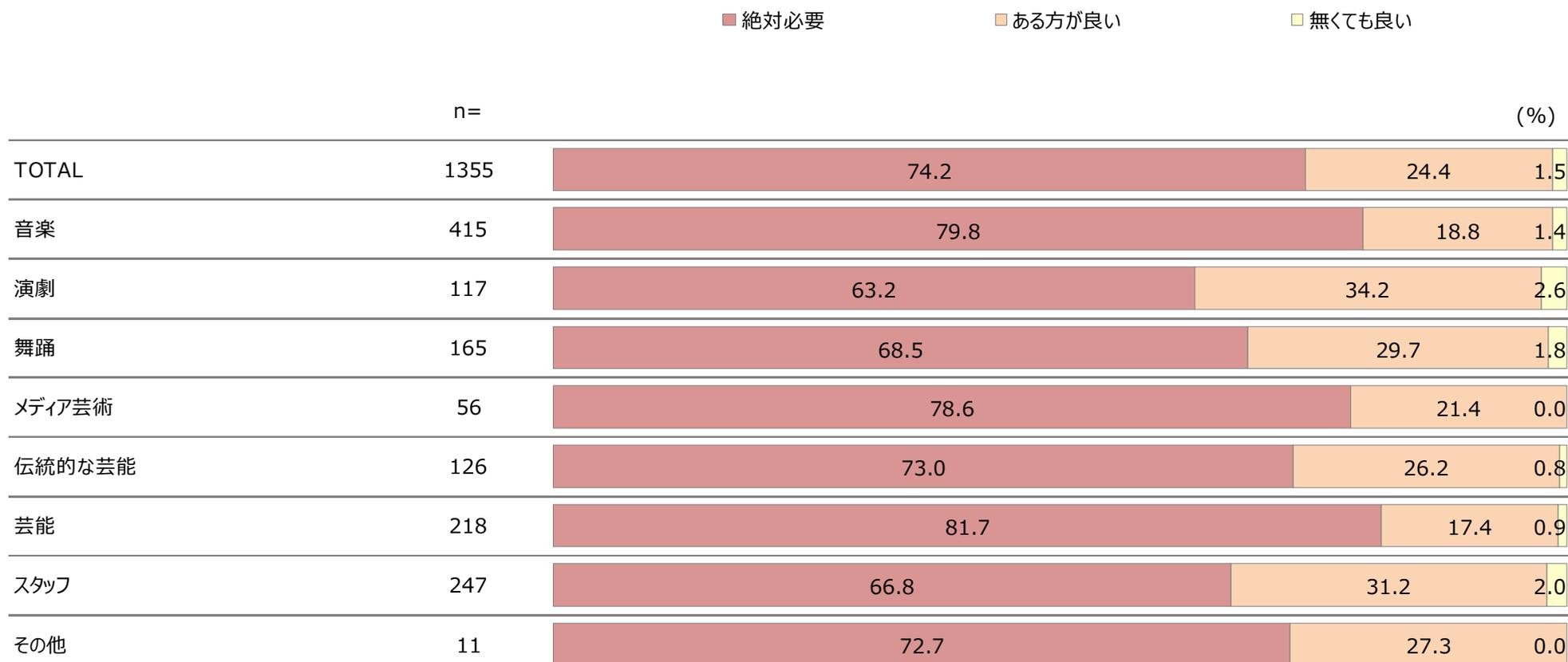


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:スケジュール（拘束日数と時間）

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(仕事の場所)(SA)

- 活動領域別にみると、仕事の場所の明示が「絶対必要」という回答は、『芸能』、『音楽』で8割近くと高い。『演劇』、『スタッフ』、『舞踊』では「ある方が良い」が、3割近くとなっている。

12-12.活動領域別(SA)



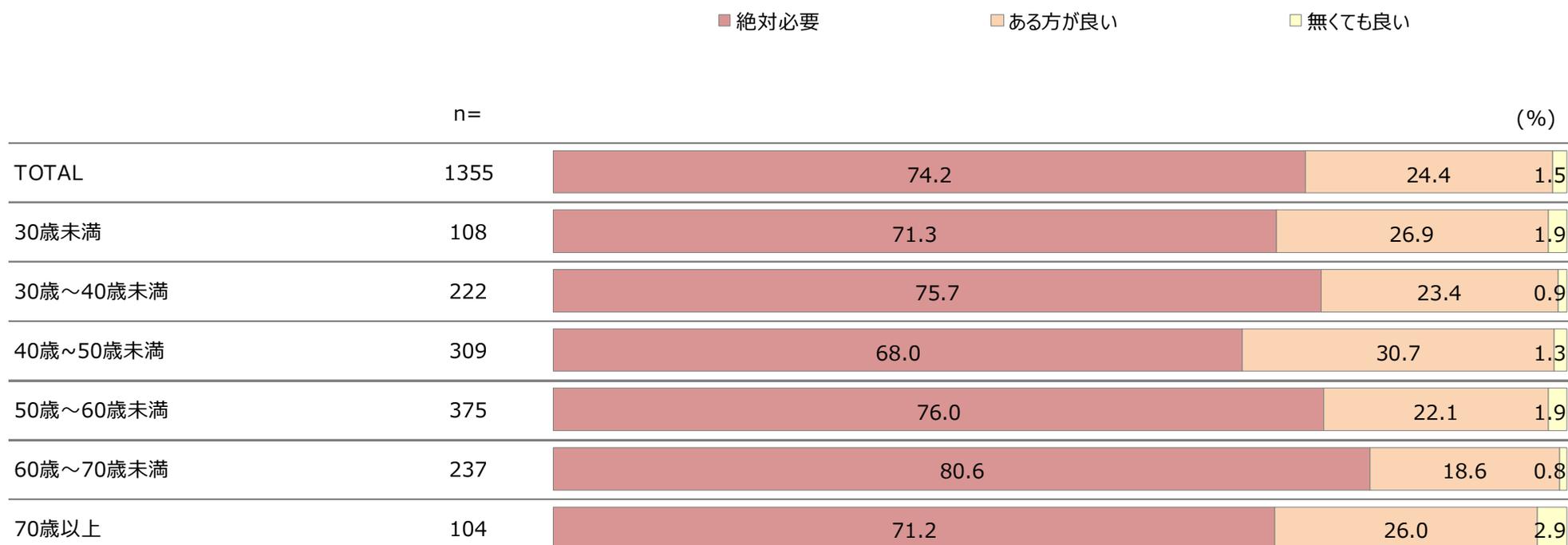
※n=30未満は参考値

(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:仕事の場所

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(仕事の場所)(SA)

- 年齢別にみると、仕事の場所の明示が「絶対必要」という回答は、60歳～70歳未満で8割を超える。40歳～50歳未満では「ある方が良い」が3割を超える。

12-13.年齢別(SA)



(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:仕事の場所

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(仕事の場所)(SA)

- 性別にみると、男性、女性で大きな差はみられない。

12-14.性別(SA)



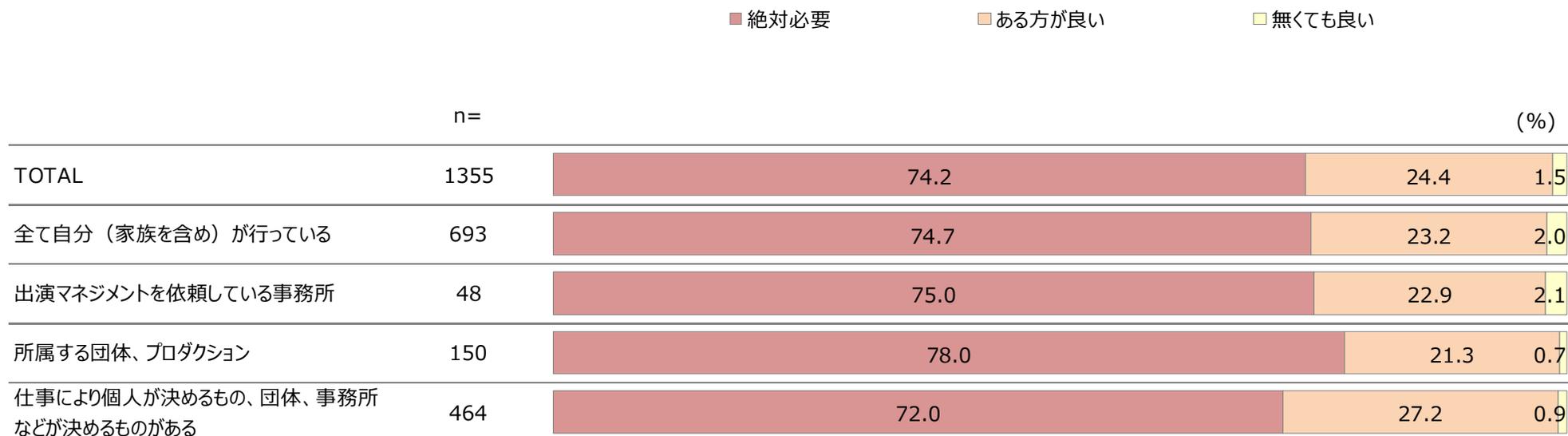
※n=30未満は参考値

(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:仕事の場所

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(仕事の場所)(SA)

- 実施判断者別にみると、実施判断者で大きな差はみられない。

12-15.実施判断者別(SA)

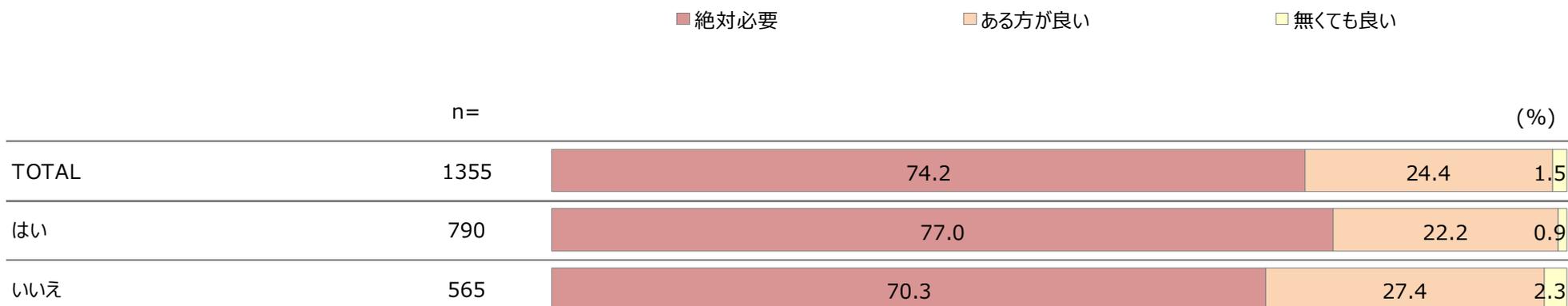


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:仕事の場所

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(仕事の場所)(SA)

- 契約実施別にみると、契約を行っているかないかで大きな差はみられない。

12-16.契約実施別(SA)

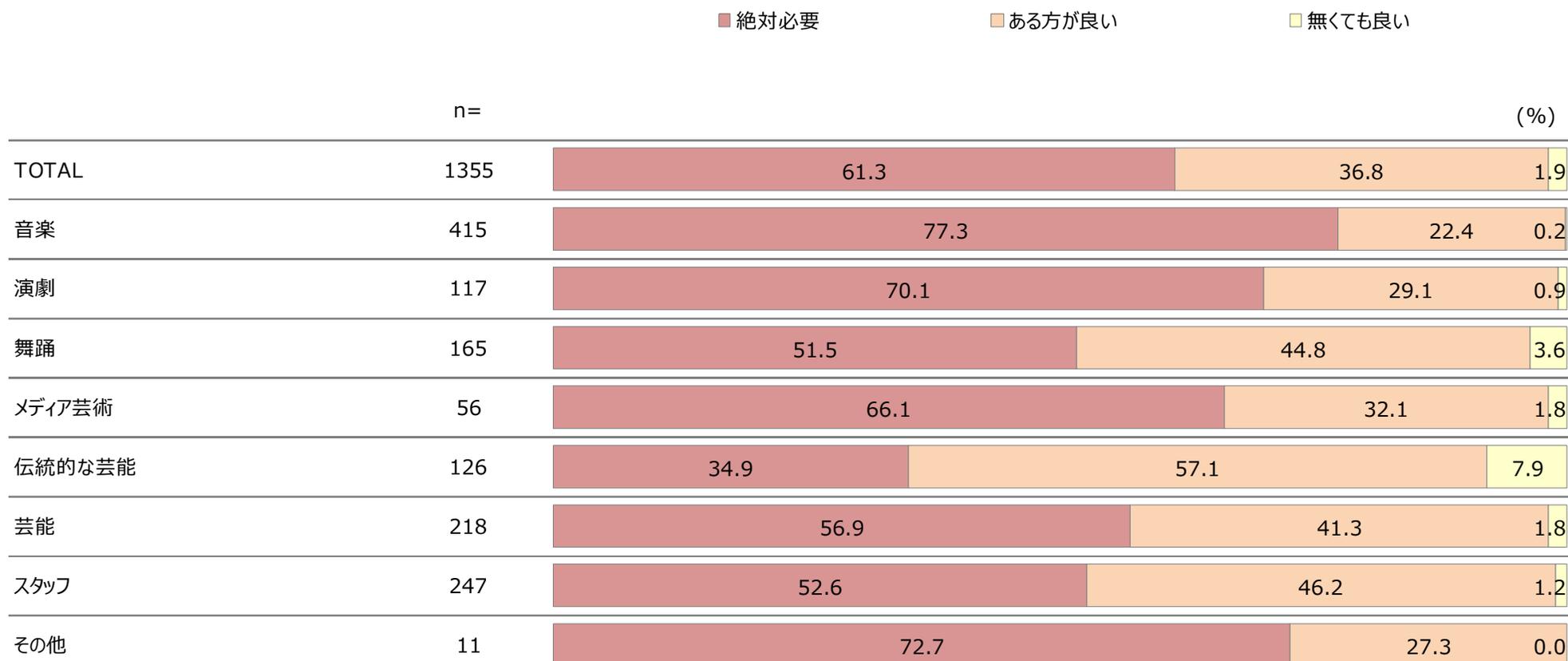


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:仕事の場所

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(報酬の額)(SA)

- 活動領域別にみると、報酬の額の明示が「絶対必要」という回答は、『音楽』、『演劇』、『メディア芸術』で7割近くと高い。『スタッフ』、『舞踊』では「ある方が良い」が4割を超える。『伝統的な芸能』では、「絶対必要」は3割強にとどまり、「ある方が良い」が6割近くとなっている。

12-17.活動領域別(SA)



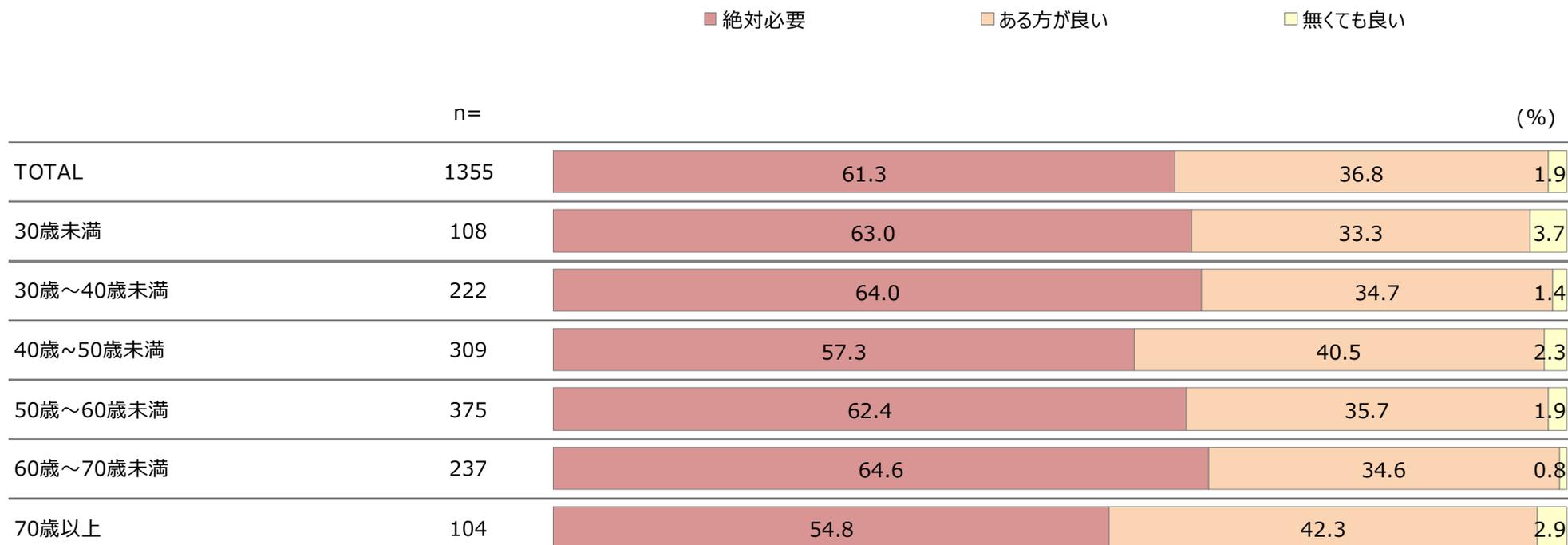
※n=30未満は参考値

(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:報酬の額

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(報酬の額)(SA)

- 年齢別にみると、報酬の額の明示が「絶対必要」という回答は、他世代では6割を超える中、40歳～50歳未満、70歳以上では若干低くなっている。

12-18.年齢別(SA)



(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:報酬の額

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(報酬の額)(SA)

- 性別にみると、報酬の額の明示が「絶対必要」という回答は、女性が、男性に比べてやや高い。

12-19.性別(SA)



※n=30未満は参考値

(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:報酬の額

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(報酬の額)(SA)

- 実施判断者別にみると、報酬の額の明示が「絶対必要」という回答は、『所属する団体、プロダクション』では7割近くとなっている。

12-20.実施判断者別(SA)



(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:報酬の額

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(報酬の額)(SA)

- 契約実施別にみると、報酬の額の明示が「絶対必要」という回答は、『契約を行っている（はい）』が7割近くとなっており、『契約を行っていない（いいえ）』より12.9%高い。

12-21.契約実施別(SA)

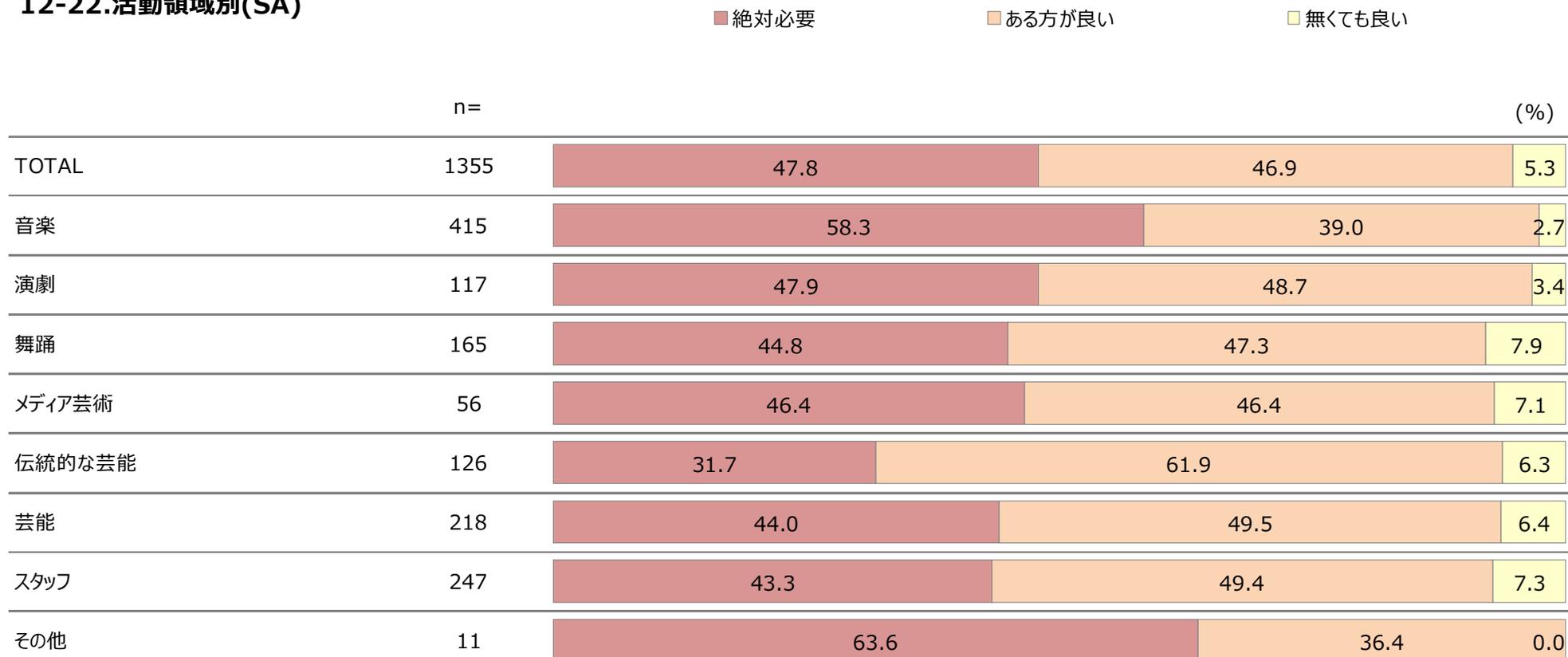


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:報酬の額

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(報酬の支払期日と方法)(SA)

- 活動領域別にみると、報酬の支払期日と方法の明示が「絶対必要」という回答は、『音楽』が、6割近くと高い。『伝統的な芸能』では「絶対必要」は3割にとどまり、「ある方がよい」が6割を超える。

12-22.活動領域別(SA)



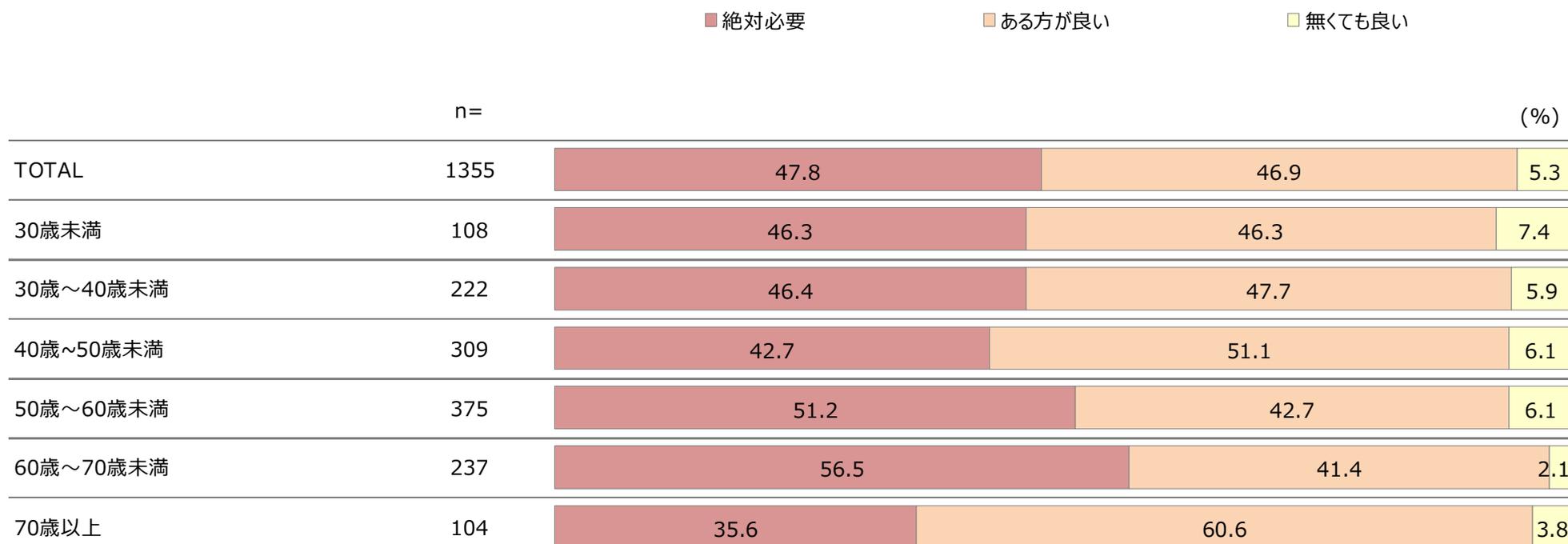
※n=30未満は参考値

(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:報酬の支払期日と方法

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(報酬の支払期日と方法)(SA)

- 年齢別にみると、報酬の支払期日と方法の明示が「絶対必要」という回答は、50歳～60歳未満、60歳～70歳未満では5割を超える。70歳以上では、「絶対必要」は35.6%、「ある方が良い」が6割を超える。

12-23.年齢別(SA)



(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:報酬の支払期日と方法

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(報酬の支払期日と方法)(SA)

- 性別にみると、男性、女性で大きな差はみられない。

12-24.性別(SA)



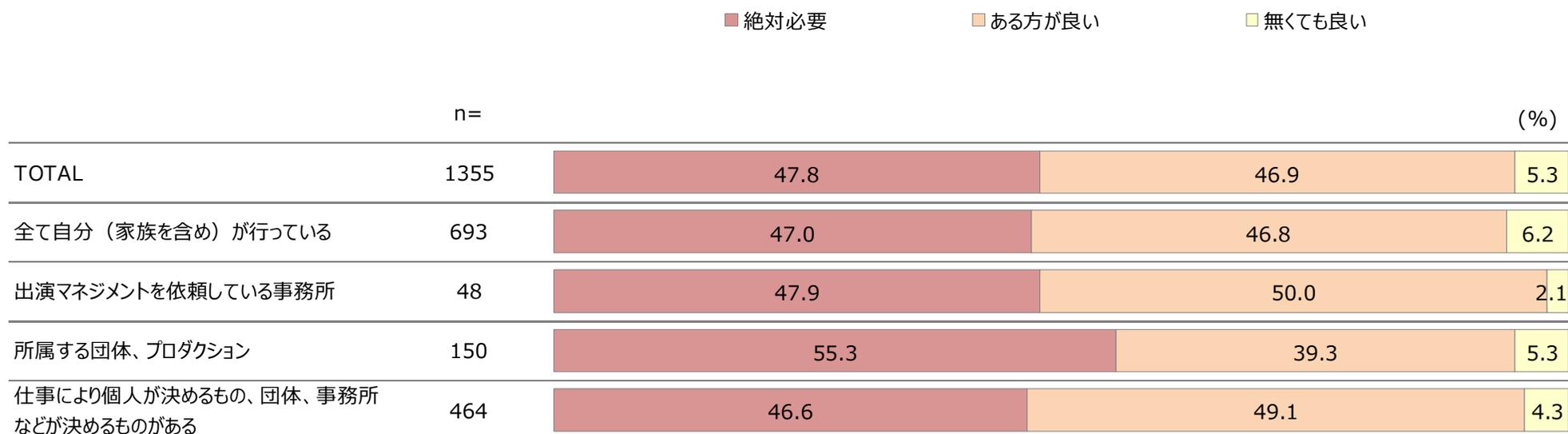
※n=30未満は参考値

(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:報酬の支払期日と方法

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(報酬の支払期日と方法)(SA)

- 実施判断者別にみると、報酬の支払期日と方法の明示が「絶対必要」という回答は、『所属する団体、プロダクション』では5割を超える。

12-25.実施判断者別(SA)



(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:報酬の支払期日と方法

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(報酬の支払期日と方法)(SA)

- 契約実施別にみると、報酬の支払期日と方法の明示が「絶対必要」という回答は、『契約を行っている（はい）』が、『契約を行っていない（いいえ）』に比べてやや高い。

12-26.契約実施別(SA)

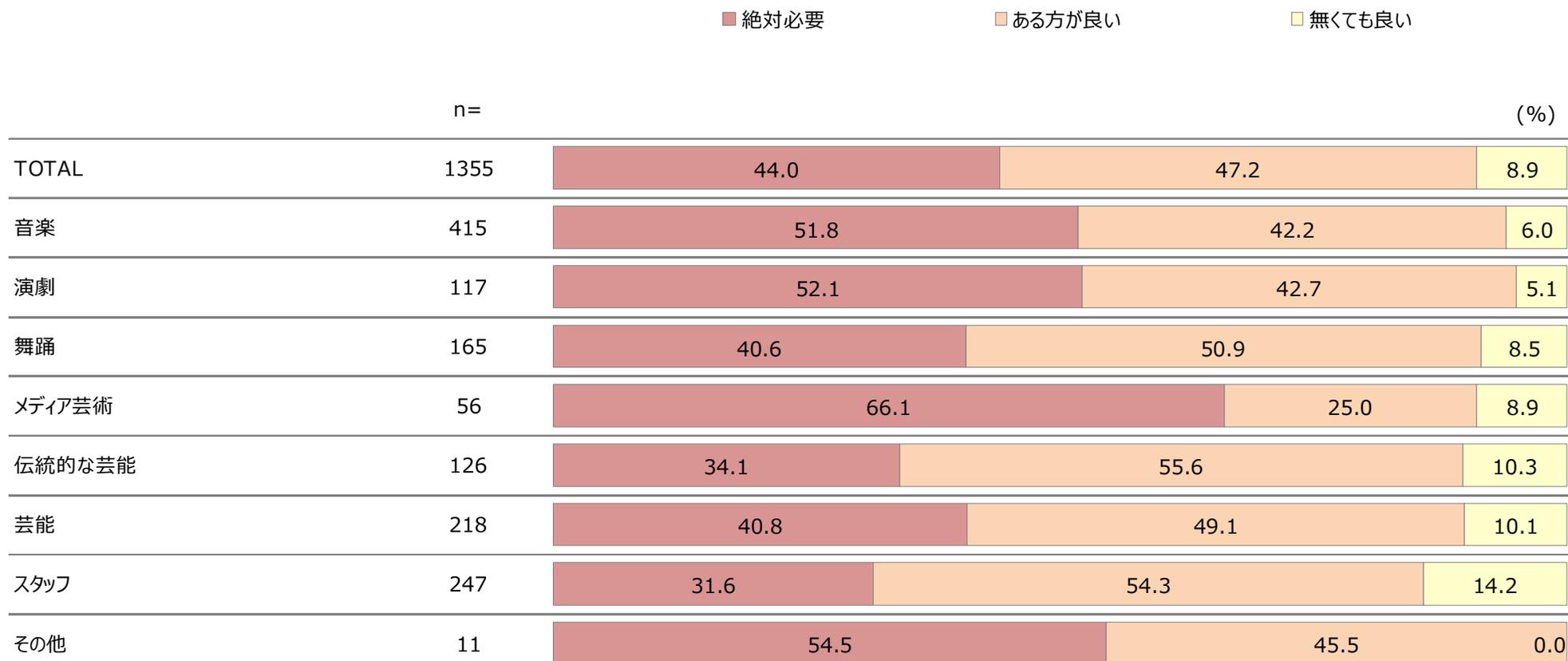


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:報酬の支払期日と方法

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(著作権の取り扱い)(SA)

- 活動領域別にみると、著作権の取り扱いの明示が「絶対必要」という回答は、『メディア芸術』、『演劇』、『音楽』で高く、とくに『メディア芸術』では6割を超える。『伝統的な芸能』、『スタッフ』では、「絶対必要」は3割程度で、「ある方が良い」が高くなっている。

12-27.活動領域別(SA)



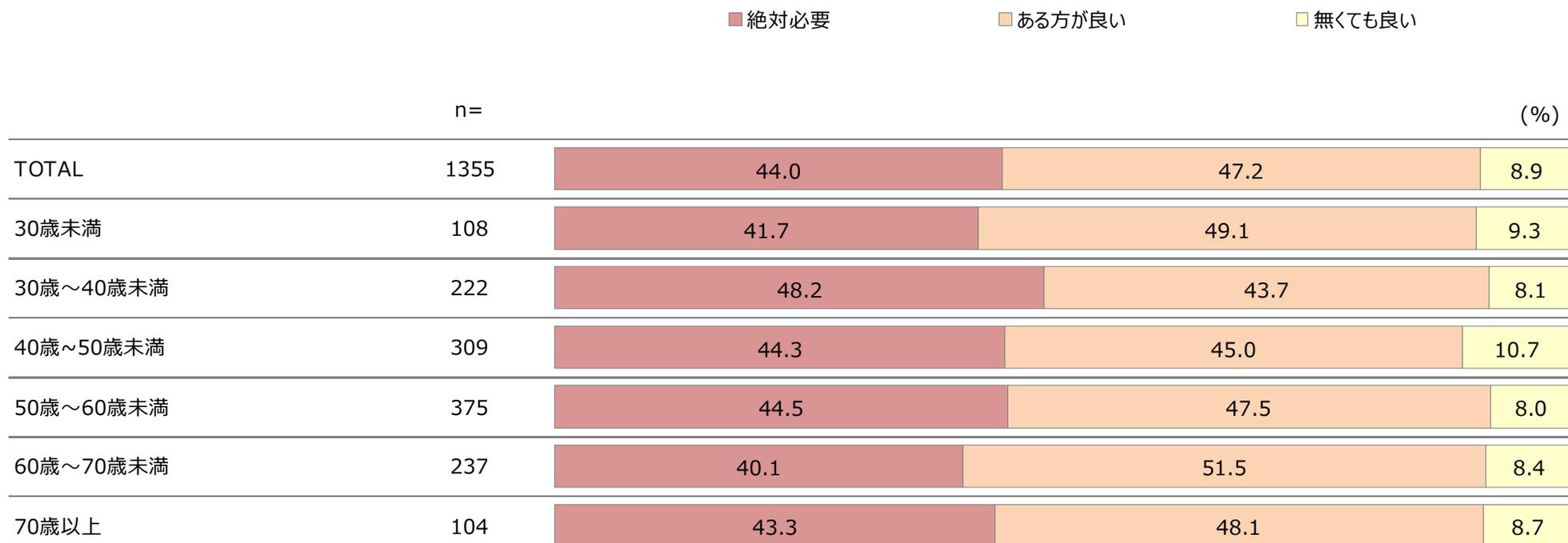
※n=30未満は参考値

(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:著作権の取り扱い(利用範囲・報酬など)

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(著作権の取り扱い)(SA)

- 年齢別にみると、著作権の取り扱いの明示が「絶対必要」という回答は、30歳～40歳未満は他世代と比べてやや高い。

12-28.年齢別(SA)

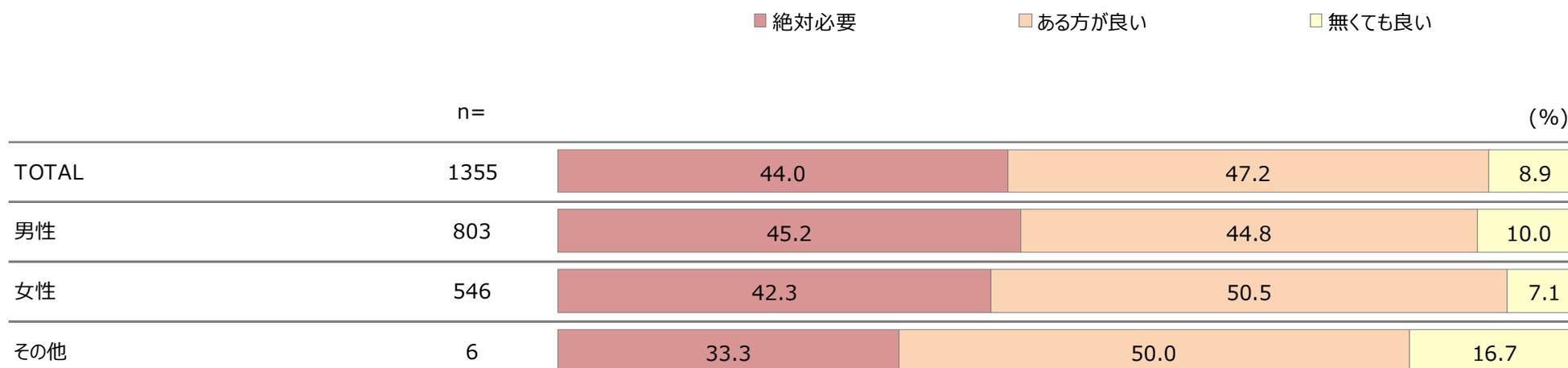


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:著作権の取り扱い(利用範囲・報酬など)

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(著作権の取り扱い)(SA)

- 性別にみると、男性、女性で大きな差はみられない。

12-29.性別(SA)



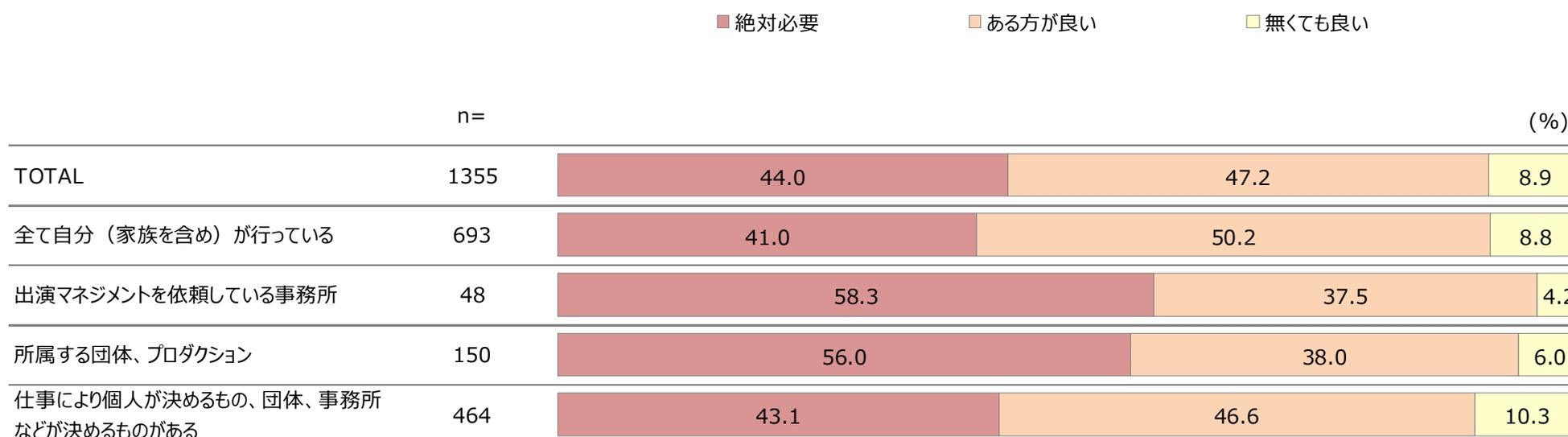
※n=30未満は参考値

(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:著作権の取り扱い(利用範囲・報酬など)

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(著作権の取り扱い)(SA)

- 実施判断者別にみると、著作権の取り扱いの明示が「絶対必要」という回答は、『出演マネジメントを依頼している事務所』『所属する団体、プロダクション』で6割近くと高い。

12-30.実施判断者別(SA)



(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:著作権の取り扱い（利用範囲・報酬など）

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(著作権の取り扱い)(SA)

- 契約実施別にみると、著作権の取り扱いの明示が「絶対必要」という回答は、『契約を行っている（はい）』の方が、『契約を行っていない（いいえ）』に比べて高い。

12-31.契約実施別(SA)

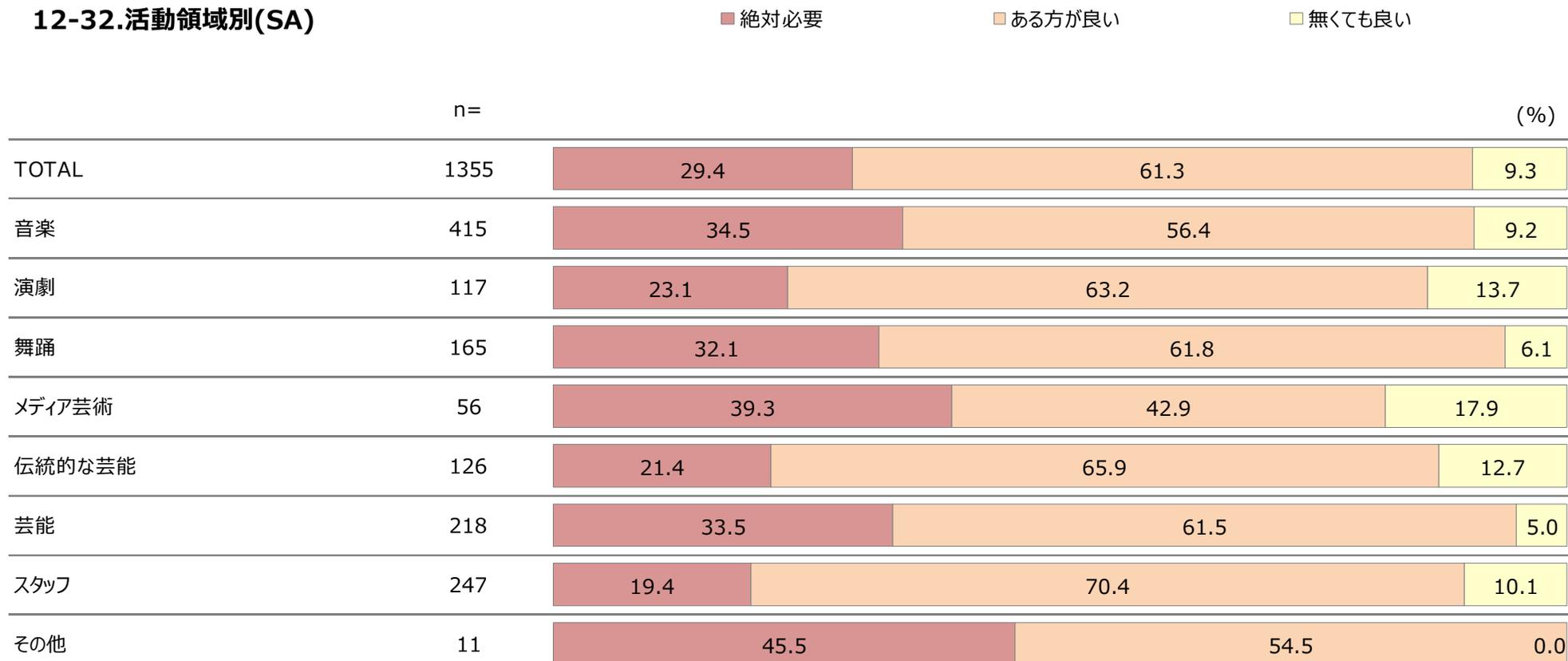


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:著作権の取り扱い（利用範囲・報酬など）

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(仕事場の環境)(SA)

- 活動領域別にみると、仕事場の環境の明示が「絶対必要」という回答は、『音楽』、『メディア芸術』、『芸能』で3割を超える。『スタッフ』では、「絶対必要」は2割弱で、「ある方が良い」が7割を超えている。

12-32.活動領域別(SA)



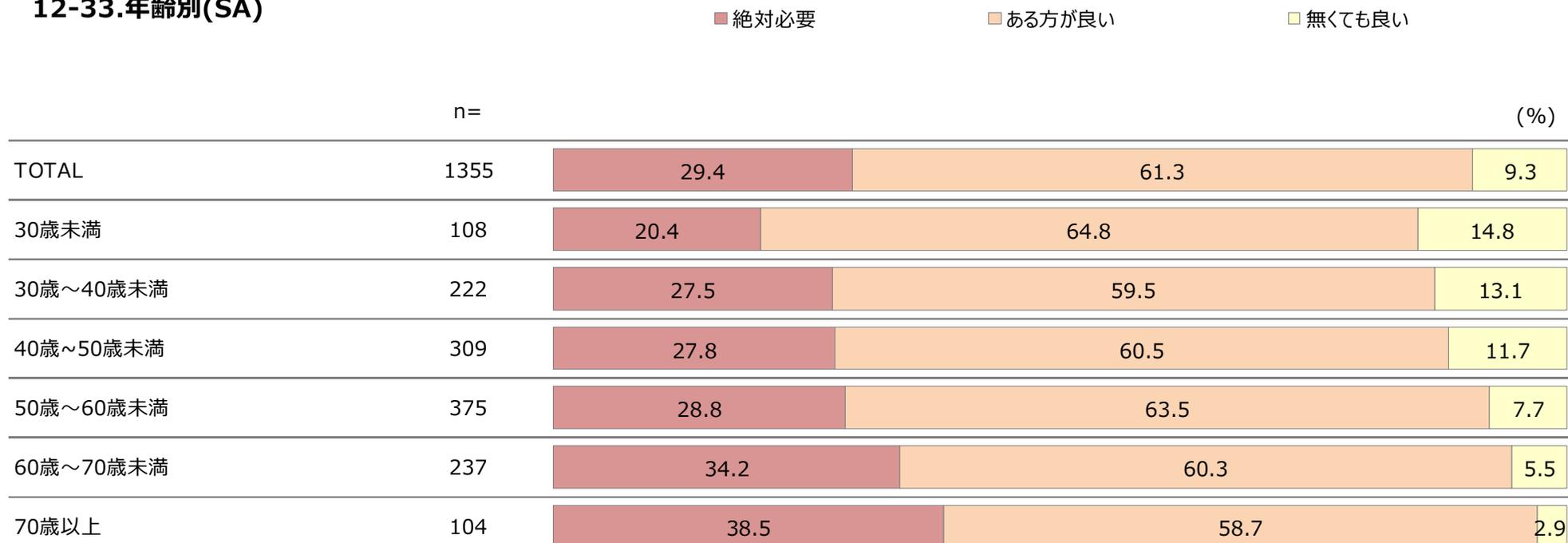
※n=30未満は参考値

(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:仕事場の環境

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(仕事場の環境)(SA)

- 年齢別にみると、仕事場の環境の明示が「絶対必要」という回答は、年齢が高いほど高く、70歳以上では3割を超えている。

12-33.年齢別(SA)

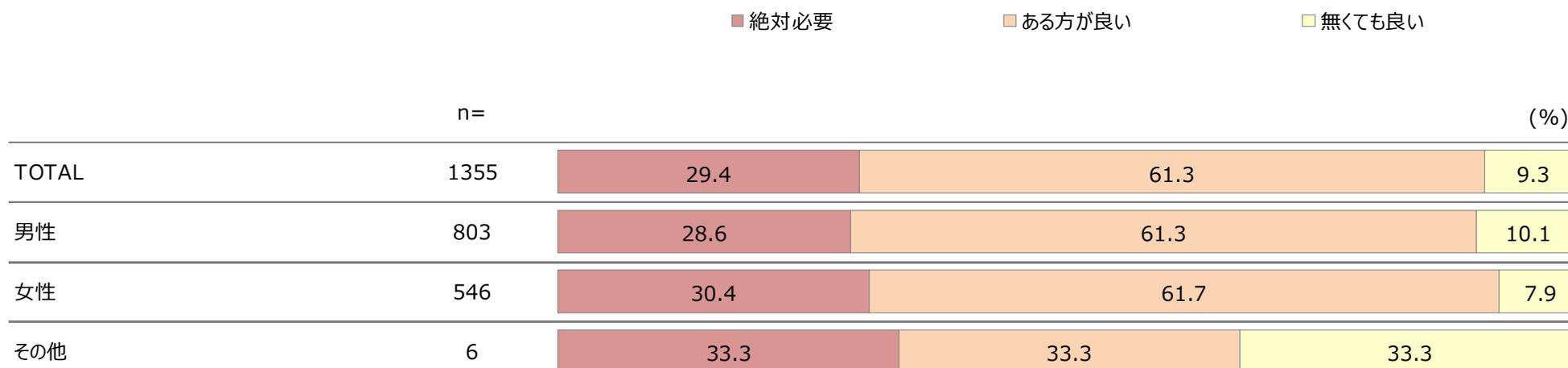


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:仕事場の環境

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(仕事場の環境)(SA)

- 性別にみると、男性、女性で大きな差はみられない。

12-34.性別(SA)



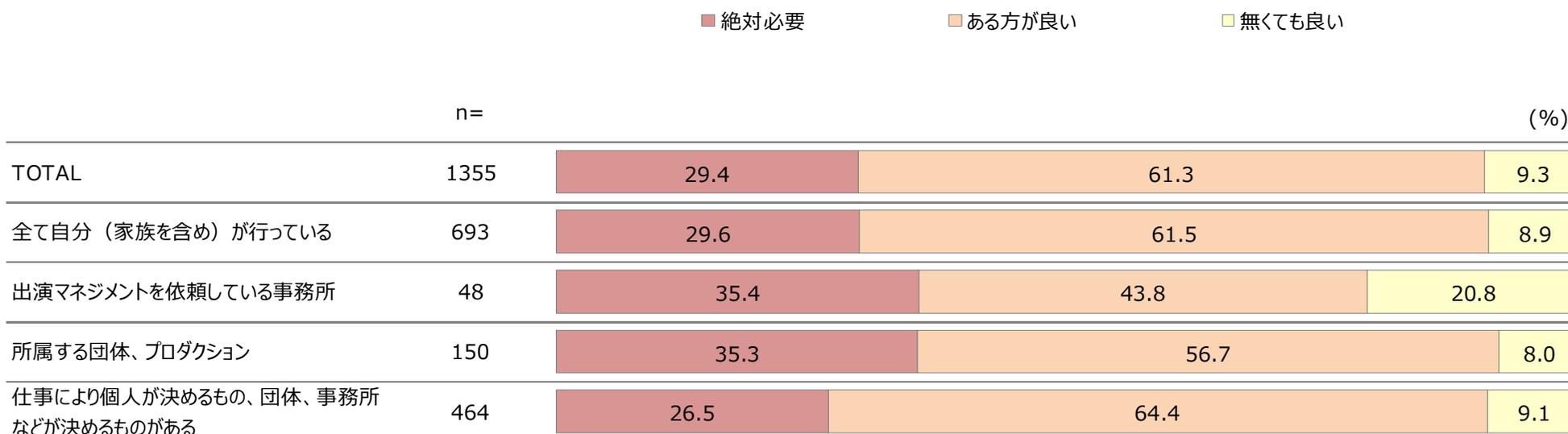
※n=30未満は参考値

(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:仕事場の環境

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(仕事場の環境)(SA)

- 実施判断者別にみると、仕事場の環境の明示が「絶対必要」という回答は、『出演マネジメントを依頼している事務所』『所属する団体、プロダクション』では3割を超える。

12-35.実施判断者別(SA)

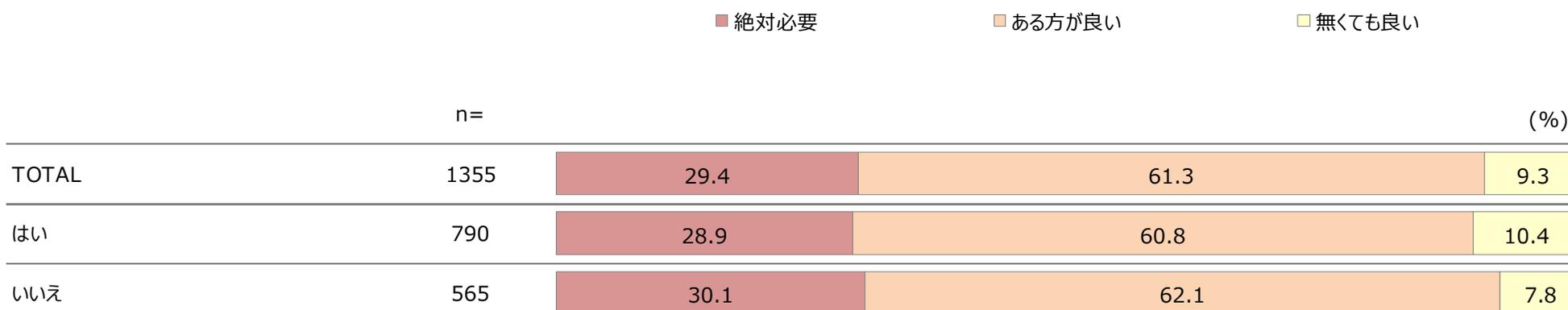


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:仕事場の環境

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(仕事場の環境)(SA)

- 契約実施別にみると、契約を行っているかないかで大きな差はみられない。

12-36.契約実施別(SA)

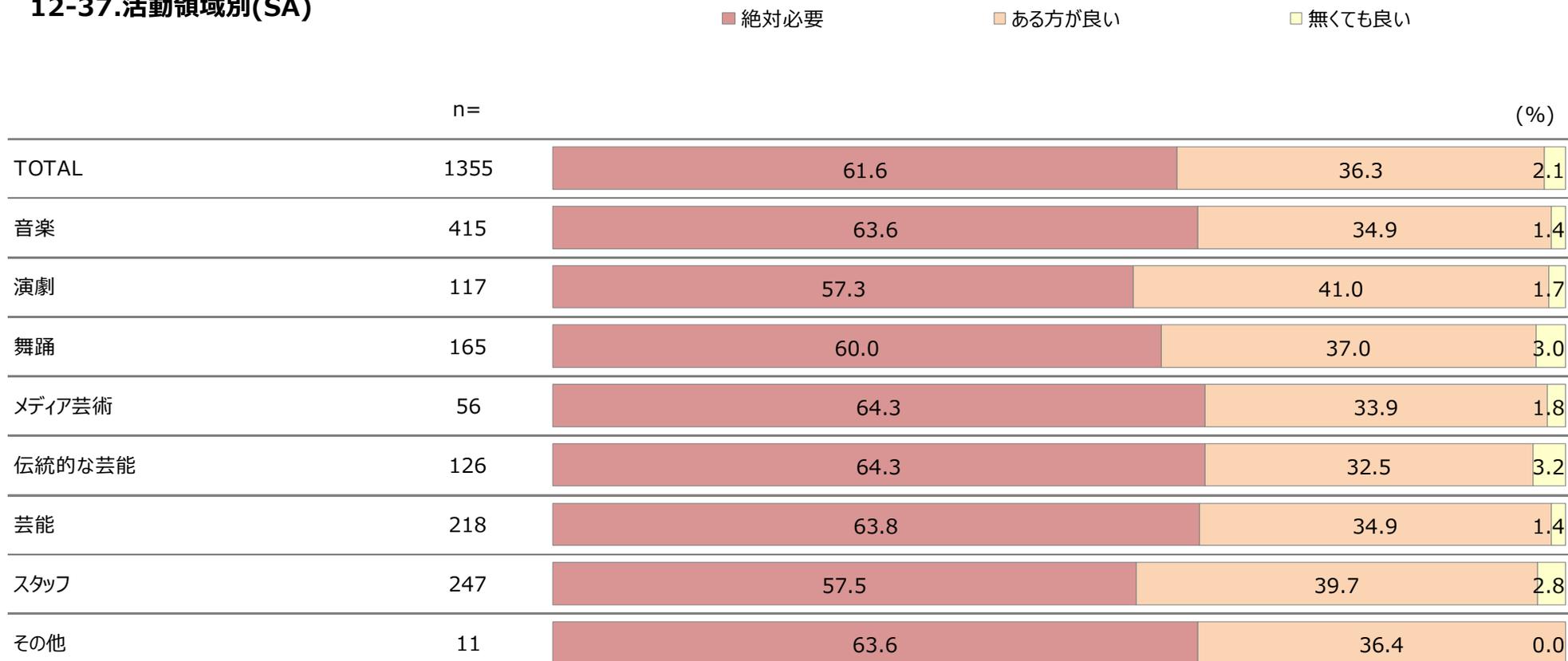


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:仕事場の環境

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(スケジュール等変更の取り扱い)(SA)

- 活動領域別にみると、スケジュール等変更の取り扱い明示が「絶対必要」という回答は、いずれのジャンルでも6割前後となっている。

12-37.活動領域別(SA)



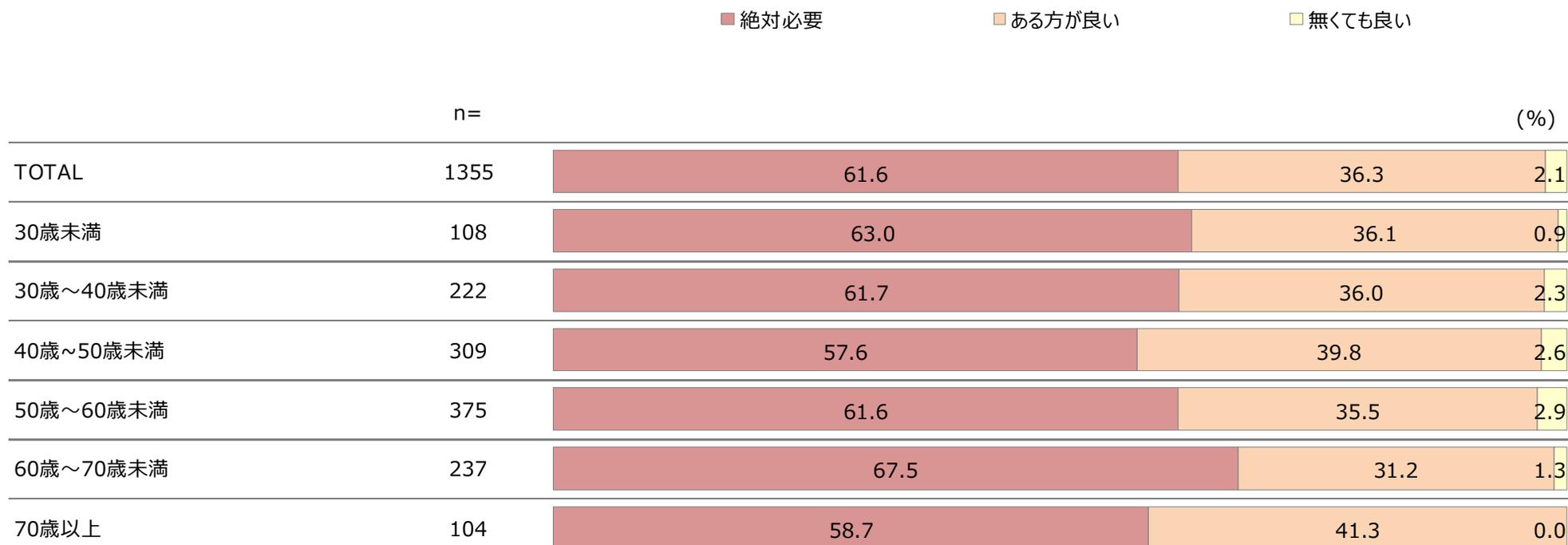
※n=30未満は参考値

(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:スケジュール等変更の取り扱い

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(スケジュール等変更の取り扱い)(SA)

- 年齢別にみると、スケジュール等変更の取り扱い明示が「絶対必要」という回答は、60歳～70歳未満では他世代に比べてやや高い。

12-38.年齢別(SA)

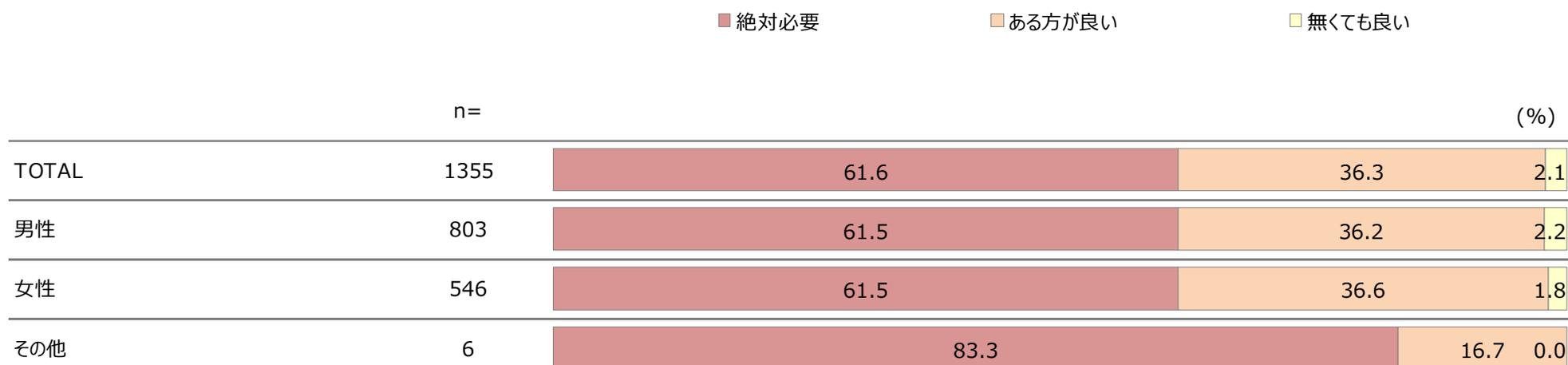


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:スケジュール等変更の取り扱い

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(スケジュール等変更の取り扱い)(SA)

- 性別にみると、男性、女性で大きな差はみられない。

12-39.性別(SA)



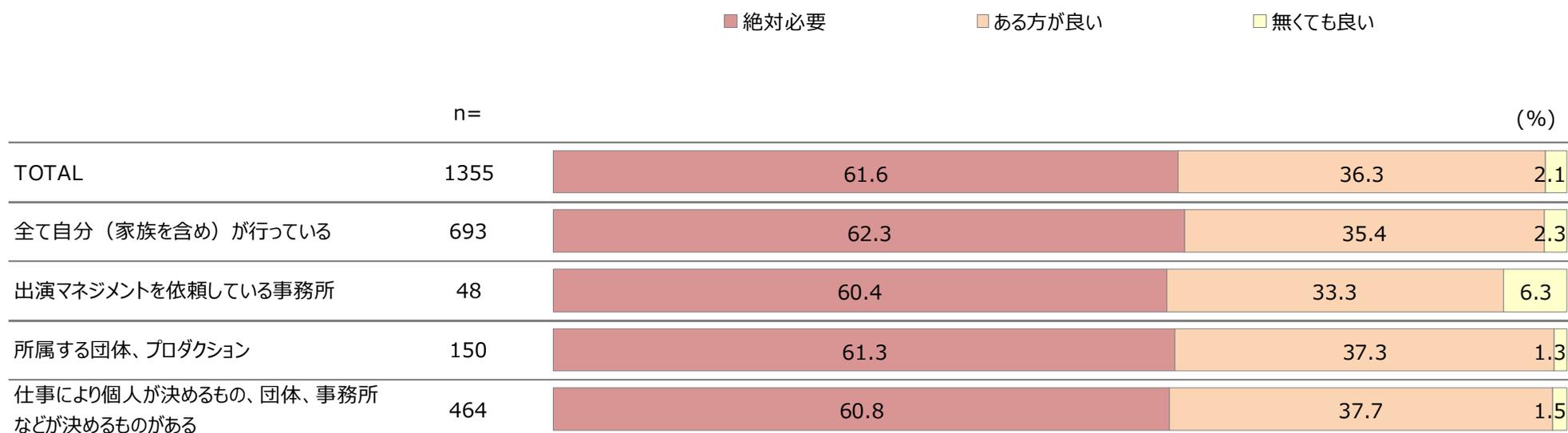
※n=30未満は参考値

(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:スケジュール等変更の取り扱い

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(スケジュール等変更の取り扱い)(SA)

- 実施判断者別にみると、実施判断者で大きな差はみられない。

12-40.実施判断者別(SA)

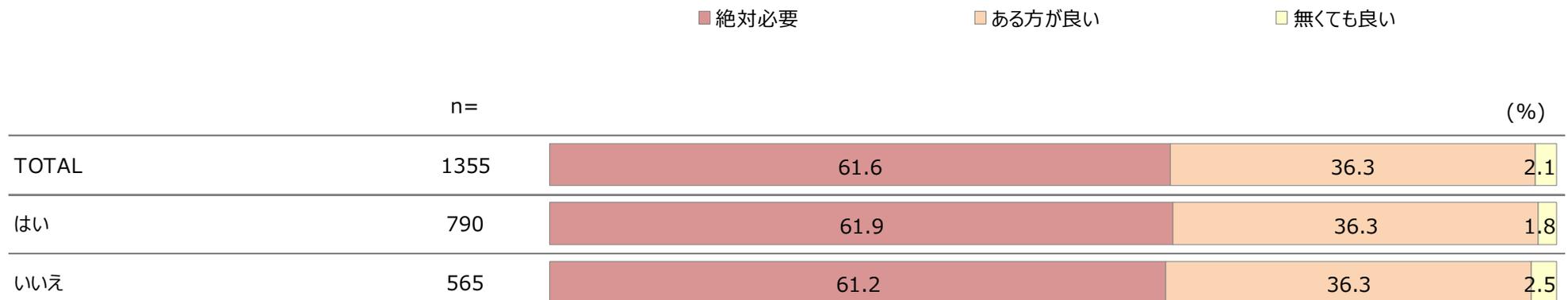


(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:スケジュール等変更の取り扱い

12.出演・業務依頼の事前に明示が必要なもの(スケジュール等変更の取り扱い)(SA)

- 契約実施別にみると、契約を行っているかないかで大きな差はみられない。

12-41.契約実施別(SA)



(質問文)Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。:スケジュール等変更の取り扱い

13.依頼のされ方(SA)

- TOTALでは、「■ 仕事の規模（仕事内容、拘束期間、報酬など）により区別したほうがよい」が最も多く、37.6%。「■ 事前の文書またはメールでの依頼で十分である」33.1%、「■ 契約書は結ぶべきだ」23.9%が続く。

13-1.TOTAL結果(SA)

- 契約書は結ぶべきだ
- 事前の文書またはメールでの依頼で十分である
- 電話、対面など口頭での依頼で十分である
- 仕事の規模（仕事内容、拘束期間、報酬など）により区別したほうがよい
- その他

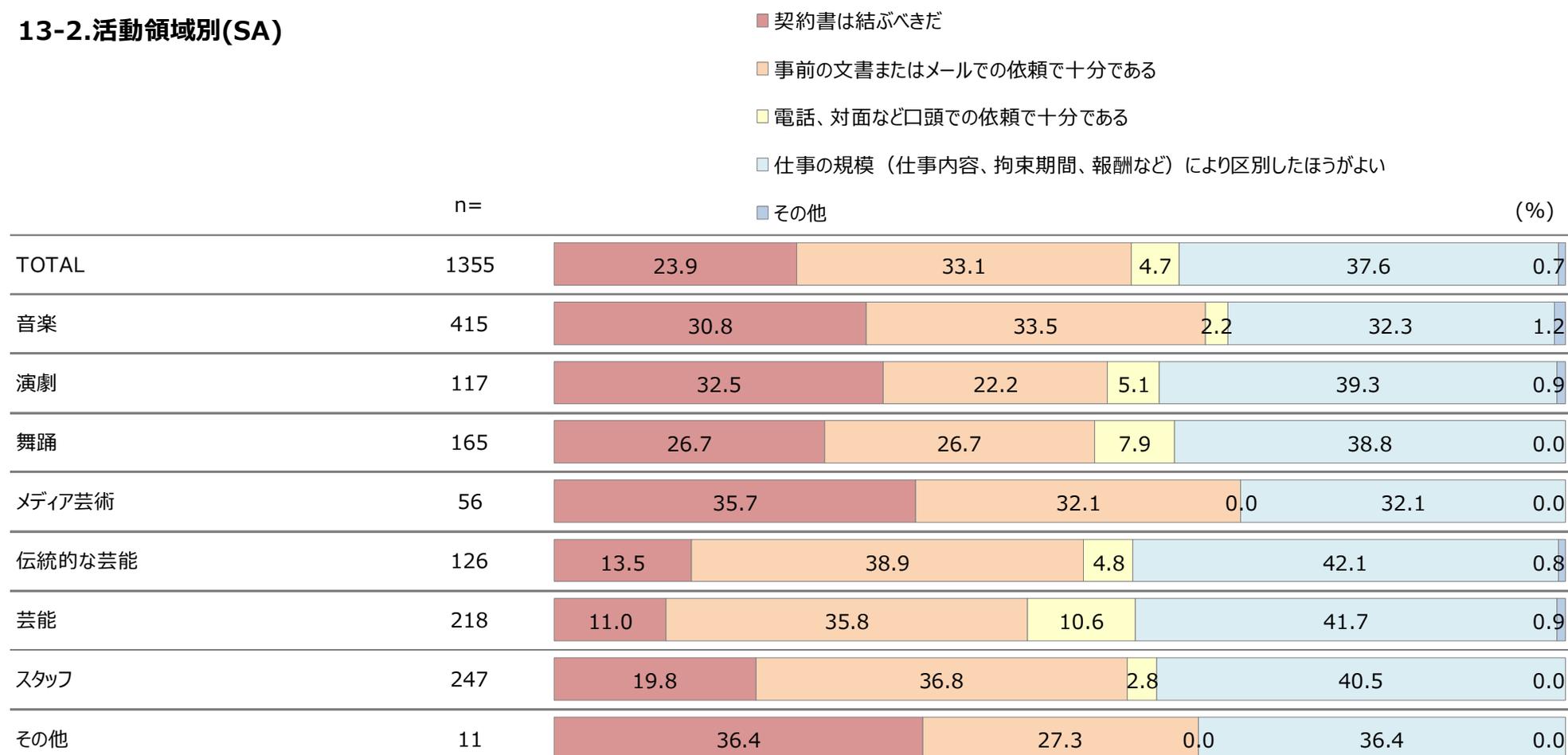
	n=						(%)
TOTAL	1355	23.9	33.1	4.7	37.6	0.7	

(質問文)Q12 仕事をする上で、契約書の有無など、依頼のされ方についてあなたはどう思いますか。

13.依頼のされ方(SA)

- 活動領域別にみると、『伝統的な芸能』、『芸能』では「■ 契約書は結ぶべきだ」は1割強にとどまり、「■ 事前の文書またはメールでの依頼で十分である」が4割近くと高い。一方で、『メディア芸術』、『演劇』、『音楽』では、「■ 契約書は結ぶべきだ」が3割を超える。

13-2.活動領域別(SA)



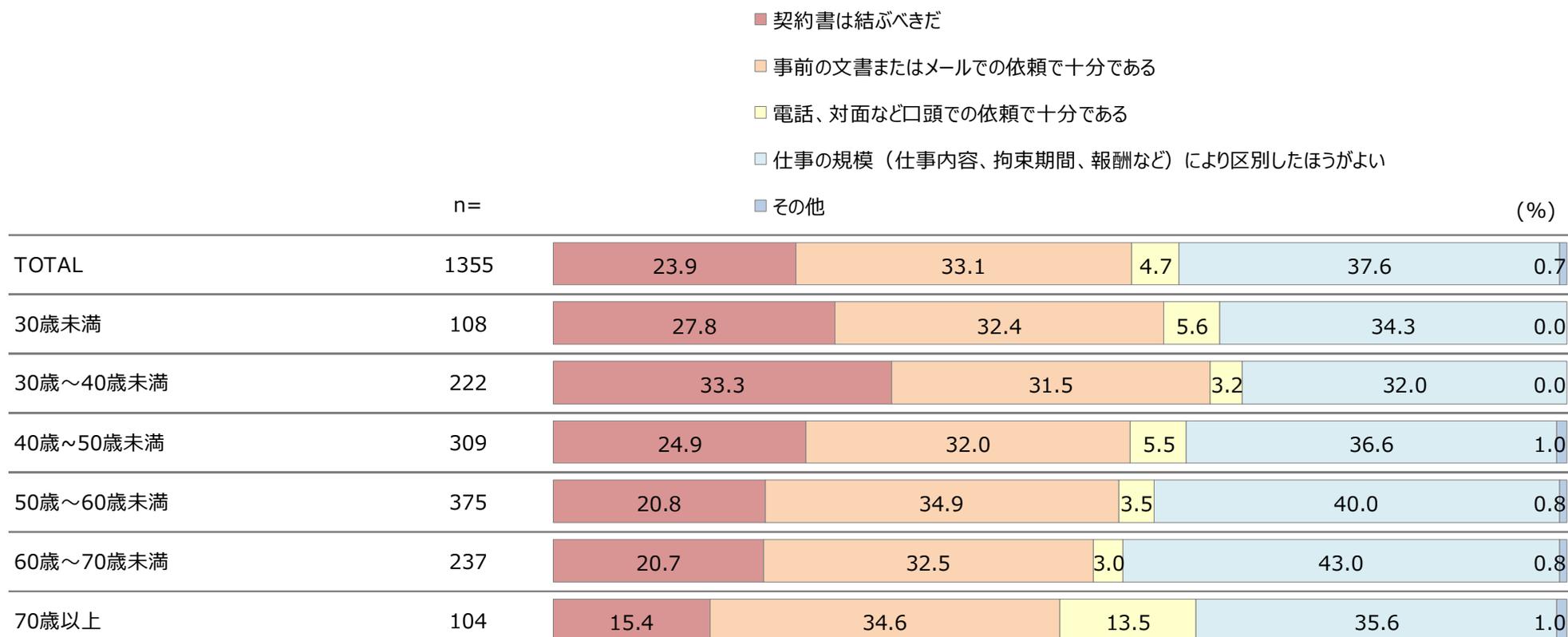
※n=30未満は参考値

(質問文)Q12 仕事をする上で、契約書の有無など、依頼のされ方についてあなたはどう思いますか。

13.依頼のされ方(SA)

- 年齢別にみると、30歳～40歳未満では「■ 契約書は結ぶべきだ」が3割を超える。50歳～60歳未満、60歳～70歳未満では、「■ 仕事の規模（仕事内容、拘束期間、報酬など）により区別したほうがよい」が4割を超えとなっている。

13-3.年齢別(SA)

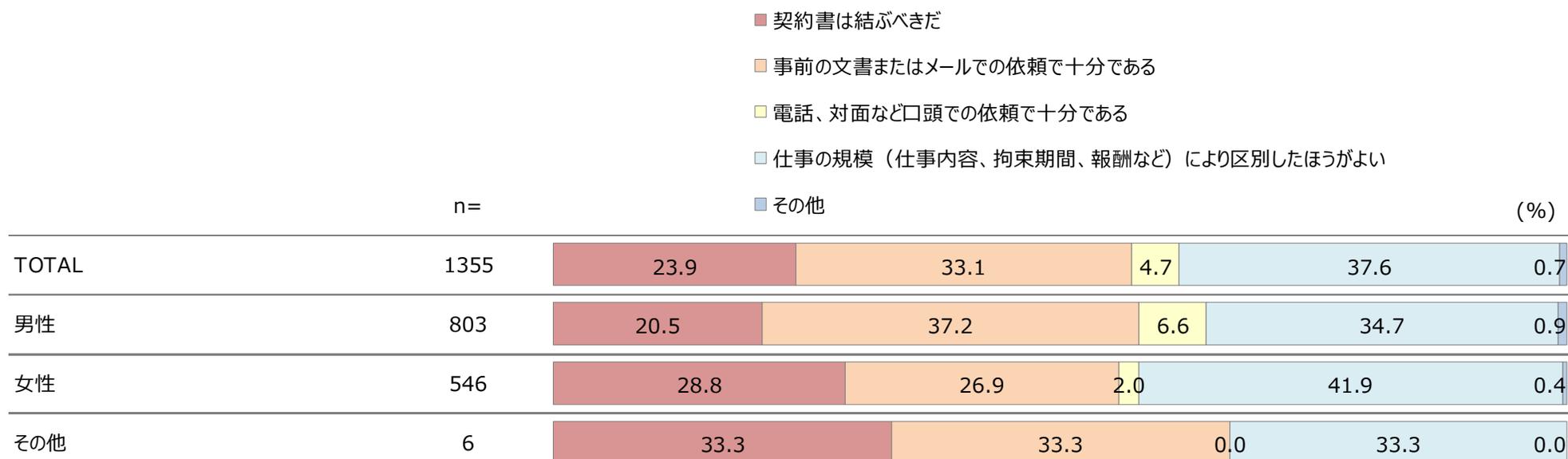


(質問文)Q12 仕事をする上で、契約書の有無など、依頼のされ方についてあなたはどう思いますか。

13.依頼のされ方(SA)

- 性別にみると、「■ 契約書は結ぶべきだ」は、男性は2割であるのに対して、女性では3割近くとなっている。「■ 事前の文書またはメールでの依頼で十分である」は、男性は4割近くであるのに対して、女性では3割弱である。

13-4.性別(SA)



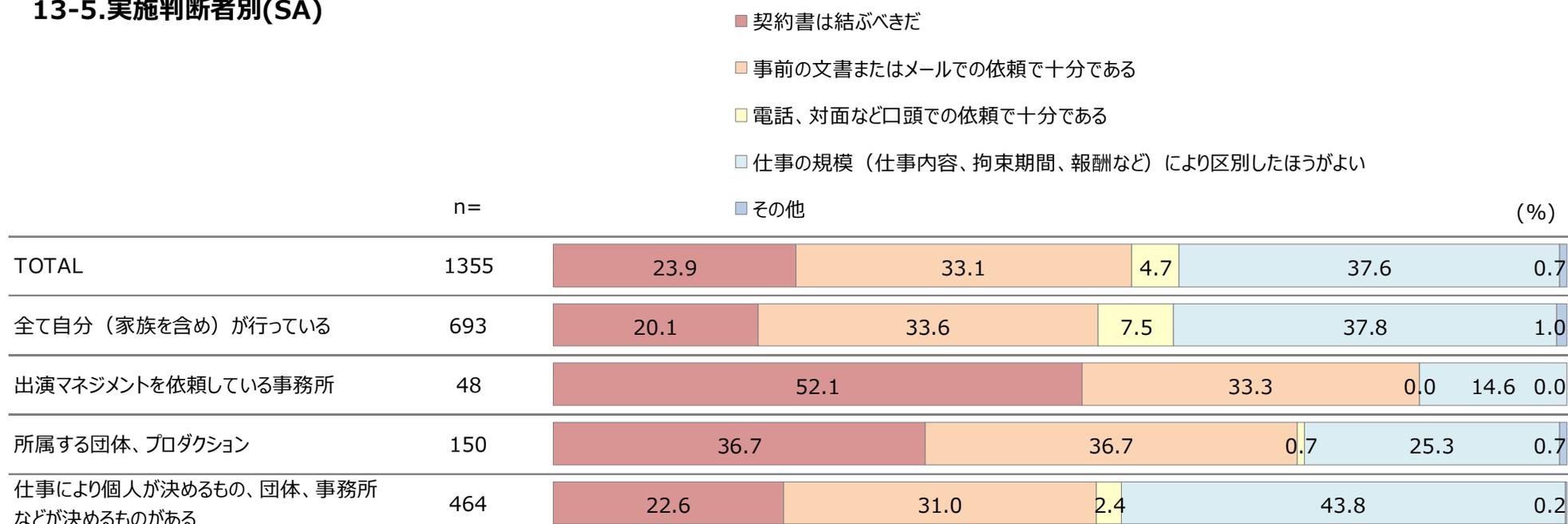
※n=30未満は参考値

(質問文)Q12 仕事をする上で、契約書の有無など、依頼のされ方についてあなたはどう思いますか。

13.依頼のされ方(SA)

- 実施判断者別にみると、「■ 契約書は結ぶべきだ」が、『出演マネジメントを依頼している事務所』では5割超え、『所属する団体、プロダクション』では3割を超えている。『仕事により個人が決めるもの、団体、事務所などが決めるものがある』では、「■ 仕事の規模（仕事内容、拘束期間、報酬など）により区別したほうがよい」が高く、4割を超えている。

13-5.実施判断者別(SA)

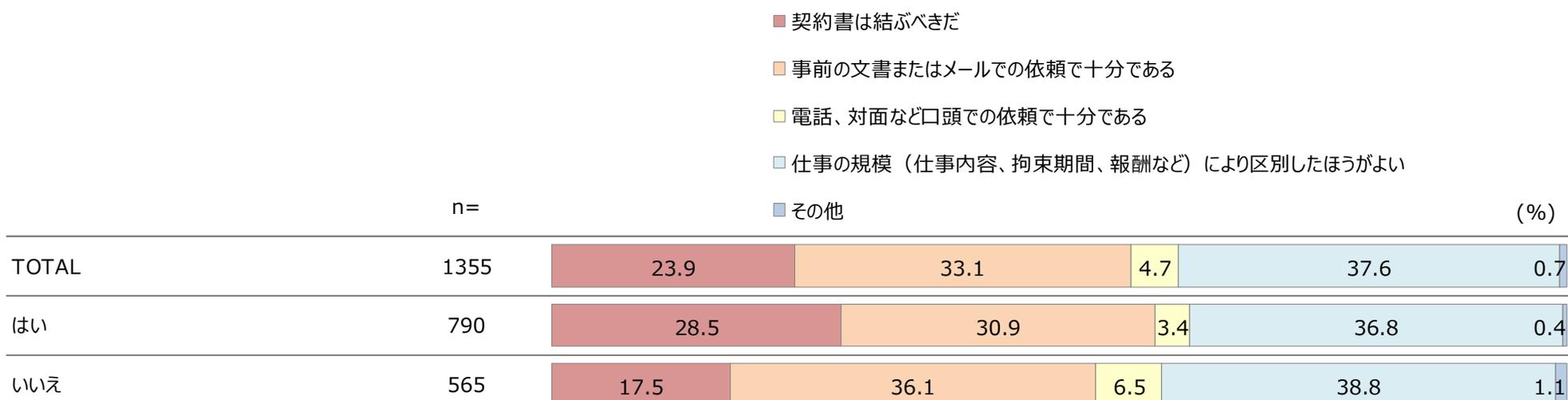


(質問文)Q12 仕事をする上で、契約書の有無など、依頼のされ方についてあなたはどのように思いますか。

13.依頼のされ方(SA)

- 契約実施別にみると、「■ 契約書は結ぶべきだ」では、『契約を行っている（はい）』が3割近くで、『契約を行っていない（いいえ）』に比べて高い。

13-6.契約実施別(SA)

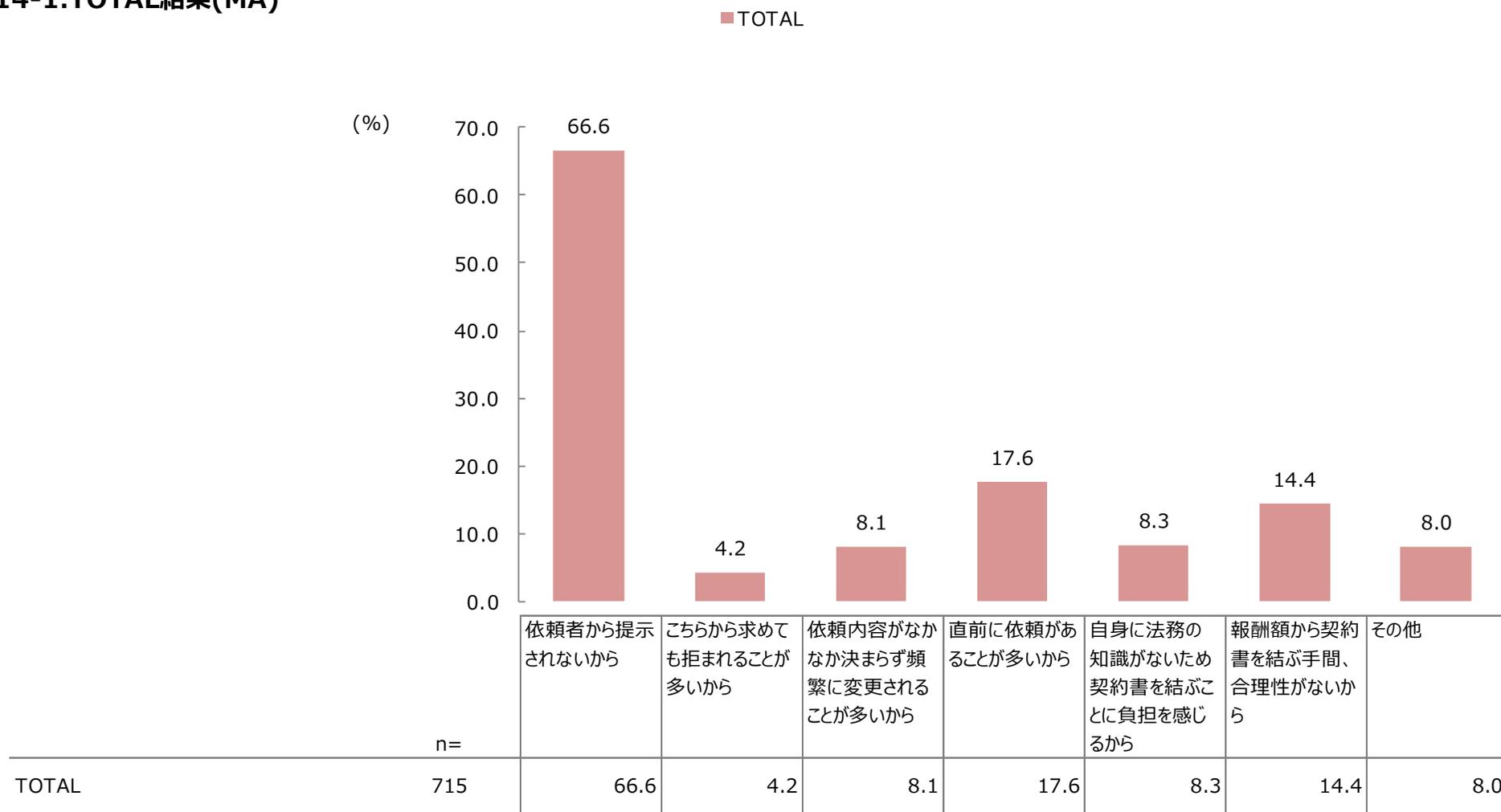


(質問文)Q12 仕事をする上で、契約書の有無など、依頼のされ方についてあなたはどう思いますか。

14. 契約書を結ばない理由(MA)

- TOTALでは、「依頼者から提示されないから」が最も多く、66.6%。「直前に依頼があることが多いから」17.6%、「報酬額から契約書を結ぶ手間、合理性がないから」14.4%が続く。

14-1. TOTAL結果(MA)

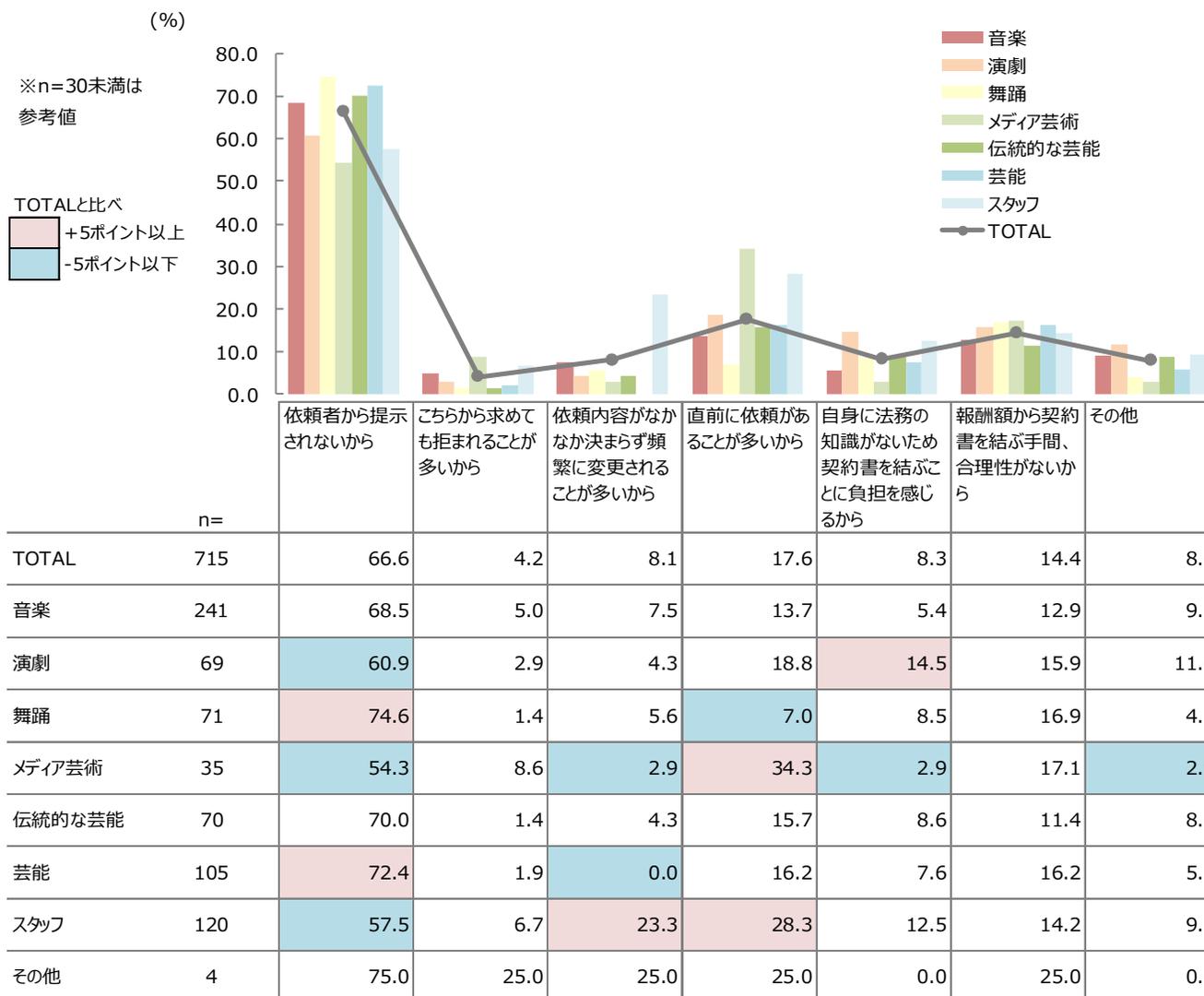


(質問文)Q13 仕事内容について書面で契約を行っていない方に伺います。契約書を結ばない理由として該当するものはありますか。

14.契約書を結ばない理由(MA)

- 活動領域別にみると、『舞踊』、『芸能』では「依頼者から提示されないから」が7割超えで、とくに高い。『メディア芸術』では、「直前に依頼が多いから」がTOTALより高い。『スタッフ』では、「依頼内容がなかなか決まらず頻繁に変更されることが多いから」、「直前に依頼が多いから」がTOTALより高い。『演劇』では、「自身に法務の知識がないため契約書を結ぶことに負担を感じるから」がTOTALより高くなっている。

14-2.活動領域別(MA)

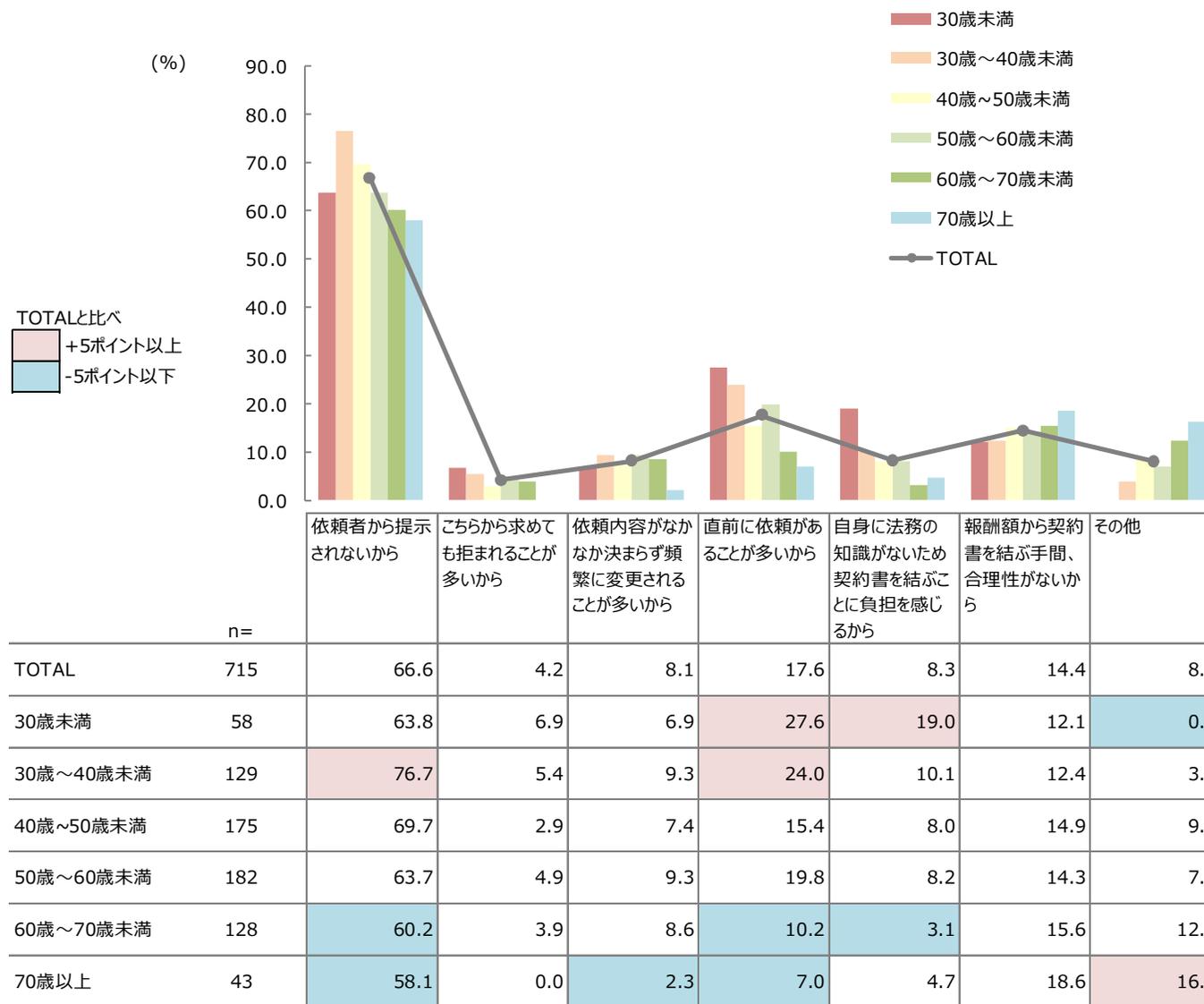


(質問文)Q13 仕事内容について書面で契約を行っていない方に伺います。契約書を結ばない理由として該当するものはありますか。

14. 契約書を結ばない理由(MA)

- 年齢別にみると、30歳～40歳未満では、「依頼者から提示されないから」、「直前に依頼があることが多いから」がTOTALより高い。30歳未満では、「直前に依頼があることが多いから」、「自身に法務の知識がないため契約書を結ぶことに負担を感じるから」がTOTALより高い。

14-3. 年齢別(MA)

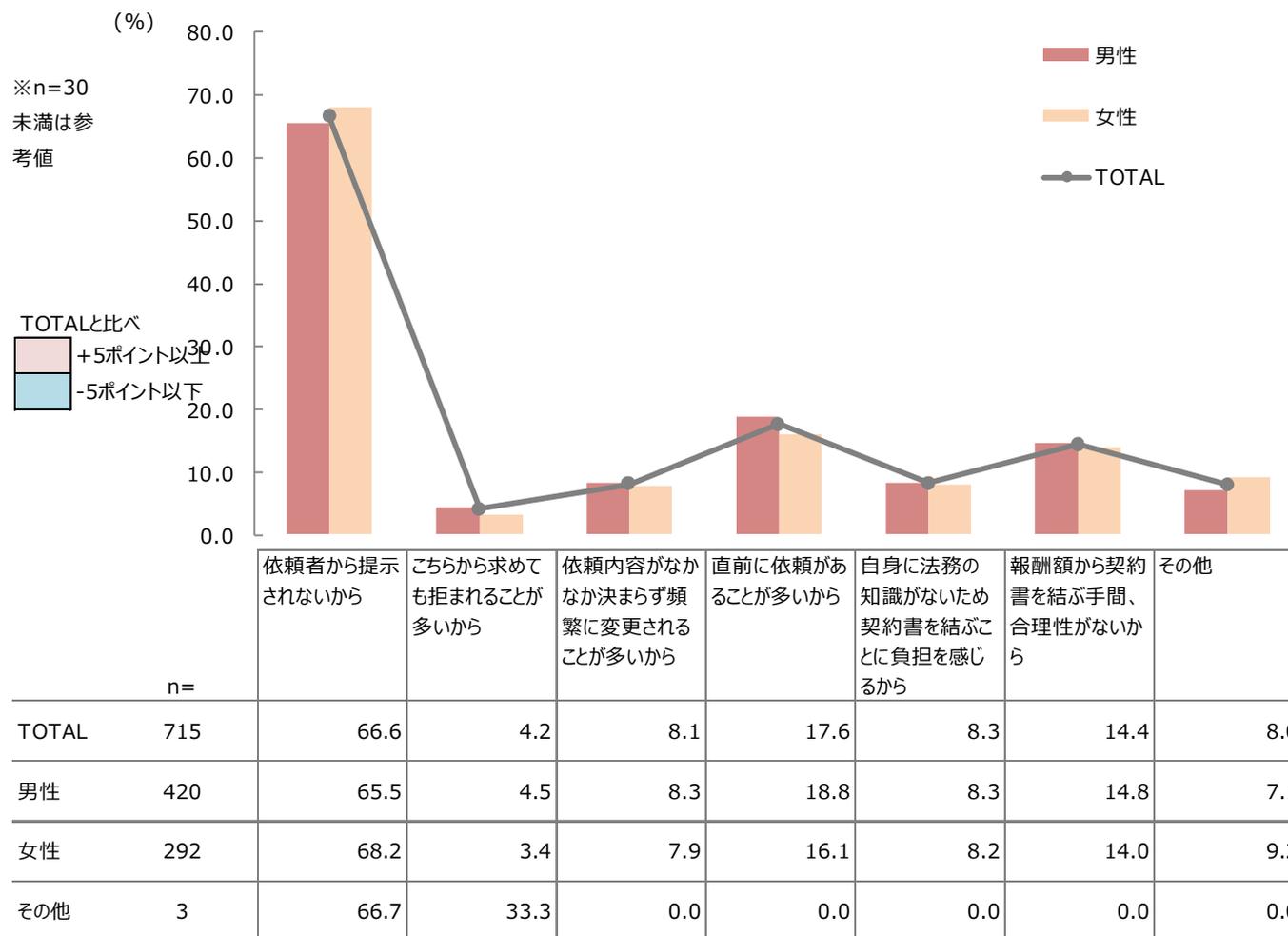


(質問文)Q13 仕事内容について書面で契約を行っていない方に伺います。契約書を結ばない理由として該当するものはありますか。

14. 契約書を結ばない理由(MA)

- 性別にみると、男性、女性で大きな差はみられない。

14-4. 性別(MA)

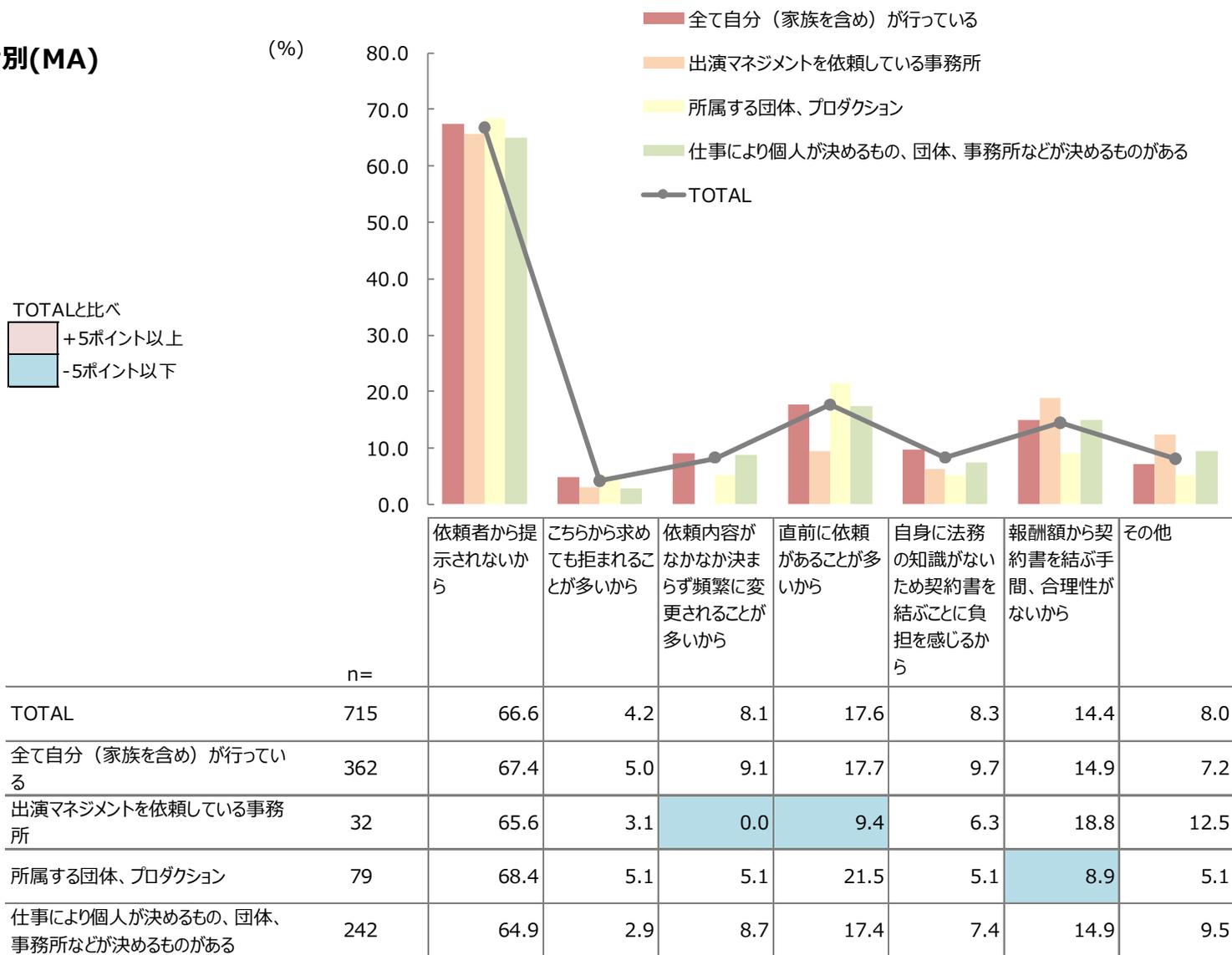


(質問文)Q13 仕事内容について書面で契約を行っていない方に伺います。契約書を結ばない理由として該当するものはありますか。

14. 契約書を結ばない理由(MA)

- 実施判断者別にみると、『出演マネジメントを依頼している事務所』で「直前に依頼があることが多いから」「依頼内容がなかなか決まらず頻繁に変更されることが多いから」、『所属する団体、プロダクション』で「報酬額から契約書を結ぶ手間、合理性がないから」が1割未満と低い。

14-5. 実施判断者別(MA)

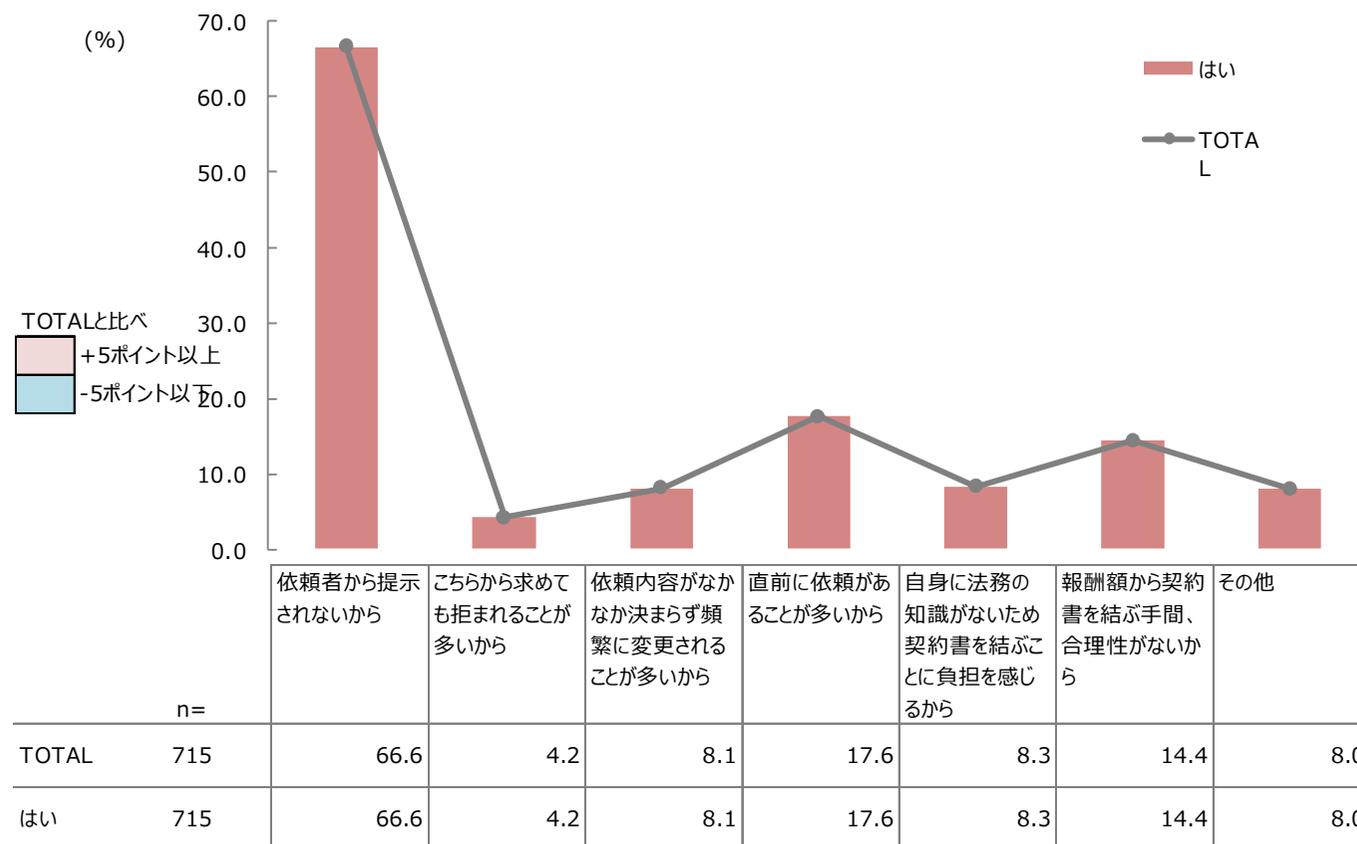


(質問文)Q13 仕事内容について書面で契約を行っていない方に伺います。契約書を結ばない理由として該当するものはありますか。

14. 契約書を結ばない理由(MA)

- 『契約を行っている（はい）』と回答した人でも、契約書を結ばない理由としては「依頼者から提示されないから」が66.6%と最も多い。

14-6. 契約実施別(MA)

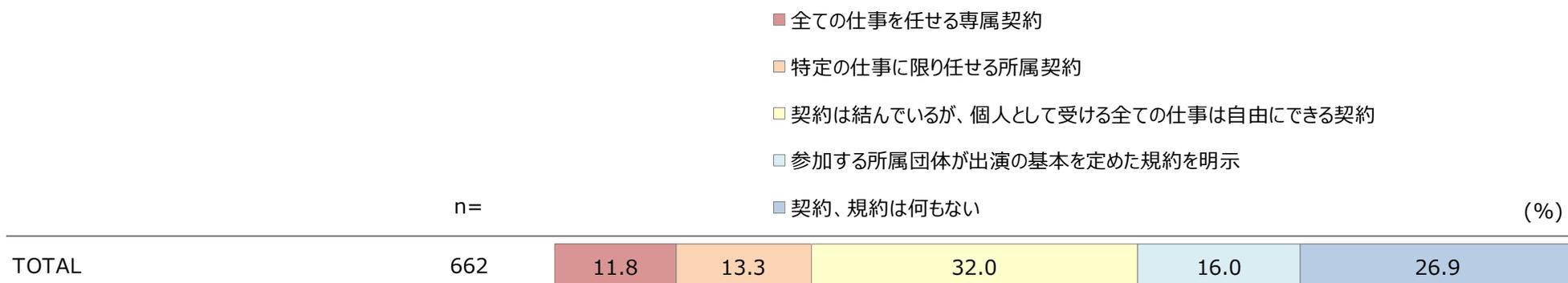


(質問文)Q13 仕事内容について書面で契約を行っていない方に伺います。契約書を結ばない理由として該当するものはありますか。

15. 契約内容(SA)

- TOTALでは、「■ 契約は結んでいるが、個人として受ける全ての仕事は自由にできる契約」が最も多く、32.0%。「■ 契約、規約は何もない」26.9%、「■ 参加する所属団体が出演の基本を定めた規約を明示」16.0%が続く。

15-1.TOTAL結果(SA)



(質問文)Q14 団体・事務所等に所属・専属している方に伺います。契約等の内容はどのようなものですか。

15.契約内容(SA)

- 活動領域別にみると、『メディア芸術』では「■ 全ての仕事を任せる専属契約」が高く、4割を超える。『メディア芸術』、『演劇』では「■ 特定の仕事に限り任せる所属契約」が、2割近くと高い。『芸能』、『伝統的な芸能』では「■ 契約は結んでいるが、個人として受ける全ての仕事は自由にできる契約」が高く、4割を超える。『音楽』、『演劇』では「■ 参加する所属団体が出演の基本を定めた規約を明示」が高く、2割を超える。『スタッフ』、『伝統的な芸能』、『舞踊』では「■ 契約、規約は何もない」が高く、3割を超える。

15-2.活動領域別(SA)

- 全ての仕事を任せる専属契約
- 特定の仕事に限り任せる所属契約
- 契約は結んでいるが、個人として受ける全ての仕事は自由にできる契約
- 参加する所属団体が出演の基本を定めた規約を明示
- 契約、規約は何もない

	n=						(%)
TOTAL	662	11.8	13.3	32.0	16.0	26.9	
音楽	196	9.7	10.7	33.7	26.0	19.9	
演劇	72	18.1	19.4	29.2	22.2	11.1	
舞踊	75	5.3	12.0	29.3	18.7	34.7	
メディア芸術	51	41.2		23.5	19.6	5.9	9.8
伝統的な芸能	47	2.1	6.4	40.4	8.5	42.6	
芸能	91	6.6	14.3	50.5		7.7	20.9
スタッフ	122	8.2	12.3	23.0	8.2	48.4	
その他	8	50.0		12.5	0.0	12.5	25.0

※n=30未満は参考値

(質問文)Q14 団体・事務所等に所属・専属している方に伺います。契約等の内容はどのようなものですか。

15. 契約内容(SA)

- 年齢別にみると、70歳以上で「■ 特定の仕事に限り任せる所属契約」が高く、2割を超える。

15-3. 年齢別(SA)

- 全ての仕事を任せる専属契約
- 特定の仕事に限り任せる所属契約
- 契約は結んでいるが、個人として受ける全ての仕事は自由にできる契約
- 参加する所属団体が出演の基本を定めた規約を明示
- 契約、規約は何もない

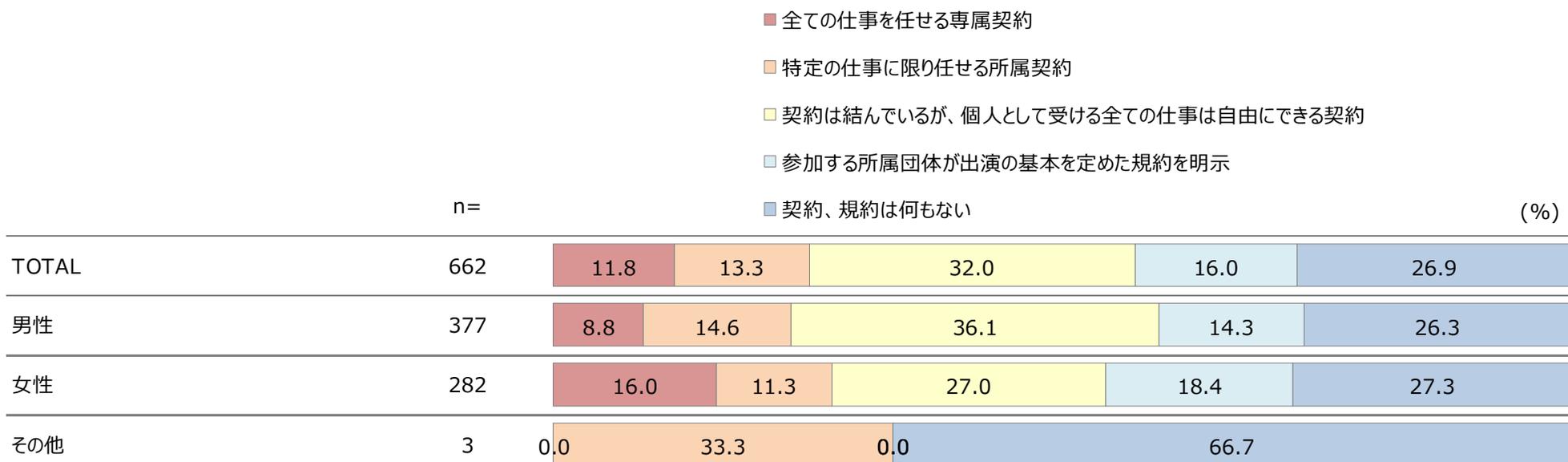
	n=						(%)
TOTAL	662	11.8	13.3	32.0	16.0	26.9	
30歳未満	70	10.0	14.3	30.0	15.7	30.0	
30歳～40歳未満	113	12.4	12.4	33.6	10.6	31.0	
40歳～50歳未満	150	12.7	10.7	32.0	19.3	25.3	
50歳～60歳未満	184	12.0	12.0	31.5	17.9	26.6	
60歳～70歳未満	108	13.0	16.7	33.3	14.8	22.2	
70歳以上	37	5.4	21.6	29.7	13.5	29.7	

(質問文)Q14 団体・事務所等に所属・専属している方に伺います。契約等の内容はどのようなものですか。

15. 契約内容(SA)

- 性別にみると、女性では「■ 全ての仕事を任せ専属契約」が男性に比べて高く、一方で男性では「■ 契約は結んでいるが、個人として受ける全ての仕事は自由にできる契約」が女性より高い。

15-4. 性別(SA)



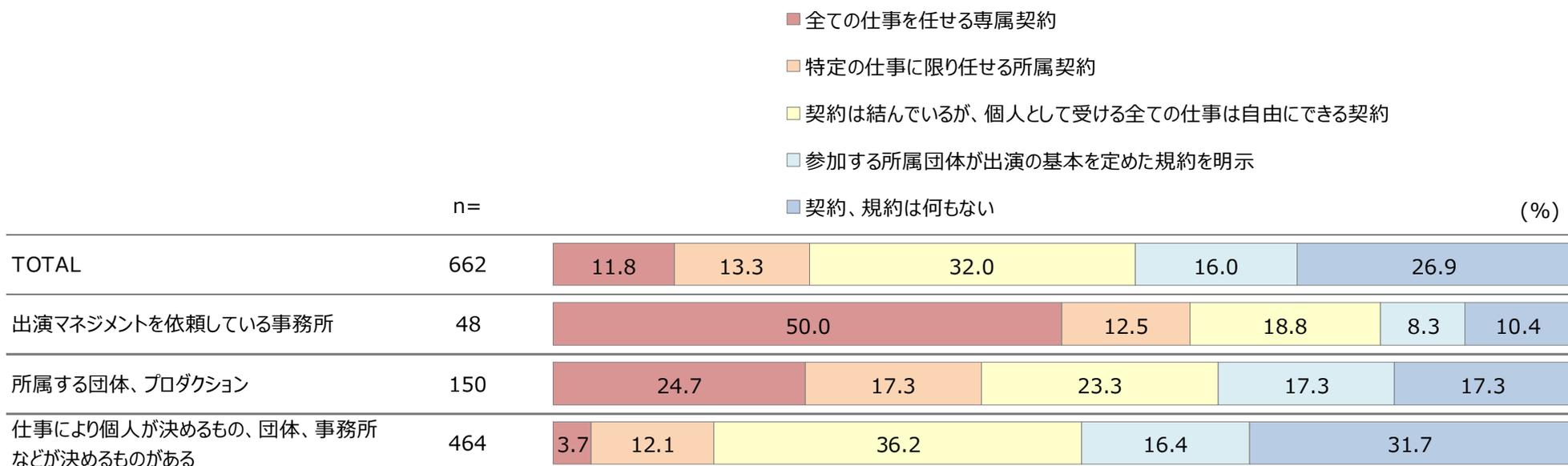
※n=30未満は参考値

(質問文)Q14 団体・事務所等に所属・専属している方に伺います。契約等の内容はどのようなものですか。

15. 契約内容(SA)

- 実施判断者別にみると、『出演マネジメントを依頼している事務所』『所属する団体、プロダクション』で「■ 全ての仕事を任せる専属契約」が高く、とくに『出演マネジメントを依頼している事務所』では5割を超える。

15-5. 実施判断者別(SA)

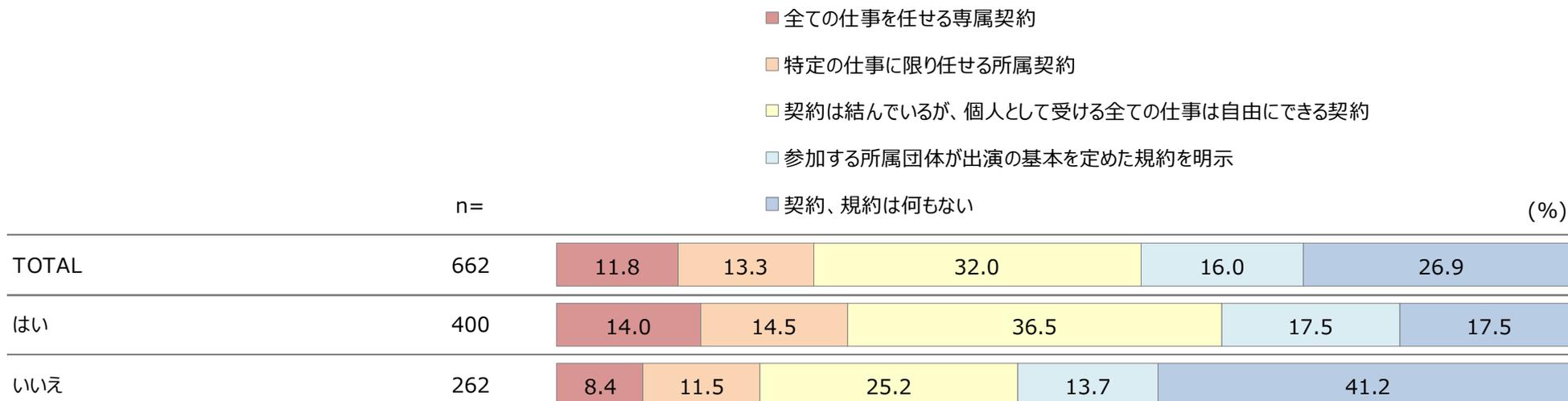


(質問文)Q14 団体・事務所等に所属・専属している方に伺います。契約等の内容はどのようなものですか。

15. 契約内容(SA)

- 契約実施別にみると、『契約を行っていない（いいえ）』で「■ 契約、規約は何もない」が高く、4割を超える。しかし、『契約を行っていない（いいえ）』だが、「■ 全ての仕事を任せる専属契約」という回答が8.4%ある。

15-6. 契約実施別(SA)

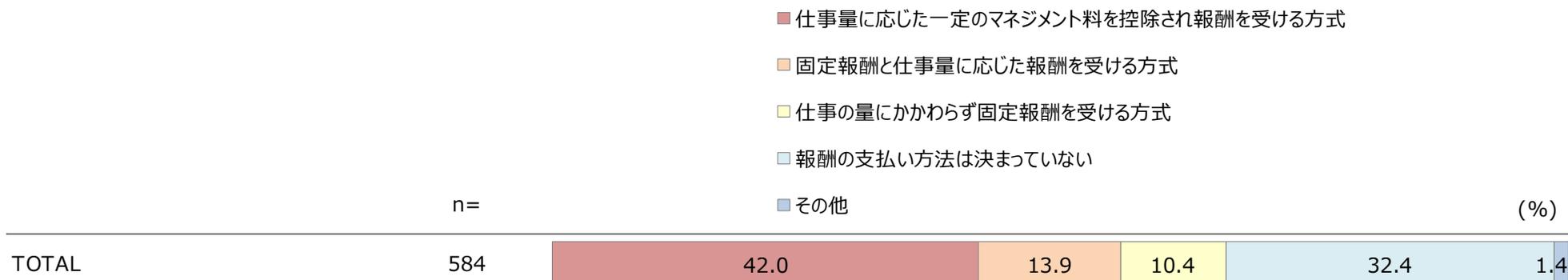


(質問文)Q14 団体・事務所等に所属・専属している方に伺います。契約等の内容はどのようなものですか。

16.報酬の支払方法(SA)

- TOTALでは、「■ 仕事量に応じた一定のマネジメント料を控除され報酬を受ける方式」が最も多く、42.0%。「■ 報酬の支払い方法は決まっていない」32.4%、「■ 固定報酬と仕事量に応じた報酬を受ける方式」13.9%が続く。

16-1.TOTAL結果(SA)

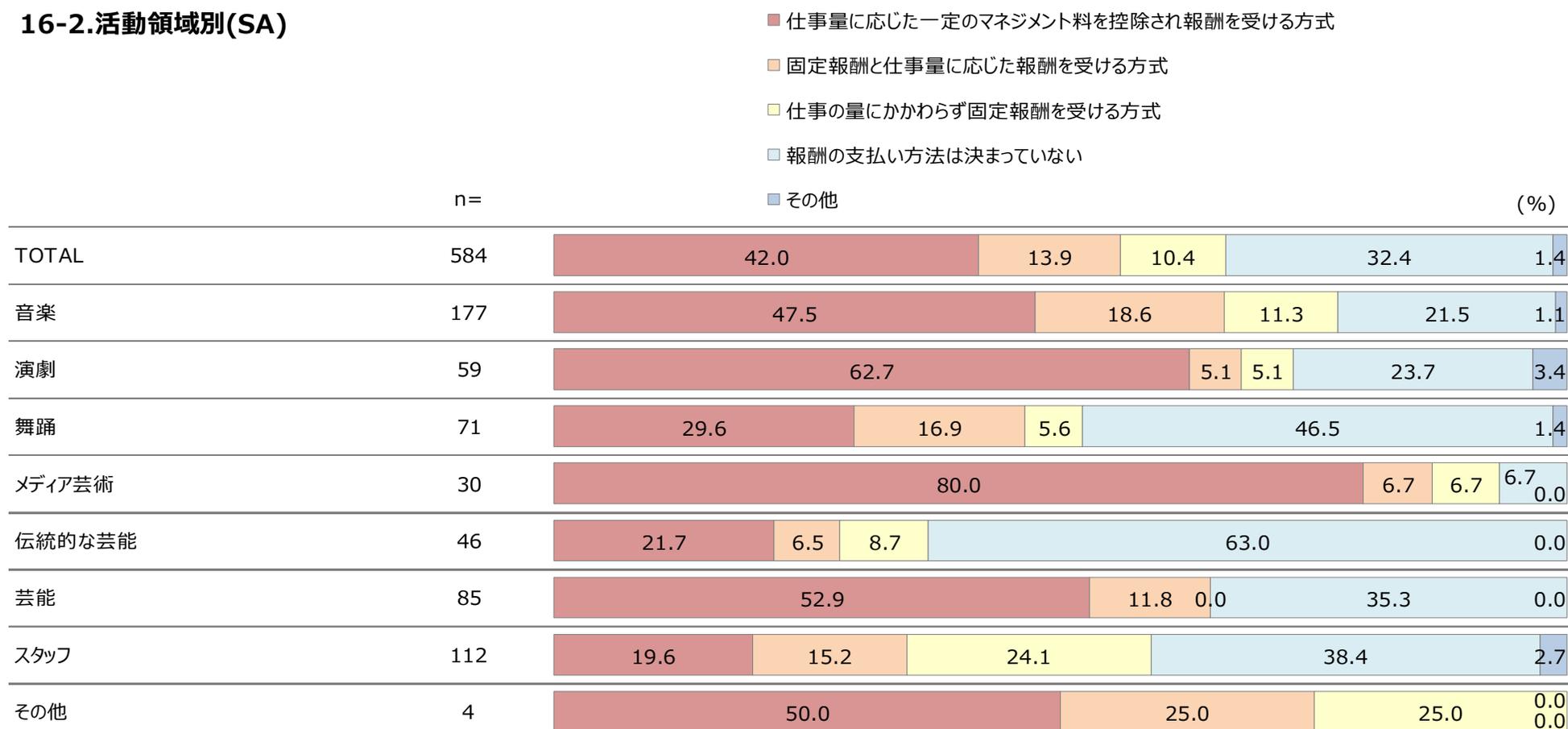


(質問文)Q15 所属団体・事務所等からの個別の仕事に出演等した場合、報酬の支払方法はどのようなものですか。

16.報酬の支払方法(SA)

- 活動領域別にみると、『メディア芸術』、『演劇』で「■ 仕事量に応じた一定のマネジメント料を控除され報酬を受ける方式」が高く、6割を超える。『スタッフ』では「■ 仕事の量にかかわらず固定報酬を受ける方式」が高く、2割を超える。『伝統的な芸能』、『舞踊』、『スタッフ』では、「■ 報酬の支払い方法は決まっていない」が高く、とくに『伝統的な芸能』では6割を超える。

16-2.活動領域別(SA)



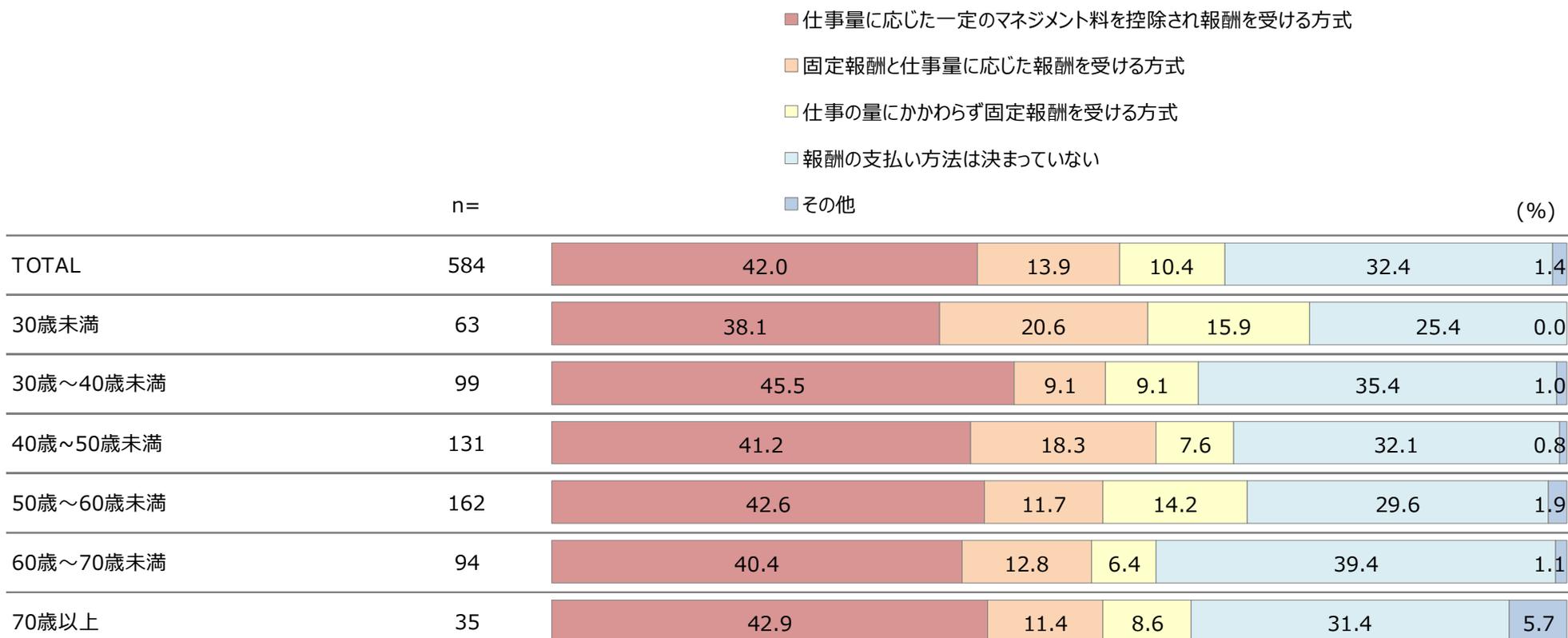
※n=30未満は参考値

(質問文)Q15 所属団体・事務所等からの個別の仕事に出演等した場合、報酬の支払方法はどのようなものですか。

16.報酬の支払方法(SA)

- 年齢別にみると、30歳未満で「■ 固定報酬と仕事量に応じた報酬を受ける方式」が高く2割を超えており、また「■ 仕事の量にかかわらず固定報酬を受ける方式」も15.9%と高い。一方で、60歳～70歳未満では「■ 報酬の支払い方法は決まっていない」が、4割近くと高い。

16-3.年齢別(SA)

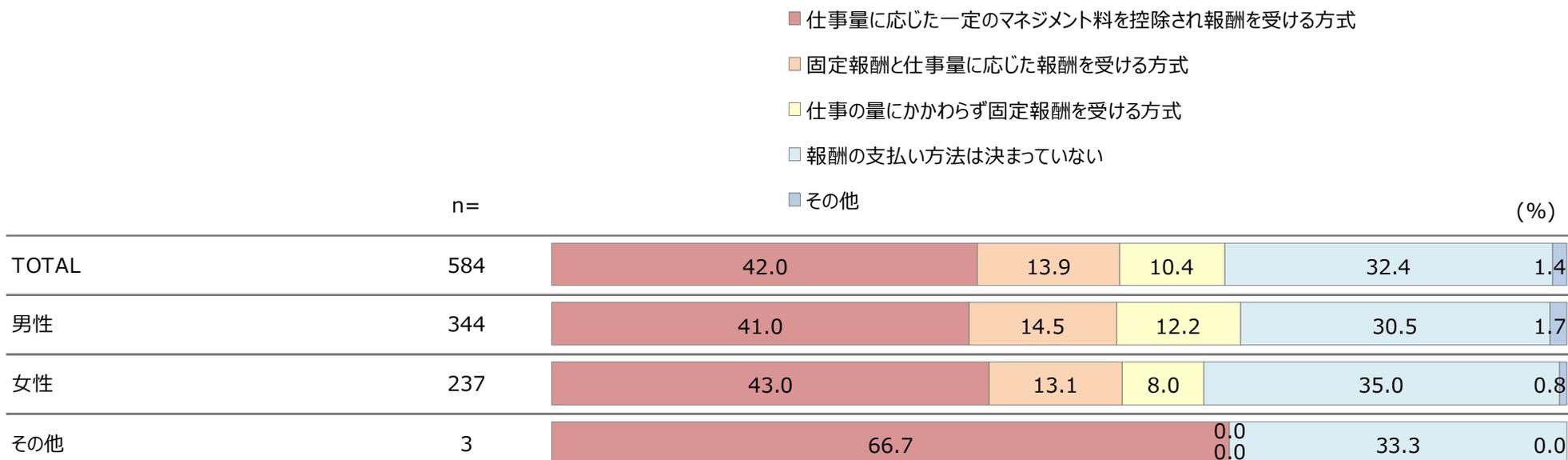


(質問文)Q15 所属団体・事務所等からの個別の仕事に出演等した場合、報酬の支払方法はどのようなものですか。

16.報酬の支払方法(SA)

- 性別にみると、女性で「報酬の支払い方法は決まっていない」が、男性に比べてやや高い。

16-4.性別(SA)



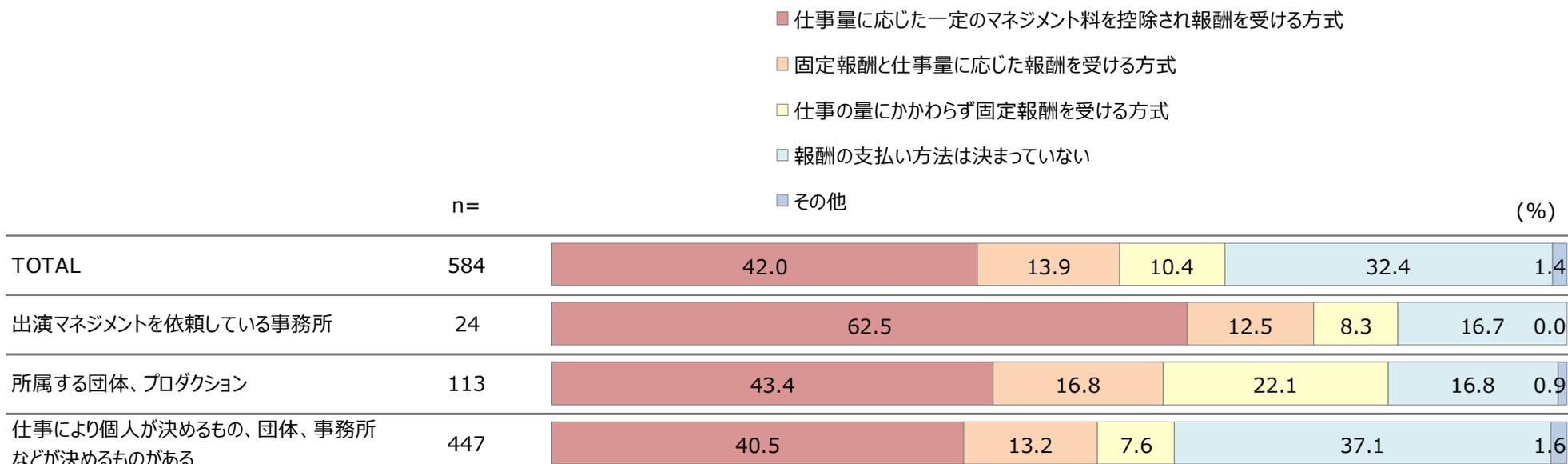
※n=30未満は参考値

(質問文)Q15 所属団体・事務所等からの個別の仕事に出演等した場合、報酬の支払方法はどのようなものですか。

16.報酬の支払方法(SA)

- 実施判断者別にみると、『所属する団体、プロダクション』で「■ 仕事の量にかかわらず固定報酬を受ける方式」が高く、2割を超える。

16-5.実施判断者別(SA)



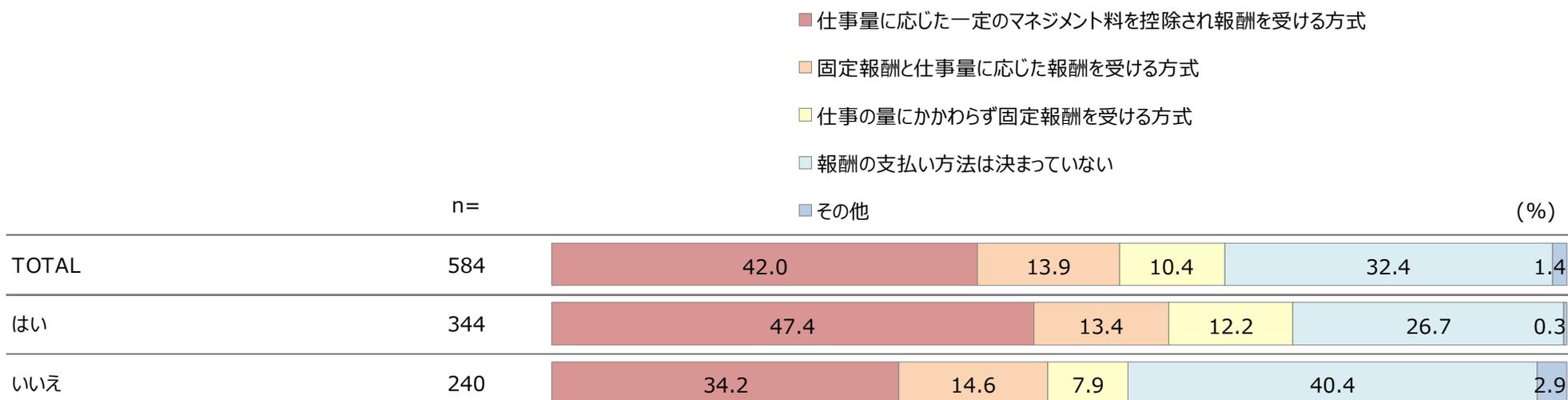
※n=30未満は参考値

(質問文)Q15 所属団体・事務所等からの個別の仕事に出演等した場合、報酬の支払方法はどのようなものですか。

16.報酬の支払方法(SA)

- 契約実施別にみると、『契約を行っている（はい）』で「■ 仕事量に応じた一定のマネジメント料を控除され報酬を受ける方式」が、5割近くと高い。

16-6.契約実施別(SA)

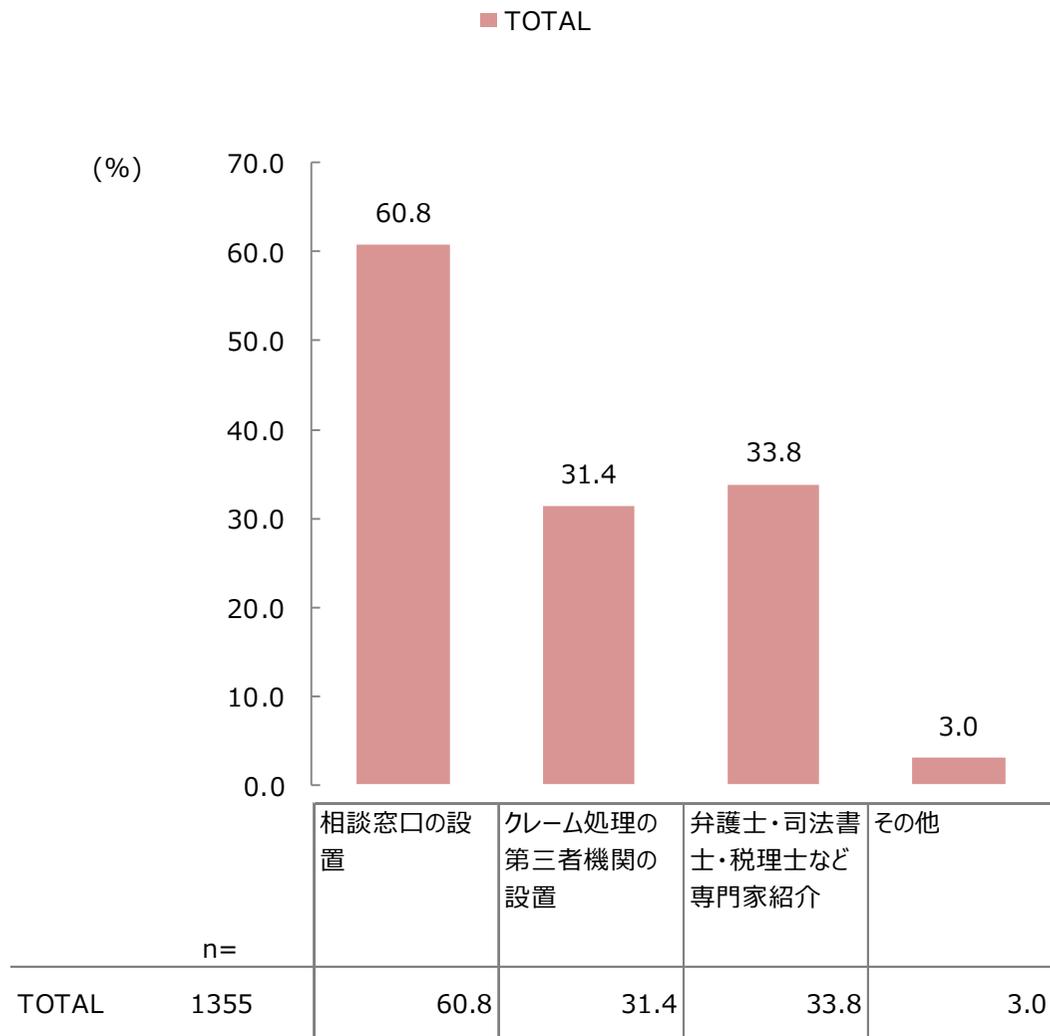


(質問文)Q15 所属団体・事務所等からの個別の仕事に出演等した場合、報酬の支払方法はどのようなものですか。

17.トラブル時の支援(MA)

- TOTALでは、「相談窓口の設置」が最も多く、60.8%。「弁護士・司法書士・税理士など専門家紹介」33.8%、「クレーム処理の第三者機関の設置」31.4%が続く。

17-1.TOTAL結果(MA)

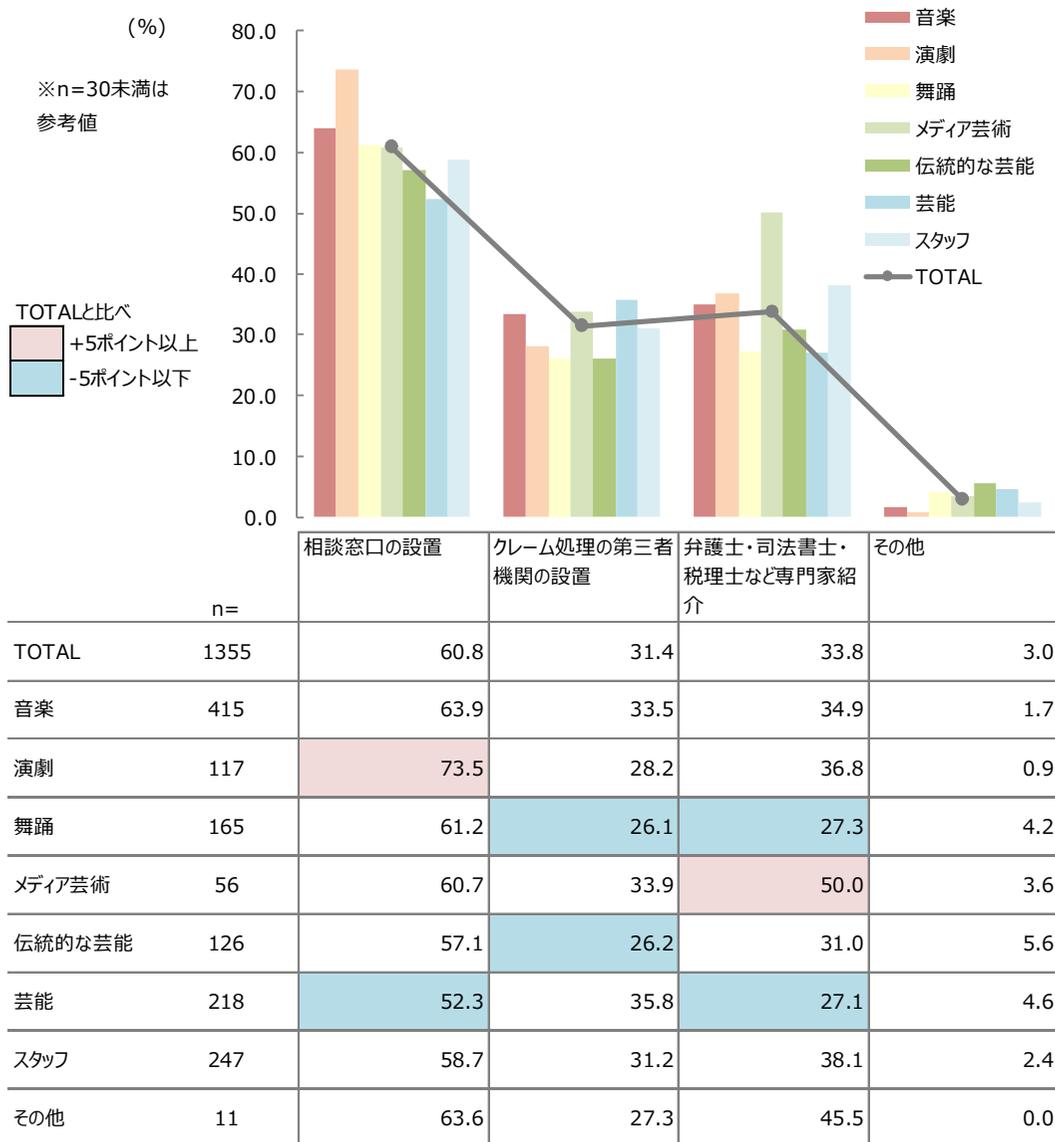


(質問文)Q16 トラブルが起こった場合、どのような支援があると助かりますか。

17.トラブル時の支援(MA)

- 活動領域別にみると、『演劇』で「相談窓口の設置」、『メディア芸術』で「弁護士・司法書士・税理士など専門家紹介」がTOTALより高い。

17-2.活動領域別(MA)

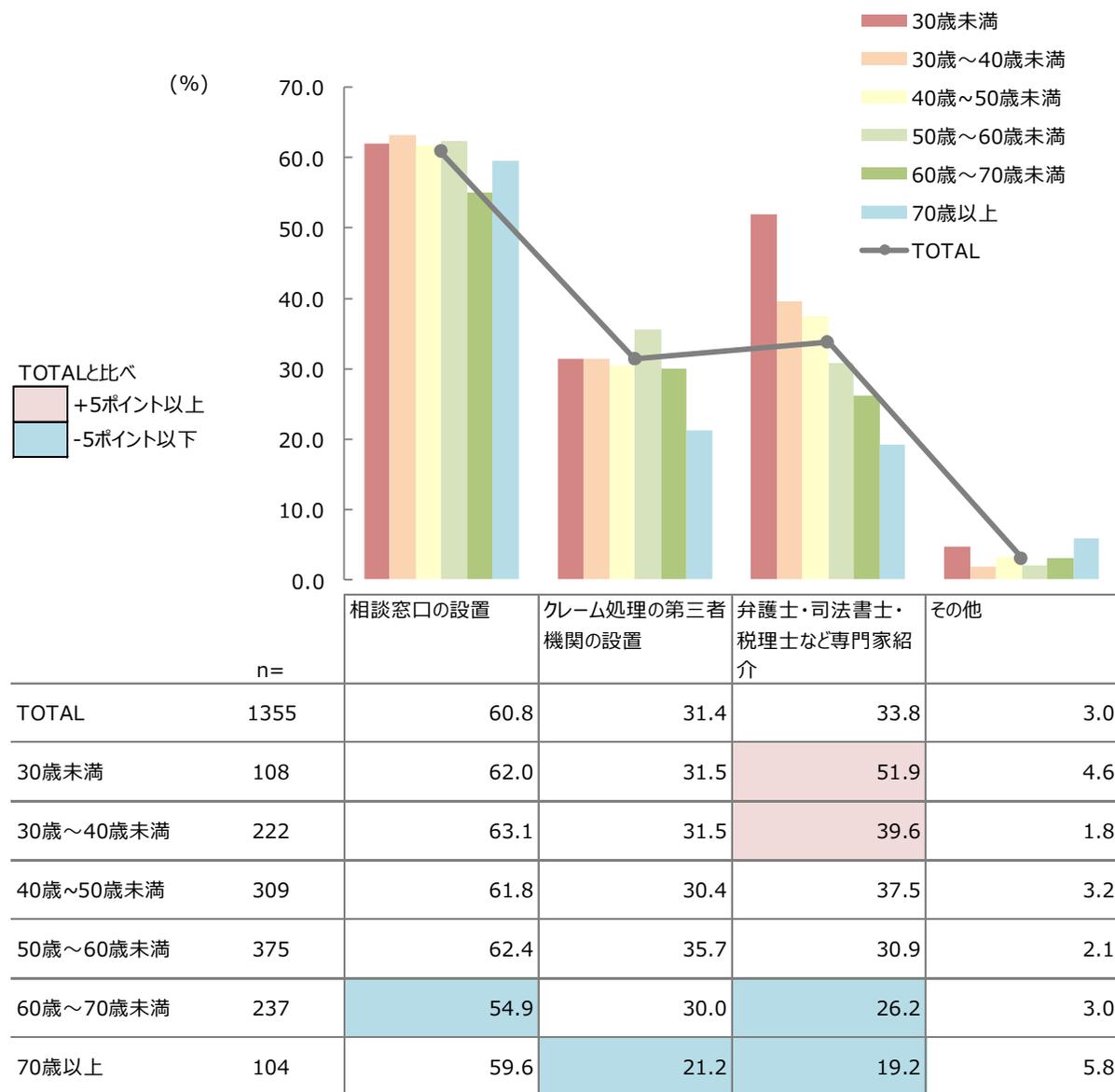


(質問文)Q16 トラブルが起こった場合、どのような支援があると助かりますか。

17.トラブル時の支援(MA)

- 年齢別にみると、30歳未満、30歳～40歳未満で、「弁護士・司法書士・税理士など専門家紹介」が高い。

17-3.年齢別(MA)

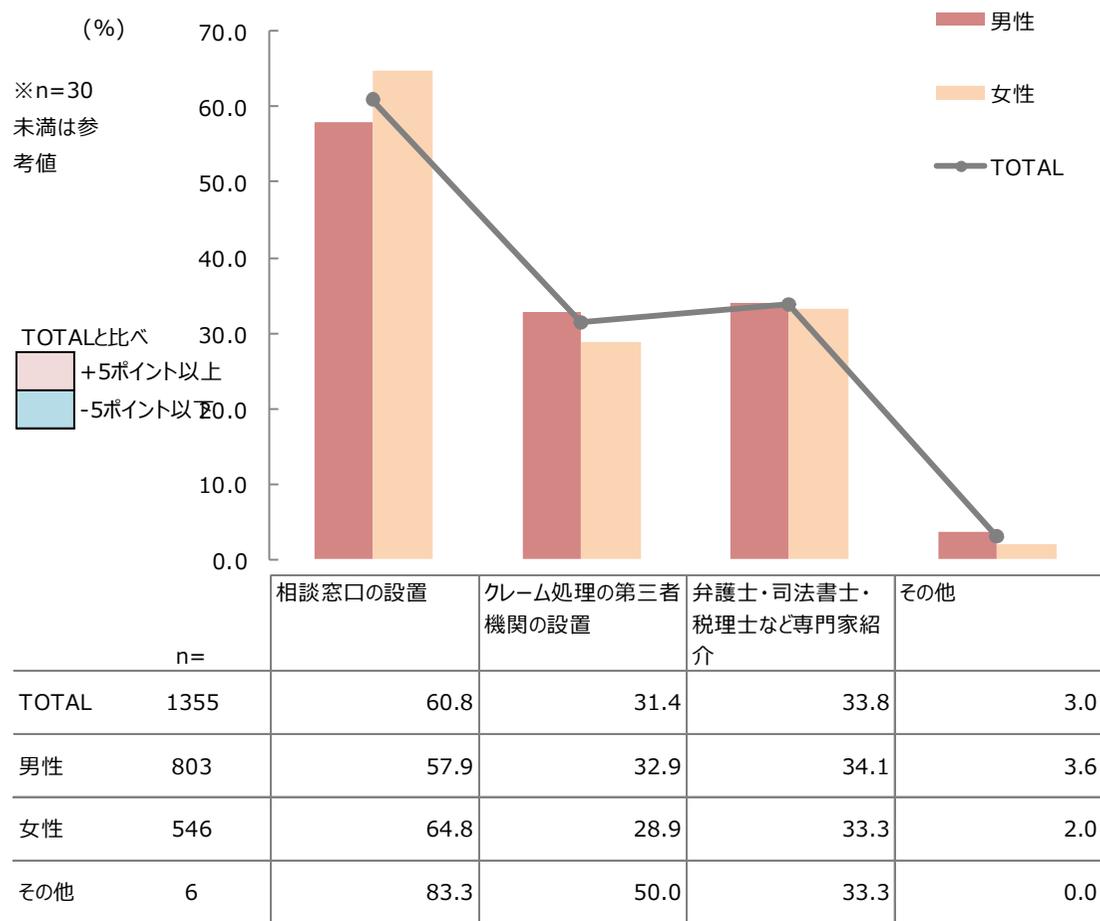


(質問文)Q16 トラブルが起こった場合、どのような支援があると助かりますか。

17.トラブル時の支援(MA)

- 性別にみると、女性で「相談窓口の設置」が64.8%と、男性に比べ高い。

17-4.性別(MA)

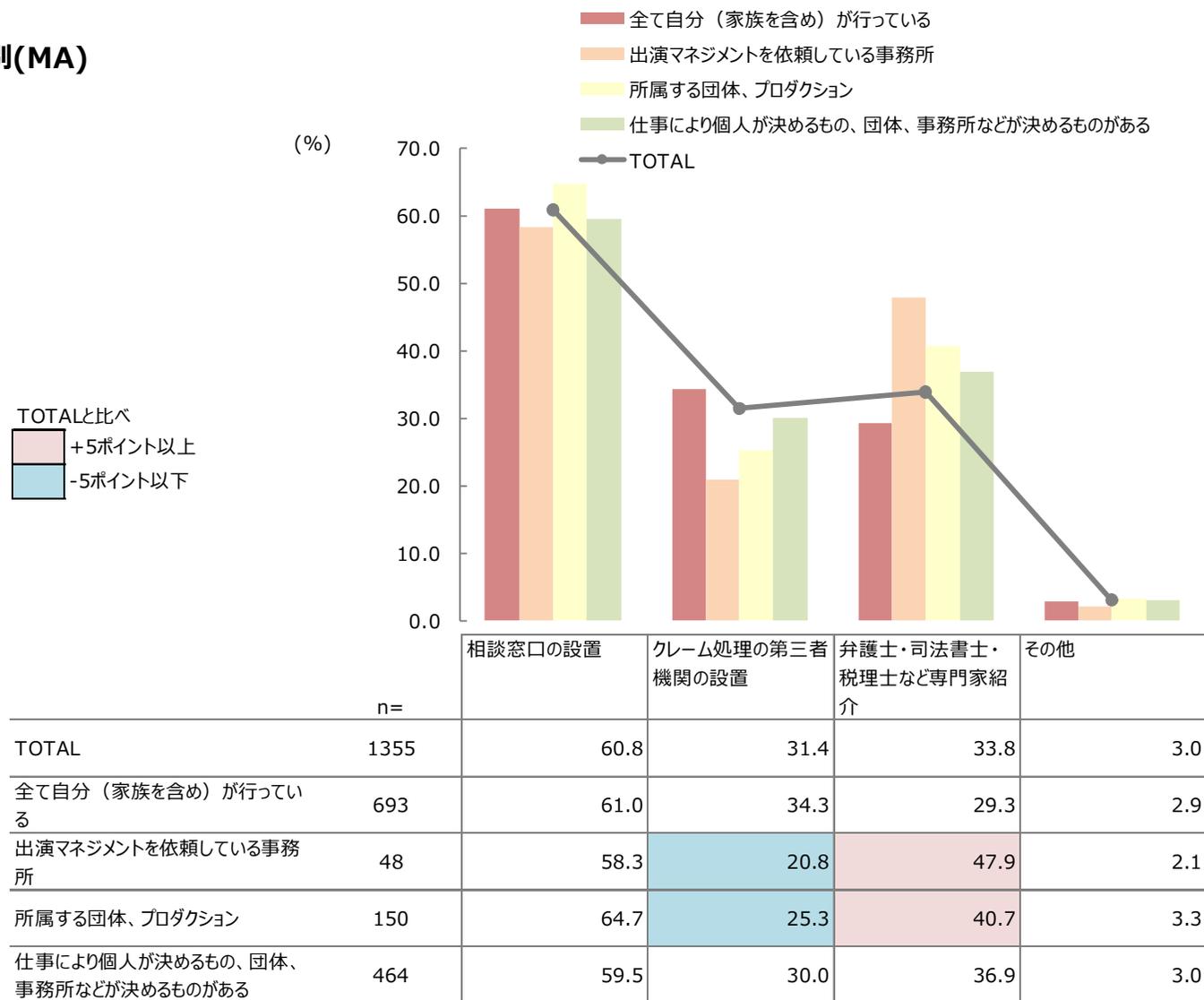


(質問文)Q16 トラブルが起こった場合、どのような支援があると助かりますか。

17.トラブル時の支援(MA)

- 実施判断者別にみると、『出演マネジメントを依頼している事務所』『所属する団体、プロダクション』で「弁護士・司法書士・税理士など専門家紹介」が高い。

17-5.実施判断者別(MA)

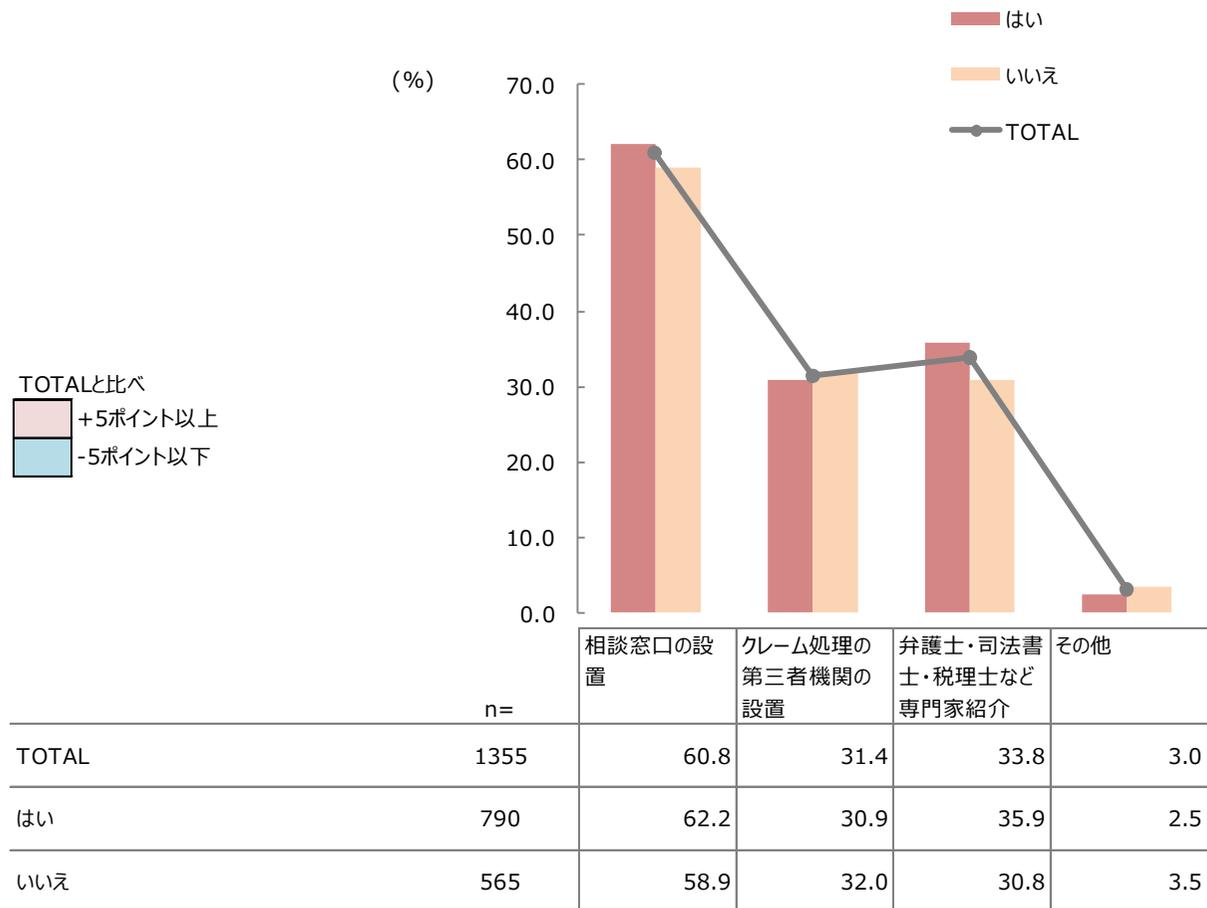


(質問文)Q16 トラブルが起こった場合、どのような支援があると助かりますか。

17.トラブル時の支援(MA)

- 契約実施別にみると、『契約を行っている（はい）』が「相談窓口の設置」「弁護士・司法書士・税理士など専門家紹介」がやや高い。

17-6.契約実施別(MA)

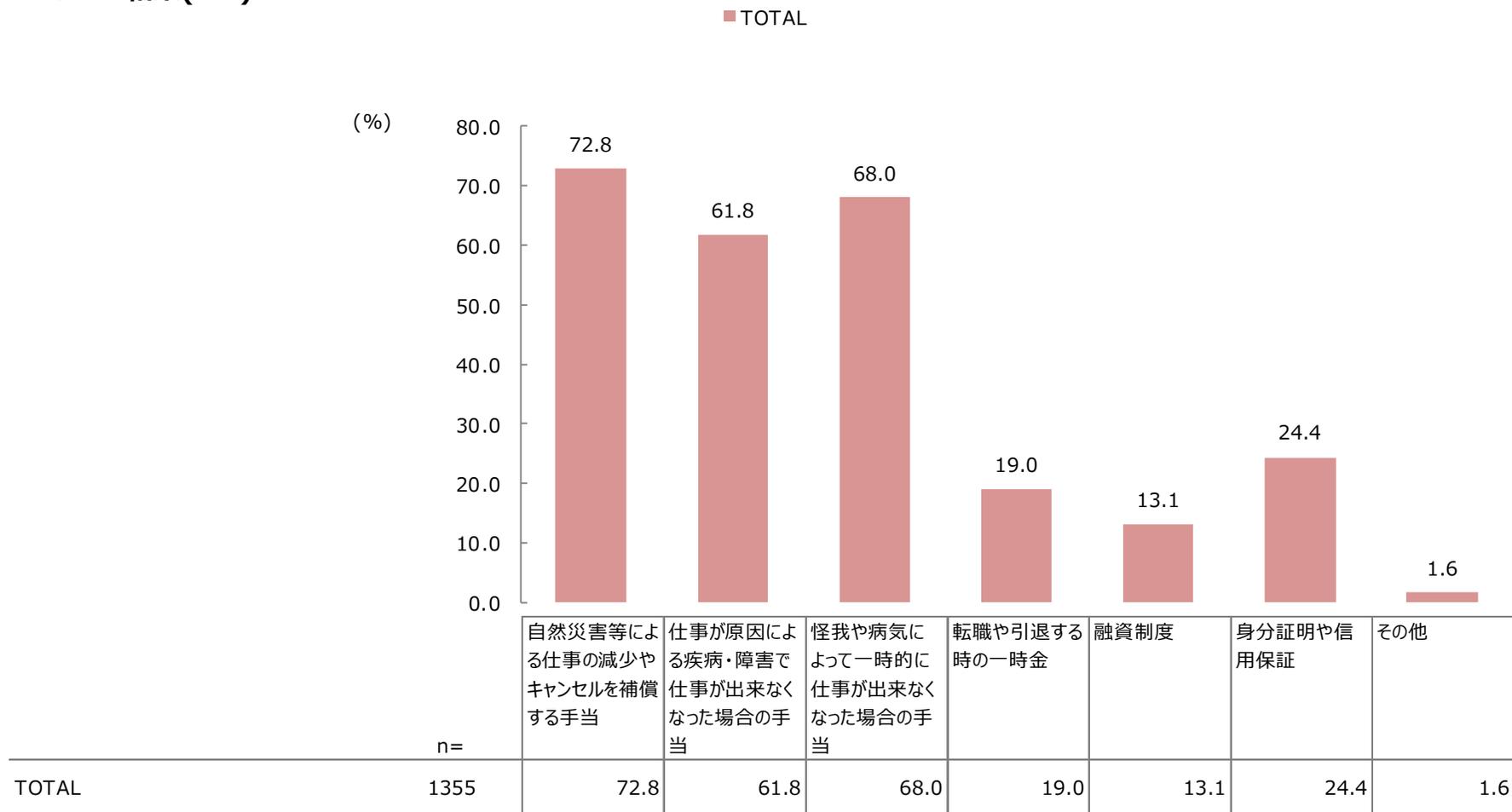


(質問文)Q16 トラブルが起こった場合、どのような支援があると助かりますか。

18.必要な手当(MA)

- TOTALでは、「自然災害等による仕事の減少やキャンセルを補償する手当」が最も多く、72.8%。「怪我や病気によって一時的に仕事が出来なくなった場合の手当」68.0%、「仕事が原因による疾病・障害で仕事が出来なくなった場合の手当」61.8%が続く。

18-1.TOTAL結果(MA)

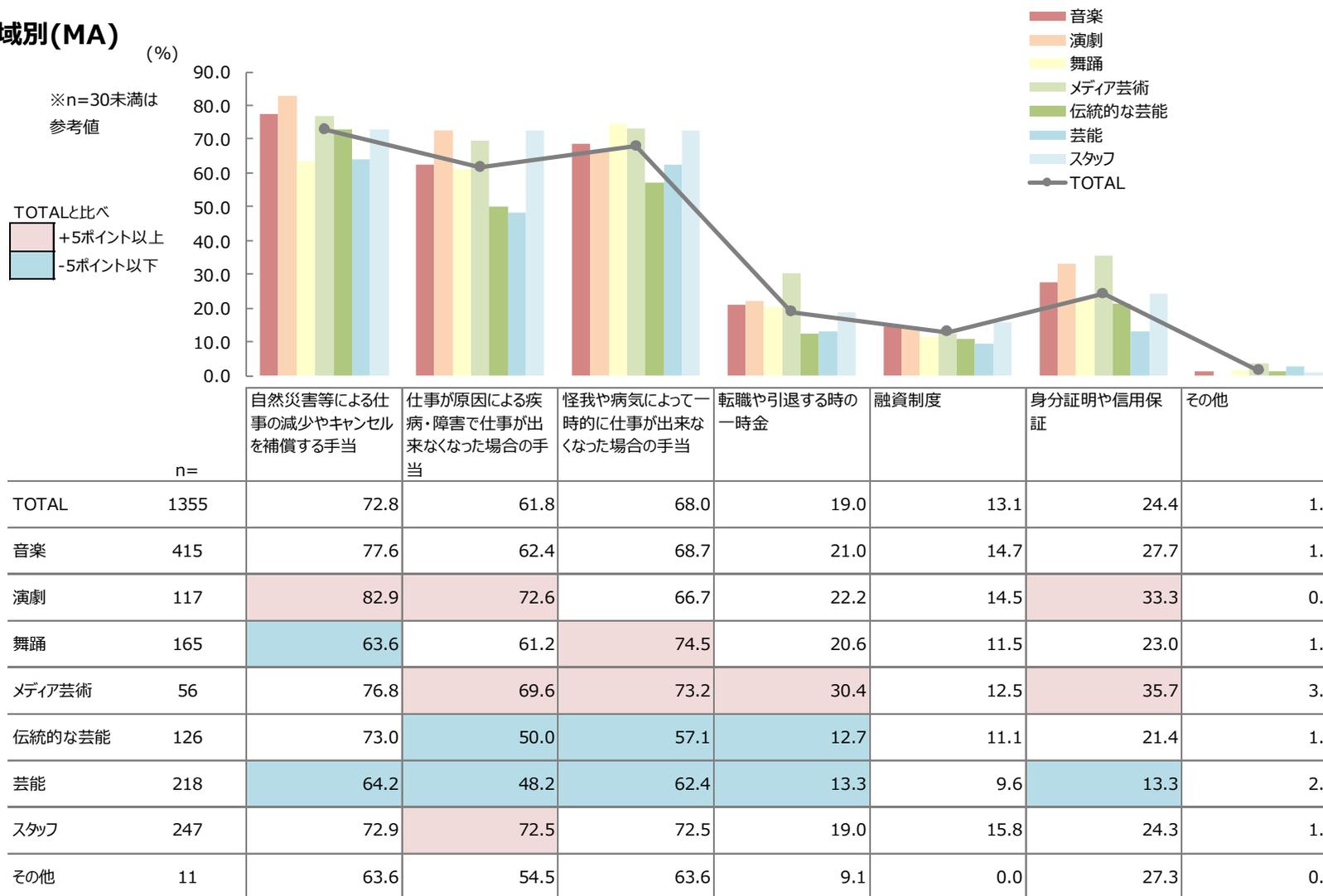


(質問文)Q17 自然災害、怪我や病気などによる収入減少を補うなどこの仕事を安心して続けるため、共済・保険制度を創設する場合、どのような手当が必要ですか。

18.必要な手当(MA)

- 活動領域別にみると、『演劇』では、「自然災害等による仕事の減少やキャンセルを補償する手当」、「仕事が原因による疾病・障害で仕事が出来なくなった場合の手当」、「身分証明や信用保証」が高い。、『メディア芸術』では「仕事が原因による疾病・障害で仕事が出来なくなった場合の手当」、「怪我や病気によって一時的に仕事が出来なくなった場合の手当」、「転職や引退する時の一時金」「身分証明や信用保証」が高い。『舞踊』では、「怪我や病気によって一時的に仕事が出来なくなった場合の手当」がたかく、『スタッフ』では「仕事が原因による疾病・障害で仕事が出来なくなった場合の手当」が高くなっている。

18-2.活動領域別(MA)

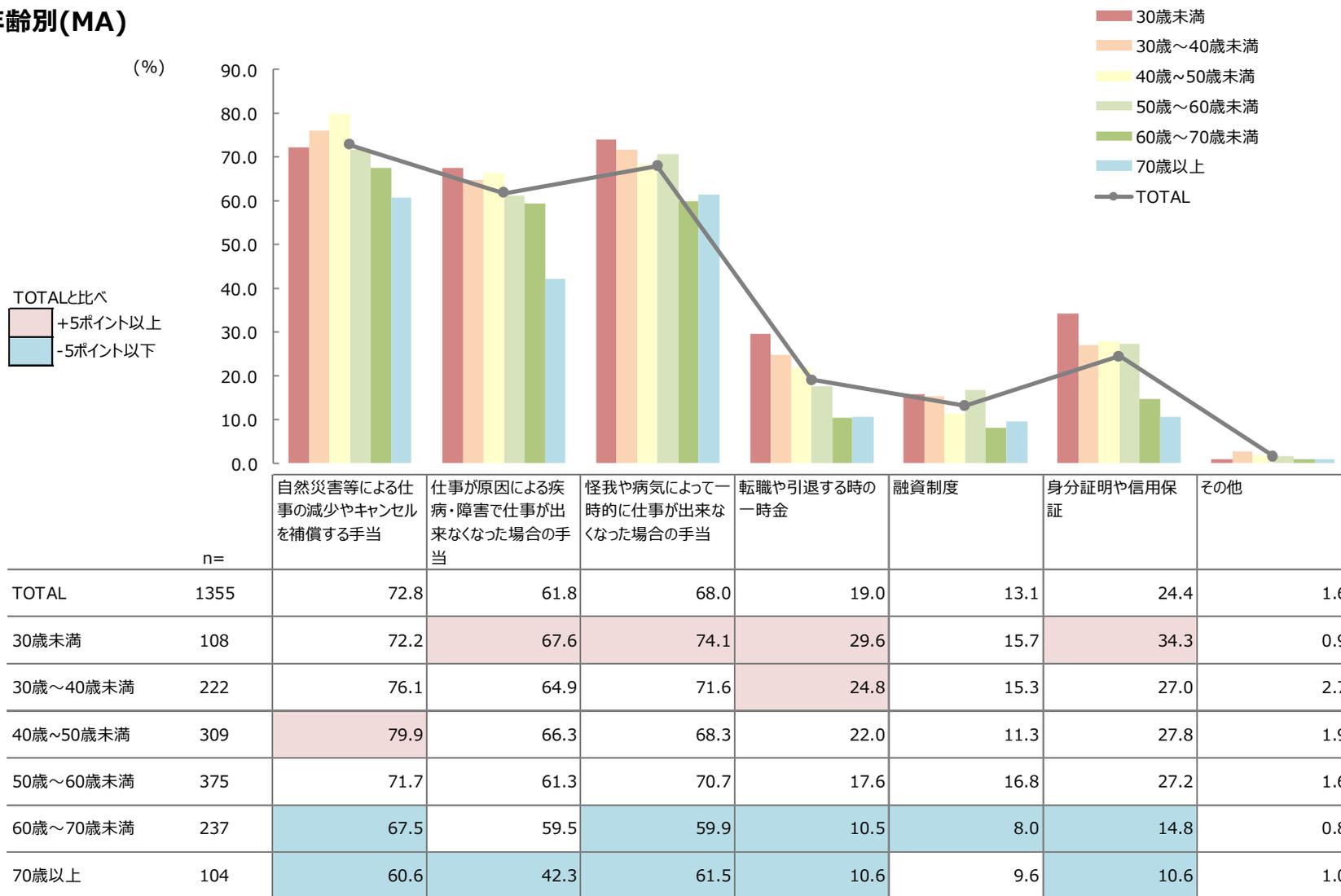


(質問文)Q17 自然災害、怪我や病気などによる収入減少を補うなどこの仕事を安心して続けるため、共済・保険制度を創設する場合、どのような手当が必要ですか。

18.必要な手当(MA)

- 年齢別にみると、40歳～50歳未満で「自然災害等による仕事の減少やキャンセルを補償する手当」が高い。30歳未満ではほぼすべての項目がTOTALより高い。30歳～40歳未満では「転職や引退する時の一時金」が高い。

18-3.年齢別(MA)

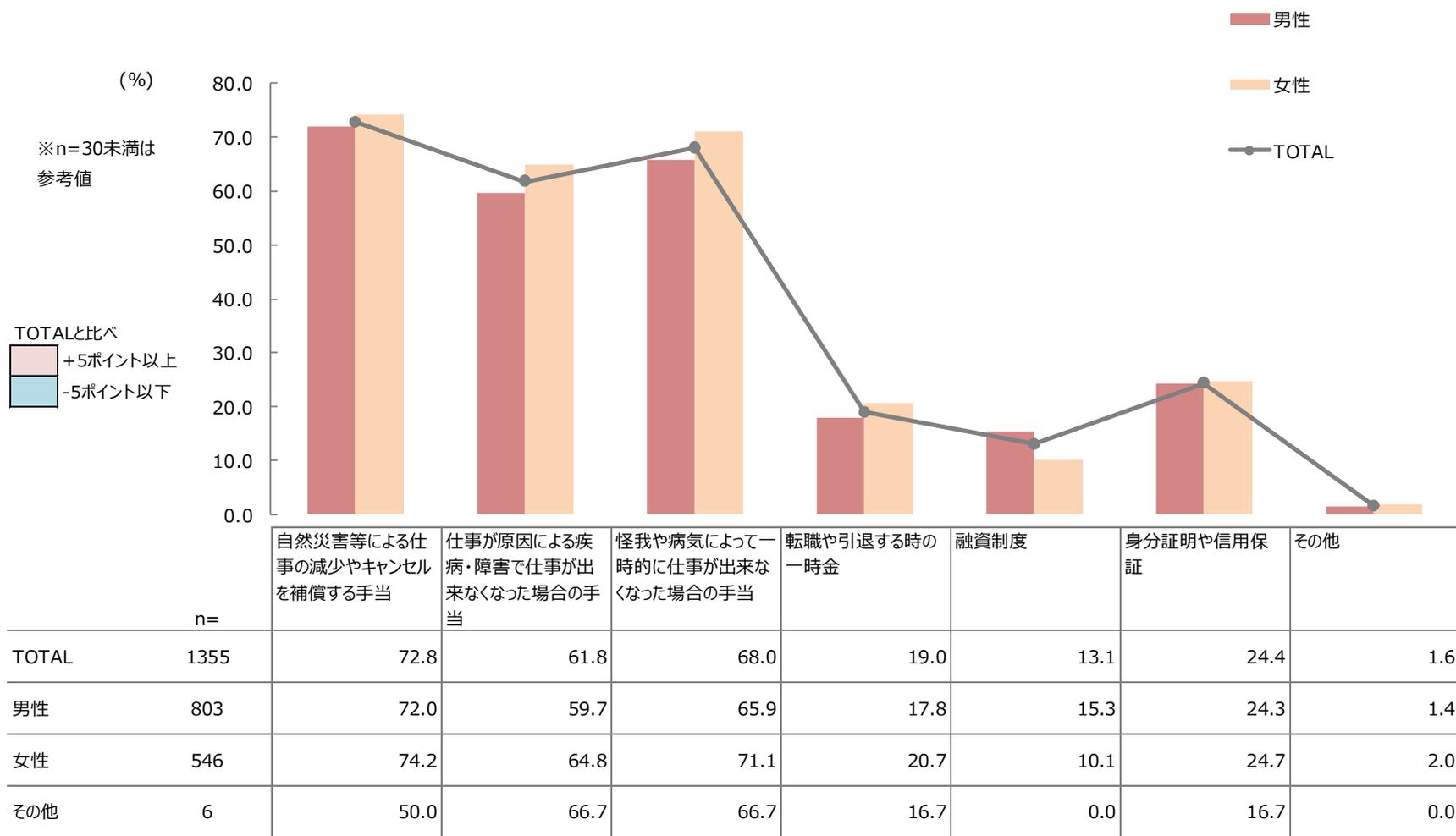


(質問文)Q17 自然災害、怪我や病気などによる収入減少を補うなどこの仕事を安心して続けるため、共済・保険制度を創設する場合、どのような手当が必要ですか。

18.必要な手当(MA)

- 性別にみると、女性で「怪我や病気によって一時的に仕事が出来なくなった場合の手当」「仕事が原因による疾病・障害で仕事が出来なくなった場合の手当」が、男性に比べ高い。

18-4.性別(MA)

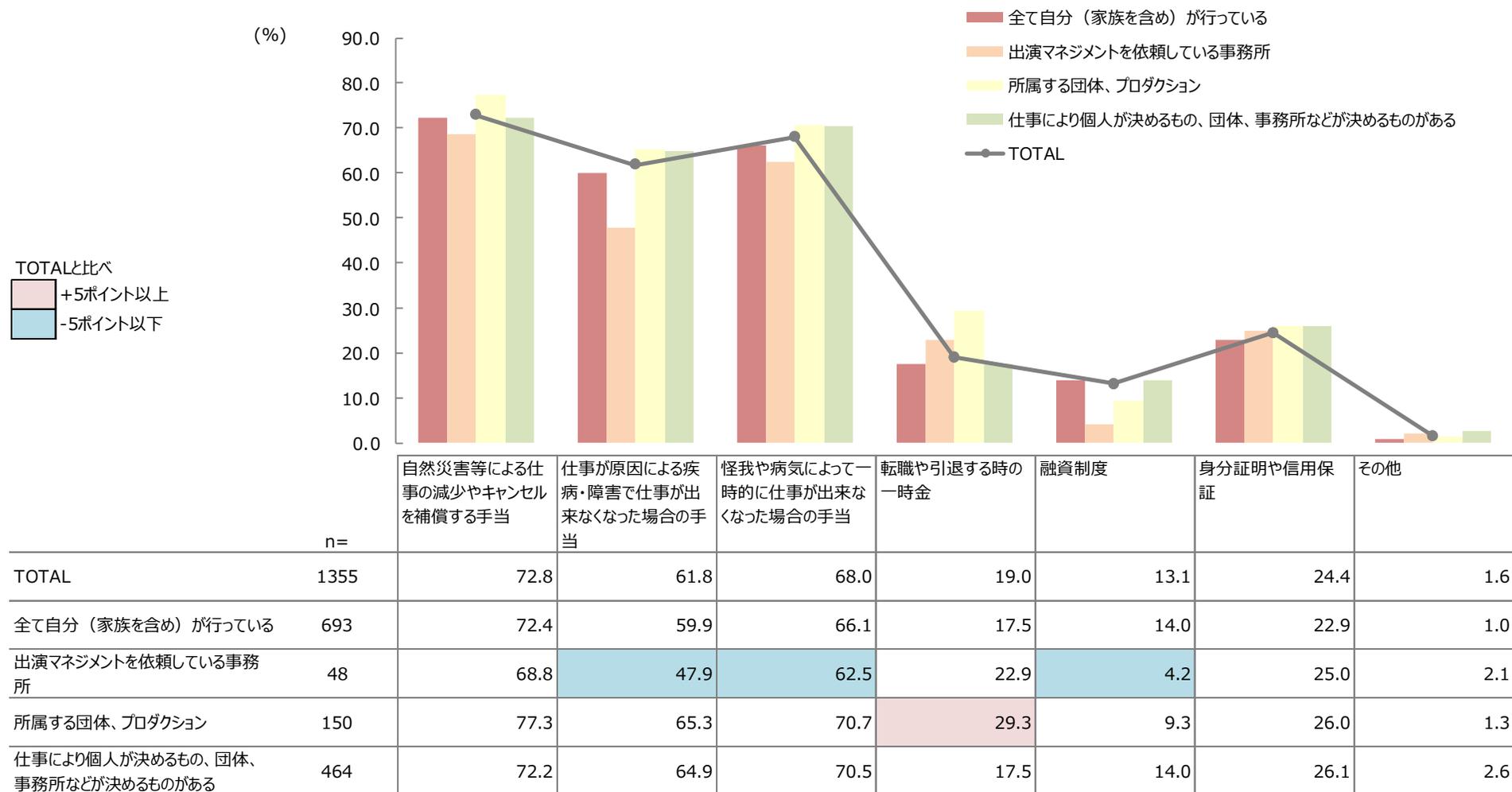


(質問文)Q17 自然災害、怪我や病気などによる収入減少を補うなどこの仕事を安心して続けるため、共済・保険制度を創設する場合、どのような手当が必要ですか。

18.必要な手当(MA)

- 実施判断者別にみると、『所属する団体、プロダクション』で「転職や引退する時の一時金」が29.3%と高い。

18-5.実施判断者別(MA)

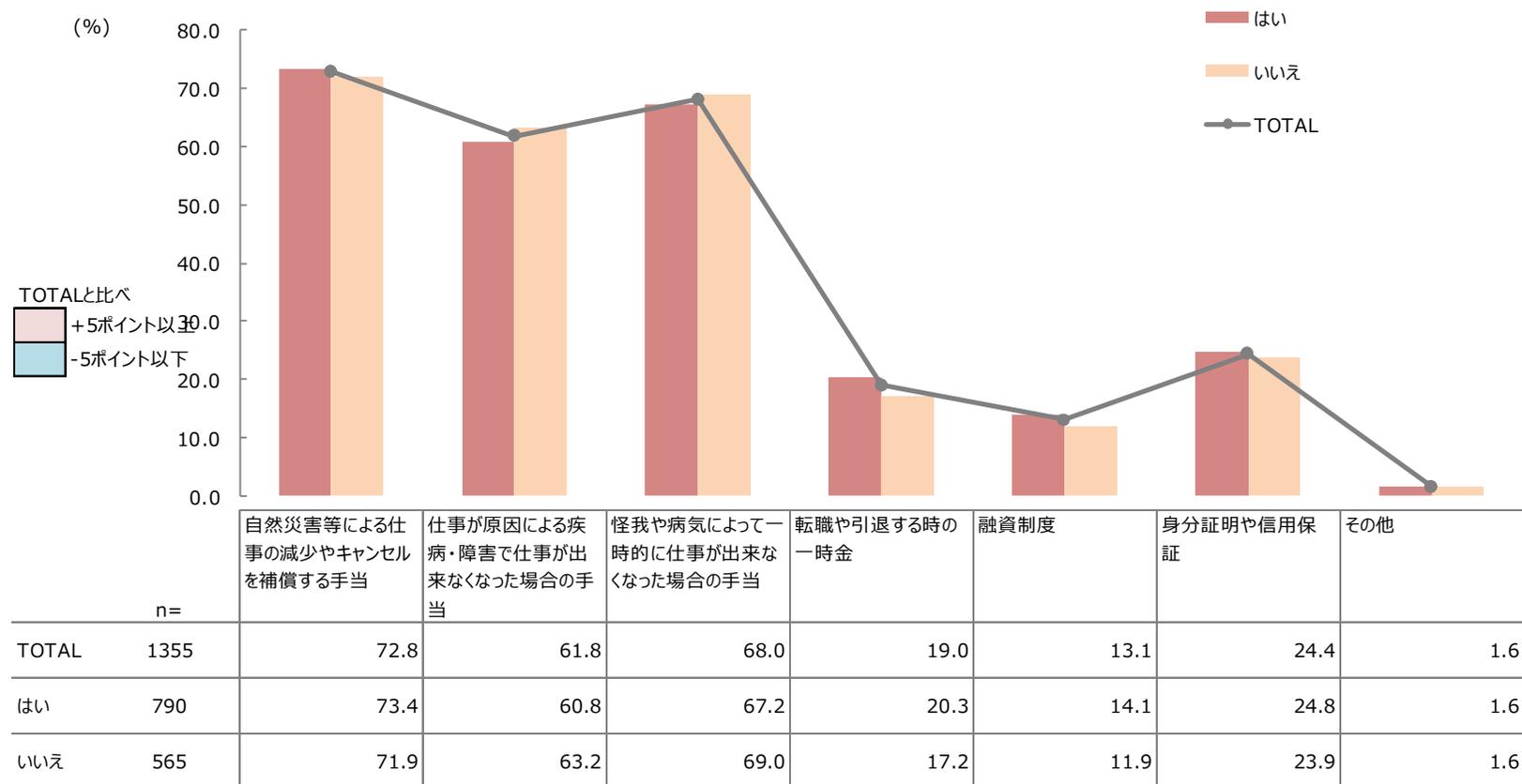


(質問文)Q17 自然災害、怪我や病気などによる収入減少を補うなどこの仕事を安心して続けるため、共済・保険制度を創設する場合、どのような手当が必要ですか。

18.必要な手当(MA)

- 契約実施別にみると、契約を行っているかないかで大きな差はみられない。

18-6.契約実施別(MA)



(質問文)Q17 自然災害、怪我や病気などによる収入減少を補うなどこの仕事を安心して続けるため、共済・保険制度を創設する場合、どのような手当が必要ですか。

19.活動領域(SA)

- TOTALでは、「音楽」が最も多く、30.6%。「スタッフ」18.2%、「芸能」16.1%が続く。

19-1.TOTAL結果(SA)



(質問文)Q18 あなたの主な芸術の活動領域をお答えください。あなた自身のことについて教えてください。

20.年齢(SA)

- TOTALでは、「50歳～60歳未満」が最も多く、27.7%。「40歳～50歳未満」22.8%、「60歳～70歳未満」17.5%が続く。

20-1.TOTAL結果(SA)



	n=								(%)
TOTAL	1355	0.4	7.6	16.4	22.8	27.7	17.5	7.7	

※クロス分析では以下の区分を利用



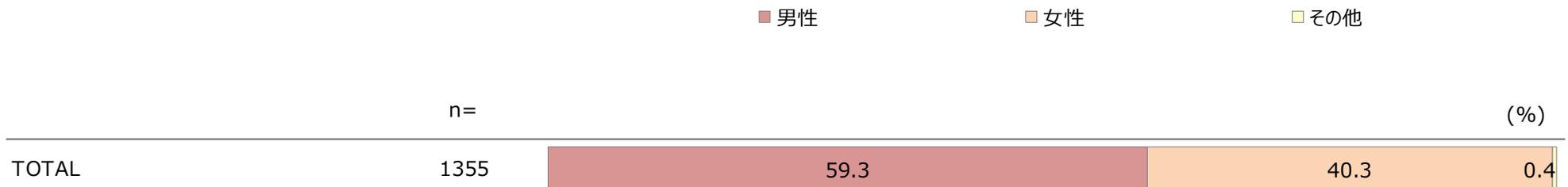
	n=							(%)
TOTAL	1355	8.0	16.4	22.8	27.7	17.5	7.7	

(質問文)Q19 年齢についてお答えください。

21.性別(SA)

- TOTALでは、「男性」が最も多く、59.3%。「女性」40.3%が続く。

21-1.TOTAL結果(SA)



(質問文)Q20 性別についてお答えください。

Ⅱ 結果概要

(2) 芸術団体・事業者〈団体〉

調査項目（クロス結果）一覧表

	活動領域別 Q8	年間事業規模別 Q9	法人格別 Q10	活動継続、組織維持 のために行ったこと別 Q4_1	活動継続、組織維持 のために行った中で効 果的だったこと別 Q4_2
1.活動状況 Q1	○	○	○	—	—
2.事業収入の変化 Q2Z1	○	○	○	—	—
3.観客数の変化 Q3Z1	○	○	○	—	—
4.活動継続、組織維持のため行ったこと Q4_1	○	○	○	—	—
4.活動継続、組織維持のため行ったことの中で効果的だったこと Q4_2	○	○	○	—	—
5.正味財産の変化 Q5	○	○	○	○	○
6.必要な手当 Q6	○	○	○	○	○
7.回復見込み Q7	○	○	○	—	—

1.活動状況(SA)

- TOTALでは、「■ 2020年は激減し、2021年も減ったままである」が最も多く、36.5%。「■ 2020年は激減したが、2019年と比べて2021年は半減程度になった」23.3%、「■ 2020年は激減したが、2021年はかなり復調してきた」22.6%が続く。

1-1.TOTAL結果(SA)

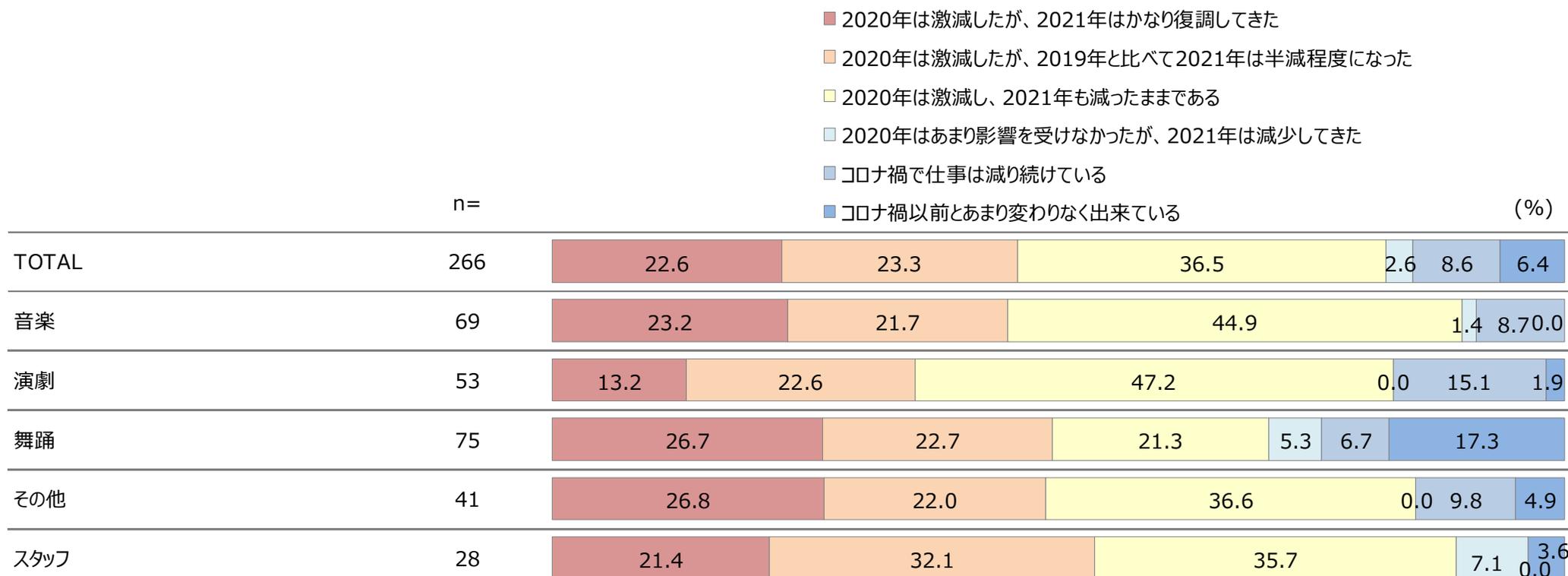


(質問文) Q1 この20か月(2020年3月～2021年10月)の活動の状況についてお答えください。

1.活動状況(SA)

- 活動領域別にみると、『演劇』、『音楽』で「■ 2020年は激減し、2021年も減ったままである」が高く、4割を超える。一方で、『舞踊』では「■ コロナ禍以前とあまり変わりがなく出来ている」が2割近くと高い。

1-2.活動領域別(SA)



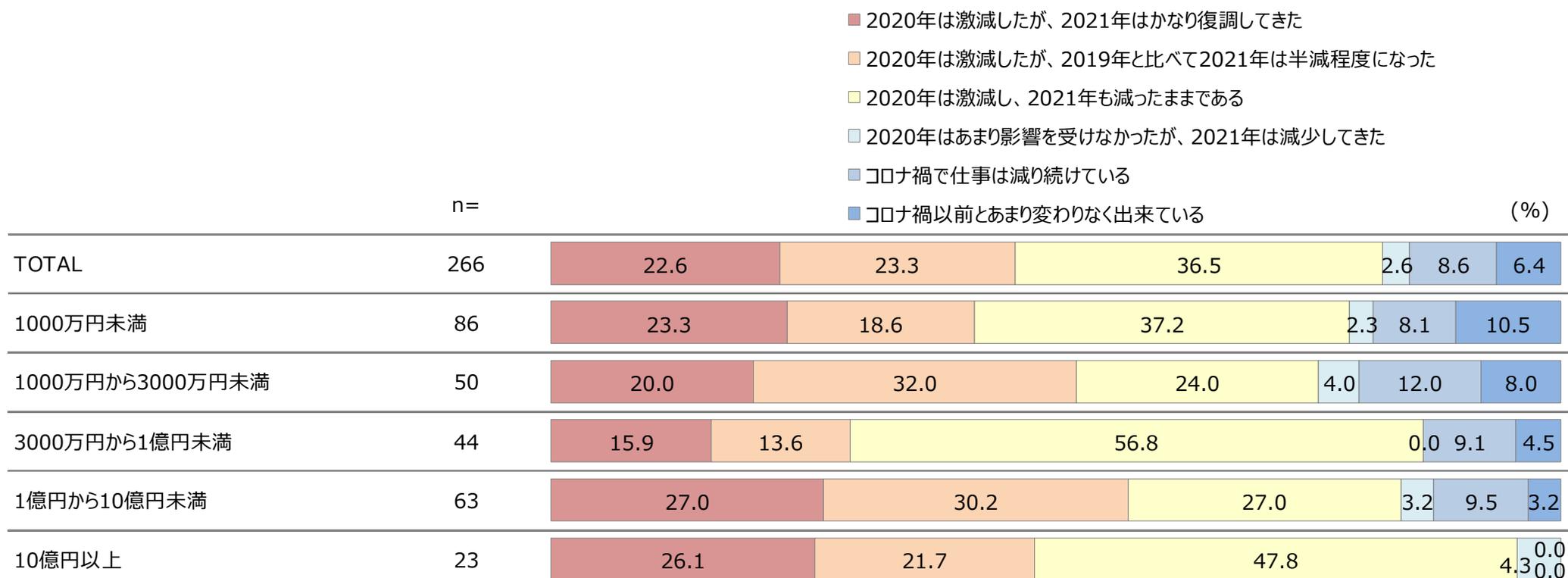
※n=30未満は参考値

(質問文) Q1 この20か月(2020年3月～2021年10月)の活動の状況についてお答えください。

1.活動状況(SA)

- 年間事業規模別にみると、3000万円から1億円未満では「■ 2020年は激減し、2021年も減ったままである」が最も高く5割を超える。1000万円から3000万円未満、1億円から10億円未満では「■ 2020年は激減したが、2019年と比べて2021年は半減程度になった」が高く、3割を超える。

1-3.年間事業規模別(SA)



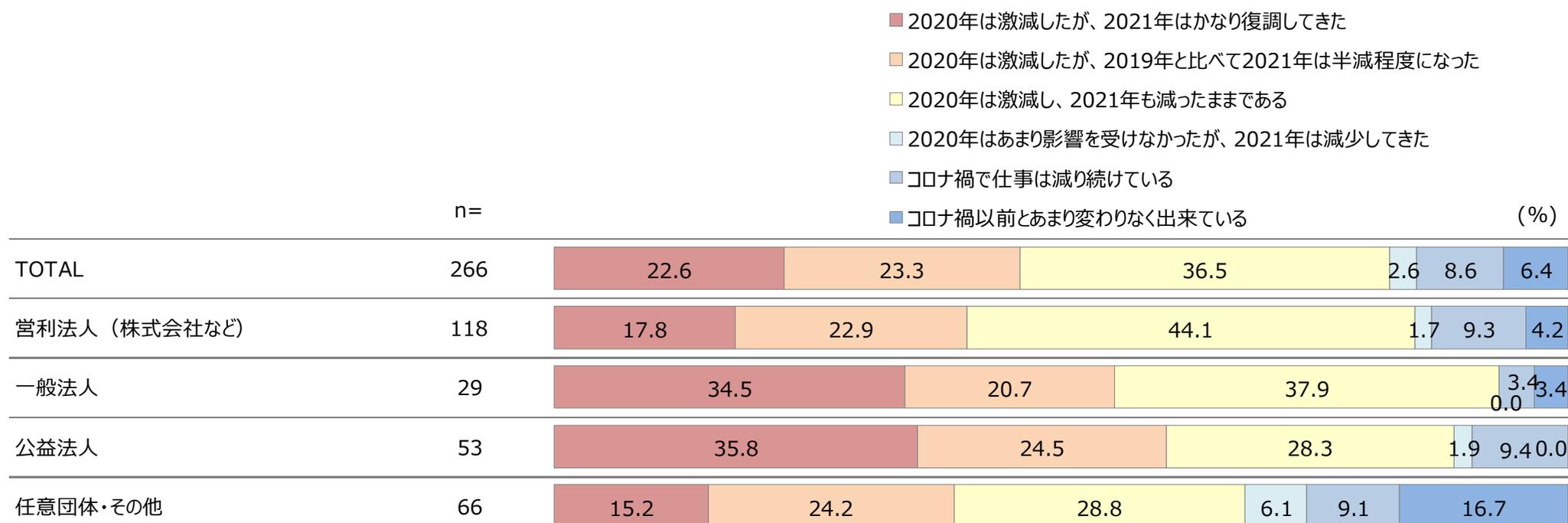
※n=30未満は参考値

(質問文) Q1 この20か月(2020年3月～2021年10月)の活動の状況についてお答えください。

1.活動状況(SA)

- 法人格別にみると、営利法人（株式会社など）で「■ 2020年は激減し、2021年も減ったままである」が4割を超える。一般法人（一般社団法人、一般財団法人）、公益法人（公益社団法人、公益財団法人）では「■ 2020年は激減したが、2021年はかなり復調してきた」が高く、3割を超える。

1-4.法人格別(SA)



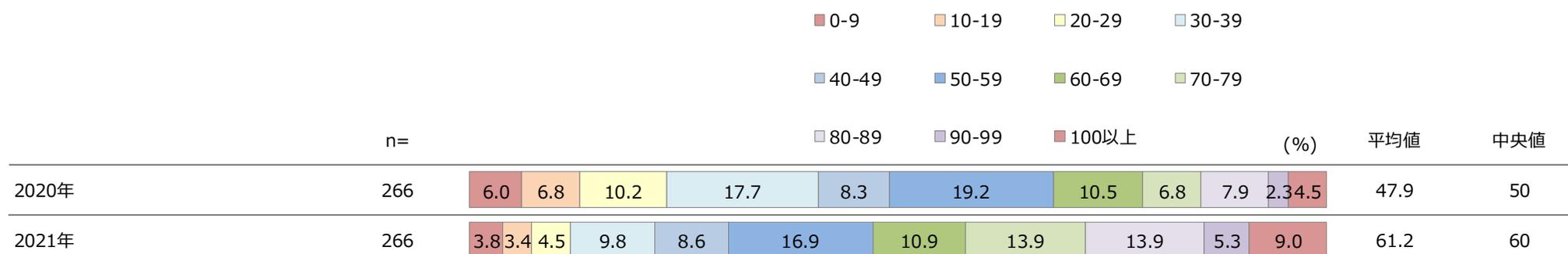
※n=30未満は参考値

(質問文) Q1 この20か月(2020年3月～2021年10月)の活動の状況についてお答えください。

2.事業収入の変化(SA)

- 2020年は、「50-59」が最も多く、19.2%。「30-39」17.7%、「60-69」10.5%が続く。2021年は、「55-59」が最も多く16.9%。「70-79」「80-89」がともに13.9%と続く。
- 2021年は、2020年よりも平均値が61.2で13.3ポイント高く、中央値は60で10ポイント向上している。

2-1.TOTAL結果(SA)

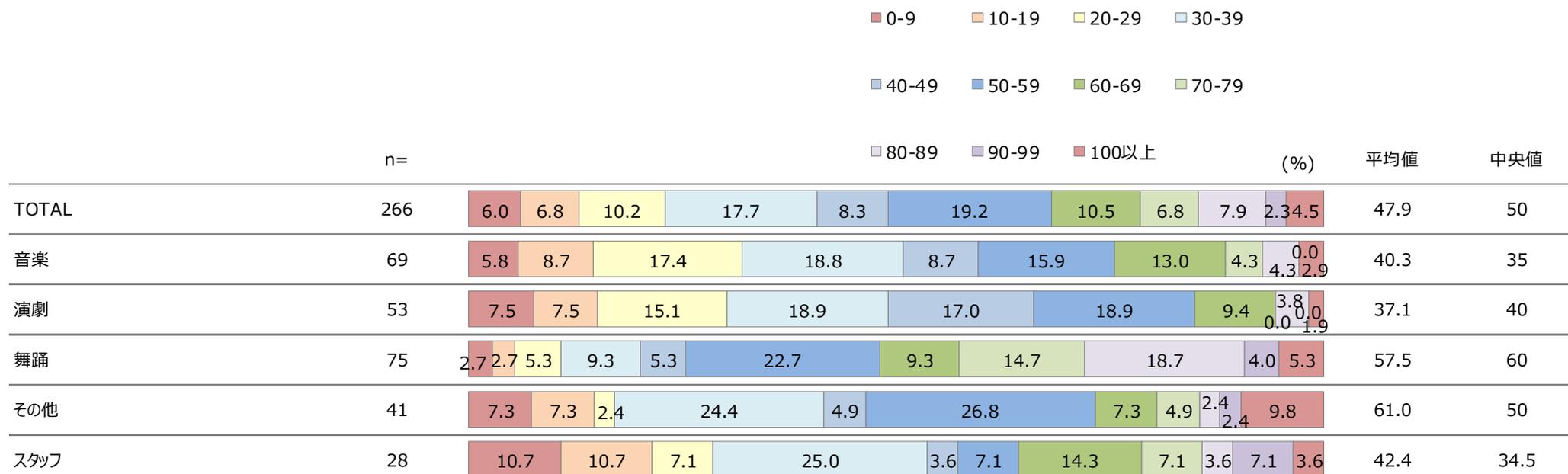


(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の事業収入変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。

2.事業収入の変化(2020年)(SA)

- 活動領域別にみると、『舞踊』で平均値が57.5、中央値が60と高い。

2-2.活動領域別(SA)



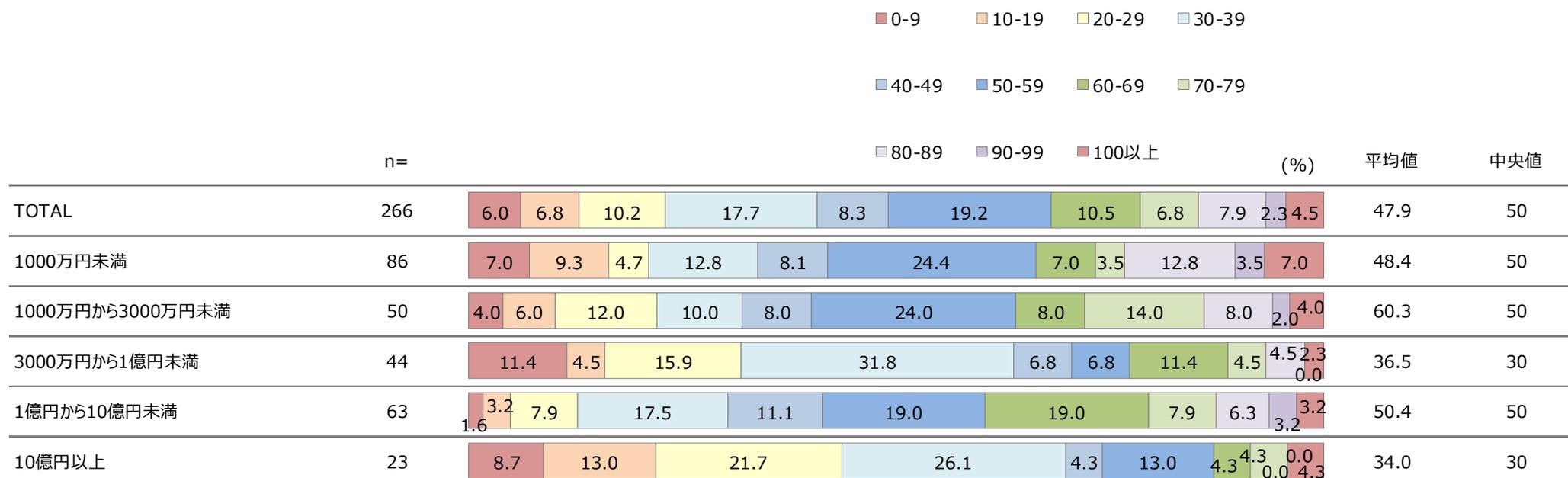
※n=30未満は参考値

(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の事業収入変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。

2.事業収入の変化(2020年)(SA)

- 年間事業規模別にみると、1000万円から3000万円未満では、平均値が60を超える。

2-3.年間事業規模別(SA)



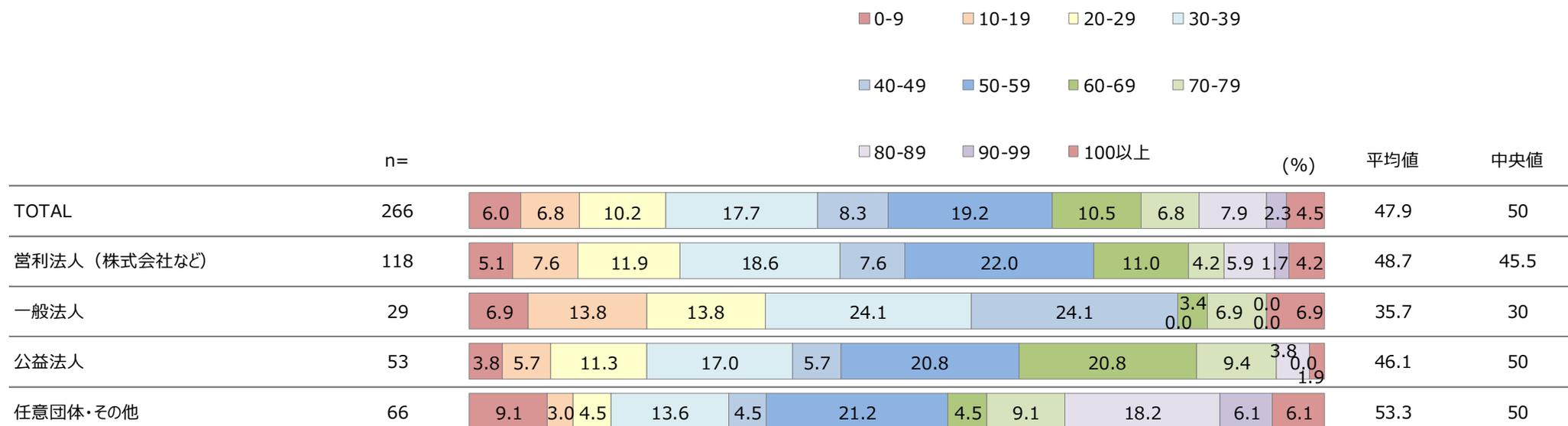
※n=30未満は参考値

(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の事業収入変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。

2.事業収入の変化(2020年)(SA)

- 法人格別にみると、公益法人（公益社団法人、公益財団法人）で「60-69」が20.8と割合が高い。任意団体・その他では「80-89」で18.2と2割近い。

2-4.法人格別(SA)



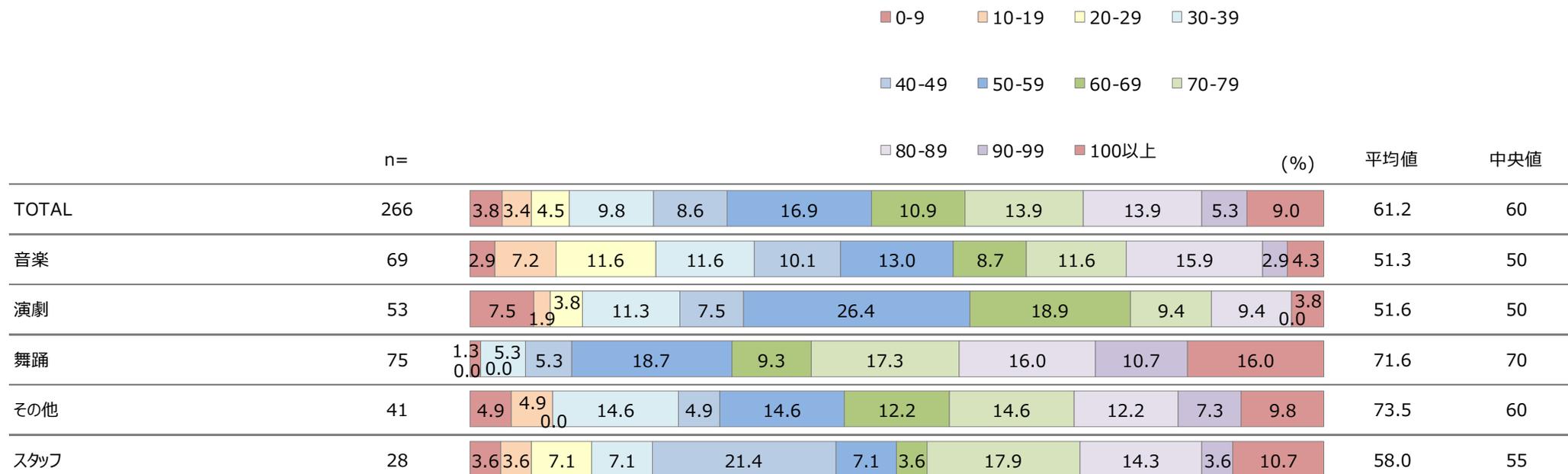
※n=30未満は参考値

(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の事業収入変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。

2.事業収入の変化(2021年)(SA)

- 活動領域別にみると、『舞踊』で平均値が71.6、中央値が70と高い。

2-5.活動領域別(SA)



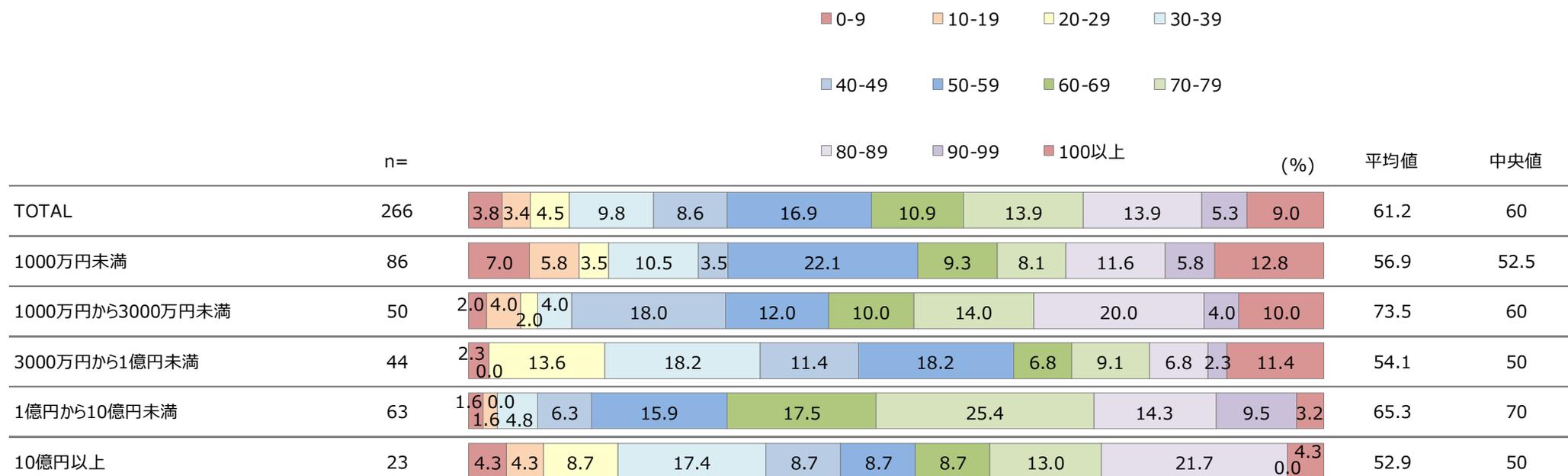
※n=30未満は参考値

(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の事業収入変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。

2.事業収入の変化(2021年)(SA)

- 年間事業規模別にみると、1000万円から3000万円未満では、平均値が70を超える。

2-6.年間事業規模別(SA)



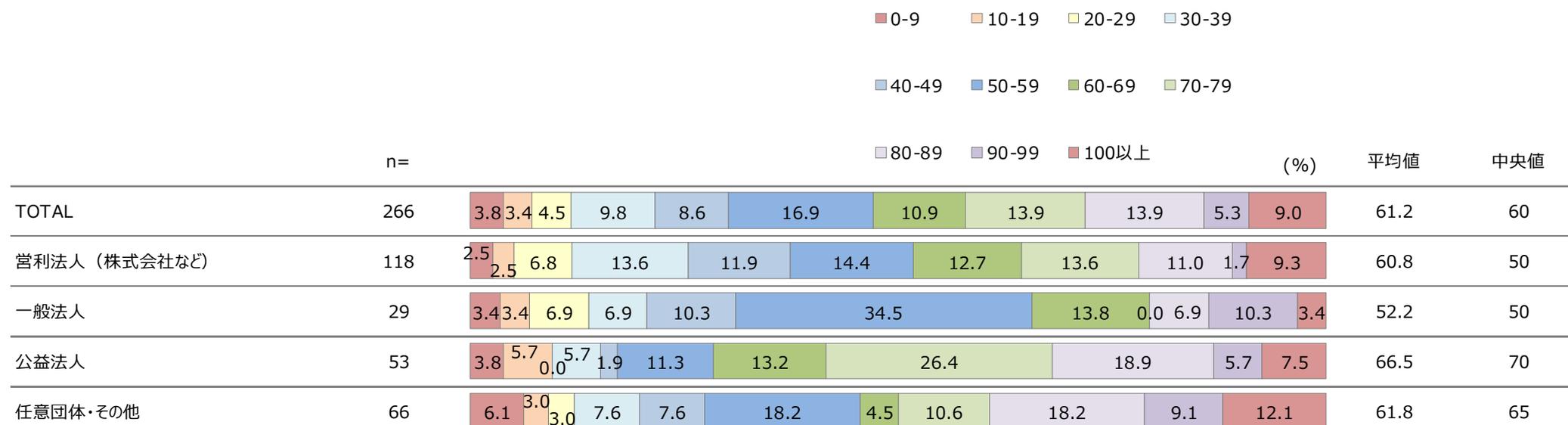
※n=30未満は参考値

(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の事業収入変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。

2.事業収入の変化(2021年)(SA)

- 法人格別にみると、公益法人（公益社団法人、公益財団法人）で平均値が66.5、中央値が70と高い。

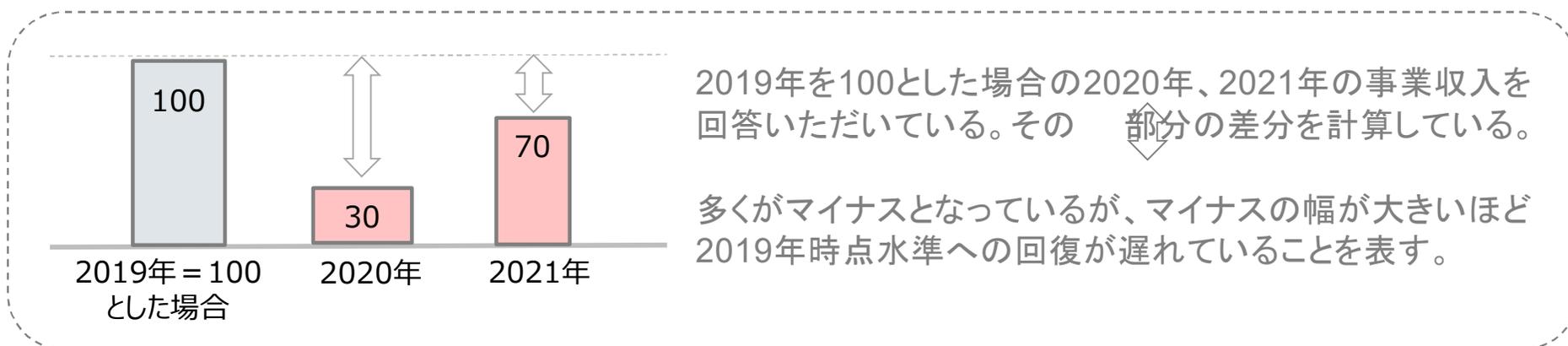
2-7.法人格別(SA)



※n=30未満は参考値

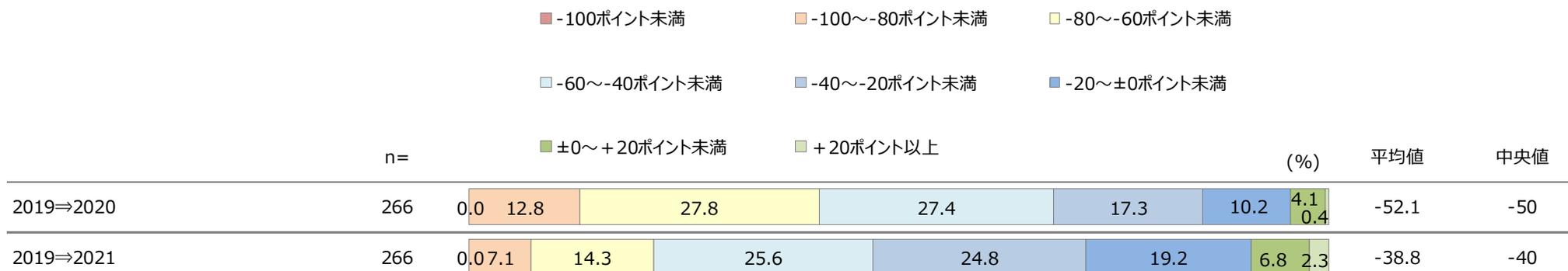
(質問文) Q2 2020年から2021年、芸術活動の事業収入変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。

2. [指数変化]事業収入の変化(SA)



- 『2019⇒2020』の平均値は-52.1ポイントで、「-100～ -80ポイント未満」「-80～-60ポイント未満」がそれぞれ3割近い。『2019⇒2021』の平均値は-38.8ポイントで、『2019⇒2020』よりマイナス幅は縮小。「-80～-60ポイント未満」25.6%、「-60～-40ポイント未満」24.8%と続く。
- 『2019⇒2021』は、『2019⇒2020』に比べ、平均値、中央値共に上昇している。

2-8.TOTAL結果(SA)

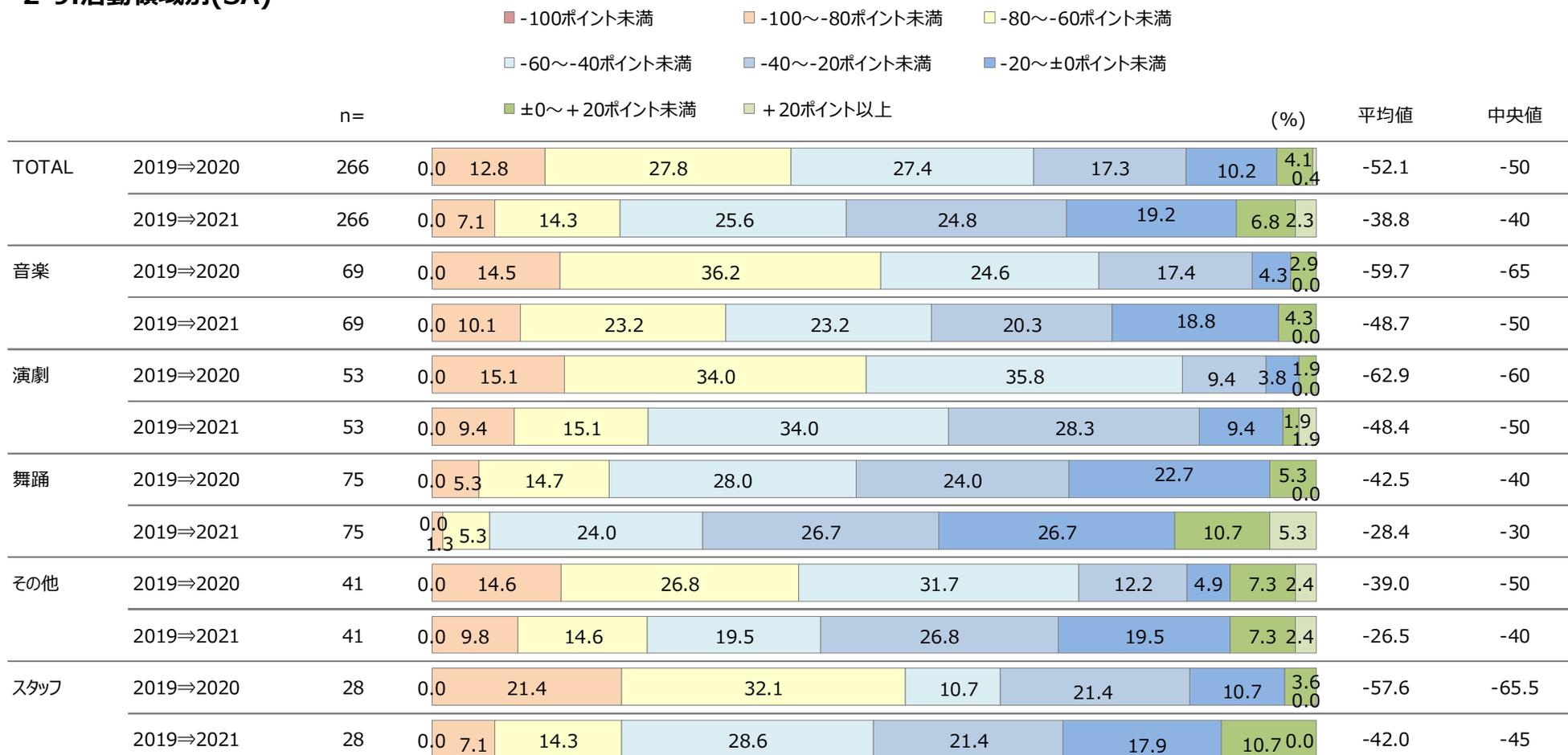


(質問文) * Q2 芸術活動の事業収入の変化

2. [指数変化]事業収入の変化・活動領域別(SA)

- 活動領域別にみると、『2019⇒2021』と『2019⇒2020』の平均値の差は、『スタッフ』では+15.6ポイント、『演劇』では+14.5ポイント、『舞踊』+14.1ポイント等と、他ジャンルと比べてやや回復傾向が強い。

2-9.活動領域別(SA)



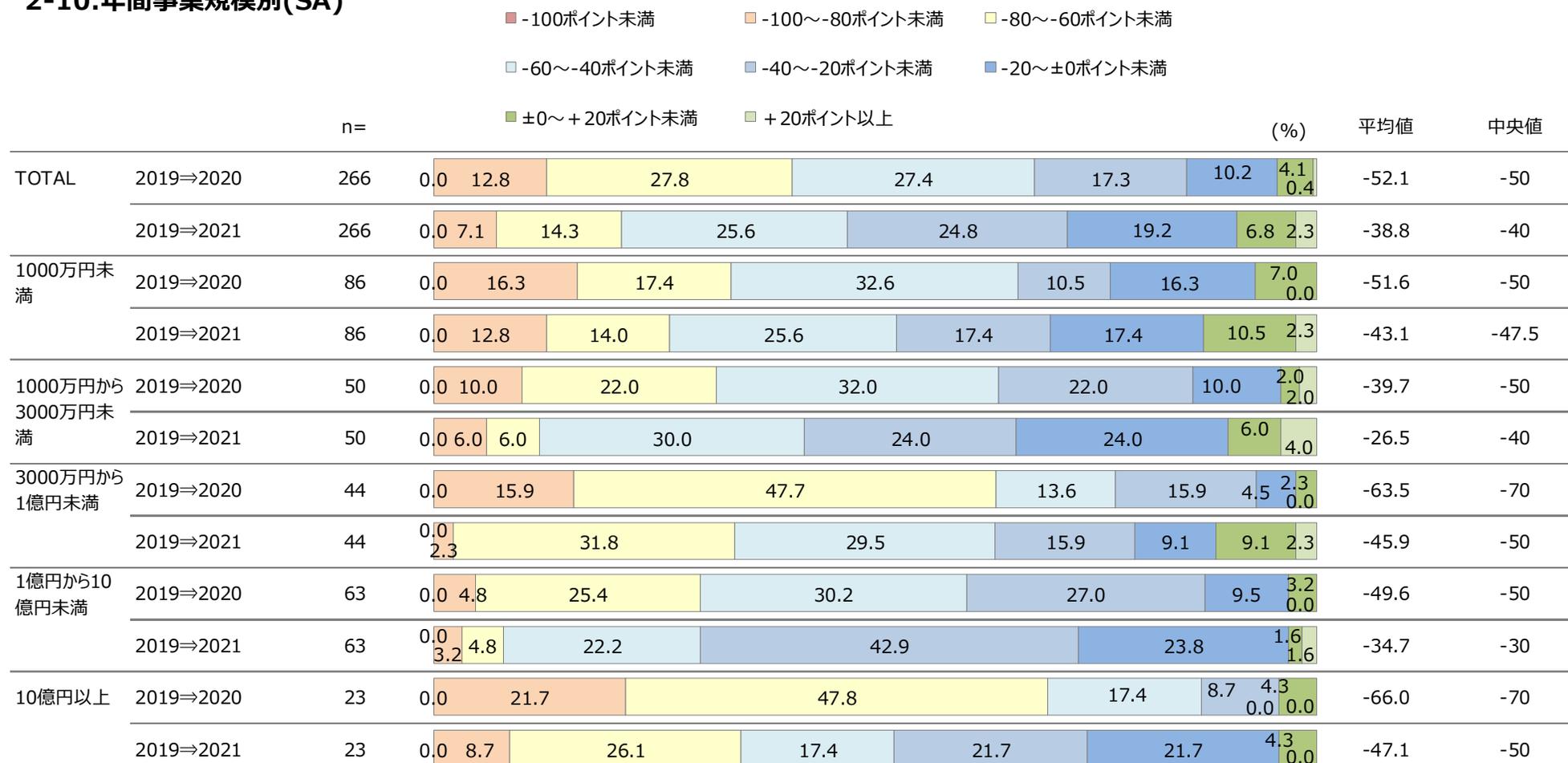
※n=30未満は
参考値

(質問文) * Q2 芸術活動の事業収入の変化

2. [指数変化]事業収入の変化・年間事業規模別(SA)

- 年間事業規模別にみると、『2019⇒2021』と『2019⇒2020』の平均値の差は、10億円以上では+18.9ポイント、3000万円から1億円未満では+17.6ポイントと、他の規模と比べてやや回復傾向が強い。

2-10.年間事業規模別(SA)

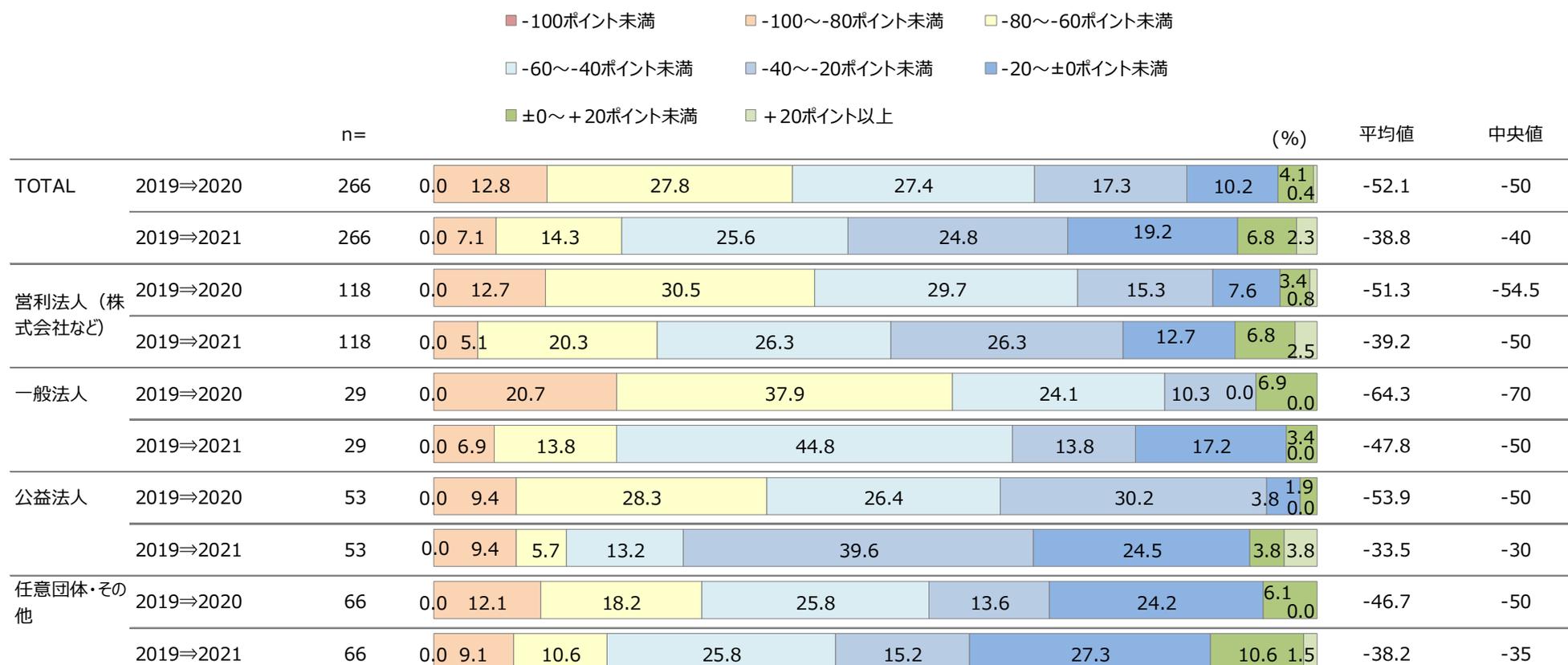


※n=30未満は参考値

2. [指数変化]事業収入の変化・法人格別(SA)

- 法人格別にみると、『2019⇒2021』と『2019⇒2020』の平均値の差は、公益法人（公益社団法人、公益財団法人）で+20.4ポイントと、他の法人格と比べて回復傾向が強い。

2-11.法人格別(SA)

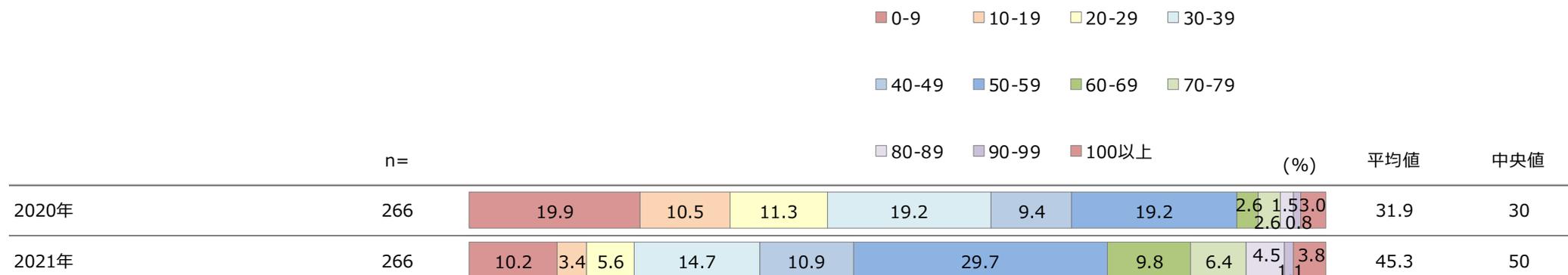


※n=30未満は
参考値

3.観客数の変化(SA)

- 2020年は、「0-9」が最も多く、19.9%。「30-39」「50-59」が19.2%で続く。2021年は、「50-59」が29.7%と最も多い。
- 2021年は、2020年よりも平均値が45.3で13.4ポイント高く、中央値は50で20ポイント高くなっている。

3-1.TOTAL結果(SA)

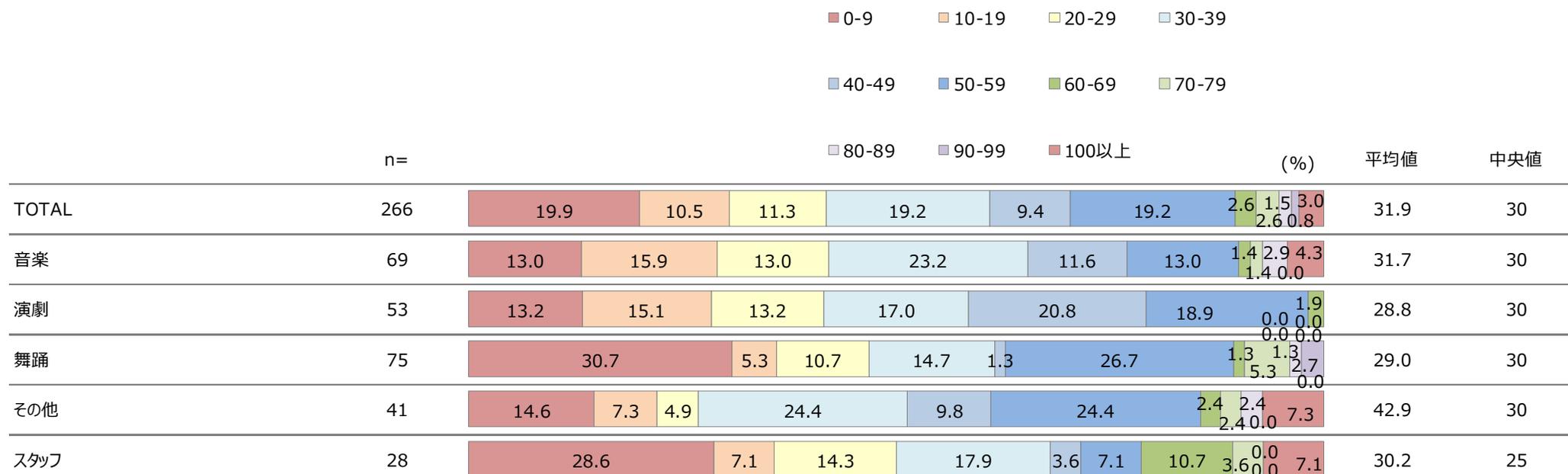


(質問文) Q3 2020年から2021年、観客数変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。

3.観客数の変化(2020年)(SA)

- 活動領域別にみると、『舞踊』では「0-9」が3割を超えているほか、「50-59」が3割近くと高い。

3-2.活動領域別(SA)



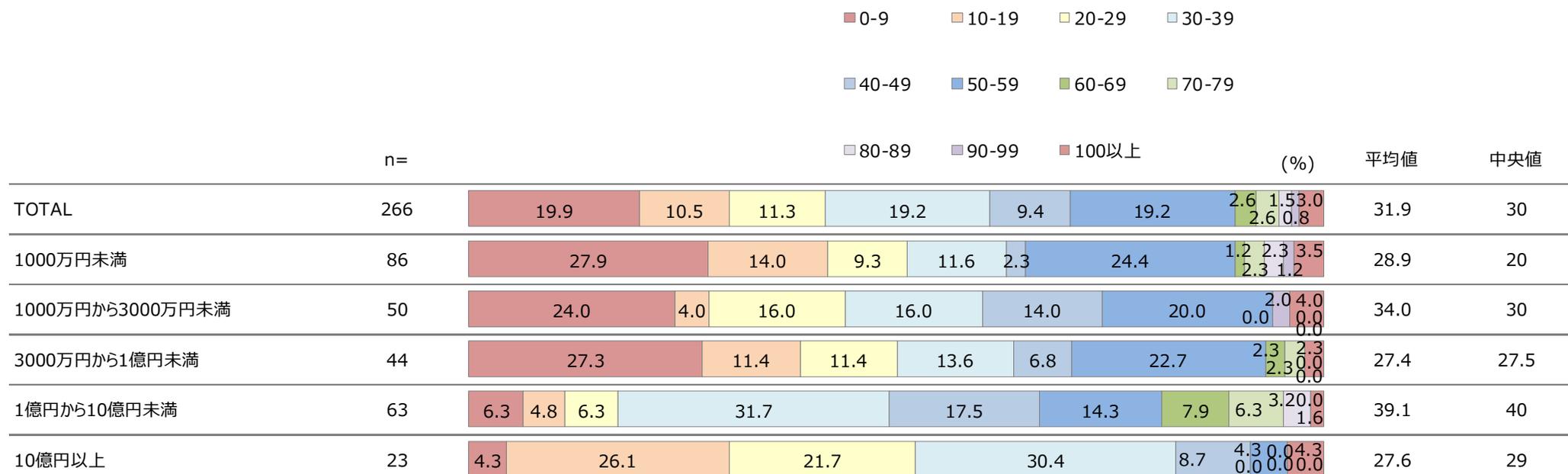
※n=30未満は参考値

(質問文) Q3 2020年から2021年、観客数変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。(2020年)

3.観客数の変化(2020年)(SA)

- 年間事業規模別にみると、1億円から10億円未満では「30-39」が3割を超える。1000万円未満、3000万円から1億円未満では「0-9」が3割近くと高い。

3-3.年間事業規模別(SA)



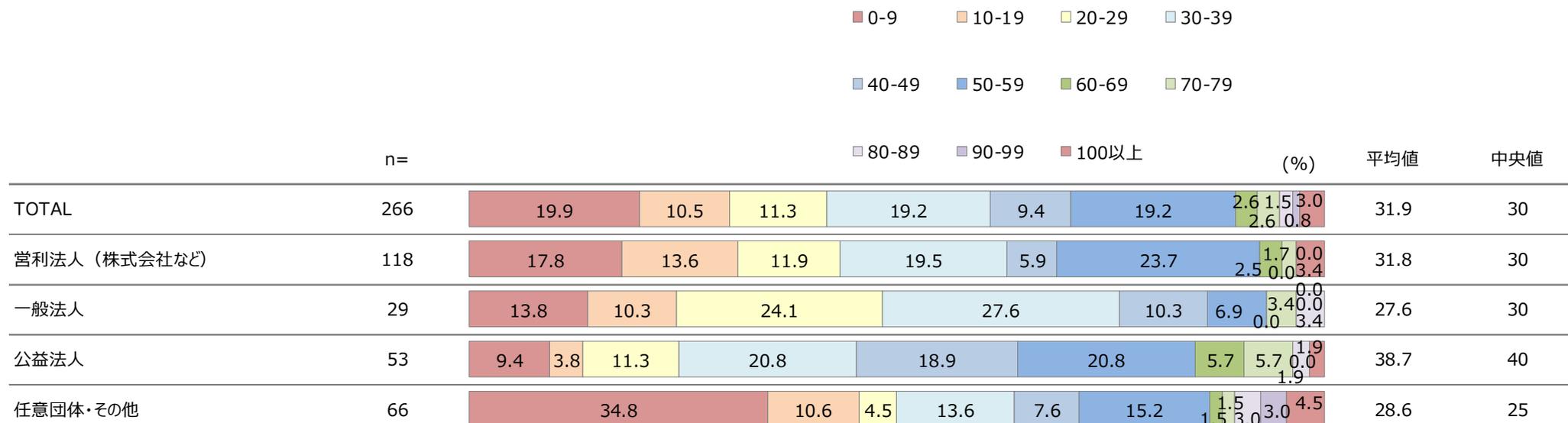
※n=30未満は参考値

(質問文) Q3 2020年から2021年、観客数変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。(2020年)

3.観客数の変化(2020年)(SA)

- 法人格別にみると、任意団体・その他で「0-9」が高く、3割を超える。公益法人（公益社団法人、公益財団法人）では平均値が38.7と最も高い。

3-4.法人格別(SA)



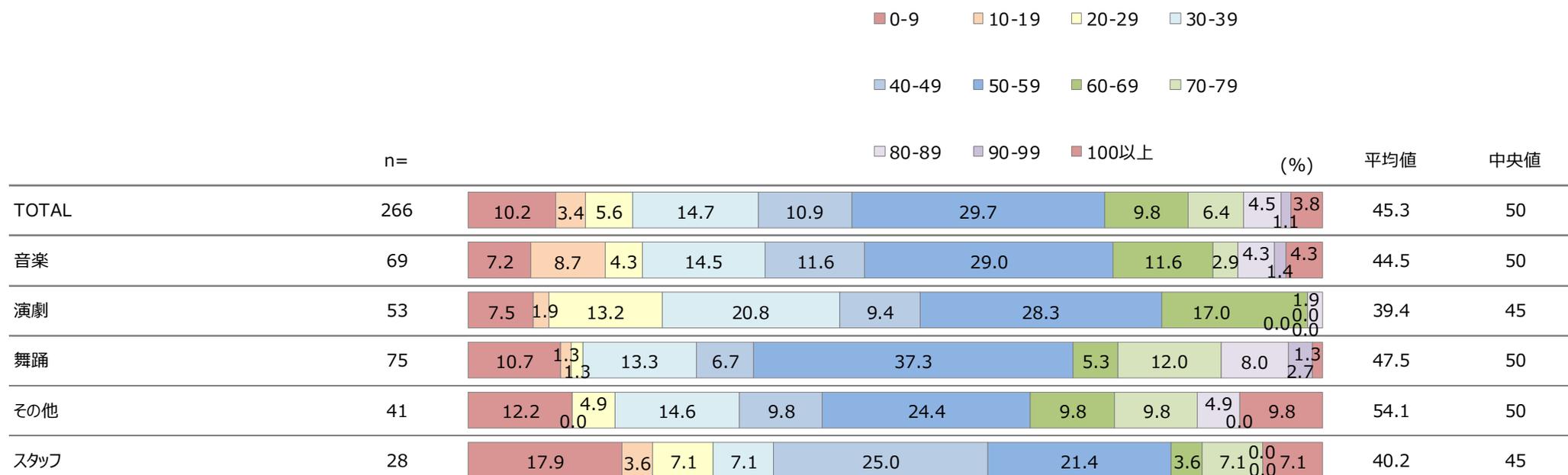
※n=30未満は参考値

(質問文) Q3 2020年から2021年、観客数変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。(2020年)

3.観客数の変化(2021年)(SA)

- 活動領域別にみると、『舞踊』では「50-59」が4割近くと高い。『演劇』では「30-39」が高く、2割を超える。

3-5.活動領域別(SA)



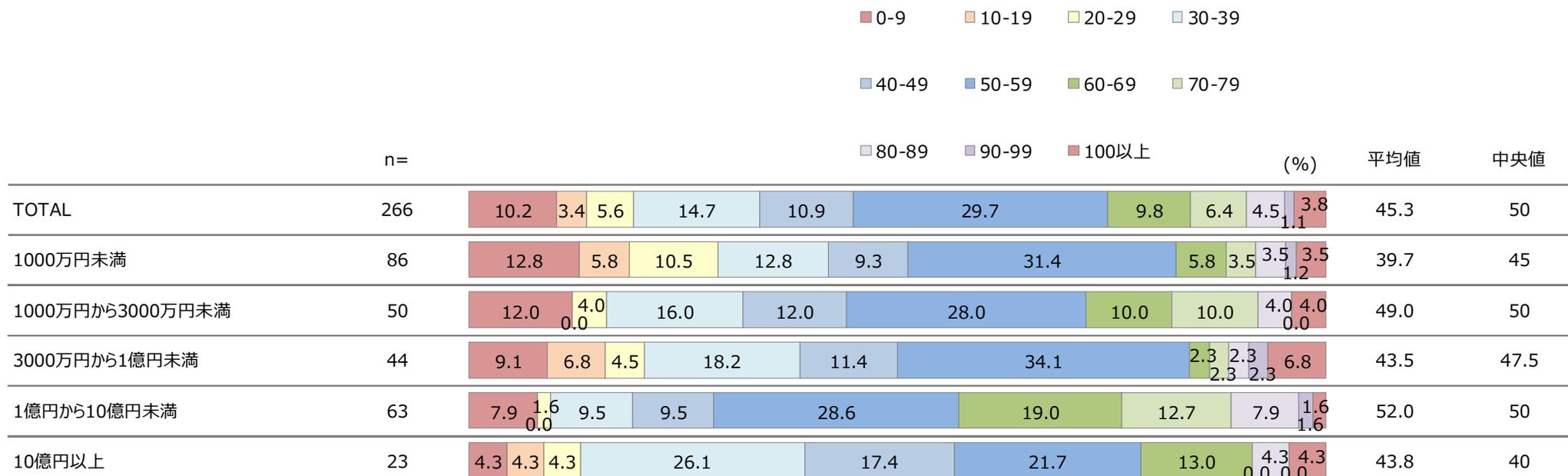
※n=30未満は参考値

(質問文) Q3 2020年から2021年、観客数変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。(2021年)

3.観客数の変化(2021年)(SA)

- 年間事業規模別にみると、平均値は、1億円から10億円未満で52.0と最も高い。

3-6.年間事業規模別(SA)



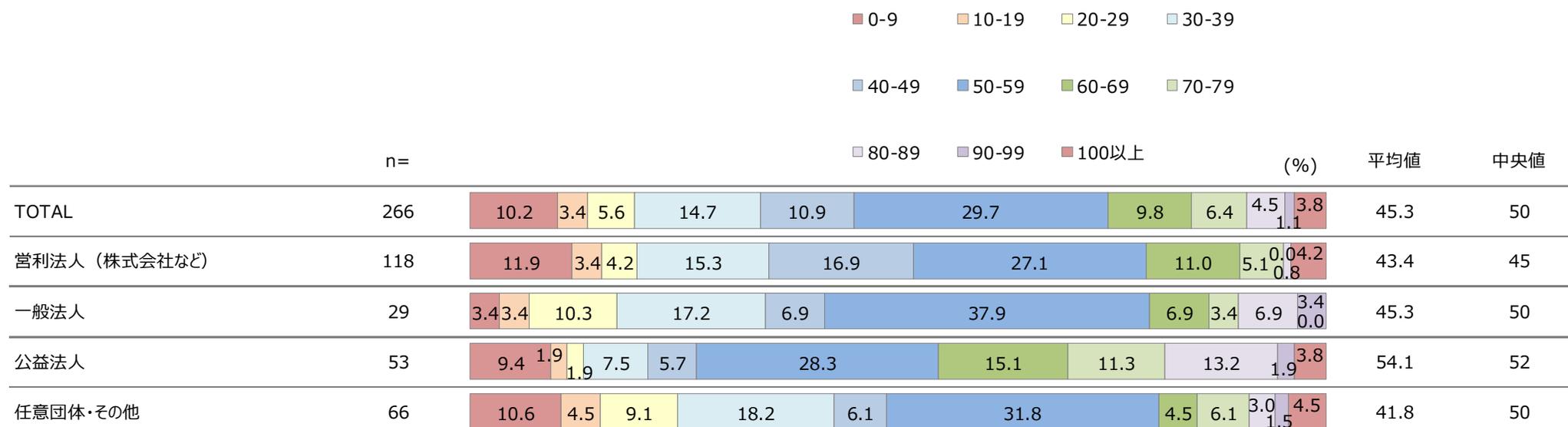
※n=30未満は参考値

(質問文) Q3 2020年から2021年、観客数変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。(2021年)

3.観客数の変化(2021年)(SA)

- 法人格別にみると、公益法人（公益社団法人、公益財団法人）で平均値が54.1と他法人格に比べ高い。

3-7.法人格別(SA)



※n=30未満は参考値

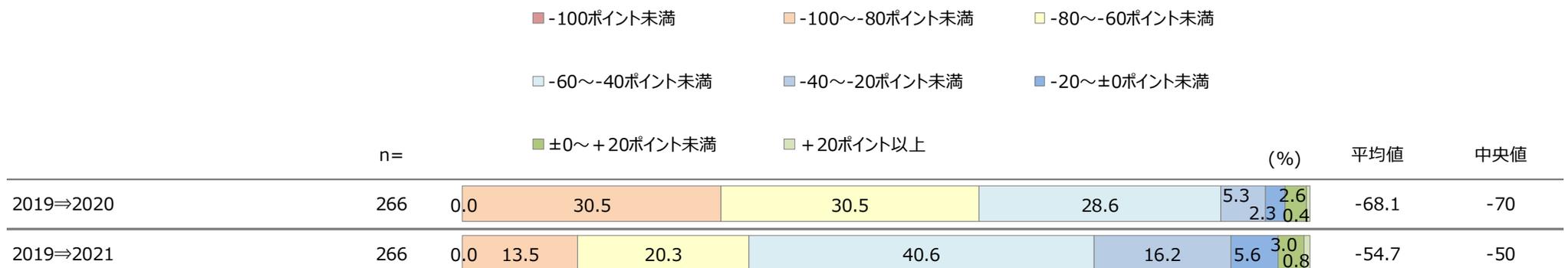
（質問文） Q3 2020年から2021年、観客数変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。（2021年）

3. [指数変化]観客数の変化 (SA)



- 『2019⇒2020』の平均値は-68.1ポイントで、「-100~-60ポイント未満」で6割を占める。
『2019⇒2021』の平均値は-54.7ポイントで、「-60~-40ポイント未満」が最も高く、40.6%。
- 『2019⇒2021』は、『2019⇒2020』に比べ平均値が-54.7と13.4ポイント高く、中央値は-50と20ポイント高くなっている。

3-8.TOTAL結果(SA)

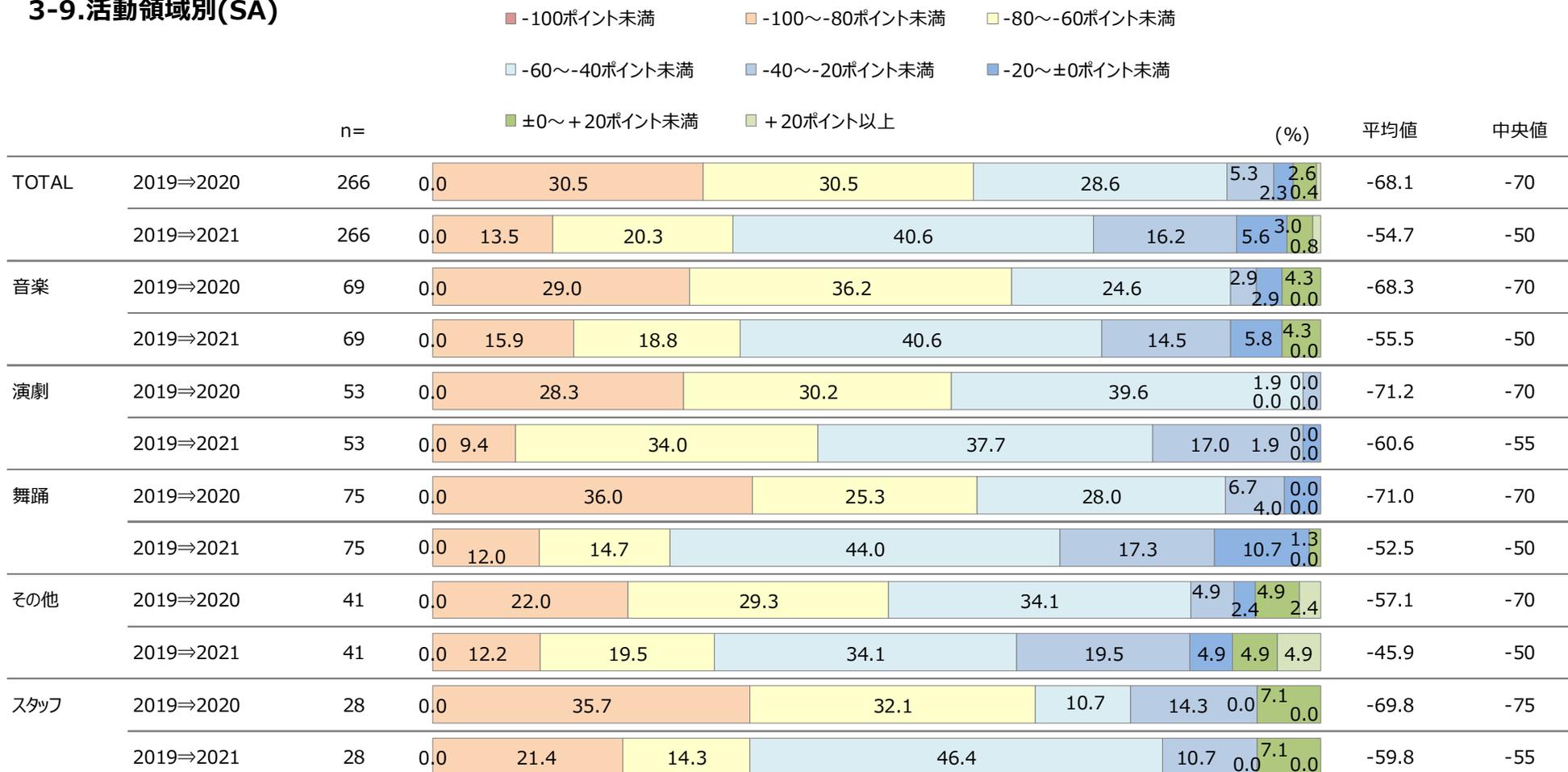


(質問文) * Q3 観客数の変化

3. [指数変化]観客数の変化 ・ 活動領域別(SA)

- 活動領域別にみると、『2019⇒2021』と『2019⇒2020』の平均値の差は、『舞踊』で+18.5ポイントと他ジャンルと比べて回復傾向が強い。

3-9.活動領域別(SA)



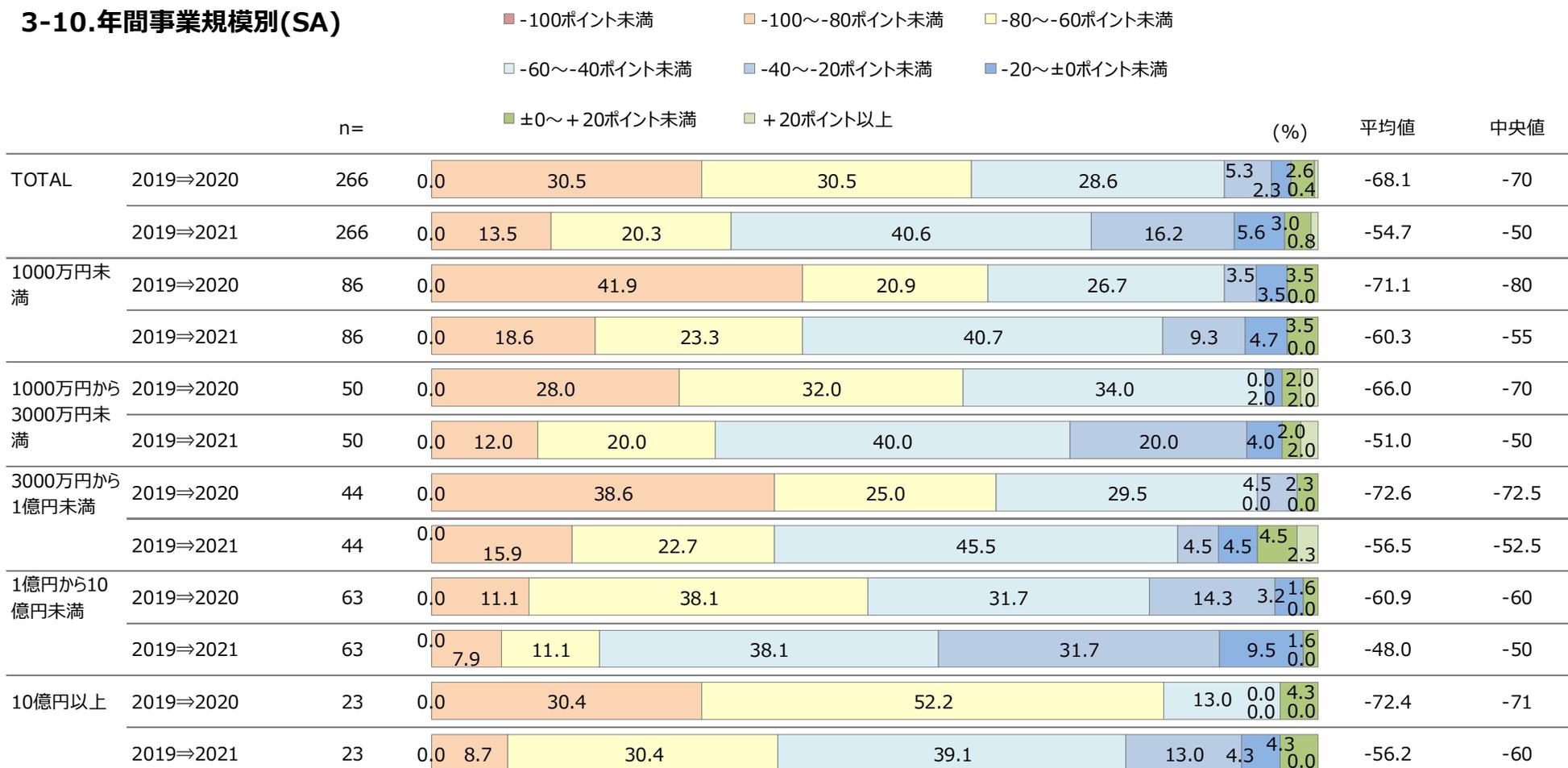
※n=30未満は
参考値

(質問文) * Q3 観客数の変化

3. [指数変化]観客数の変化・年間事業規模別(SA)

- 年間事業規模別にみると、『2019⇒2021』と『2019⇒2020』の平均値の差は、10億円以上では+16.2ポイント、3000万円から1億円未満では+16.1ポイントと、やや回復傾向が強い。

3-10.年間事業規模別(SA)



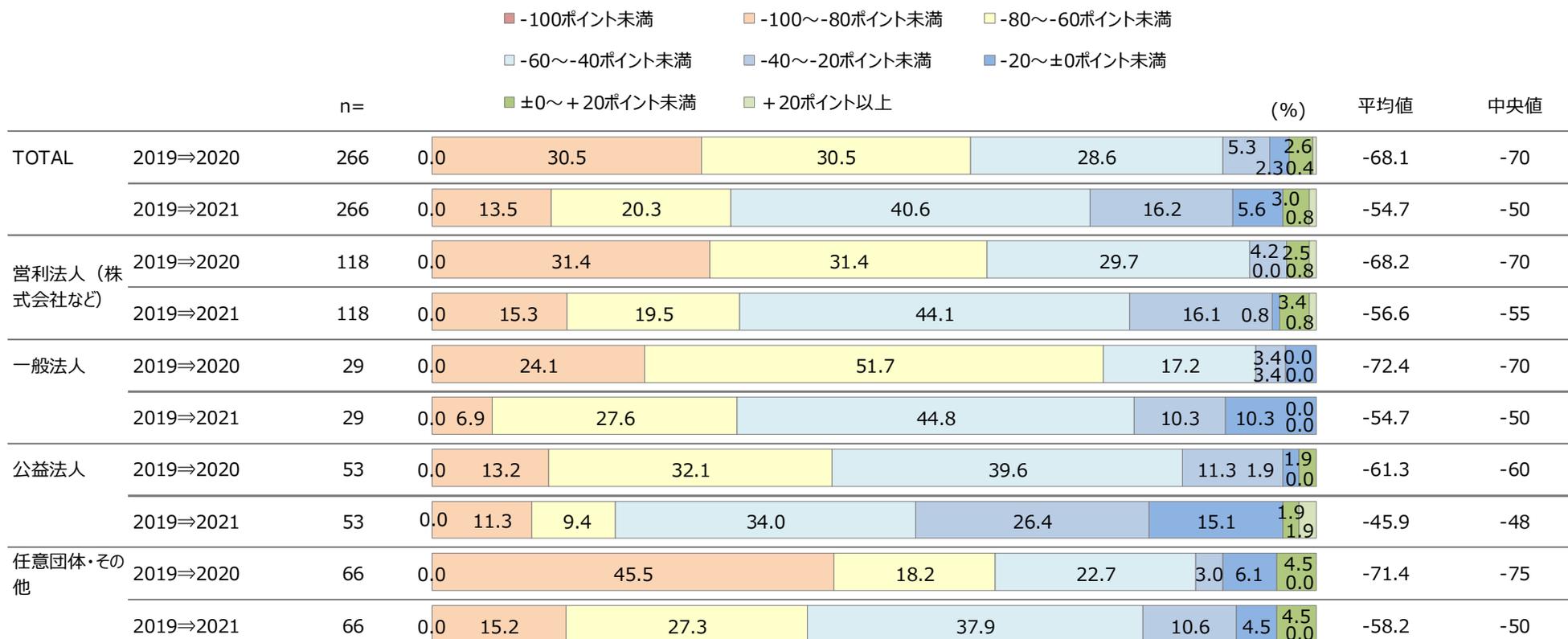
※n=30未満は参考値

(質問文) *Q3 観客数の変化

3. [指数変化]観客数の変化・法人格別(SA)

- 法人格別にみると、『2019⇒2021』と『2019⇒2020』の平均値の差は、一般法人（一般社団法人、一般財団法人）で17.7ポイントと、他の法人格と比べて回復傾向が強い。

3-11.法人格別(SA)



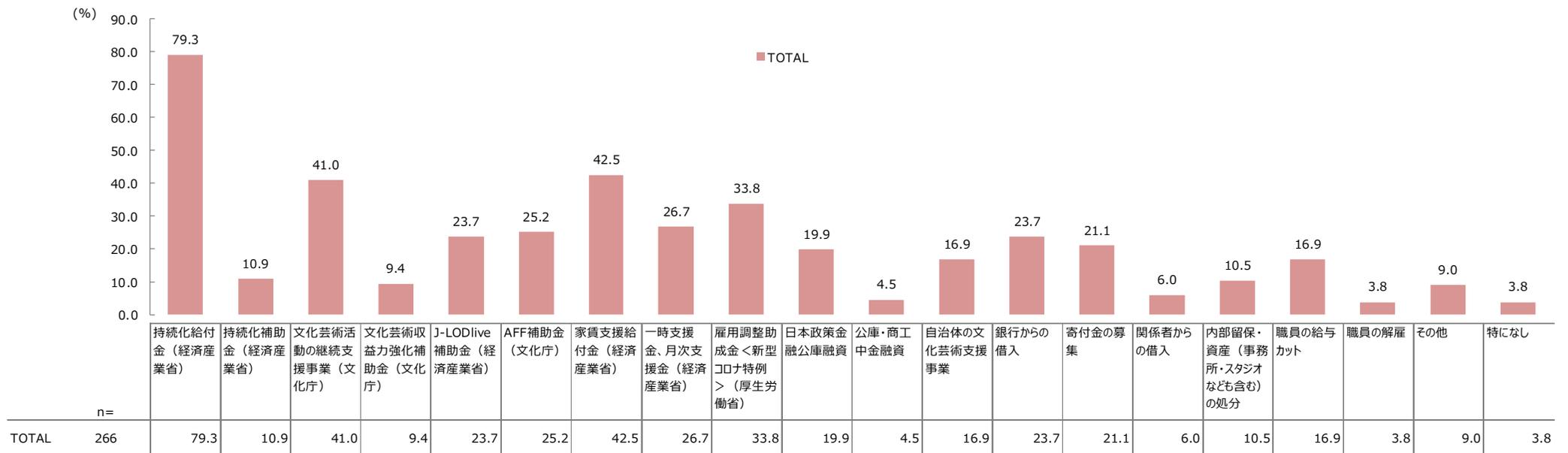
※n=30未満は
参考値

(質問文) * Q3 観客数の変化

4.活動継続、組織維持のため行ったこと(MA)

- TOTALでは、「持続化給付金（経済産業省）」が最も多く、79.3%。「家賃支援給付金（経済産業省）」42.5%、「文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）」41.0%が続く。

4-1.TOTAL結果(MA)

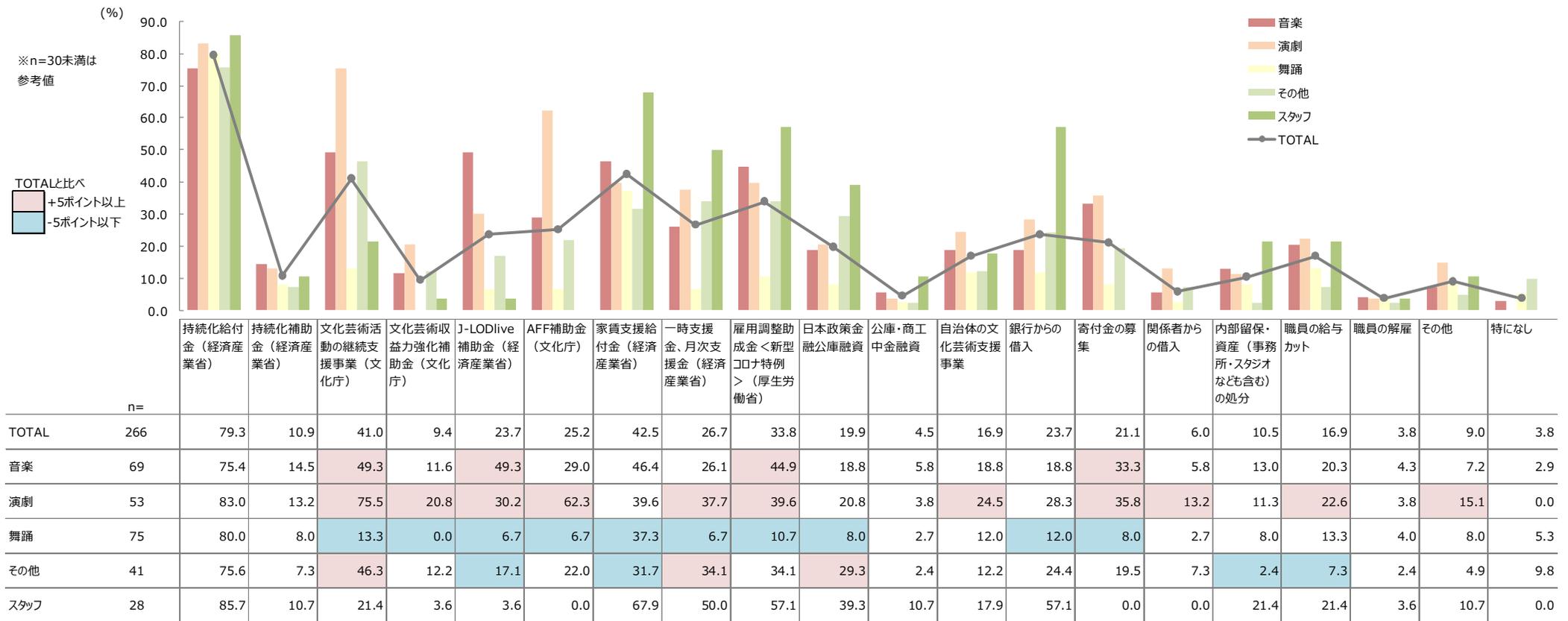


（質問文） <行ったこと（あてはまることすべて）> Q4_1 コロナ禍で、活動継続、組織維持のために行った取り組みは何ですか。行ったことを全てお答えください。また効果的だったものを3つまでお答えください。

4.活動継続、組織維持のため行ったこと(MA)

- 活動領域別にみると、『演劇』、『音楽』で「文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）」「雇用調整助成金＜新型コロナ特例＞（厚生労働省）」「J-LODlive補助金（経済産業省）」の利用が多い。また、『演劇』では、「一時支援金、月次支援金（経済産業省）」も高い。

4-2.活動領域別(MA)

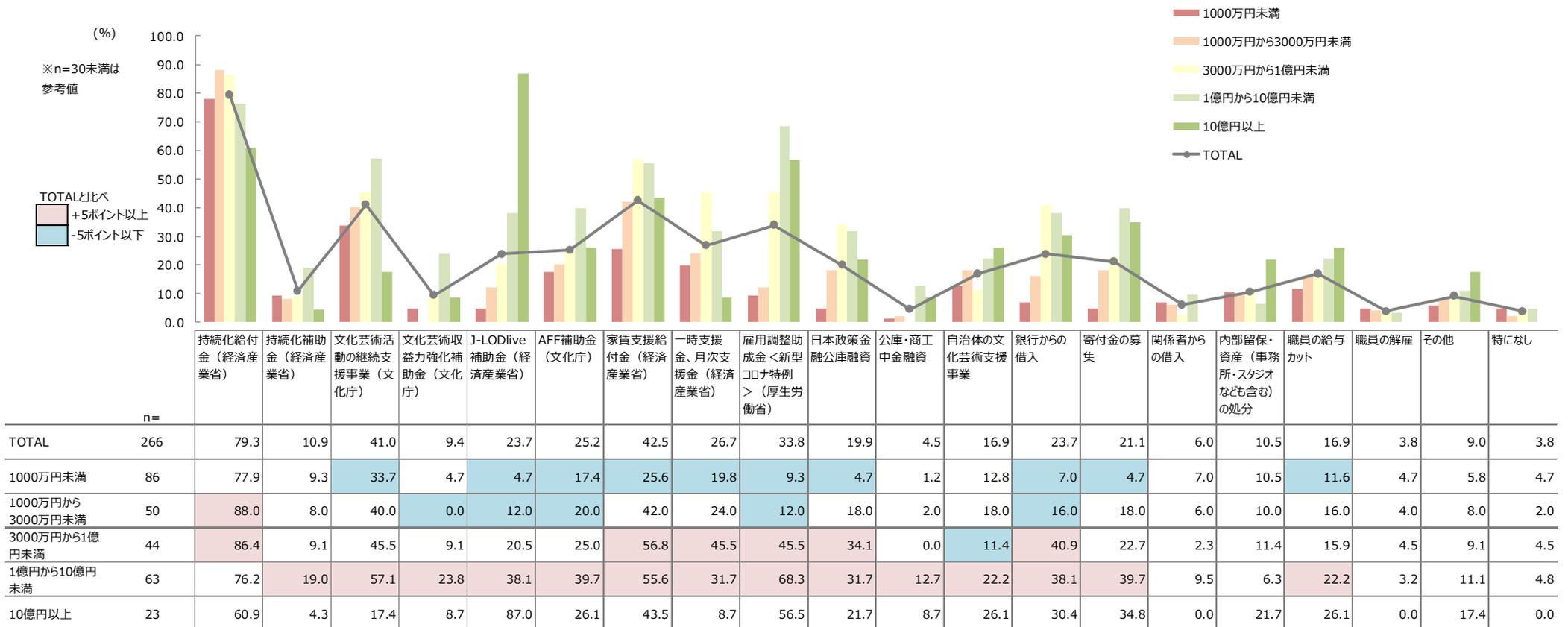


（質問文） <行ったこと（あてはまることすべて）> Q4_1 コロナ禍で、活動継続、組織維持のために行った取り組みは何ですか。行ったことを全てお答えください。また効果的だったものを3つまでお答えください。

4.活動継続、組織維持のため行ったこと(MA)

- 年間事業規模別にみると、1000万円～1億円未満で「持続化給付金（経済産業省）」、3000万円～10億円未満で「家賃支援給付金（経済産業省）」「雇用調整助成金＜新型コロナ特例＞（厚生労働省）」、1億円から10億円未満で「文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）」の利用率が高い。

4-3.年間事業規模別(MA)

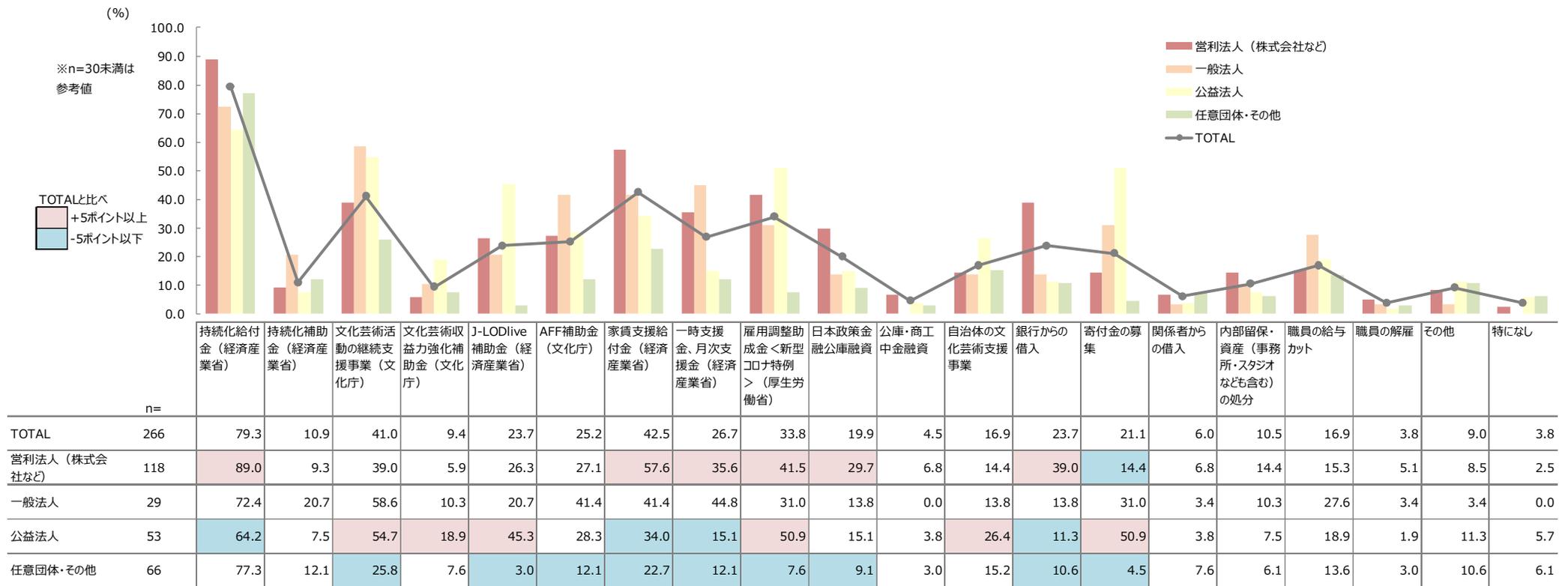


(質問文) <行ったこと (あてはまることすべて) > Q4_1 コロナ禍で、活動継続、組織維持のために行った取り組みは何ですか。行ったことを全てお答えください。また効果的だったものを3つまでお答えください。

4.活動継続、組織維持のため行ったこと(MA)

- 法人格別にみると、営利法人（株式会社など）で「持続化給付金（経済産業省）」「家賃支援給付金（経済産業省）」、公益法人（公益社団法人、公益財団法人）で「文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）」の利用率が高い。また、公益法人（公益社団法人、公益財団法人）、営利法人（株式会社など）でともに、「雇用調整助成金＜新型コロナ特例＞（厚生労働省）」の利用率も高い。

4-4.法人格別(MA)

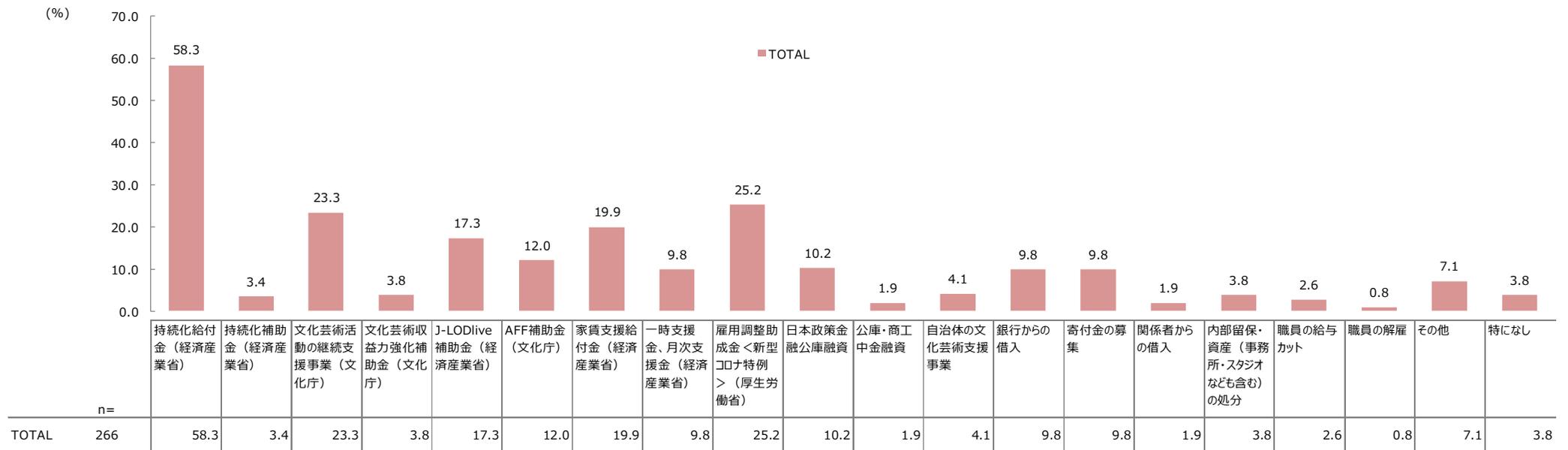


（質問文） <行ったこと（あてはまることすべて）> Q4_1 コロナ禍で、活動継続、組織維持のために行った取り組みは何ですか。行ったことを全てお答えください。また効果的だったものを3つまでお答えください。

4.活動継続、組織維持のため行ったことの中で効果的だったこと(3LA)

- TOTALでは、「持続化給付金（経済産業省）」が最も多く、58.3%。「雇用調整助成金＜新型コロナ特例＞（厚生労働省）」25.2%、「文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）」23.3%が続く。

4-5.TOTAL結果(MA)

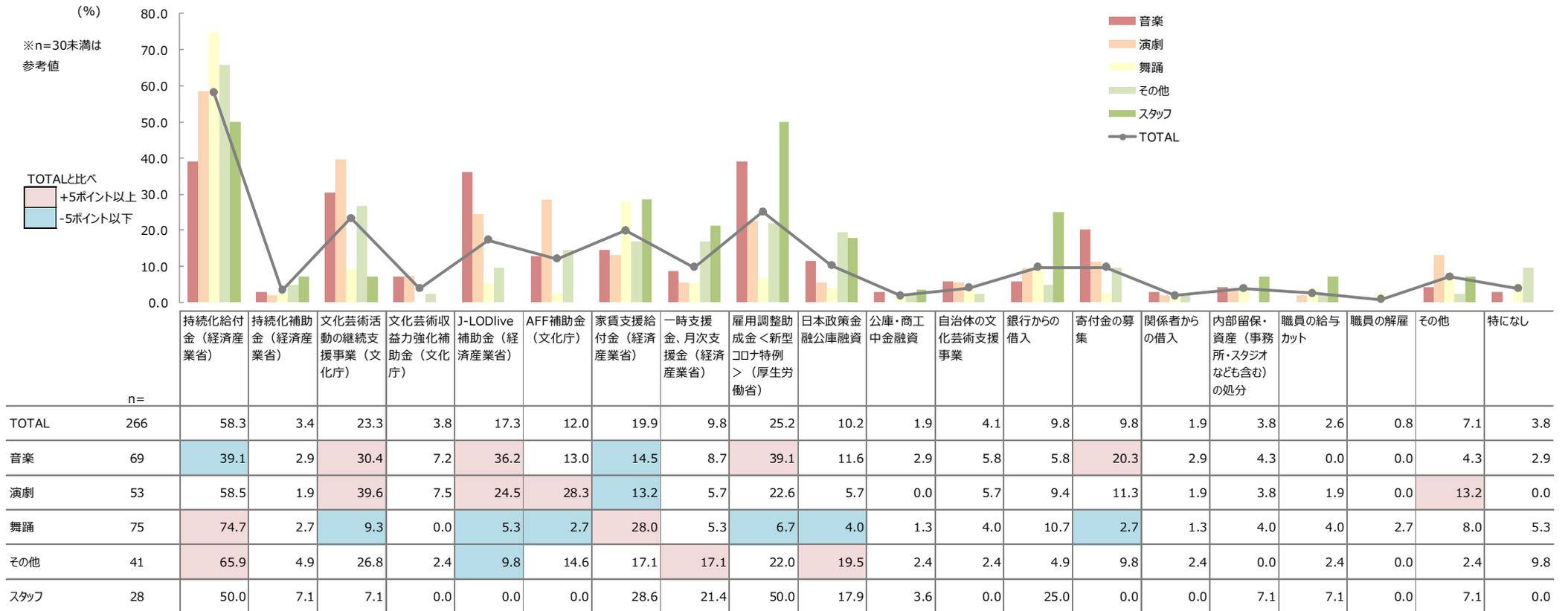


(質問文) <行った中で効果的だったこと(3つまで)> Q4_2 コロナ禍で、活動継続、組織維持のために行った取り組みは何ですか。行ったことを全てお答えください。また効果的だったものを3つまでお答えください。

4.活動継続、組織維持のため行ったことの中で効果的だったこと(3LA)

- 活動領域別にみると、『舞踊』で「持続化給付金（経済産業省）」、『音楽』で「雇用調整助成金＜新型コロナ特例＞（厚生労働省）」が高い。また、『演劇』、『音楽』では、「文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）」「J-LODlive補助金（経済産業省）」が高い。

4-6.活動領域別(MA)

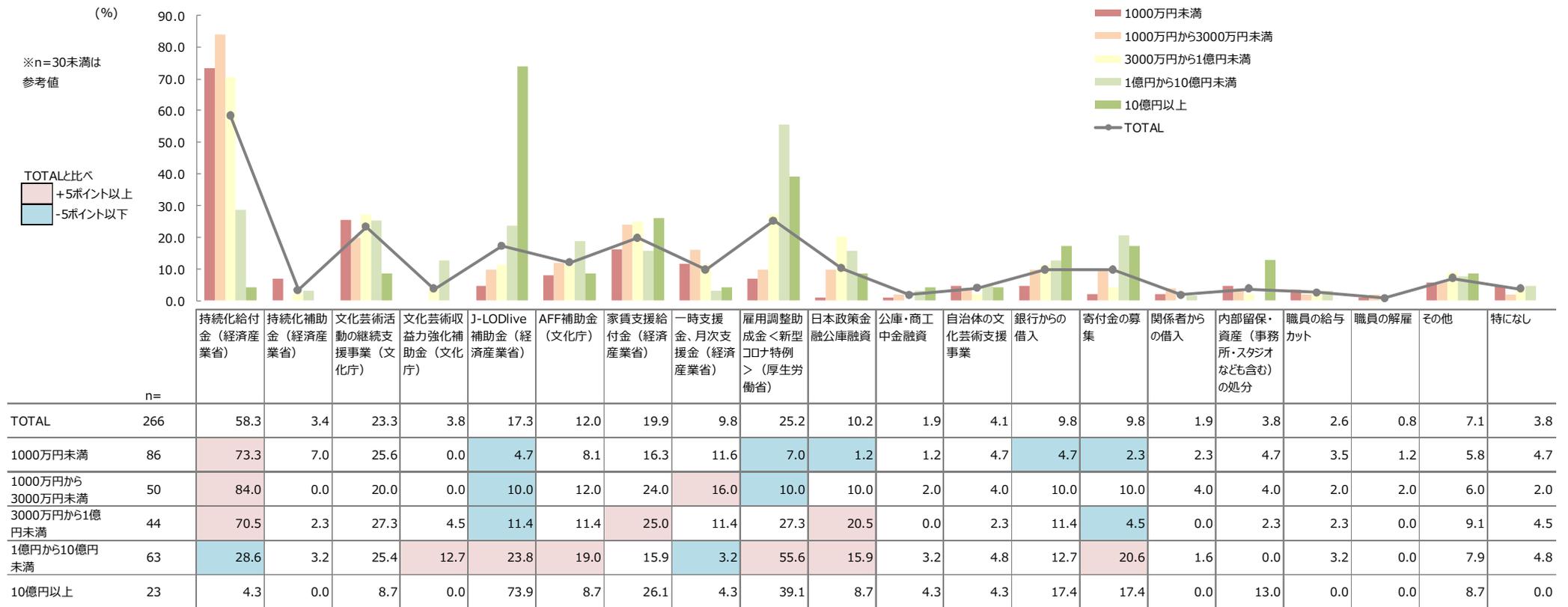


(質問文) <行った中で効果的だったこと(3つまで)> Q4_2 コロナ禍で、活動継続、組織維持のために行った取り組みは何ですか。行ったことを全てお答えください。また効果的だったものを3つまでお答えください。

4.活動継続、組織維持のため行ったことの中で効果的だったこと(3LA)

- 年間事業規模別にみると、1億円未満で「持続化給付金（経済産業省）」、1億円から10億円未満で「雇用調整助成金<新型コロナ特例>（厚生労働省）」「J-LODlive補助金（経済産業省）」、3000万円から1億円未満で「家賃支援給付金（経済産業省）」、3000万円～10億円未満で「日本政策金融公庫融資」が高い。

4-7.年間事業規模別(MA)

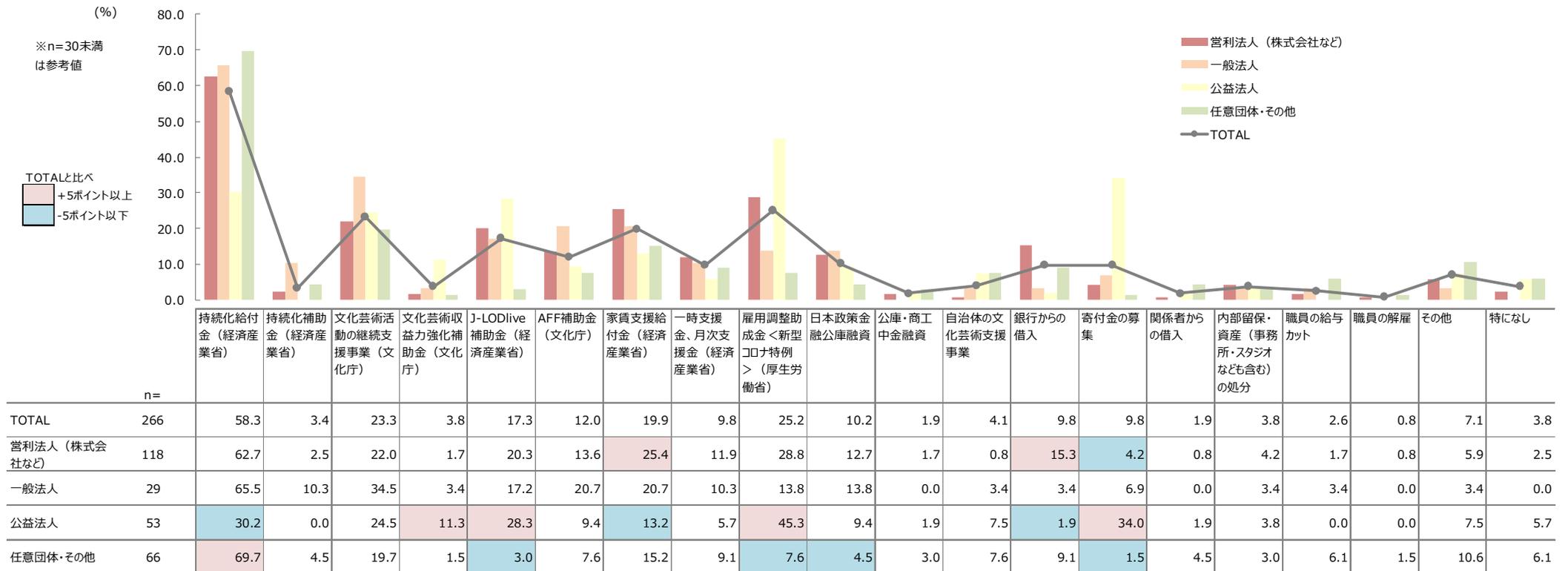


(質問文) <行った中で効果的だったこと(3つまで)> Q4_2 コロナ禍で、活動継続、組織維持のために行った取り組みは何ですか。行ったことを全てお答えください。また効果的だったものを3つまでお答えください。

4.活動継続、組織維持のため行ったことの中で効果的だったこと(3LA)

- 法人格別にみると、任意団体・その他で「持続化給付金（経済産業省）」、公益法人（公益社団法人、公益財団法人）で「雇用調整助成金＜新型コロナ特例＞（厚生労働省）」、「J-LODlive補助金（経済産業省）」、営利法人（株式会社など）で「家賃支援給付金（経済産業省）」が高い。

4-8.法人格別(MA)



(質問文) <行った中で効果的だったこと(3つまで)> Q4_2 コロナ禍で、活動継続、組織維持のために行った取り組みは何ですか。行ったことを全てお答えください。また効果的だったものを3つまでお答えください。

5.正味財産の変化(SA)

- 2020年、2021年ともに、「100以上」が最も多く、それぞれ20.3%。
- また、2021年、2020年ともに、平均値は7割超、中央値70で大きな差は見られず。

5-1.TOTAL結果(SA)

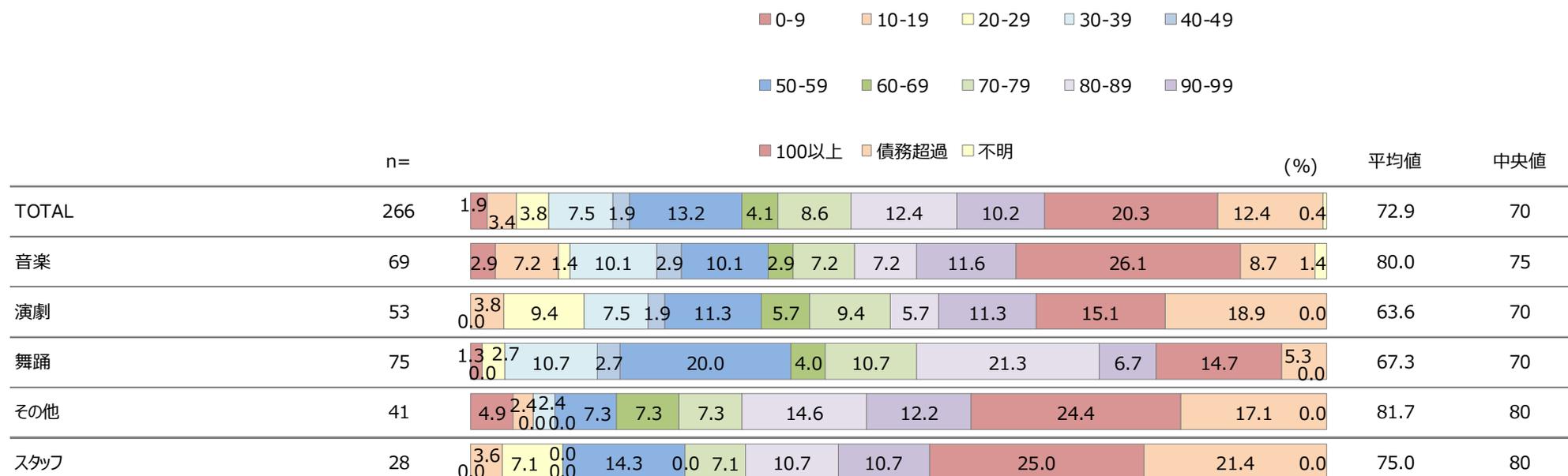


(質問文) Q5 2020年、2021年の正味財産（基本財産・資本金・剰余金）の変化を教えてください。2019年度決算結果を100とし、2020年度決算結果、2021年は見込みをお答えください。債務超過の場合は「債務超過」にチェックを入れてください。

5.正味財産の変化(2020年)(SA)

- 活動領域別にみると、『音楽』で「100以上」が高い。『舞踊』では「80-89」「50-59」で2割を超える。

5-2.活動領域別(SA)



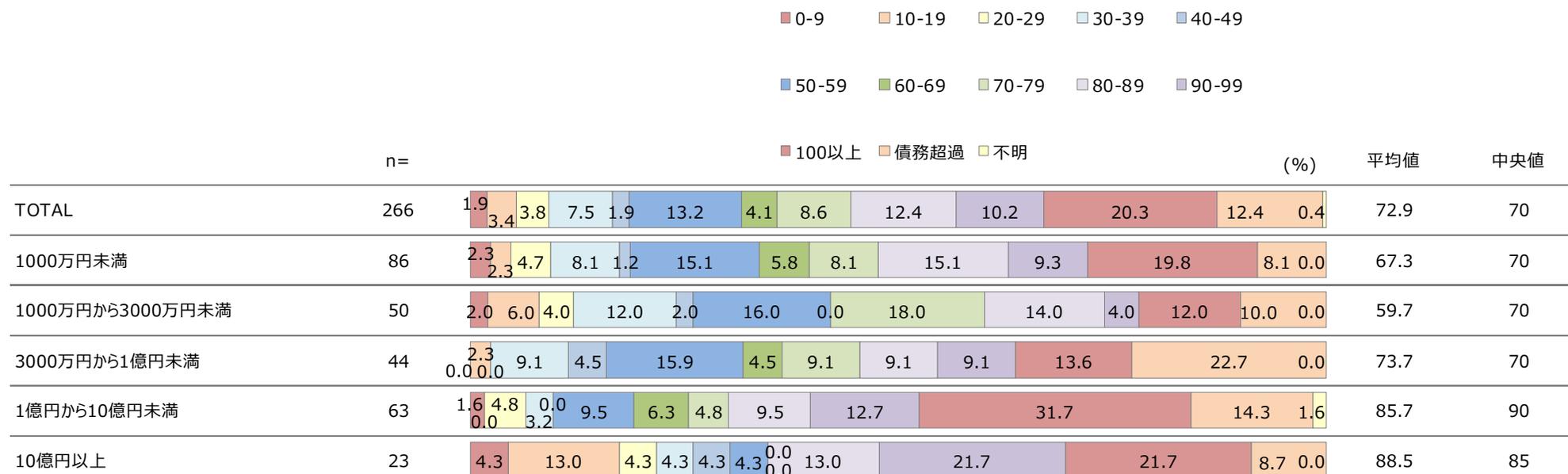
※n=30未満は参考値

(質問文) Q5 2020年、2021年の正味財産（基本財産・資本金・剰余金）の変化を教えてください。2019年度決算結果を100とし、2020年度決算結果、2021年は見込みをお答えください。債務超過の場合は「債務超過」にチェックを入れてください。

5.正味財産の変化(2020年)(SA)

- 年間事業規模別にみると、1億円から10億円未満で「100以上」が高く、3割を超える。1000万円から3000万円未満では「70-79」が2割近くと高い。

5-3.年間事業規模別(SA)



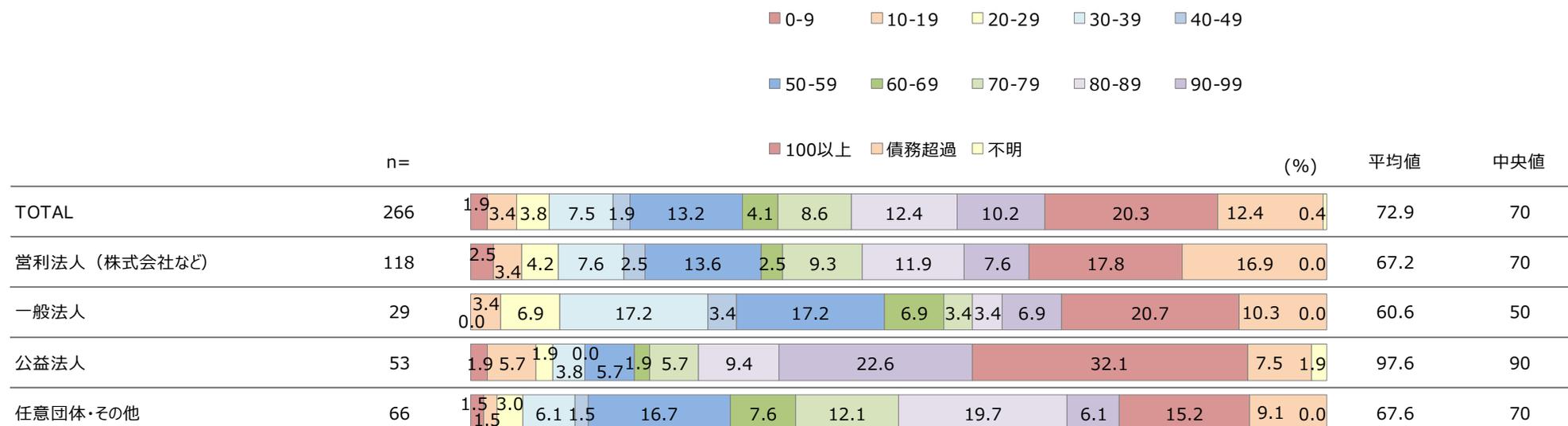
※n=30未満は参考値

(質問文) Q5 2020年、2021年の正味財産（基本財産・資本金・剰余金）の変化を教えてください。2019年度決算結果を100とし、2020年度決算結果、2021年は見込みをお答えください。債務超過の場合は「債務超過」にチェックを入れてください。

5.正味財産の変化(2020年)(SA)

- 法人格別にみると、公益法人（公益社団法人、公益財団法人）で「100以上」が高く、3割を超える。「90-99」は2割超で続く。

5-4.法人格別(SA)



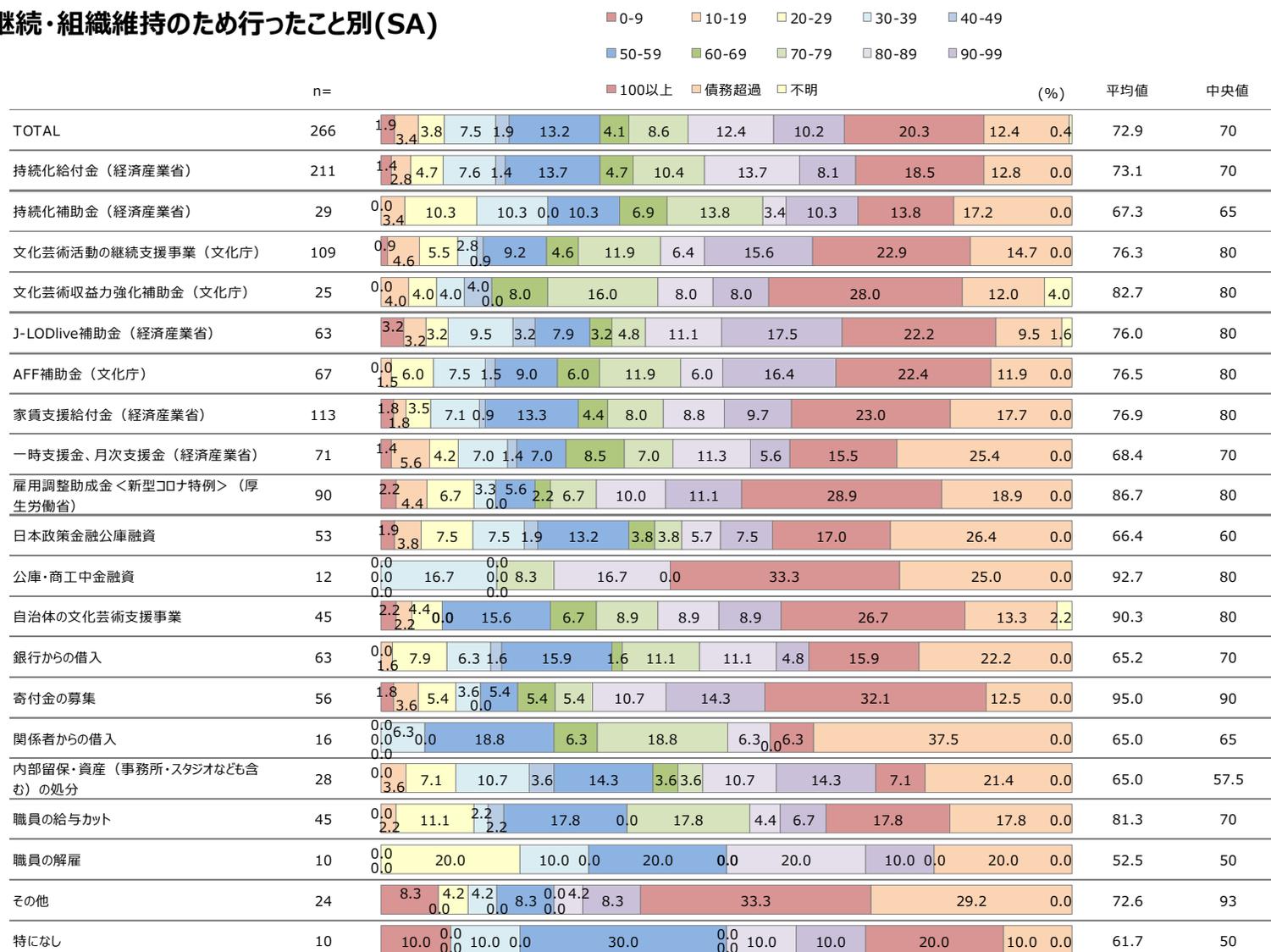
※n=30未満は参考値

（質問文） Q5 2020年、2021年の正味財産（基本財産・資本金・剰余金）の変化を教えてください。2019年度決算結果を100とし、2020年度決算結果、2021年は見込みをお答えください。債務超過の場合は「債務超過」にチェックを入れてください。

5.正味財産の変化(2020年)(SA)

- 活動継続・組織維持のため行ったこと（MA）別にみると、『寄付金の募集』で「100以上」が高く、3割を超える。『雇用調整助成金<新型コロナ特例>（厚生労働省）』『自治体の文化芸術支援事業』で「100以上」は3割近くと高い。

5-5.活動継続・組織維持のため行ったこと別(SA)



※n=30未満は参考値

（質問文） Q5 2020年、2021年の正味財産（基本財産・資本金・剰余金）の変化を教えてください。2019年度決算結果を100とし、2020年度決算結果、2021年は見込みをお答えください。債務超過の場合は「債務超過」にチェックを入れてください。（2020年）

5.正味財産の変化(2020年)(SA)

- 活動継続・組織維持のため行ったことで効果的（3LA）別にみると、『雇用調整助成金<新型コロナ特例>（厚生労働省）』で「100以上」が高く、3割を超える。

5-6.活動継続・組織維持のため行ったことで効果的別(SA)

	n=	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	100以上	債務超過	不明	(%)	平均値	中央値
TOTAL	266	1.9	3.8	7.5	1.9	13.2	4.1	8.6	12.4	10.2	20.3	12.4	0.4			72.9	70
持続化給付金（経済産業省）	155	0.6	2.6	4.5	9.7	1.9	15.5	4.5	12.3	14.8	7.7	16.1	9.7	0.0		66.7	70
持続化補助金（経済産業省）	9	0.0	11.1		22.2		11.1	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1	22.2	0.0	54.4	50
文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）	62	4.8	1.6	3.2	11.3	6.5	14.5	8.1	17.7	24.2	8.1	0.0				77.1	80
文化芸術収益力強化補助金（文化庁）	10	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	10.0	0.0	40.0	10.0	10.0					105.8	90
J-LODlive補助金（経済産業省）	46	4.3	2.2	2.2	13.0	2.2	8.7	4.3	2.2	13.0	15.2	23.9	6.5	2.2		74.4	80
AFF補助金（文化庁）	32	3.1	0.0	3.1	15.6	3.1	12.5	12.5	6.3	6.3	15.6	15.6	6.3	0.0		64.8	62.5
家賃支援給付金（経済産業省）	53	0.0	5.7	7.5	1.9	18.9	7.5	7.5	7.5	15.1	17.0	11.3	0.0			68.7	70
一時支援金、月次支援金（経済産業省）	26	0.0	15.4	0.0	11.5	0.0	11.5	7.7	7.7	11.5	3.8	7.7	23.1	0.0		55.3	55
雇用調整助成金<新型コロナ特例>（厚生労働省）	67	3.0	6.0	6.0	1.5	4.5	6.0	9.0	11.9	35.8	16.4	0.0				92.6	90
日本政策金融公庫融資	27	3.7	3.7	3.7	7.4	3.7	18.5	3.7	3.7	7.4	18.5	25.9	0.0			69.8	52.5
公庫・商工中金融資	5	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0	0.0					102.8	90
自治体の文化芸術支援事業	11	0.0	0.0	0.0	18.2	9.1	9.1	9.1	18.2	18.2	9.1	9.1				126.6	80
銀行からの借入	26	0.0	0.0	11.5	0.0	15.4	0.0	19.2	11.5	3.8	3.8	34.6	0.0			63.4	70
寄付金の募集	26	3.8	3.8	11.5	0.0	0.0	3.8	7.7	23.1	42.3	3.8	0.0				113.0	98
関係者からの借入	5	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0				56.7	50
内部留保・資産（事務所・スタジオなど含む）の処分	10	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	10.0	10.0	30.0	0.0	30.0	0.0				60.7	70
職員の給与カット	7	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	28.6	0.0	14.3	0.0	28.6	0.0				47.0	50
職員の解雇	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0				65.0	65
その他	19	10.5	5.3	5.3	5.3	0.0	5.3	10.5	31.6	26.3	0.0					69.9	91.5
特になし	10	10.0	0.0	10.0	0.0	30.0	0.0	10.0	10.0	20.0	10.0	0.0				61.7	50

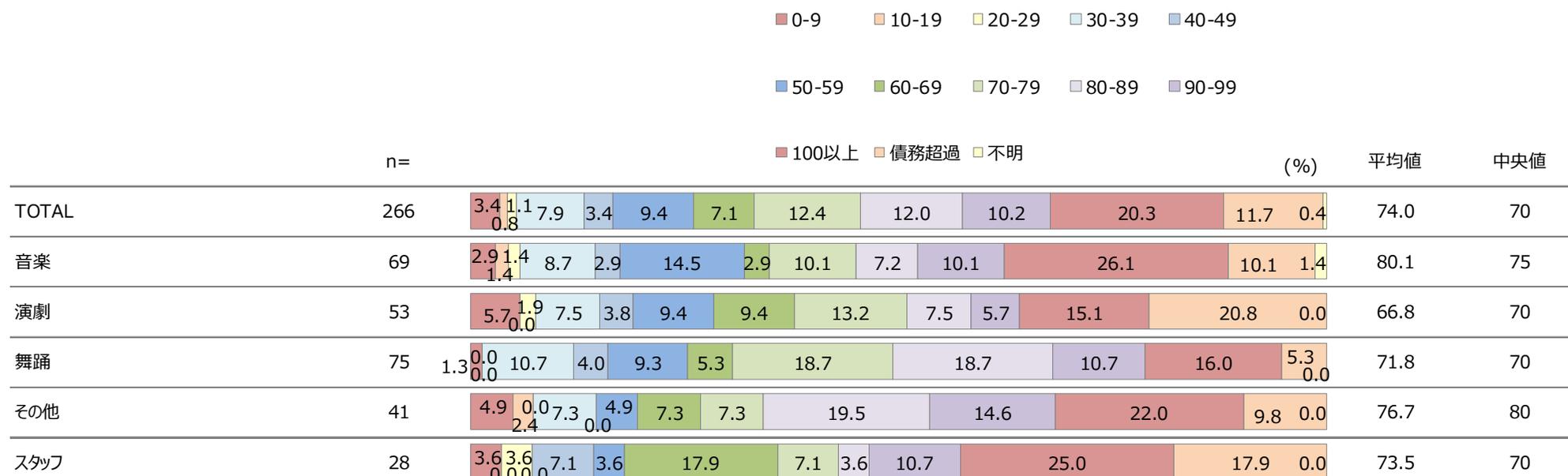
※n=30未満は参考値

（質問文）Q5 2020年、2021年の正味財産（基本財産・資本金・剰余金）の変化を教えてください。2019年度決算結果を100とし、2020年度決算結果、2021年は見込みをお答えください。債務超過の場合は「債務超過」にチェックを入れてください。（2020年）

5.正味財産の変化(2021年)(SA)

- 活動領域別にみると、『音楽』で「100以上」が3割近くと高い。『舞踊』では「70-79」「80-89」が2割に近く高い。

5-7.活動領域別(SA)



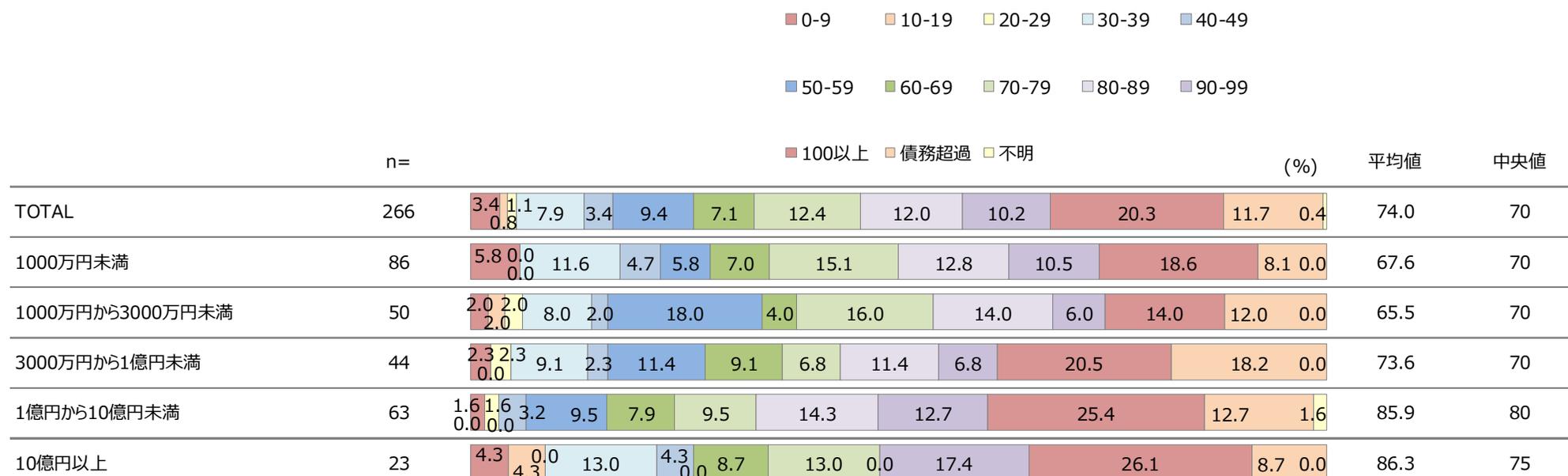
※n=30未満は参考値

(質問文) Q5 2020年、2021年の正味財産（基本財産・資本金・剰余金）の変化を教えてください。2019年度決算結果を100とし、2020年度決算結果、2021年は見込みをお答えください。債務超過の場合は「債務超過」にチェックを入れてください。（2021年）

5.正味財産の変化(2021年)(SA)

- 年間事業規模別にみると、1億円から10億円未満では「100以上」が3割近くと高い。1000万円から3000万円未満では「50-59」が2割に近く高い。

5-8.年間事業規模別(SA)



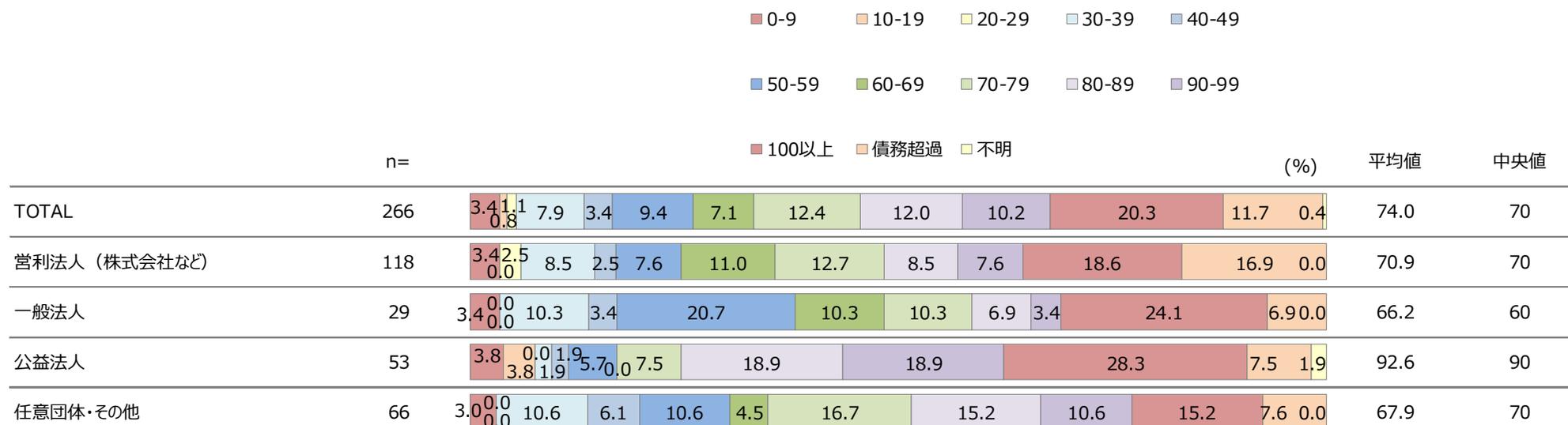
※n=30未満は参考値

(質問文) Q5 2020年、2021年の正味財産(基本財産・資本金・剰余金)の変化を教えてください。2019年度決算結果を100とし、2020年度決算結果、2021年は見込みをお答えください。債務超過の場合は「債務超過」にチェックを入れてください。(2021年)

5.正味財産の変化(2021年)(SA)

- 法人格別にみると、公益法人（公益社団法人、公益財団法人）では平均値が92.6、中央値が90で最も高い。

5-9.法人格別(SA)



※n=30未満は参考値

（質問文） Q5 2020年、2021年の正味財産（基本財産・資本金・剰余金）の変化を教えてください。2019年度決算結果を100とし、2020年度決算結果、2021年は見込みをお答えください。債務超過の場合は「債務超過」にチェックを入れてください。（2021年）

5.正味財産の変化(2021年)(SA)

- 活動継続・組織維持のため行ったこと (MA) 別にみると、『自治体の文化芸術支援事業』『寄付金の募集』で「100以上」が3割近くと高い。

5-10.活動継続・組織維持のため行ったこと別(SA)

	n=	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	100以上	債務超過	不明	(%)	平均値	中央値
TOTAL	266	3.4	4.1	1.1	7.9	3.4	9.4	7.1	12.4	12.0	10.2	20.3	11.7	0.4		74.0	70
持続化給付金(経済産業省)	211	1.9	1.4	0.5	8.5	3.8	10.4	7.6	13.3	13.3	9.0	18.0	12.3	0.0		74.2	70
持続化補助金(経済産業省)	29	3.4	0.0	0.0	10.3	3.4	24.1	6.9	13.8	3.4	6.9	17.2	10.3	0.0		69.7	62.5
文化芸術活動の継続支援事業(文化庁)	109	1.8	0.9	1.8	6.4	1.8	10.1	4.6	11.0	11.9	12.8	21.1	15.6	0.0		77.4	80
文化芸術収益力強化補助金(文化庁)	25	0.0	0.0	0.0	8.0	16.0	0.0	12.0	16.0	8.0	28.0	4.0	4.0		80.9	80	
J-LODlive補助金(経済産業省)	63	0.0	0.0	1.6	6.3	3.2	11.1	7.9	7.9	15.9	12.7	20.6	11.1	1.6		78.9	80
AFF補助金(文化庁)	67	1.5	1.5	0.0	9.0	1.5	11.9	7.5	11.9	13.4	9.0	20.9	11.9	0.0		76.0	75
家賃支援給付金(経済産業省)	113	1.8	0.9	0.9	8.8	2.7	9.7	6.2	14.2	12.4	7.1	18.6	16.8	0.0		75.0	70
一時支援金、月次支援金(経済産業省)	71	2.8	2.8	0.0	8.5	2.8	11.3	12.7	8.5	14.1	4.2	11.3	21.1	0.0		66.7	65
雇用調整助成金<新型コロナ特例>(厚生労働省)	90	2.2	1.1	1.1	5.6	2.2	8.9	8.9	10.0	11.1	7.8	24.4	16.7	0.0		84.6	80
日本政策金融公庫融資	53	0.0	3.8	3.8	11.3	1.9	11.3	1.9	7.5	7.5	5.7	17.0	28.3	0.0		67.6	70
公庫・商工中金融資	12	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0	8.3	0.0	16.7	33.3	25.0	0.0		92.9	90	
自治体の文化芸術支援事業	45	2.2	2.0	0.4	4.4	0.0	6.7	2.2	13.3	6.7	13.3	28.9	17.8	2.2		93.9	90
銀行からの借入	63	0.0	1.6	1.6	6.3	4.8	11.1	15.9	7.9	11.1	6.3	12.7	20.6	0.0		67.4	65
寄付金の募集	56	1.8	0.0	0.0	8.9	3.6	10.7	16.1	10.7	10.7	26.8	16.1	0.0		92.4	80	
関係者からの借入	16	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0	12.5	0.0	6.3	18.8	12.5	0.0	37.5	0.0		62.5	75
内部留保・資産(事務所・スタジオなども含む)の処分	28	7.1	0.0	0.0	7.1	7.1	10.7	14.3	3.6	3.6	17.9	10.7	17.9	0.0		67.7	60
職員の給与カット	45	2.2	0.0	0.0	6.7	2.2	15.6	13.3	15.6	4.4	4.4	17.8	15.6	0.0		79.2	67.5
職員の解雇	10	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	30.0	0.0	10.0	30.0	0.0	10.0	0.0	0.0		57.8	50
その他	24	4.2	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	12.5	37.5	33.3	0.0		89.1	100
特になし	10	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	10.0	0.0		72.8	70

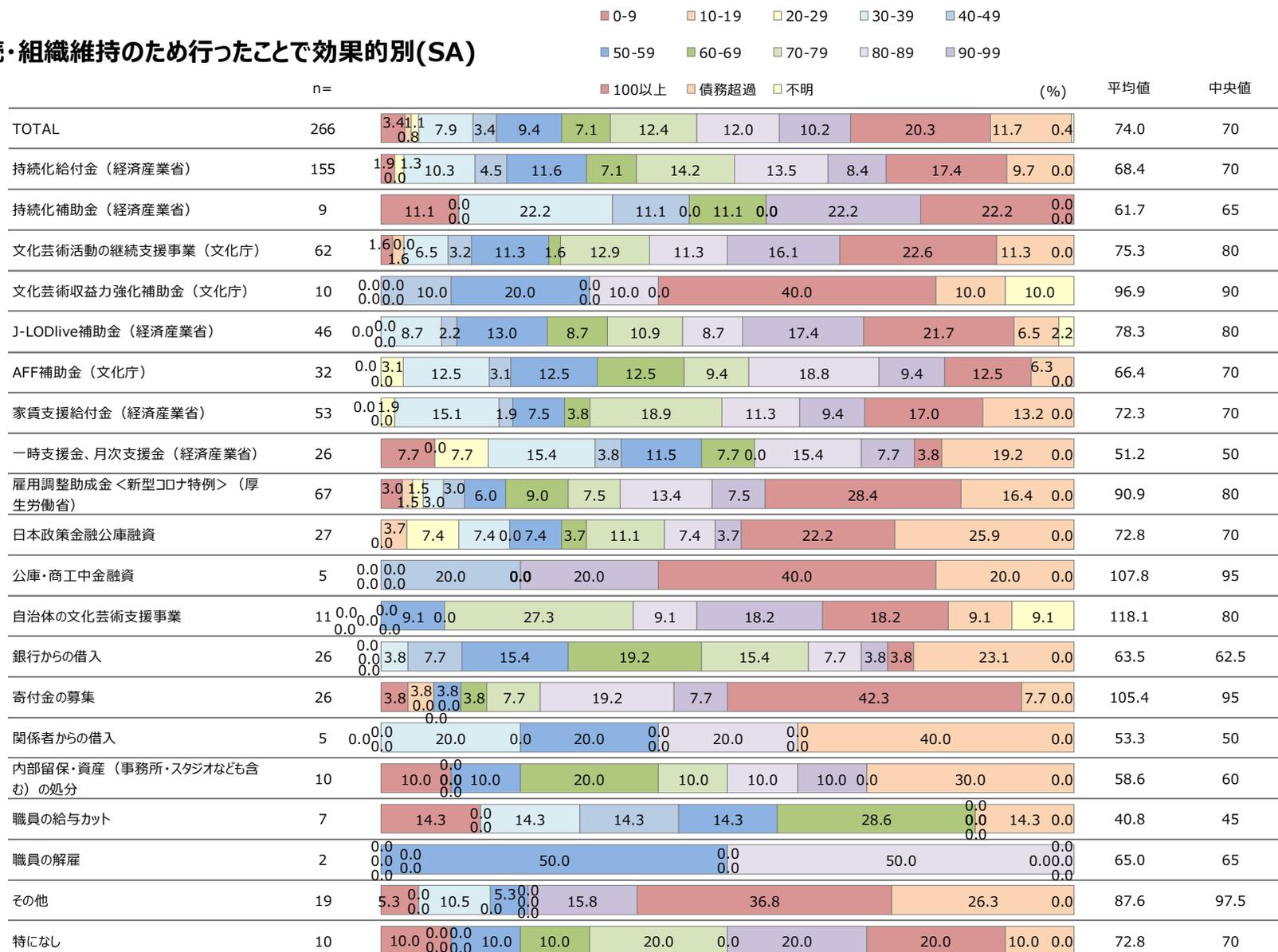
※n=30未満は参考値

(質問文) Q5 2020年、2021年の正味財産(基本財産・資本金・剰余金)の変化を教えてください。2019年度決算結果を100とし、2020年度決算結果、2021年は見込みをお答えください。債務超過の場合は「債務超過」にチェックを入れてください。(2021年)

5.正味財産の変化(2021年)(SA)

- 活動継続・組織維持のため行ったことで効果的（3LA）別にみると、『雇用調整助成金＜新型コロナ特例＞（厚生労働省）』で「100以上」が3割近くと高い。『家賃支援給付金（経済産業省）』で「70-79」は2割近くと高い。

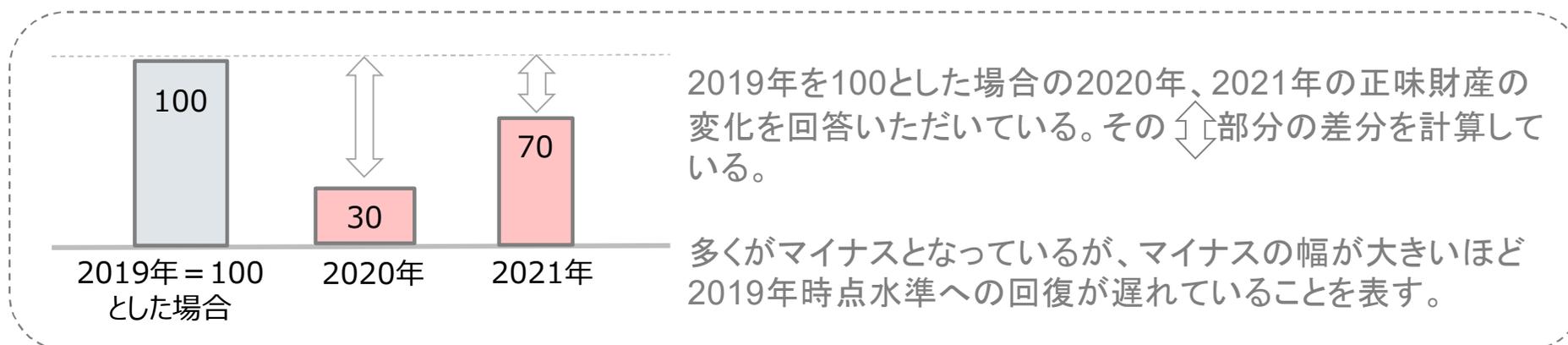
5-11.活動継続・組織維持のため行ったことで効果的別(SA)



※n=30未満は参考値

(質問文) Q5 2020年、2021年の正味財産（基本財産・資本金・剰余金）の変化を教えてください。2019年度決算結果を100とし、2020年度決算結果、2021年は見込みをお答えください。債務超過の場合は「債務超過」にチェックを入れてください。（2021年）

5. [指数変化]正味財産の変化(SA)



- 『2019⇒2020』の平均値は-27.1ポイントで、「-20～±0ポイント未満」が最も多く、22.6%。
『2019⇒2021』の平均値は-26.0ポイントで、「-20～±0ポイント未満」が最も高く、22.2%。
- 『2019⇒2021』と『2019⇒2020』を比べて、平均値、中央値の大きな差はみられない。

5-12.TOTAL結果(SA)

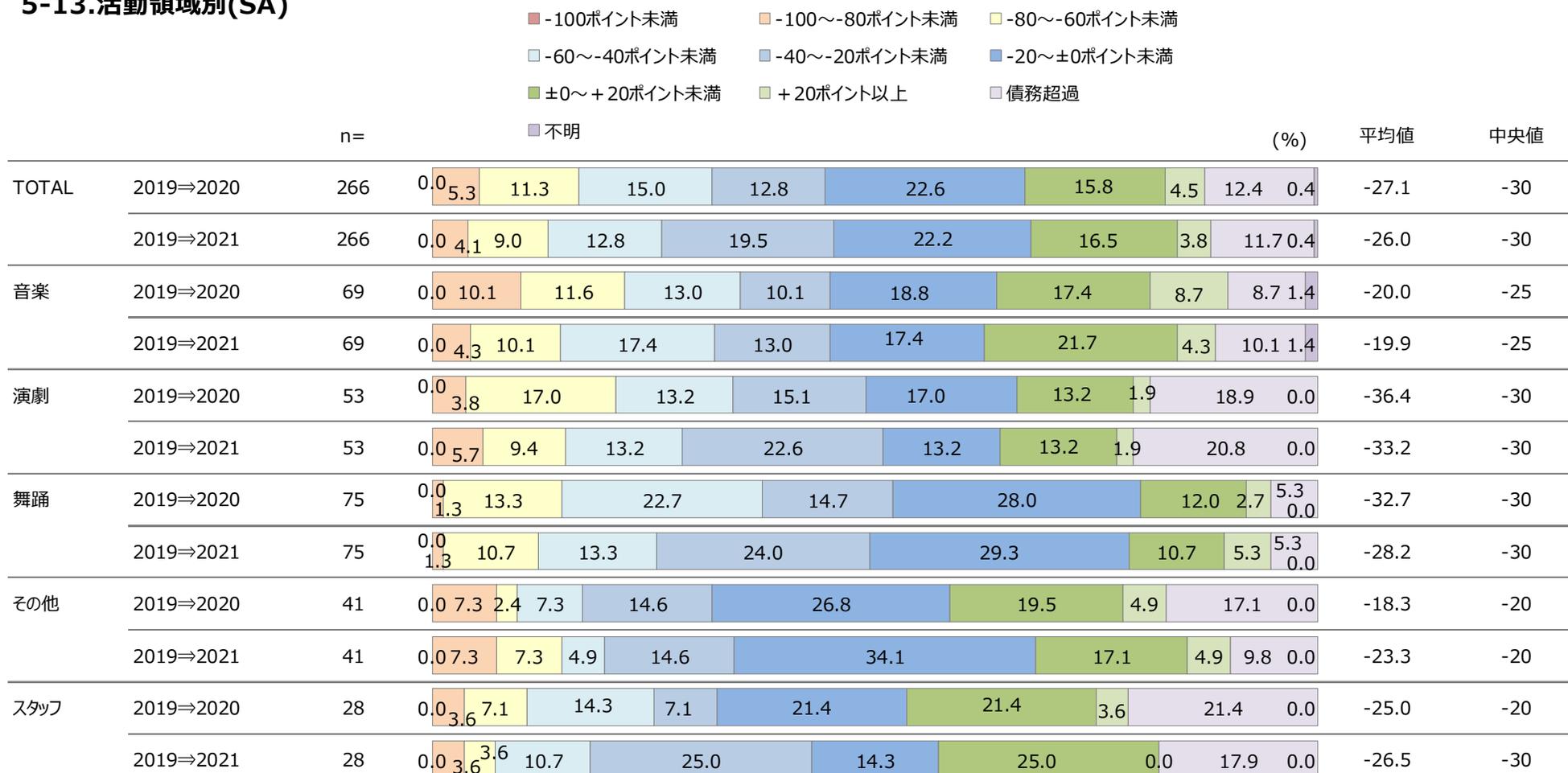
	n=	<div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> ■ -100ポイント未満 ■ -100~-80ポイント未満 ■ -80~-60ポイント未満 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> ■ -60~-40ポイント未満 ■ -40~-20ポイント未満 ■ -20～±0ポイント未満 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> ■ ±0～+20ポイント未満 ■ +20ポイント以上 ■ 債務超過 </div>										(%)	平均値	中央値
2019⇒2020	266	0.0	5.3	11.3	15.0	12.8	22.6	15.8	4.5	12.4	0.4	-27.1	-30	
2019⇒2021	266	0.0	4.1	9.0	12.8	19.5	22.2	16.5	3.8	11.7	0.4	-26.0	-30	

(質問文) * Q5 正味財産の変化

5. [指数変化]正味財産の変化・活動領域別(SA)

- 活動領域別にみると、『2019⇒2021』は『2019⇒2020』に比べ、全ての活動領域の平均値、中央値で大きな差はみられない。

5-13.活動領域別(SA)



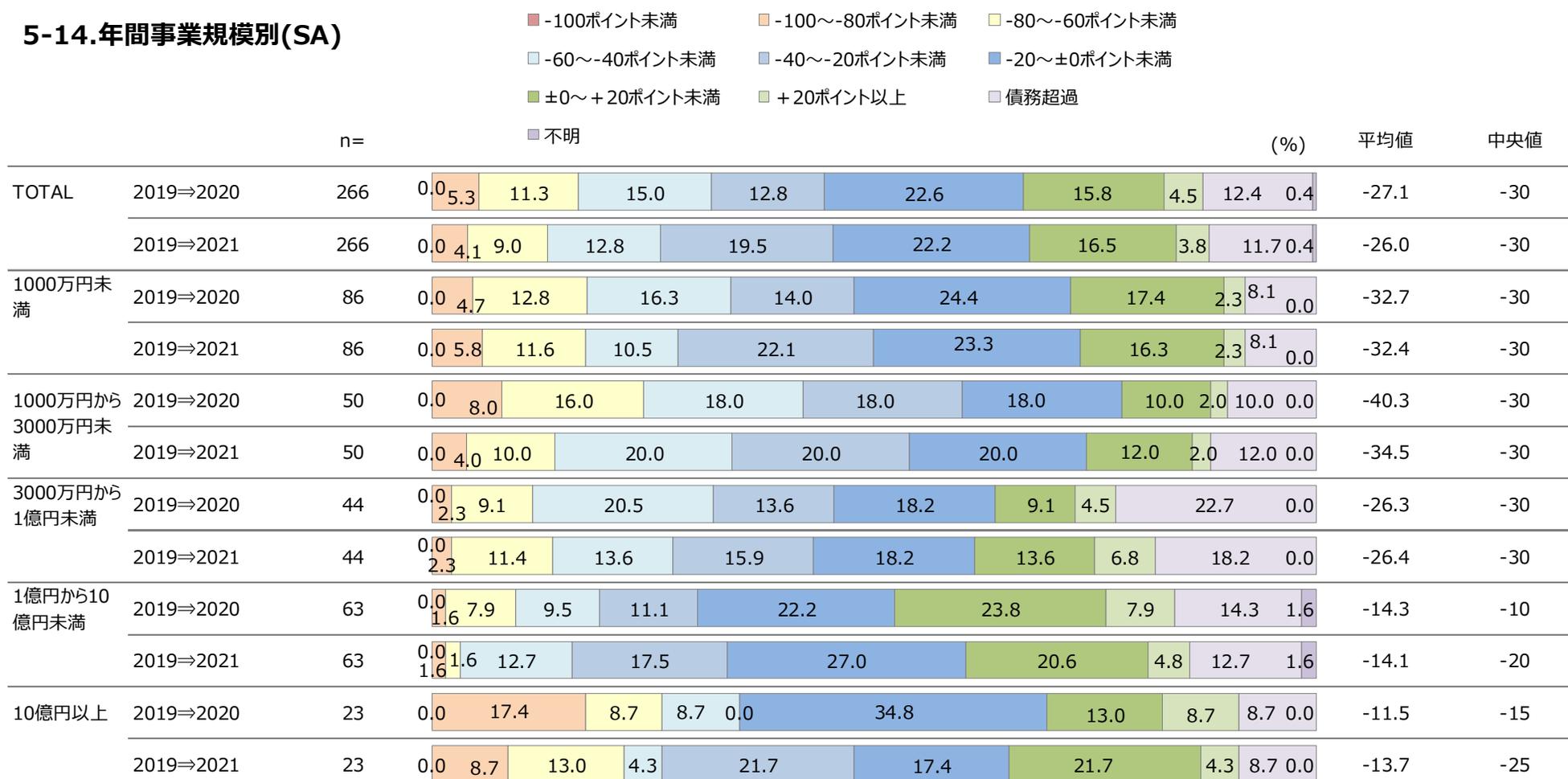
※n=30未満は
参考値

(質問文) * Q5 正味財産の変化

5. [指数変化]正味財産の変化・年間事業規模別(SA)

- 年間事業規模別にみると、『2019⇒2021』は『2019⇒2020』に比べ、全ての規模で平均値、中央値で大きな差はみられない。

5-14.年間事業規模別(SA)

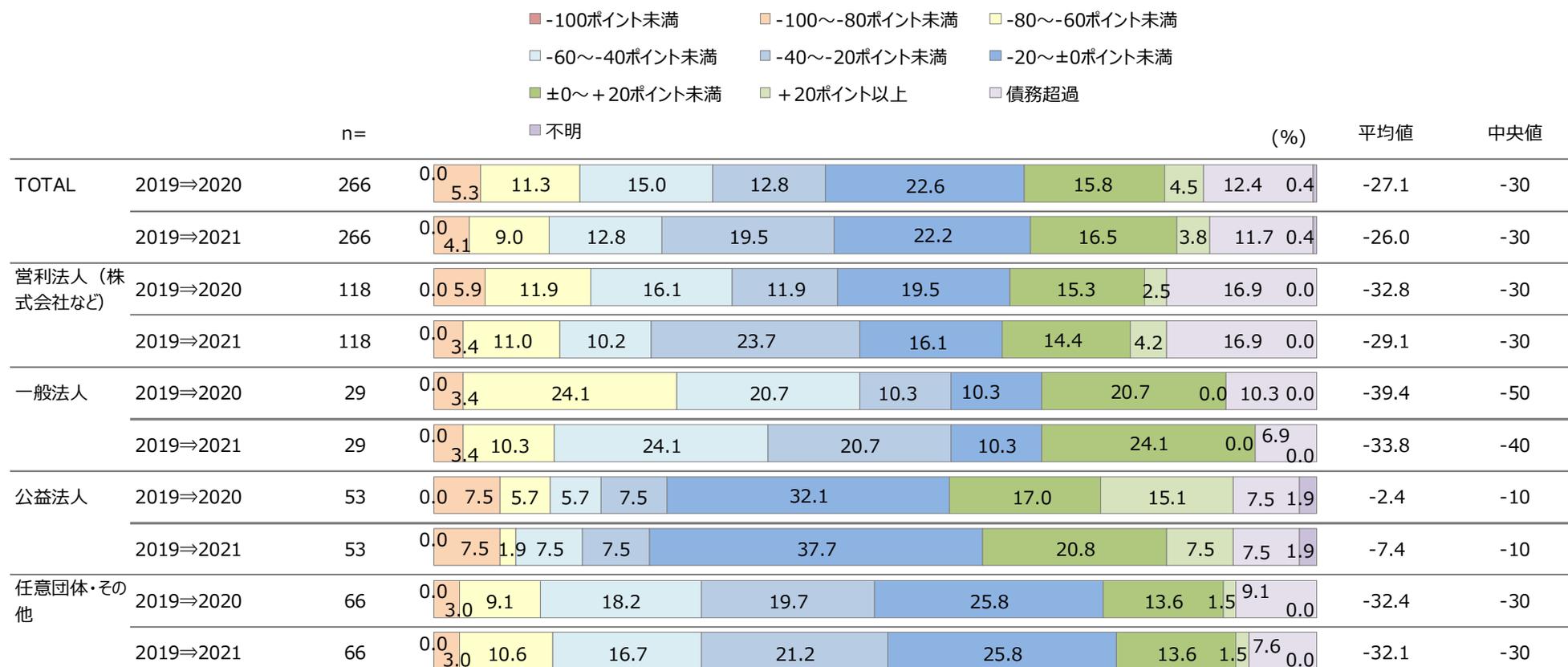


※n=30未満は参考値

5. [指数変化]正味財産の変化・法人格別(SA)

- 法人格別にみると、『2019⇒2021』は『2019⇒2020』に比べ、全ての法人格で平均値、中央値で大きな差はみられない。

5-15.法人格別(SA)



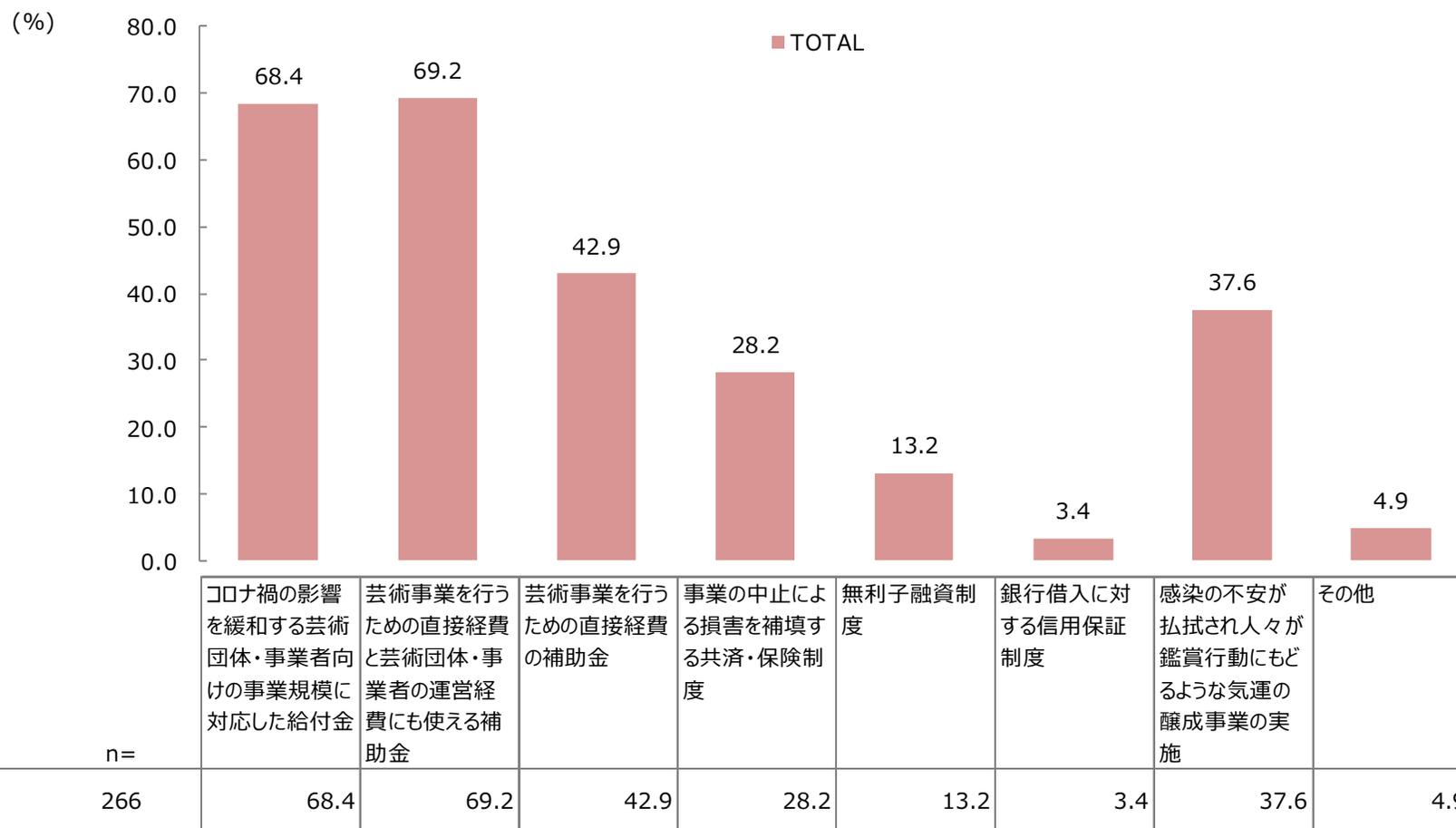
※n=30未満は
参考値

(質問文) * Q5 正味財産の変化

6.必要な手当(3LA)

- TOTALでは、「芸術事業を行うための直接経費と芸術団体・事業者の運営経費にも使える補助金」が最も多く、69.2%。「コロナ禍の影響を緩和する芸術団体・事業者向けの事業規模に対応した給付金」68.4%、「芸術事業を行うための直接経費の補助金」42.9%が続く。

6-1.TOTAL結果(3LA)



(質問文) Q6 コロナ禍の収束の兆しが見えてきましたが、これからも芸術活動を持続するために引き続き必要な手当はなんですか。3つまでお答えください。

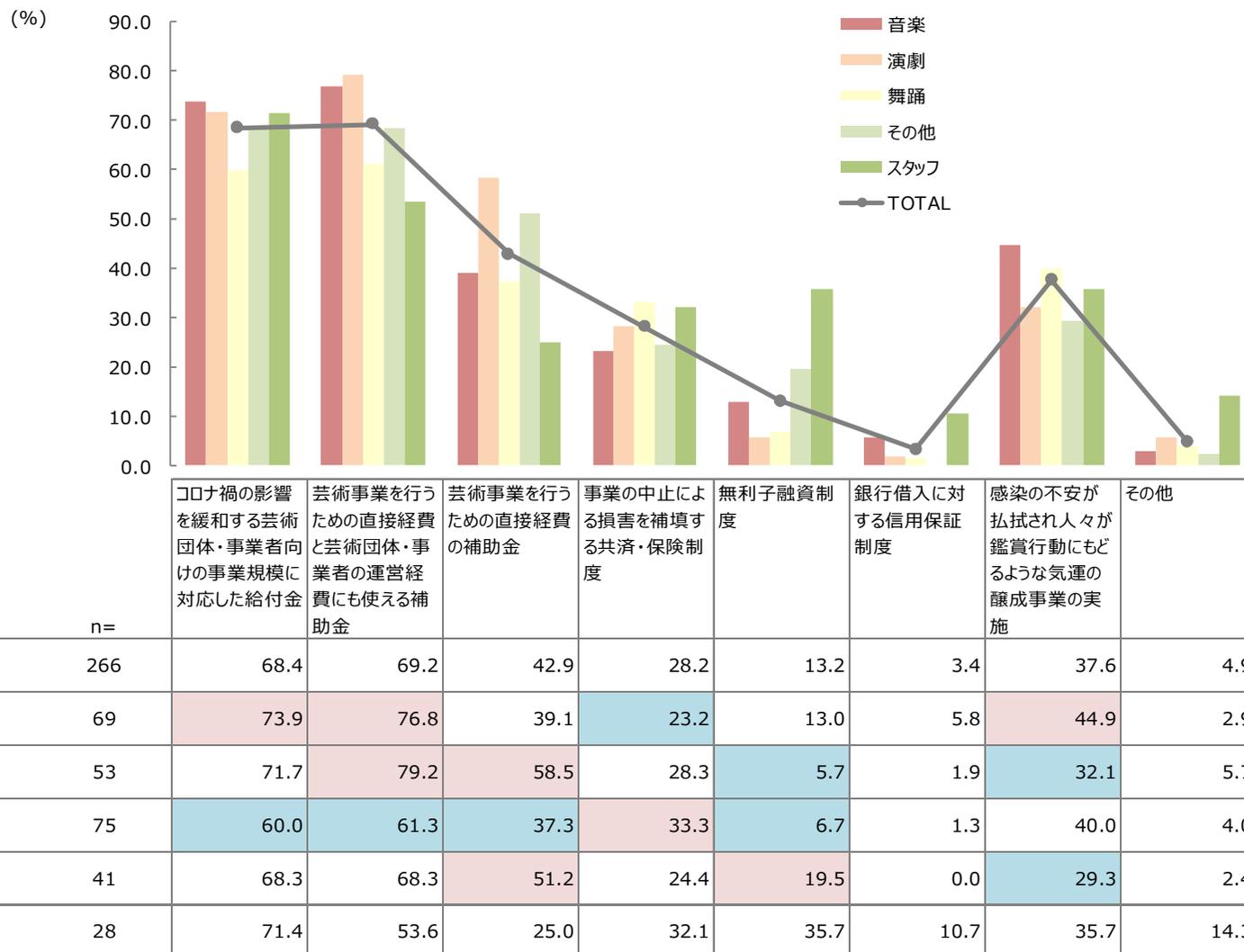
6.必要な手当(3LA)

- 活動領域別にみると、『演劇』では、「芸術事業を行うための直接経費と芸術団体・事業者の運営経費にも使える補助金」、「芸術事業を行うための直接経費の補助金」が高い。『音楽』では、「コロナ禍の影響を緩和する芸術団体・事業者向けの事業規模に対応した給付金」、「芸術事業を行うための直接経費と芸術団体・事業者の運営経費にも使える補助金」、「感染の不安が払拭され人々が鑑賞行動にもどるような気運の醸成事業の実施」が高い。

6-2.活動領域別(3LA)

※n=30未満は参考値

TOTALと比べ
+5ポイント以上
-5ポイント以下

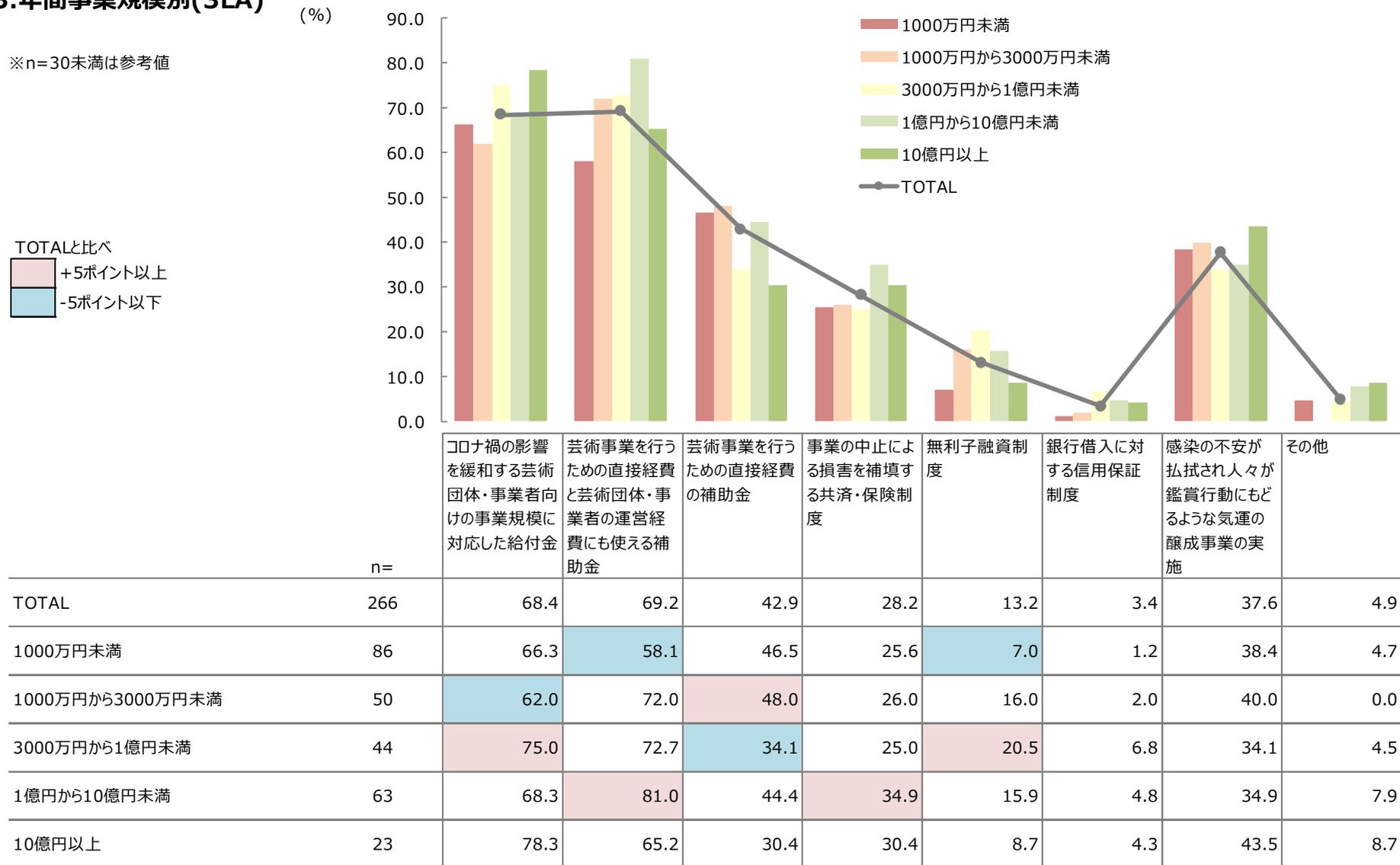


(質問文) Q6 コロナ禍の収束の兆しが見えてきましたが、これからも芸術活動を続けるために引き続き必要な手当はなんですか。3つまでお答えください。

6.必要な手当(3LA)

- 年間事業規模別にみると、1億円から10億円未満で「芸術事業を行うための直接経費と芸術団体・事業者の運営経費にも使える補助金」「事業の中止による損害を補填する共済・保険制度」、3000万円から1億円未満で「コロナ禍の影響を緩和する芸術団体・事業者向けの事業規模に対応した給付金」、1000万円から3000万円未満で「芸術事業を行うための直接経費の補助金」が高い。

6-3.年間事業規模別(3LA)



(質問文) Q6 コロナ禍の収束の兆しが見えてきましたが、これからも芸術活動が続けるために引き続き必要な手当はなんですか。3つまでお答えください。

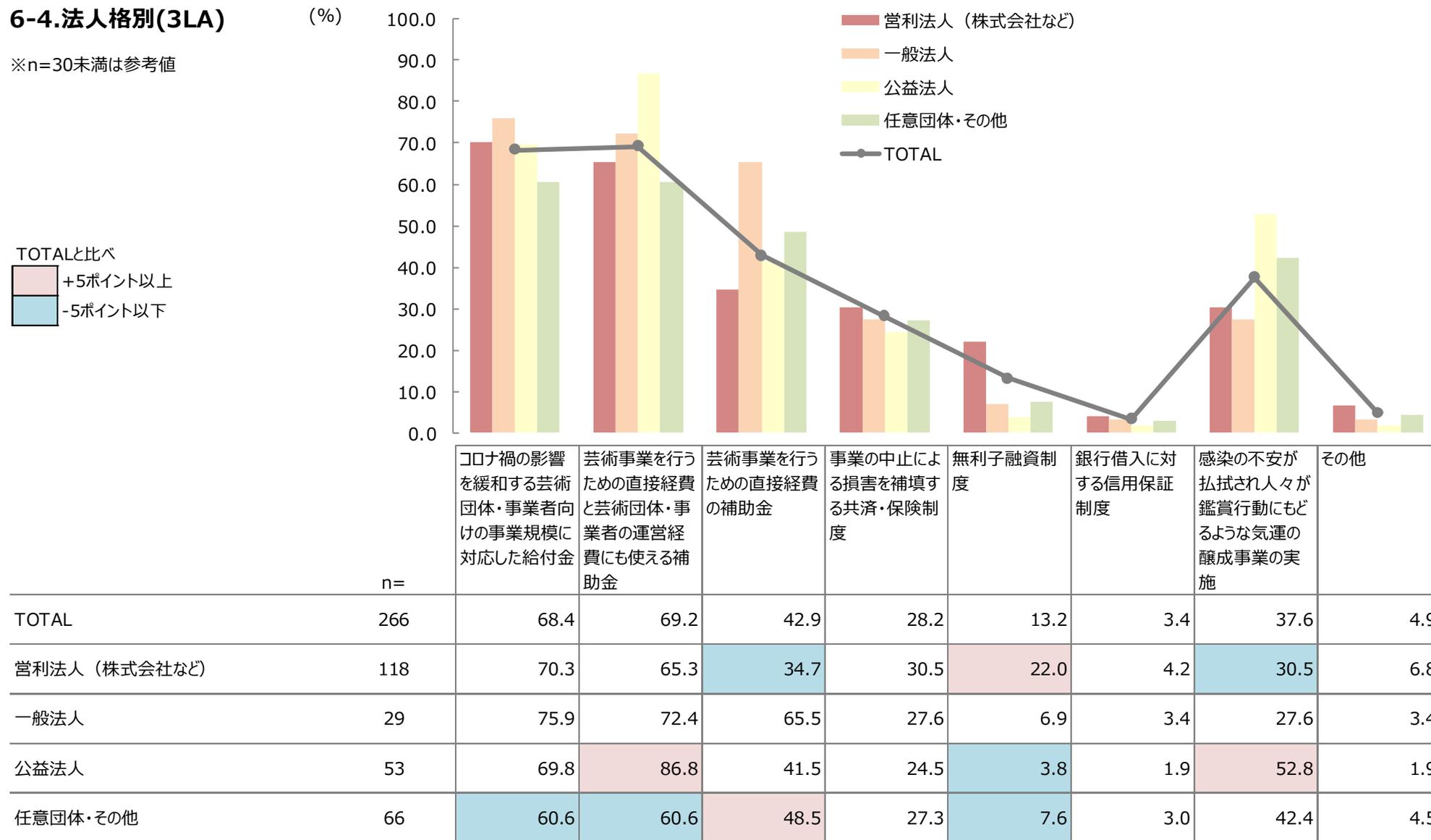
6.必要な手当(3LA)

- 法人格別にみると、公益法人（公益社団法人、公益財団法人）で「芸術事業を行うための直接経費と芸術団体・事業者の運営経費にも使える補助金」「感染の不安が払拭され人々が鑑賞行動にもどるような気運の醸成事業の実施」、任意団体・その他で「芸術事業を行うための直接経費の補助金」が高い。

6-4.法人格別(3LA)

(%)

※n=30未満は参考値



(質問文) Q6 コロナ禍の収束の兆しが見えてきましたが、これからも芸術活動を続けるために引き続き必要な手当はなんですか。3つまでお答えください。

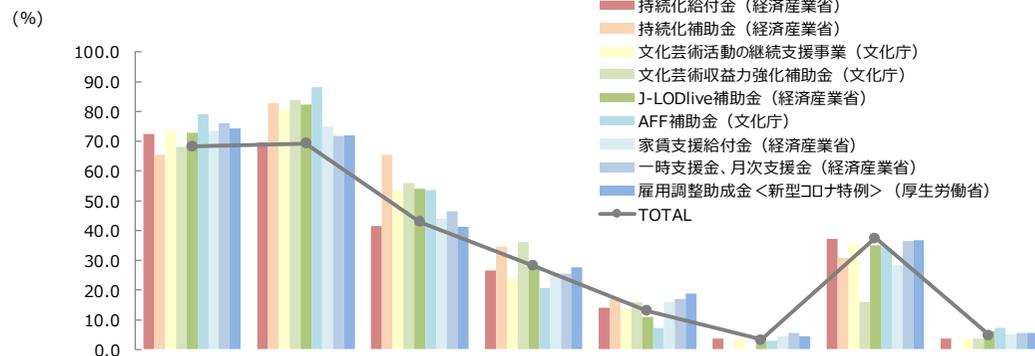
6.必要な手当(3LA)

- 活動継続・組織維持のため行ったこと（MA）別みると、『AFF補助金（文化庁）』『寄付金の募集』『J-LODlive補助金（経済産業省）』で「芸術事業を行うための直接経費と芸術団体・事業者の運営経費にも使える補助金」、『AFF補助金（文化庁）』『寄付金の募集』『銀行からの借入』で「コロナ禍の影響を緩和する芸術団体・事業者向けの事業規模に対応した給付金」が高い。

6-5.活動継続・組織維持のため行ったこと別(3LA)

※n=30未満は参考値

TOTALと比べ
 +5ポイント以上
 -5ポイント以下



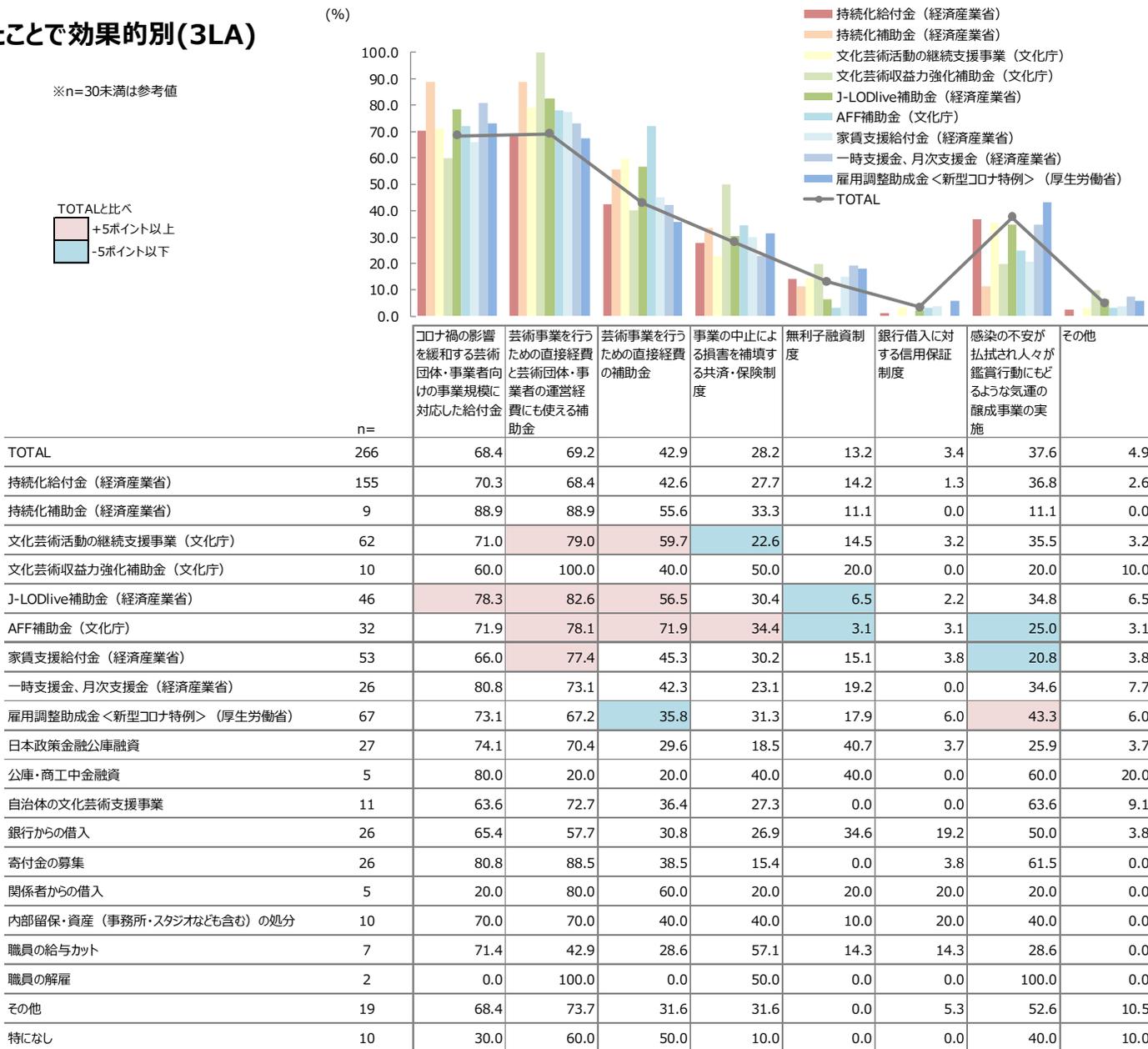
	n=	コロナ禍の影響を緩和する芸術団体・事業者向けの事業規模に対応した給付金	芸術事業を行うための直接経費と芸術団体・事業者の運営経費にも使える補助金	芸術事業を行うための直接経費の補助金	事業の中止による損害を補填する共済・保険制度	無利子融資制度	銀行借入に対する信用保証制度	感染の不安が払拭され人々が鑑賞行動にもどるような気運の醸成事業の実施	その他
TOTAL	266	68.4	69.2	42.9	28.2	13.2	3.4	37.6	4.9
持続化給付金（経済産業省）	211	72.5	69.7	41.7	26.5	14.2	3.8	37.4	3.8
持続化補助金（経済産業省）	29	65.5	82.8	65.5	34.5	17.2	0.0	31.0	0.0
文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）	109	73.4	80.7	53.2	23.9	13.8	3.7	35.8	3.7
文化芸術収益力強化補助金（文化庁）	25	68.0	84.0	56.0	36.0	16.0	0.0	16.0	4.0
J-LODlive補助金（経済産業省）	63	73.0	82.5	54.0	28.6	11.1	3.2	34.9	6.3
AFF補助金（文化庁）	67	79.1	88.1	53.7	20.9	7.5	3.0	34.3	7.5
家賃支援給付金（経済産業省）	113	73.5	75.2	44.2	25.7	15.9	4.4	28.3	5.3
一時支援金、月次支援金（経済産業省）	71	76.1	71.8	46.5	25.4	16.9	5.6	36.6	5.6
雇用調整助成金<新型コロナ特例>（厚生労働省）	90	74.4	72.2	41.1	27.8	18.9	4.4	36.7	5.6
日本政策金融公庫融資	53	73.6	75.5	34.0	20.8	30.2	5.7	32.1	7.5
公庫・商工中金融資	12	66.7	58.3	33.3	25.0	41.7	8.3	33.3	16.7
自治体の文化芸術支援事業	45	66.7	77.8	44.4	28.9	6.7	2.2	51.1	2.2
銀行からの借入	63	76.2	63.5	34.9	28.6	28.6	11.1	34.9	3.2
寄付金の募集	56	76.8	87.5	46.4	23.2	3.6	5.4	48.2	1.8
関係者からの借入	16	75.0	93.8	43.8	12.5	12.5	6.3	37.5	0.0
内部留保・資産（事務所・スタジオなども含む）の処分	28	71.4	60.7	25.0	32.1	21.4	17.9	50.0	7.1
職員の給与カット	45	73.3	73.3	46.7	26.7	15.6	11.1	31.1	2.2
職員の解雇	10	60.0	80.0	40.0	30.0	20.0	0.0	60.0	0.0
その他	24	62.5	79.2	37.5	29.2	0.0	4.2	50.0	16.7
特になし	10	30.0	60.0	50.0	10.0	0.0	0.0	40.0	10.0

（質問文）Q6 コロナ禍の収束の兆しが見えてきましたが、これからも芸術活動を続けるために引き続き必要な手当はなんですか。3つまでお答えください。

6.必要な手当(3LA)

- 活動継続・組織維持のため行ったことで効果的（3LA）別にみると、『J-LODlive補助金（経済産業省）』『文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）』『AFF補助金（文化庁）』で「芸術事業を行うための直接経費と芸術団体・事業者の運営経費にも使える補助金」、『J-LODlive補助金（経済産業省）』で「コロナ禍の影響を緩和する芸術団体・事業者向けの事業規模に対応した給付金」が高い。

6-6.活動継続・組織維持のため行ったことで効果的別(3LA)



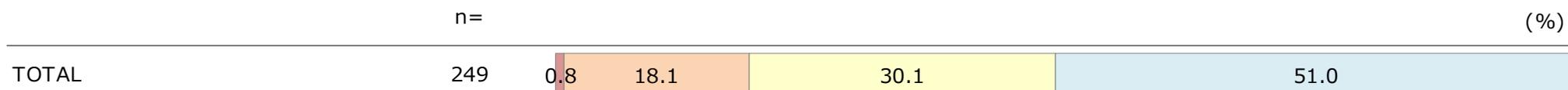
（質問文） Q6 コロナ禍の収束の兆しが見えてきましたが、これからも芸術活動を続けるために引き続き必要な手当はなんですか。3つまでお答えください。

7.回復見込み(SA)

- TOTALでは、「見通しが立たない」が最も多く、51.0%。「2023年中には回復する見込み」30.1%、「2022年中には回復する見込み」18.1%が続く。

7-1.TOTAL結果(SA)

■ 今年中に回復する見込み ■ 2022年中には回復する見込み ■ 2023年中には回復する見込み ■ 見通しが立たない



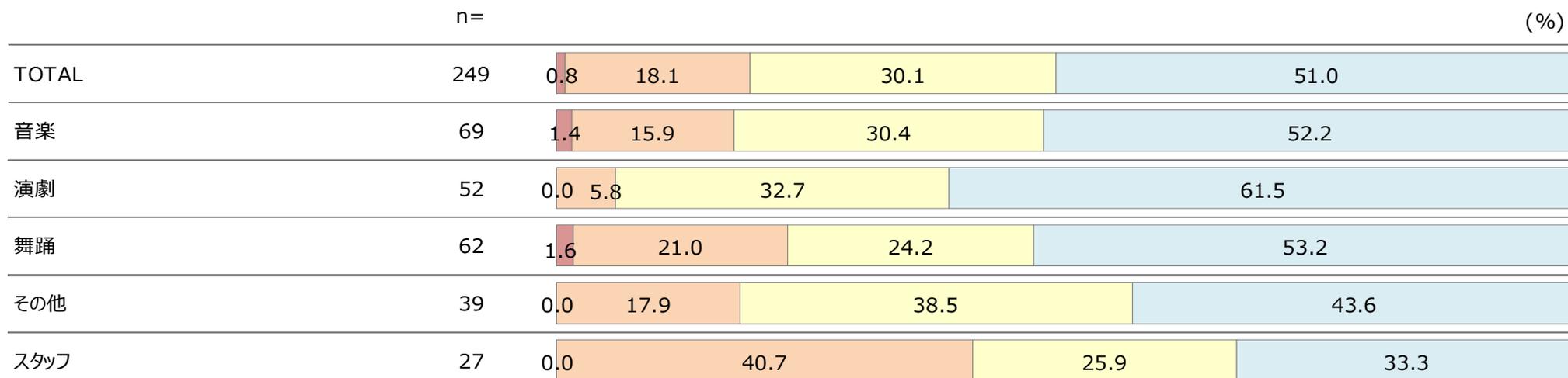
(質問文) Q7 2019年の状況に回復するのはいつ頃と見込んでいますか。

7.回復見込み(SA)

- 活動領域別にみると、とくに『演劇』では「見通しが立たない」が61.5%と割合が高い。

7-2.活動領域別(SA)

■ 今年中に回復する見込み ■ 2022年中には回復する見込み ■ 2023年中には回復する見込み □ 見通しが立たない



※n=30未満は参考値

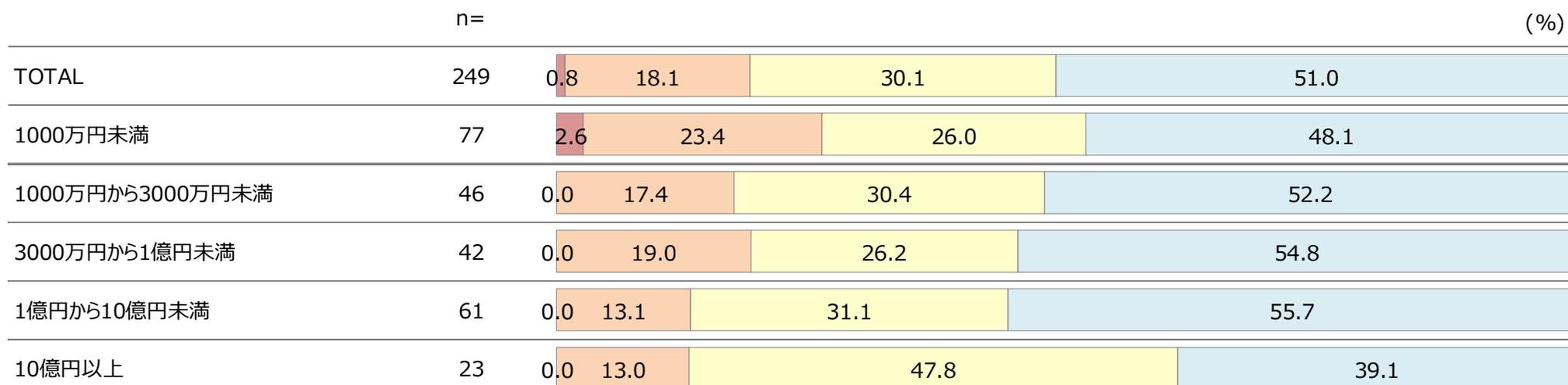
(質問文) Q7 2019年の状況に回復するのはいつ頃と見込んでいますか。

7.回復見込み(SA)

- 年間事業規模別にみると、1000万円未満で「2022年中には回復する見込み」が23.4%と、他事業規模と比較すると割合が高い。

7-3.年間事業規模別(SA)

■ 今年中に回復する見込み ■ 2022年中には回復する見込み ■ 2023年中には回復する見込み □ 見通しが立たない



※n=30未満は参考値

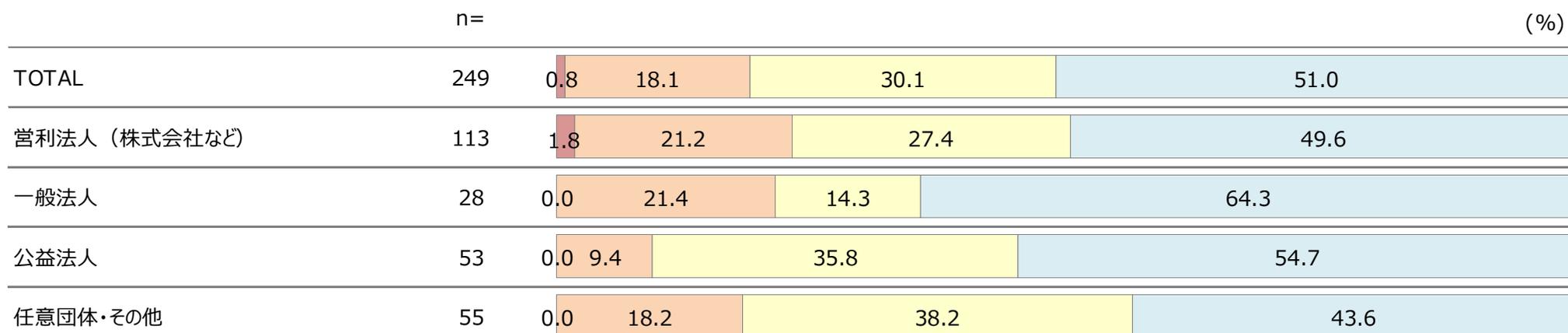
(質問文) Q7 2019年の状況に回復するのはいつ頃と見込んでいますか。

7.回復見込み(SA)

- 法人格別にみると、公益法人（公益社団法人、公益財団法人）、任意団体・その他で「2023年中には回復する見込み」がそれぞれ35.8%、38.2%と3割を超えている。

7-4.法人格別(SA)

■ 今年中に回復する見込み ■ 2022年中には回復する見込み ■ 2023年中には回復する見込み ■ 見通しが立たない



※n=30未満は参考値

（質問文） Q7 2019年の状況に回復するのはいつ頃と見込んでいますか。

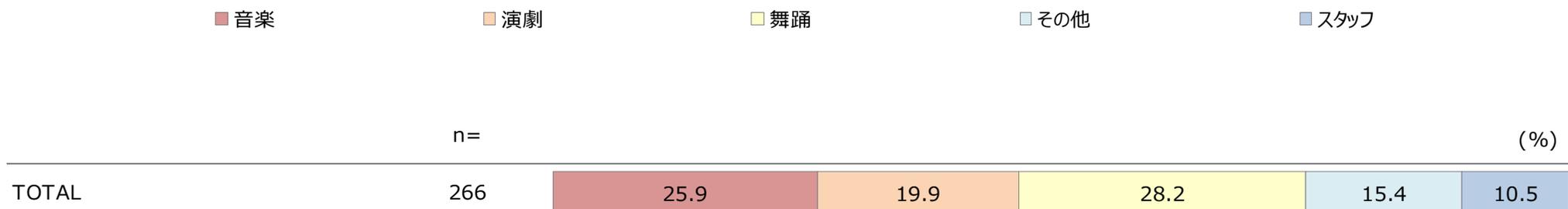
8.活動領域(SA)

- TOTALでは、「舞踊」が最も多く、28.2%。「音楽」25.9%、「演劇」19.9%が続く。

8-1.TOTAL結果(SA)



※クロス分析では以下の区分を利用

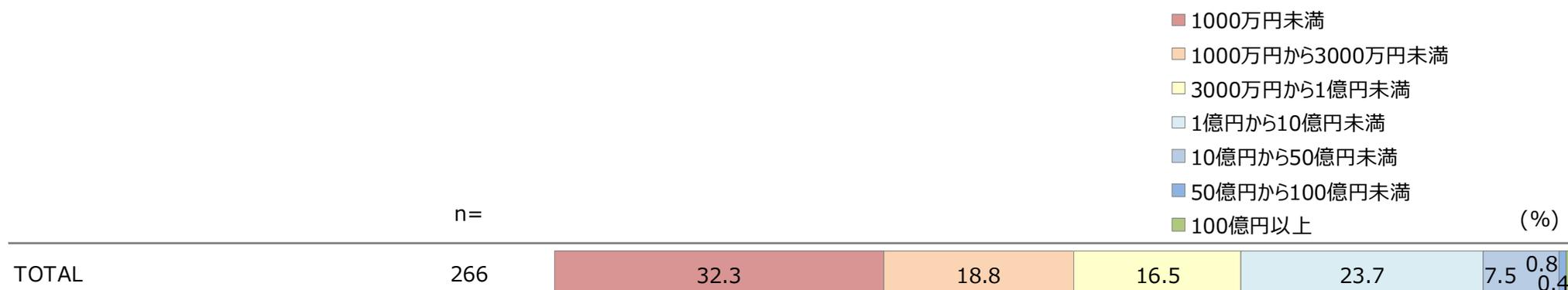


(質問文) Q8 貴団体の主な文化芸術の活動領域をお答えください。貴団体について教えてください。

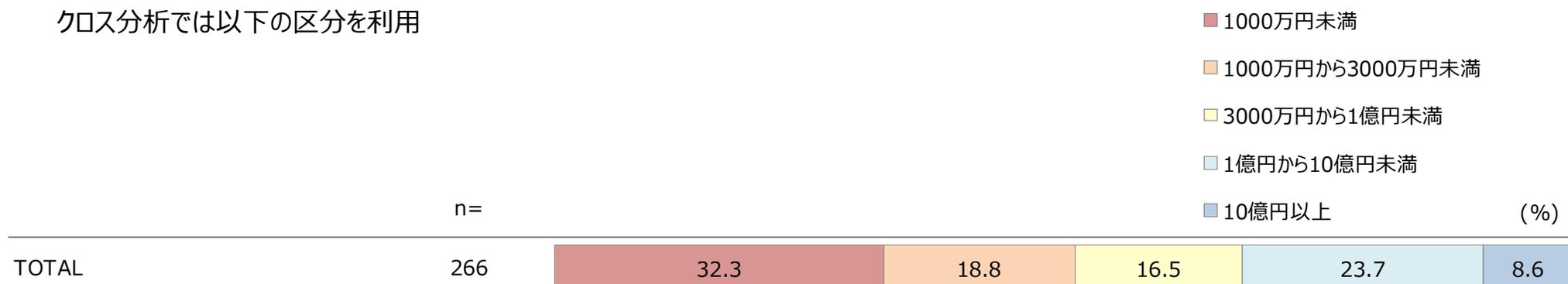
9.年間事業規模(SA)

- TOTALでは、1000万円未満が最も多く、32.3%。1億円から10億円未満23.7%、1000万円から3000万円未満18.8%が続く。

9-1.TOTAL結果(SA)



クロス分析では以下の区分を利用

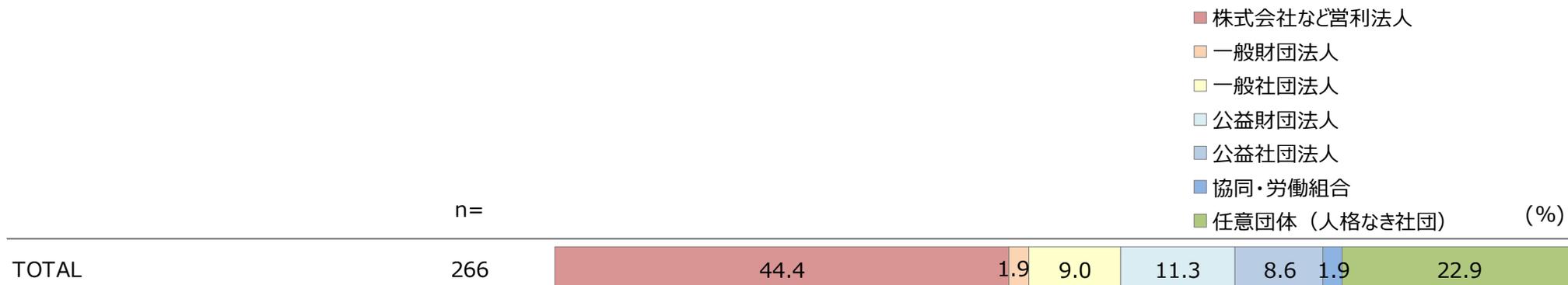


(質問文) Q9 貴団体の2019年の年間事業規模を教えてください。

10.法人格(SA)

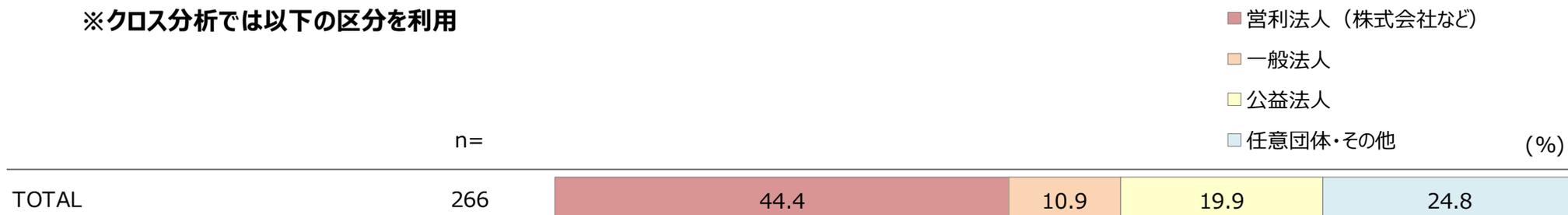
- TOTALでは、「■株式会社など営利法人」が最も多く、44.4%。「■任意団体（人格なき社団）」22.9%、「■公益財団法人」11.3%が続く。

10-1.TOTAL結果(SA)



- TOTALでは、「■営利法人（株式会社など）」が最も多く、44.4%。「■任意団体・その他」24.8%、「■公益法人（公益社団法人、公益財団法人）」19.9%が続く。

※クロス分析では以下の区分を利用



(質問文) Q10 貴団体の法人格を教えてください。

Ⅲ 調査票

(1. 実演家・スタッフ向け)

1.実演家・スタッフ向け

芸術協「実演芸術の再生に向けた提言に関するアンケート」＜実演家・スタッフ向け＞

アンケートにアクセスしていただき、ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染拡大の防止のため実演芸術界は大きな打撃を受けました。

2020年から20か月以上も続くコロナ禍の影響、今後の再生に向けての支援、環境整備に向けた提言を行う資料を得るため以下のアンケートにご協力ください。

ご協力いただける場合は「開始」ボタンを押し、回答を開始してください。

開始

注意事項

回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。

Q1 この20か月(2020年3月～2021年10月)の活動の状況についてお答えください。

- 2020年は激減したが、2021年はかなり復調してきた
- 2020年は激減したが、2019年と比べて2021年は半減程度になった
- 2020年は激減し、2021年も減ったままである
- 2020年はあまり影響を受けなかったが、2021年は減少してきた
- コロナ禍で仕事は減り続けている
- コロナ禍以前とあまり変わりなく出来ている

Q2 2020年から2021年、芸術活動の収入の変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。

※0～999の範囲でお答えください。

例:2019年100
2020年30
2021年50

2019年 100

2020年

2021年

Q3 コロナ禍で、仕事が中止になった場合、キャンセル料は支払われましたか。最も回数が多かったものをお答えください。

- 全て支払われた
- 仕事の分野により異なる
- 仕事相手により異なる
- 全て支払われなかった

Q4 コロナ禍で、活動の継続、生活の維持のために行ったことを全て挙げてください。その中で効果的だったものを3つお答えください。

1/2

行ったこと
(あてはまることすべて)

- 特別定額給付金（総務省）
- 持続化給付金（経済産業省）
- 文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）
- 家賃支給給付金（経済産業省）
- 住宅確保給付金（厚生労働省）
- 緊急小口融資・総合支援資金（厚生労働省）
- 一時支援金・月次支援金（経済産業省）
- 銀行からの借入
- 寄付集め
- 友人・知人からの借入
- 預貯金、活動用の機材・設備の処分
- その他 具体的に：
- 特になし

次を表示

1.実演家・スタッフ向け

Q4 コロナ禍で、活動の継続、生活の維持のために行ったことを全て挙げてください。その中で効果的だったものを3つお答えください。

2 / 2

行った中で効果的だったこと
(3つまで)

- 特別定額給付金（総務省）
- 持続化給付金（経済産業省）
- 文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）
- 家賃支給給付金（経済産業省）
- 住宅確保給付金（厚生労働省）
- 緊急小口融資・総合支援資金（厚生労働省）
- 一時支援金・月次支援金（経済産業省）
- 銀行からの借入
- 寄付集め
- 友人・知人からの借入
- 預貯金、活動用の機材・設備の処分
- その他 具体的に：
- 特になし

次を表示

ここからは芸術活動の継続のための支援、活動環境の改善の資料を得るために伺います。

Q5 コロナ禍の収束の兆しが見えてきましたが、これからも芸術活動を続けるために引き続き給付金は必要と思いますか。

- 是非とも必要
- どちらともいえない
- 必要はない

Q6 コロナ禍以前、仕事の取り組み方はどのようなものでしたか。もっとも近いものをお答えください。

- ほとんどの仕事は主催者から依頼されて
- 75%が主催者から依頼されて
- 50%が主催者から依頼されて
- 25%が主催者から依頼されて
- ほとんどは自主的な仕事
- 実演芸術の仕事で年間を通し雇用されている
- その他 具体的に：

Q7 舞台、放送、映画、指導に関する出演・業務依頼の交渉と受諾、自主企画などの実施判断を行うのはどなたですか。

- 全て自分（家族を含め）が行っている
- 出演マネジメントを依頼している事務所
- 所属する団体、プロダクション
- 仕事により個人が決めるもの、団体、事務所などが決めるものがある

Q8 あなたは、舞台、放送、映画、指導に関する仕事内容について書面、メール、口頭を含め契約を行いますか。

- はい
- いいえ

Q9 前問で、契約を行っているとお答えの方に伺います。舞台、放送、映画の出演、指導に関する仕事の依頼はどのように契約をしていますか。

- 依頼を受ける全ての仕事が書面による契約
- 依頼を受ける全ての仕事が口頭による契約
- 仕事により、書面または口頭による
- マネジメント事務所等に一任（自分では行わない）
- その他 具体的に：

Q10 前問で「依頼を受ける全ての仕事が書面による契約」「仕事により書面によるもの、口頭によるものと両方」とお答えの方に伺います。書面による契約は、主にどのような形式ですか。

- 契約書・覚書などの名称で当事者が署名・押印し収入印紙が貼付された書面の取り交わし
- 文書による仕事の依頼書と承諾書の取り交わし
- 文書による日程（香盤）などの通知
- メールによる依頼
- その他 具体的に：

1.実演家・スタッフ向け

Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。

1/8

仕事内容

- 絶対必要
- ある方が良い
- 無くても良い

次を表示

Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。

2/8

スケジュール（拘束日数と時間）

- 絶対必要
- ある方が良い
- 無くても良い

次を表示

Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。

3/8

仕事の場所

- 絶対必要
- ある方が良い
- 無くても良い

次を表示

Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。

4/8

報酬の額

- 絶対必要
- ある方が良い
- 無くても良い

次を表示

Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。

5/8

報酬の支払期日と方法

- 絶対必要
- ある方が良い
- 無くても良い

次を表示

Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。

6/8

著作権の取り扱い（利用範囲・報酬など）

- 絶対必要
- ある方が良い
- 無くても良い

次を表示

1.実演家・スタッフ向け

Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。

7/8

仕事場の環境

- 絶対必要
- ある方がよい
- 無くてもよい

次を表示

Q11 出演・業務依頼の際に事前に明示される内容で、必要なものは何ですか。それぞれお答えください。

8/8

スケジュール等変更の取り扱い

- 絶対必要
- ある方がよい
- 無くてもよい

次を表示

Q12 仕事をする上で、契約書の有無など、依頼のされ方についてあなたはどのように思いますか。

- 契約書は結ぶべきだ
- 事前の文書またはメールでの依頼で十分である
- 電話、対面など口頭での依頼で十分である
- 仕事の規模（仕事内容、拘束期間、報酬など）により区別したほうがよい
- その他
-

Q13 仕事内容について書面で契約を行っていない方に伺います。契約書を結ばない理由として該当するものはありますか。

- 依頼者から提示されないから
- こちらから求めても拒まれることが多いから
- 依頼内容がなかなか決まらず頻繁に変更されることが多いから
- 直前に依頼があることが多いから
- 自身に法務の知識がないため契約書を結ぶことに負担を感じるから
- 報酬額から契約書を結ぶ手間、合理性がないから
- その他 具体的に：

Q14 団体・事務所等に所属・専属している方に伺います。契約等の内容はどのようなものですか。

- 全ての仕事を任せる専属契約
- 特定の仕事に限り任せる所属契約
- 契約は結んでいるが、個人として受ける全ての仕事は自由にできる契約
- 参加する所属団体が出演の基本を定めた規約を明示
- 契約、規約は何もない

Q15 所属団体・事務所等からの個別の仕事に出演等した場合、報酬の支払方法はどのようなものですか。

- 仕事量に応じた一定のマネジメント料を控除され報酬を受ける方式
- 固定報酬と仕事量に応じた報酬を受ける方式
- 仕事の量にかかわらず固定報酬を受ける方式
- 報酬の支払い方法は決まっていない
- その他 具体的に：

Q16 トラブルが起こった場合、どのような支援があると助かりますか。

- 相談窓口の設置
- クレーム処理の第三者機関の設置
- 弁護士・司法書士・税理士など専門家紹介
- その他 具体的に：

1.実演家・スタッフ向け

Q17 自然災害、怪我や病気などによる収入減少を補うなどこの仕事を安心して続けるため、共済・保険制度を創設する場合、どのような手当が必要ですか。

- 自然災害等による仕事の減少やキャンセルを補償する手当
- 仕事の原因による疾病・障害で仕事が出来なくなった場合の手当
- 怪我や病気によって一時的に仕事が出来なくなった場合の手当
- 転職や引退する時の一時金
- 融資制度
- 身分証明や信用保証
- その他 具体的に：

あなた自身のことについて教えてください。

Q18 あなたの主な芸術の活動領域をお答えください。

- 音楽
- 演劇
- 舞踊
- メディア芸術（映画、漫画、アニメーションなど）
- 伝統的な芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊など）
- 芸能（講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱など）
- スタッフ（舞台・照明・音響技術、制作など）
- その他

Q19 年齢についてお答えください。

- 20歳未満
- 20歳～30歳未満
- 30歳～40歳未満
- 40歳～50歳未満
- 50歳～60歳未満
- 60歳～70歳未満
- 70歳以上

Q20 性別についてお答えください。

- 男性
- 女性
- その他

IV 調査票

(2.芸術団体・事業者向け)

2.芸術団体・事業者向け

芸術協「実演芸術の再生に向けた提言に関するアンケート」<芸術団体・事業者向け>

アンケートにアクセスしていただき、ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染拡大の防止のため実演芸術界は大きな打撃を受けました。

2020年から20か月以上も続くコロナ禍の影響、今後の再生に向けての支援、環境整備に向けた提言を行う資料を得るため以下のアンケートにご協力ください。

ご協力いただける場合は「開始」ボタンを押し、回答を開始してください。

注意事項

回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。

Q1 この20か月(2020年3月～2021年10月)の活動の状況についてお答えください。

- 2020年は激減したが、2021年はかなり復調してきた
- 2020年は激減したが、2019年と比べて2021年は半減程度になった
- 2020年は激減し、2021年も減ったままである
- 2020年はあまり影響を受けなかったが、2021年は減少してきた
- コロナ禍で仕事は減り続けている
- コロナ禍以前とあまり変わりなく出来ている

Q2 2020年から2021年、芸術活動の事業収入変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。

※0～999の範囲でお答えください。

例:2019年100
2020年30
2021年50

2019年 100

2020年

2021年

Q3 公演を主催、公演を委託されている団体・事業者の皆様へ伺います。
2020年から2021年、観客数変化を教えてください。2019年を100とし、2021年は見込みをお答えください。

※0～999の範囲でお答えください。

例:2019年100
2020年30
2021年50

2019年 100

2020年

2021年

Q4 コロナ禍で、活動継続、組織維持のために行った取り組みは何ですか。行ったことを全てお答えください。また効果的だったものを3つまでお答えください。

1/2

行ったこと
(あてはまることすべて)

- 持続化給付金（経済産業省）
- 持続化補助金（経済産業省）
- 文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）
- 文化芸術収益力強化補助金（文化庁）
- J-LODlive補助金（経済産業省）
- AFF補助金（文化庁）
- 家賃支援給付金（経済産業省）
- 一時支援金、月次支援金（経済産業省）
- 雇用調整助成金<新型コロナ特例>（厚生労働省）
- 日本政策金融公庫融資
- 公庫・商工中金融資
- 自治体の文化芸術支援事業
- 銀行からの借入
- 寄付金の募集
- 関係者からの借入
- 内部留保・資産（事務所・スタジオなども含む）の処分
- 職員の給与カット
- 職員の解雇
- その他 具体的に：
- 特になし

2.芸術団体・事業者向け

Q4 コロナ禍で、活動継続、組織維持のために行った取り組みは何ですか。行ったことを全てお答えください。また効果的だったものを3つまでお答えください。

2 / 2

行った中で効果的だったこと
(3つまで)

- 持続化給付金（経済産業省）
- 持続化補助金（経済産業省）
- 文化芸術活動の継続支援事業（文化庁）
- 文化芸術収益力強化補助金（文化庁）
- J-LODlive補助金（経済産業省）
- AFF補助金（文化庁）
- 家賃支援給付金（経済産業省）
- 一時支援金、月次支援金（経済産業省）
- 雇用調整助成金<新型コロナ特例>（厚生労働省）
- 日本政策金融公庫融資
- 公庫・商工中金融資
- 自治体の文化芸術支援事業
- 銀行からの借入
- 寄付金の募集
- 関係者からの借入
- 内部留保・資産（事務所・スタジオなども含む）の処分
- 職員の給与カット
- 職員の解雇
- その他 具体的に：
- 特になし

次を表示

Q5 2020年、2021年の正味財産（基本財産・資本金・剰余金）の変化を教えてください。2019年度決算結果を100とし、2020年度決算結果、2021年は見込みをお答えください。債務超過の場合は「債務超過」にチェックを入れてください。

※0～999の範囲でお答えください。

例：2019年100
2020年30
2021年50

2019年 100

2020年

Q6 コロナ禍の収束の兆しが見えてきましたが、これからも芸術活動を続けるために引き続き必要な手当はなんですか。3つまでお答えください。

- コロナ禍の影響を緩和する芸術団体・事業者向けの事業規模に対応した給付金
- 芸術事業を行うための直接経費と芸術団体・事業者の運営経費にも使える補助金
- 芸術事業を行うための直接経費の補助金
- 事業の中止による損害を補填する共済・保険制度
- 無利子融資制度
- 銀行借入に対する信用保証制度
- 感染の不安が払拭され人々が鑑賞行動にもどるような気運の醸成事業の実施
- その他 具体的に：

Q7 2019年の状況に回復するのはいつ頃と見込んでいますか。

- 今年中に回復する見込み
- 2022年中には回復する見込み
- 2023年中には回復する見込み
- 見通しが立たない

貴団体について教えてください。

Q8 貴団体の主な文化芸術の活動領域をお答えください。

- 音楽
- 演劇
- 舞踊
- メディア芸術（映画、漫画、アニメーションなど）
- 伝統的な芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊など）
- 芸能（講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱など）
- スタッフ（舞台・照明・音響技術、制作など）
- その他

2.芸術団体・事業者向け

Q9 貴団体の2019年の年間事業規模を教えてください。

- 1000万円未満
- 1000万円から3000万円未満
- 3000万円から1億円未満
- 1億円から10億円未満
- 10億円から50億円未満
- 50億円から100億円未満
- 100億円以上

Q10 貴団体の法人格を教えてください。

- 株式会社など営利法人
- 一般財団法人
- 一般社団法人
- 公益財団法人
- 公益社団法人
- 協同・労働組合
- 任意団体（人格なき社団）